

令和5年度補正P H R社会実装加速化事業

(情報連携基盤を介したP H Rユースケースの創出に向けた
課題・論点整理等調査実証事業)

調査報告書

2025年3月10日

アクセンチュア株式会社

目次

1. はじめに	-----	p.3
2. 本事業の目的	-----	p.7
3. 推進にかかるコンセプト	-----	p.12
4. 本事業の実施計画	-----	p.16
5. PHR事業者・サービス事業者の公募	-----	p.27
6. ユースケース検討	-----	p.40
7. 情報連携基盤の構築	-----	p.62
8. 機運醸成イベントについて	-----	p.131
9. 実証イベントについて	-----	p.143
10.映像・展示企画について	-----	p.165
11.UCCTにおける議論事項	-----	p.191
12.各事業遂行上の課題について	-----	p.224
13.まとめ	-----	p.236

目次

1. はじめに	-----	p.3
2. 本事業の目的	-----	p.7
3. 推進にかかるコンセプト	-----	p.12
4. 本事業の実施計画	-----	p.16
5. PHR事業者・サービス事業者の公募	-----	p.27
6. ユースケース検討	-----	p.40
7. 情報連携基盤の構築	-----	p.62
8. 機運醸成イベントについて	-----	p.131
9. 実証イベントについて	-----	p.143
10.映像・展示企画について	-----	p.165
11.UCCTにおける議論事項	-----	p.191
12.各事業遂行上の課題について	-----	p.224
13.まとめ	-----	p.236

1. はじめに

はじめに

- 経済産業省では、PHRを活用し、新たなライフサイクルの創出などを複数年に亘って推進してきており、本事業は事業者および国民が共に開かれた環境で多様なPHRとサービスが連携し、新たな商品やサービスが創出されることを目的とし、これにより国民が安心して利用できる豊かな生活体験を提供する、PHRによる「自然と健康になれる社会」の実現を目指した実証事業を行った。
- 事業期間中には、運動、睡眠、食事等の各テーマにおいて、PHR事業者およびサービス事業者の協力のもと、情報連携基盤「PHR CYCLE」を介してサービス事業者に対し複数のPHR事業者のデータが提供されることで、これまでにないユースケースを創出し、PHRサービスを提供する仕組みを実証的に実現することを企図した。
- この環境整備に向けて、複数のPHR事業者とサービス事業者が接続し、事業者間でのデータ流通を可能にする情報連携基盤を新たに構築した。情報連携基盤「PHR CYCLE」は、データが多様なサービスで繰り返し利用される様子を表現した名称であり、ユーザーが安心安全にPHRサービスを利用できる環境を提供可能な構造とした。具体的には、ユーザーIDによる管理やオプトインの一元化などの機能を盛り込むことで、PHR利用の安全性・利便性を最大限に高め、効率的なサービス提供を目指したものである。
- 本事業終了後には、PHR事業者およびサービス事業者の全19事業者によって創出された10件のユースケースが「PHR CYCLE」への接続を実行し、ユーザーは2025年4月の公開後に「PHR CYCLE」を通じて各ユースケースを利用し、PHRによる個人に最適化された多様なサービスを体験することを可能としていく。

(参考) PHRを活用した新たなライフスタイルのイメージ

- 経済産業省では、かねてよりPHRを活用した新たなライフスタイルの構築を推進してきており、大阪・開催万博の場において、社会実装を先駆的に体現することを想定



目次

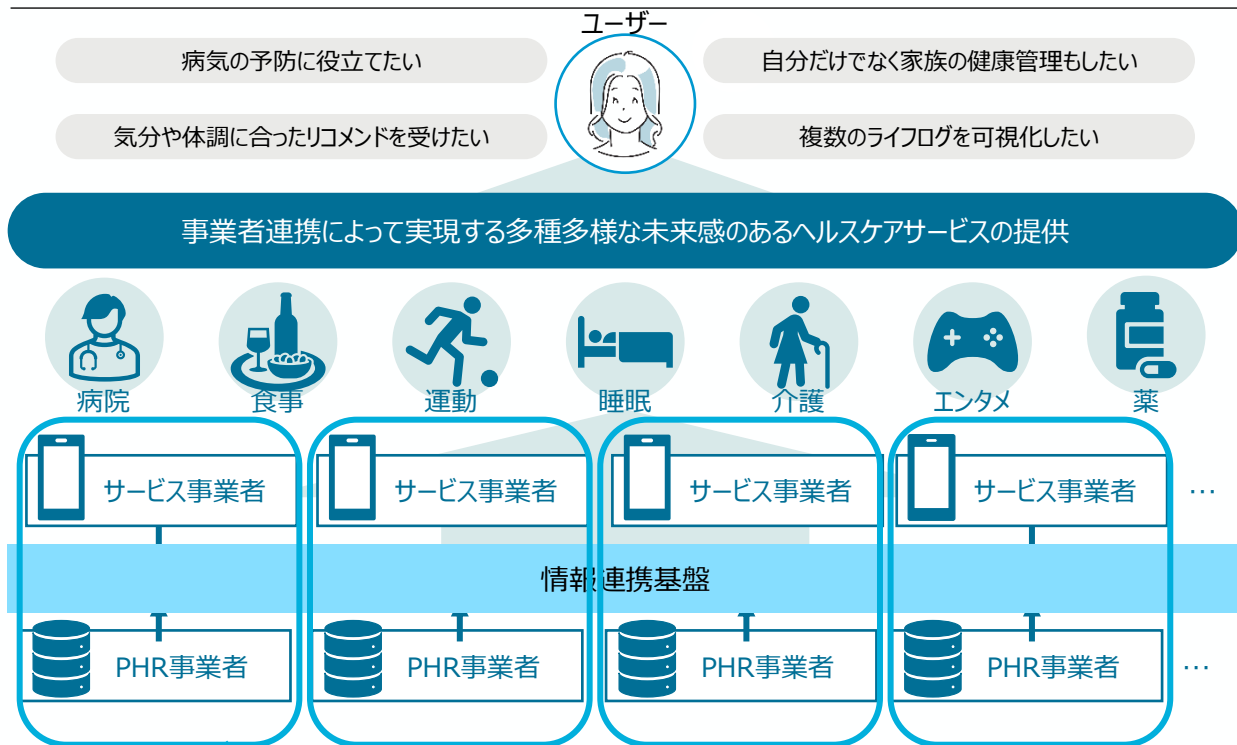
1. はじめに	-----	p.3
2. 本事業の目的	-----	p.7
3. 推進にかかるコンセプト	-----	p.12
4. 本事業の実施計画	-----	p.16
5. PHR事業者・サービス事業者の公募	-----	p.27
6. ユースケース検討	-----	p.40
7. 情報連携基盤の構築	-----	p.62
8. 機運醸成イベントについて	-----	p.131
9. 実証イベントについて	-----	p.143
10.映像・展示企画について	-----	p.165
11.UCCTにおける議論事項	-----	p.191
12.各事業遂行上の課題について	-----	p.224
13.まとめ	-----	p.236

2. 本事業の目的

本事業の目的

- 情報連携基盤を通じ、PHRデータを様々な事業者がデータ連携しユースケースを組成、実証を行い、取り組みとして良いものは大阪・関西万博での展示を企図したもの

本事業で想定するPHRデータの利活用



複数（10程度）のユースケースを本事業で構築、実証
 （万博の機会を用いて、良い取り組みを展示し予後のサービス展開にもつなげていく）
 ※データ連携にあたっては、HL7FHIR(JSON)による連携を想定

PHR事業加速化による課題解決/メリット

生活者	<ul style="list-style-type: none"> 幅広いニーズに対応する多種多様なヘルスケアサービスを受けられる
PHR事業者	<ul style="list-style-type: none"> サービス事業者との連携による新たな事業の創出 情報連携基盤連携の普及により、自社のPHRデータ蓄積が加速化する
サービス事業者	<ul style="list-style-type: none"> 多様なPHRデータの活用による新サービスの創出 PHRデータ活用により自社ビジネスの課題解決へのアプローチ方法を検討できる
情報連携基盤の役割	<ul style="list-style-type: none"> PHR事業者とサービス事業者のデータ連携をスムーズ化し、ユーザーへ快適なサービスを提供できるようにする

本実証事業の概要

- 本実証事業は情報連携基盤を活用したユースケース創出を目指し、公募で選定されたPHR/サービス事業者によって組成されたユースケースを2025年の大阪・関西万博で展示予定

本実証事業: 契約締結から2025年3月31日（月）まで

「情報連携基盤」(PHR-PF)の構築

- 健康医療情報の環境整備に向けて、新たに情報連携基盤(PHR-PF)を構築し、事業者間でのPHRデータの連携を強化

実証参画事業者による「ユースケース」の創出

- 実証事業に参画する事業者が、PHRデータを活用した新たなユースケースを創出
- サービス領域としては食事/運動/睡眠を主に想定

創出したユースケースの中から選定

2025年の大阪・関西万博での展示発表・体験提供

大阪・関西万博を実証実験の場として活用し、ユースケースの展示発表・体験提供を実施予定

実証事業想定フロー概要

- PHR実証事業について、公募・実証期間に至っては以下のとおり実施した。

※本事業の対象範囲

フェーズ1

公募
2024年3月～4月頃

採
択

フェーズ2

実証期間
2024年5月～2025年3月

フェーズ3

実証事業の成果発表・展示
2025年4月～10月

実証事業参画検討・ユースケース構想
策定・公募応募

PHR実証事業（ユースケース/サービ
ス検討・情報連携基盤への連携）

万博期間における実証事業成果発表
（展示/体験・PR）

公募時の提出資料

- 創出するユースケースの具体的な内容
- 使用が想定されるデータ（データカタログは公募要領に記載予定）
- 実証成功に向けたフィージビリティを示す資料
- 実施計画
- 実証にかかる想定費用
- 実施体制図
- セキュリティ基準を満たしていることのわかる資料

実証期間の実施内容（弊社による伴走支援あり）

- サービス構想
- 事業者間ディスカッション
- サービスフロー整理
- 規約関係整理・規約文書作成
- 要件定義書作成（情報連携基盤に係るもの）

===

- サービス開発
- 情報連携基盤への接続
- 情報連携基盤との接続テスト
- ユーザー受入テスト

===

大阪・関西万博の機を捉えた発表・展示機会

- 万博期間（184日間）における来場者の体験提供
または該当テーマウィーク（6/20～7/1）におけ
るFLE/メッセの経済産業省ブース内の展示

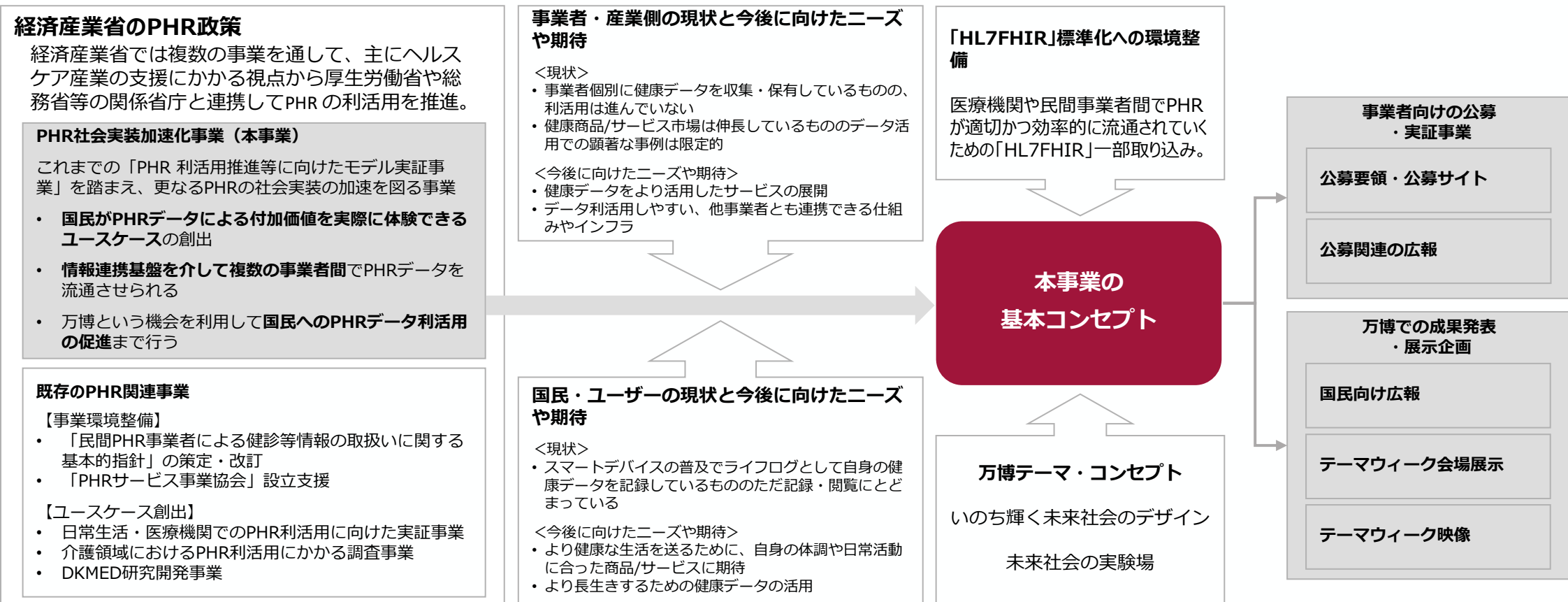
目次

1. はじめに	-----	p.3
2. 本事業の目的	-----	p.7
3. 推進にかかるコンセプト	-----	p.12
4. 本事業の実施計画	-----	p.16
5. PHR事業者・サービス事業者の公募	-----	p.27
6. ユースケース検討	-----	p.40
7. 情報連携基盤の構築	-----	p.62
8. 機運醸成イベントについて	-----	p.131
9. 実証イベントについて	-----	p.143
10.映像・展示企画について	-----	p.165
11.UCCTにおける議論事項	-----	p.191
12.各事業遂行上の課題について	-----	p.224
13.まとめ	-----	p.236

3. 推進にかかるコンセプト

基本コンセプトについて - 事業背景・目的の整理

- 経済産業省の既存事業との関連性や本事業の特徴を考慮し、事業者サイドや国民のニーズ・期待も捉えた基本コンセプトを検討。事業者公募や万博における成果発表・展示企画のメッセージ発信にも繋げるものを構想した



基本コンセプトについて - 基本コンセプトと3つのキーワード

- 事業の目的・背景、基本コンセプトを、伝わりやすい3つのキーワードとともに展開。

〈本事業の目的・背景〉

PHRを利活用して新たな商品やサービスを生み出す事業者、それを安心して利用する国民、その双方のニーズや期待を取り入れ、PHRの社会実装の加速を経済産業省が推進。

〈基本コンセプト〉

PHRで可能性がひろがる未来へ

事業者・生活者ともに開かれた環境でさまざまな健康データがつながる。
新たに生み出される商品/サービスが、より豊かな生活・体験を未来にひろげていく。

〈3つのキーワード〉

安心・共有
Open

事業者・生活者ともに開かれた環境で、個人に紐づく健康データを安心して利用できる社会へ。

つながる
Connect

データとサービスがつながる。事業者同士がつながる。日々の健康や医療と、生活者の日常がつながるサービスへ。

ひろがる未来
Future

サービスが生まれ、ひろがる。データによる体験がひろがる。事業者・生活者ともに可能性がひろがる未来へ。

目次

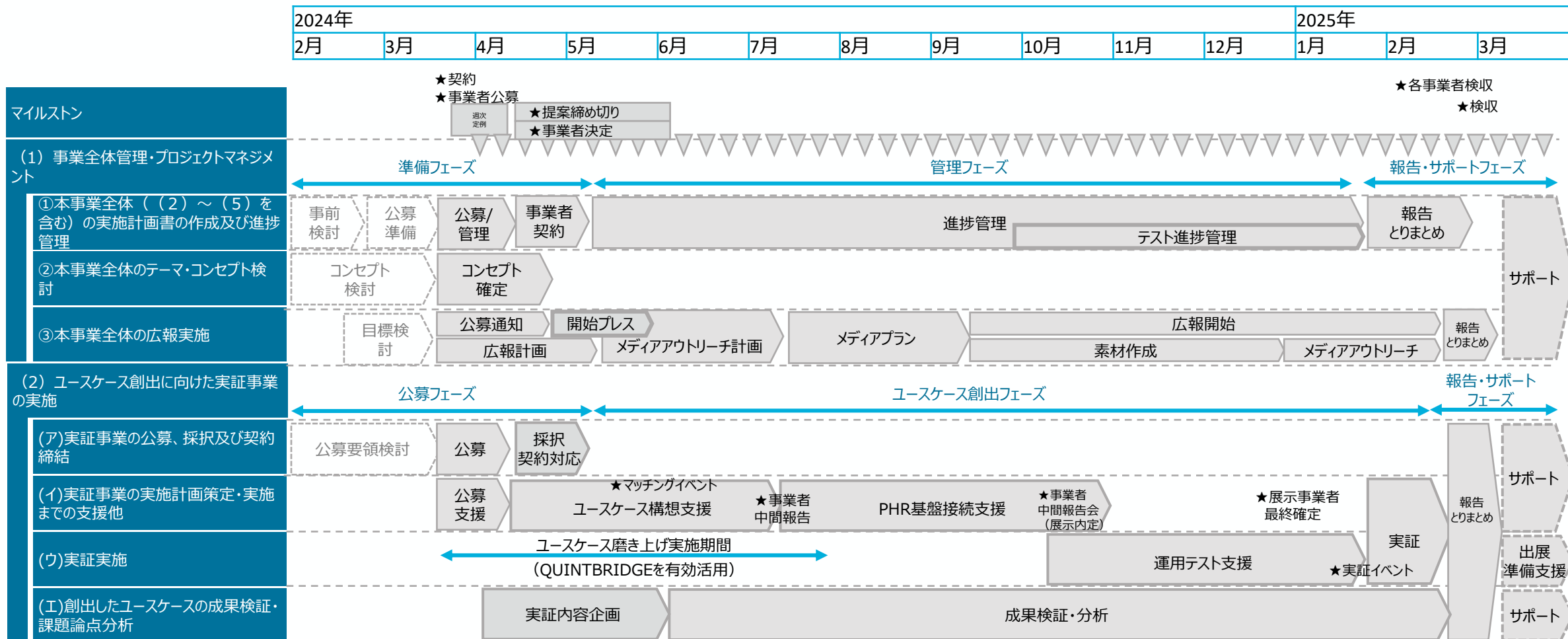
1. はじめに	-----	p.3
2. 本事業の目的	-----	p.7
3. 推進にかかるコンセプト	-----	p.12
4. 本事業の実施計画	-----	p.16
5. PHR事業者・サービス事業者の公募	-----	p.27
6. ユースケース検討	-----	p.40
7. 情報連携基盤の構築	-----	p.62
8. 機運醸成イベントについて	-----	p.131
9. 実証イベントについて	-----	p.143
10.映像・展示企画について	-----	p.165
11.UCCTにおける議論事項	-----	p.191
12.各事業遂行上の課題について	-----	p.224
13.まとめ	-----	p.236

4. 本事業の実施計画

- ① スケジュール --- p.18
- ② 事業全体実施計画 --- p.21
- ③ 広報計画 --- p.23
- ④ 情報連携基盤関連_設計・開発実施計画 --- p.24

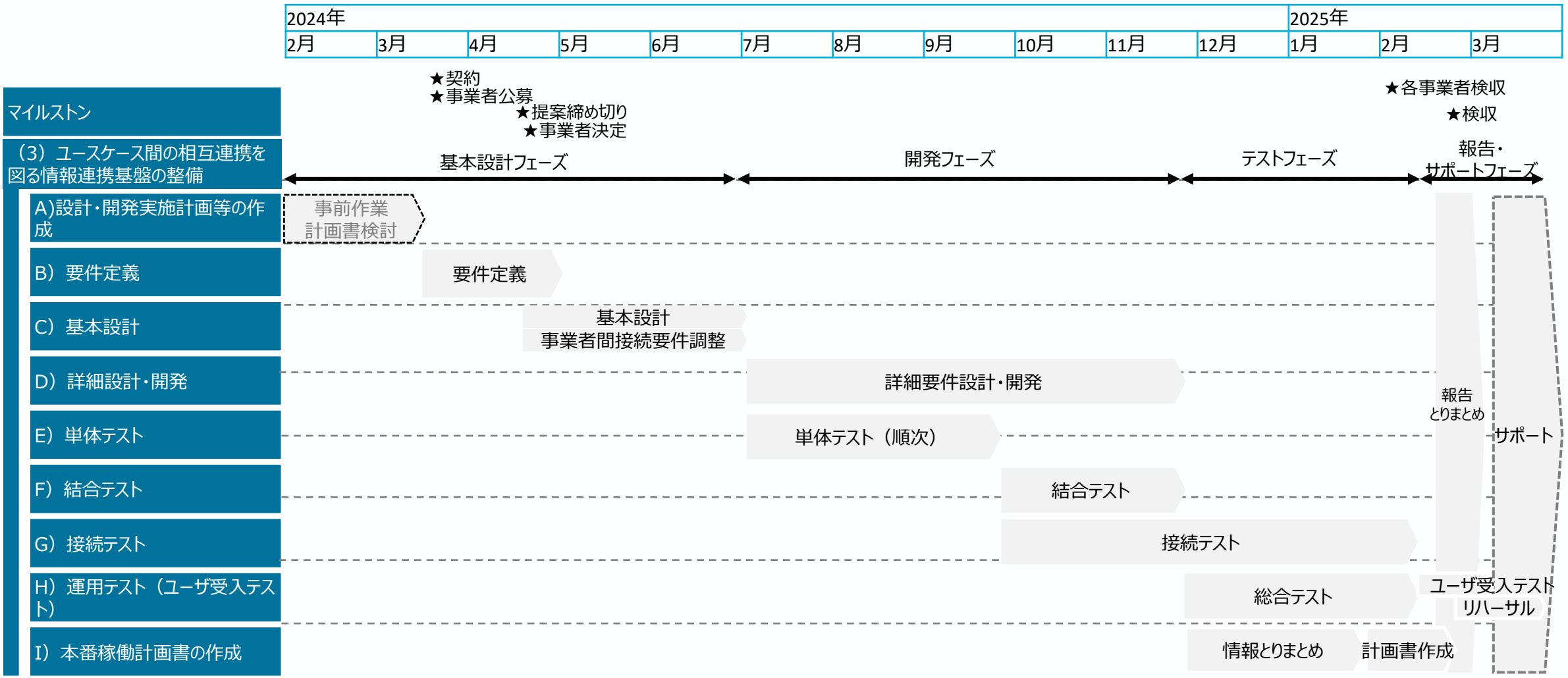
全体スケジュール(1/3)

- 本プロジェクトの全体スケジュールは以下の通り実施した



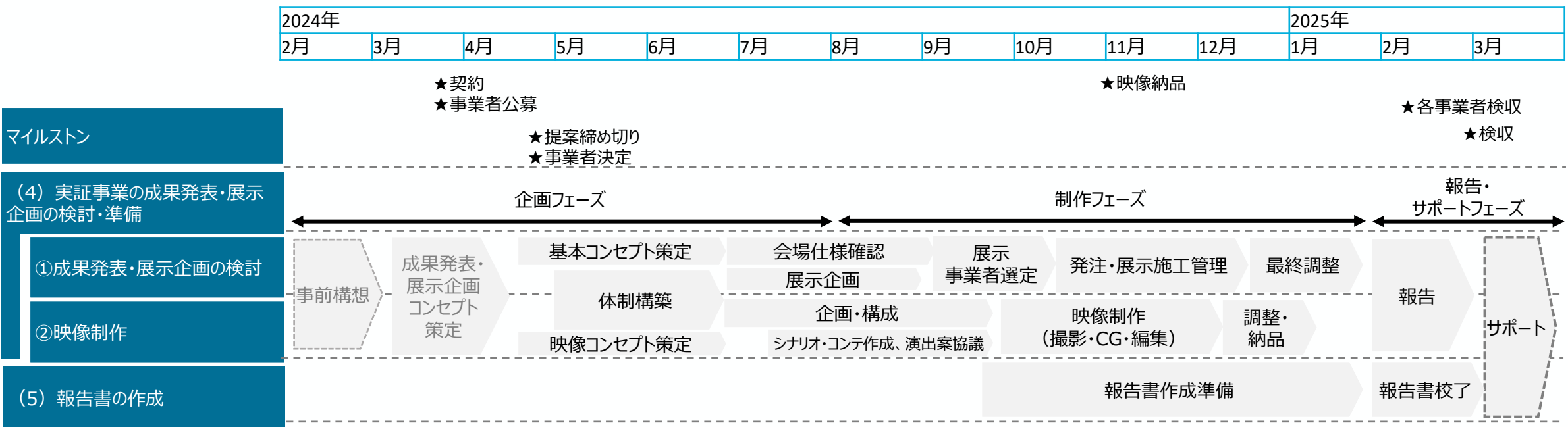
全体スケジュール(2/3)

- 本プロジェクトの全体スケジュールは以下の通り実施した



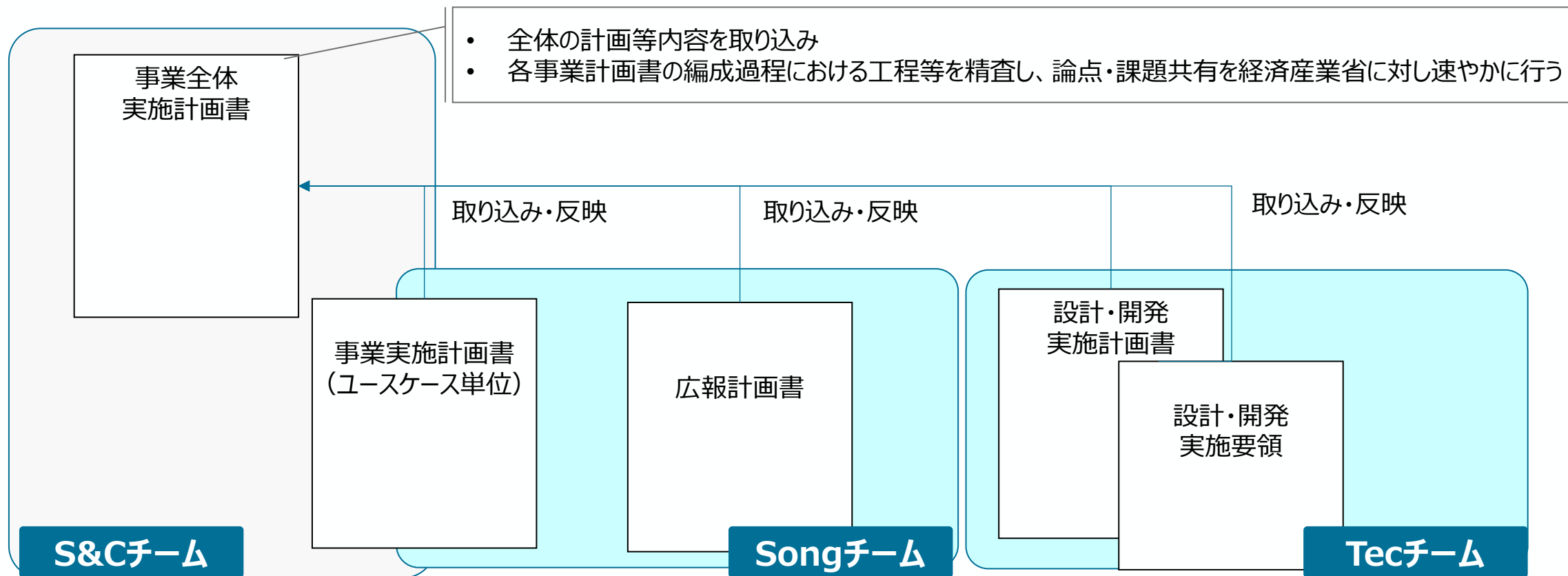
全体スケジュール(3/3)

- 本プロジェクトの全体スケジュールは以下の通り実施した



各計画書の位置づけ

- 納品物のひとつである広報計画書、設計・開発実施計画書、設計・開発実施要領等の総体として、事業全体実施計画書を整理する運びとした



事業全体実施計画サマリ

- 本計画書は2024/5/22に経済産業省に提出した

項番	目次	概要
1	本書の目的・位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト全体の目的、前提条件、スケジュール等について、プロジェクト関係者の共通理解を得ることを目的 別途作成する設計・開発実施計画書、広報計画書、事業実施計画書（ユースケース単位で作成）の上位に位置する文書
2	プロジェクト背景・目的	<ul style="list-style-type: none"> 民間事業者によるPHRを用いたサービス増加や健康寿命延伸や未病対策への期待の高まりに対し、PHRの利活用を政策的に推進する必要 本事業はPHRの社会実装を加速するため、4つの事業の検討を通じ今後のヘルスケア産業政策への示唆を得ることを目的
3	プロジェクトの目標	<ul style="list-style-type: none"> (1)事業全体の進捗管理、(2)ユースケース創出に向けた実証事業の推進、(3)情報連携基盤の整備、(4)成果発表と展示企画の準備、(5)報告書の作成を目標とし、各目標に対して具体的な計画と実施方法を示し推進
4	用語の定義	<ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトで使用する用語を定義
5	前提条件/制約事項	<ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトにおける前提条件および制約事項を整理
6	プロジェクトの範囲	<ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトの範囲とする対象領域と業務概要について整理
7	プロジェクトの推進体制	<ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトの体制図および会議体を定義
8	実施計画	<ul style="list-style-type: none"> 8.1. WBSレベルの定義：工程、作業項目、作業プロセスの3段階で定義 8.2. 作業の概要：各工程の作業概要を示し、主要な実施主体を明記 8.3. 全体スケジュール：プロジェクト全体のスケジュールを図示し、主なマイルストーンを示す 8.4. 成果物：各工程で作成される成果物をリスト化し、名称と作成工程を示す 8.5. 品質管理計画：進捗管理、課題管理、リスク管理、体制・要員管理の4つの観点で品質を管理 8.6. 開始/終了基準：プロジェクトおよび各工程の開始・終了基準を明確に定義 8.7. 事業全体のセキュリティ運用方針：情報セキュリティ運用チェックリストを用いて、適切な運用を確保

広報計画書サマリ

- 本計画書は2024/5/23に経済産業省に提出した

項番	目次	概要
1	本書の目的・位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト全体の目的、前提条件、スケジュール等について、プロジェクト関係者の共通理解を得ることを目的 本事業の上位文書である事業全体実施計画書に基づき、広報計画策定以降の各工程の実施計画の上位に位置づけられる文書
2	プロジェクト背景・目的	<ul style="list-style-type: none"> 民間事業者によるPHRを用いたサービス増加や健康寿命延伸や未病対策への期待の高まりに対し、PHRの利活用を政策的に推進する必要 本プロジェクト（広報活動）では、①本事業を機とした、国民へのPHR利活用の周知、②本事業成果発表の場への参加に向けた国民への周知を行うことを目的
3	用語の定義	<ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトで使用する用語を定義
4	プロジェクトを取り巻く環境	<ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトにおける前提条件および制約事項を整理
5	プロジェクトの範囲	<ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトの範囲とする対象領域と業務概要について整理
6	プロジェクトの推進体制	<ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトの広報体制図および会議体を定義
7	実施計画	<ul style="list-style-type: none"> 7.1. 全体スケジュール：プロジェクト全体のスケジュールを図示し、主なマイルストーンを示す 7.2. 作業の基本方針：各工程の作業概要を示し、主要な実施主体を明記 7.3. 成果物：各フェーズで作成される成果物をリスト化して示す 7.4. 品質管理：品質管理方法と実施手順について示す 7.5. リスク管理：リスクや緊急事態が生じた場合の実施方法や危機管理体制を示す 7.6. 役割と担当：品質管理における役割と担当者を示す 7.7. 開始/終了基準：プロジェクトおよび各工程の開始・終了基準を明確に定義

情報連携基盤 設計・開発実施計画サマリ

- 本計画書は2024/3/28に経済産業省に提出した

項番	目次	概要
1	本書の目的・位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト全体の目的、前提条件、スケジュール等について、プロジェクト関係者の共通理解を得ることを目的 本事業の上位文書である事業全体実施計画書に基づき、設計・開発実施計画以降の工程別計画書の上位に位置づけられる文書
2	プロジェクト背景・目的	<ul style="list-style-type: none"> 民間事業者によるPHRを用いたサービス増加や健康寿命延伸や未病対策への期待の高まりに対し、PHRの利活用を政策的に推進する必要 本プロジェクト（情報連携基盤）では、情報連携基盤の整備によりPHR社会実装の加速に貢献することを目的とする
3	プロジェクトの目標	<ul style="list-style-type: none"> 各工程にて実施する設計・開発・テスト等の作業により情報連携基盤の構築を完了し、情報連携基盤への接続によるPHR事業者・サービス事業者間でのPHRデータ連携を可能とすること リハーサルの実施により、情報連携基盤が本番稼働に向け稼働可能な状態である事を確認すること 本番稼働計画書の作成を通じ、情報連携基盤の本番稼働に必要な運用計画を策定すること
4	用語の定義	<ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトで使用する用語を定義
5	前提条件/製薬事項	<ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトにおける前提条件/制約事項を示す
6	プロジェクトの範囲	<ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトの範囲とする対象領域と業務概要について整理
7	プロジェクトの推進体制	<ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトの体制図、関係者、および会議体を定義
8	実施計画	<ul style="list-style-type: none"> 8.1. WBSレベルの定義：本プロジェクトにおけるWBSレベルの定義を示す 8.2. 作業の概要：各工程の作業概要を示し、主要な実施主体を明記 8.3. 全体スケジュール：本プロジェクトの全体スケジュールを示す 8.4. 成果物：各フェーズで作成される成果物をリスト化して示す 8.5. 開始/終了基準：プロジェクトおよび各工程の開始・終了基準を明確に定義

開発実施要領 (1/2)

- 本事業「(3) ユースケース間の相互連携を図る情報連携基盤の整備」の遂行に際し、プロジェクトを管理するための指針や手法、手順について関係者の共通理解を整理した

プロジェクト管理要領

	目的	基本的な考え方
コミュニケーション管理	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション管理に関する実施方法を定め、本プロジェクトにおける円滑な対面/非対面のコミュニケーションを促し、また、その内容を正確に記録することを目的 	<ul style="list-style-type: none"> 会議は、プロジェクトの実行において、議論や意思決定を行う重要なコミュニケーション手段であることから、本項目に定める実施方法に従い、議事録による記録を実施する。 経済産業省・弊社間の円滑なコミュニケーションのため、Teamsによるチャットやオンライン会議等を活用することとするが、改変・削除が可能である、または記録に残らないため、重要な連絡・確認事項等は、メールによるコミュニケーションや各種管理資料への記載を併用し、記録に残るよう留意する。
進捗管理	<ul style="list-style-type: none"> 進捗管理に関する実施方法を定め、本プロジェクト全体の状況を正しく把握し、計画したスケジュールに則り予定の作業を実行することを目的 	<ul style="list-style-type: none"> 進捗管理の手法や手順を定義する。本プロジェクトでは、本項目に規定するルール・プロセス等に則り、要件定義工程開始以降の進捗管理を実施する。 本プロジェクトの進捗状況は、隔週で経済産業省へ報告する。ただし、遅延や不測の事態が発生した場合には別途協議の上、必要により報告間隔を調整する。
課題管理	<ul style="list-style-type: none"> 課題管理に関する実施方法を定め、本プロジェクトにおいて発生する課題の解消を着実に実行することを目的 	<ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトにおいて発生する課題は、本項目に定義する実施方法により管理を行う。ただし、本プロジェクトの領域を超え、本事業全体または他領域への影響が懸念される課題については、事業全体会議への付議等によりエスカレーションを実施する。
リスク管理	<ul style="list-style-type: none"> リスク管理に関する実施方法を定め、本プロジェクトにおいて想定されるリスクを把握し、その影響を軽減・最小化することを目的 	<ul style="list-style-type: none"> 原則として、本プロジェクトにおいて想定されるリスクは、本項目に定義する実施方法により管理を行う。ただし、本プロジェクトの領域を超え、本事業全体または他領域への影響が懸念されるリスクについては、事業全体会議への付議等によりエスカレーションを実施する。

開発実施要領 (2/2)

- 本事業「(3) ユースケース間の相互連携を図る情報連携基盤の整備」の遂行に際し、プロジェクトを管理するための指針や手法、手順について関係者の共通理解を整理した

プロジェクト管理要領

	目的	基本的な考え方
成果物管理	<ul style="list-style-type: none"> 成果物管理に関する実施方法を定め、計画通り漏れなく本プロジェクトにおける成果物を納入することを目的 	<ul style="list-style-type: none"> 成果物の納品は、全工程終了時に一括で納入する。ただし、各工程のアウトプットとなるドキュメントは、「文書管理」で定義したルールに基づき、各工程の完了までに承認を得る。
文書管理	<ul style="list-style-type: none"> 文書管理に関する実施方法を定め、本プロジェクトにおいて作成した文書について、各文書を一意に特定し、速やかに必要な情報を参照・確認できることを目的 	<ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトにおいて作成する文書は、本項目に規定する管理プロセス・ルール、バージョン管理方法、ファイル命名規則に則り、その作成・更新を実施する。
変更管理	<ul style="list-style-type: none"> 変更管理に関する実施方法を定め、本プロジェクトにおいて発生する変更及びその影響を確実に管理することを目的 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトにおいて経済産業省・プロジェクト責任者が承認した成果物に対する変更を管理対象とする。変更は、本項目に定義する実施方法に準じて管理を行い、経済産業省・プロジェクト責任者との協議を経て本事業全体会議への付議・承認を得る。
品質管理	<ul style="list-style-type: none"> 品質管理に関する実施方法を定め、本プロジェクトの成果物について、その品質を確保することを目的 	<ul style="list-style-type: none"> ドキュメントの品質管理についてはレビュー、プログラム資材等の品質管理についてはテストにより実施する。 要件定義工程以降においては、工程完了時に成果物の品質評価を行い、品質が一定基準に達していることを確認する。
セキュリティ管理	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティ管理に関する実施方法を定め、事故及び障害の発生を未然に防ぐこと、並びに発生した場合に被害を最小限に抑えることを目的 	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティ文書を参考とし、また、本事業における弊社 情報セキュリティ責任者・情報セキュリティ管理者が示す本事業の情報セキュリティに関する指針・規定等に準じて設定する。

目次

1. はじめに	-----	p.3
2. 本事業の目的	-----	p.7
3. 推進にかかるコンセプト	-----	p.12
4. 本事業の実施計画	-----	p.16
5. PHR事業者・サービス事業者の公募	-----	p.27
6. ユースケース検討	-----	p.40
7. 情報連携基盤の構築	-----	p.62
8. 機運醸成イベントについて	-----	p.131
9. 実証イベントについて	-----	p.143
10.映像・展示企画について	-----	p.165
11.UCCTにおける議論事項	-----	p.191
12.各事業遂行上の課題について	-----	p.224
13.まとめ	-----	p.236

5. PHR事業者・サービス事業者の公募

- ① 公募の考え方 --- p.29
- ② 公募の推進方法 --- p.30
- ③ 審査委員会審査 --- p.38
- ④ 事業者の選定について --- p.39

PHR事業者・サービス事業者の公募

- PHR事業者・サービス事業者の公募においては、事業者の理解促進を事前説明会等により図るとともに、有識者を含む審査委員会での審査により充実したユースケース創出を企図した

公募申し込み開始

- 弊社及び経済産業省のサイトに公募情報を掲載
- 本事業専用の公募サイトをオープンし、公募情報へのアクセスを円滑化

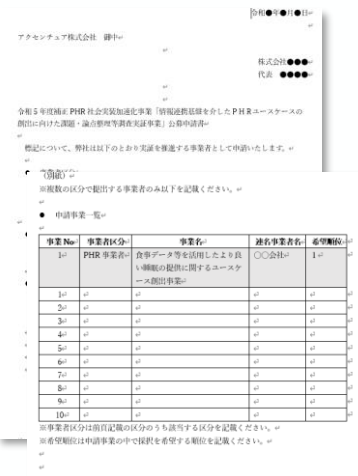
公募サイト



公募期間

- 事前説明会への申し込みがあった事業者へ対して公募様式資料を送付
- 事業者へのオンライン事前説明会を全4回実施

公募様式



公募〆切

- 事業者からの公募様式（提案書含む）をメールにて受付

提案書



事前スクリーニング

- 事業者の提案内容を踏まえて、公募要件を充足しているか、採点基準にもとづき事前確認を実施した

事前スクリーニングリスト
公募要件を充足しているかを確認し、事業者を4分類

分類	事業者
採択したい	A事業者
採択を検討したい	B事業者
採択の可能性あり	C事業者
採択困難	D事業者

個別審査

- 各審査員において、評価の観点にもとづき全提案の評点付けを実施
- 各審査員が特に推薦したい事業者を選定

評価の観点

区分	評価項目
PHR	1. 「データ項目の充実度」 2. 「ユーザーの規模」 3. 「データ取得の安全性」 4. 「実現性」
サービス	1. 「新規性・独自性」 2. 「ユーザー受容性」 3. 「社会課題解決力」 4. 「産業内牽引力（影響力）」 5. 「実現性」

審査委員会、事業者選定

- 各事業者の提案書、審査員の推薦票・審査票をもとに全審査員が協議
- 審査委員会での協議内容を踏まえて採択事業者を確定

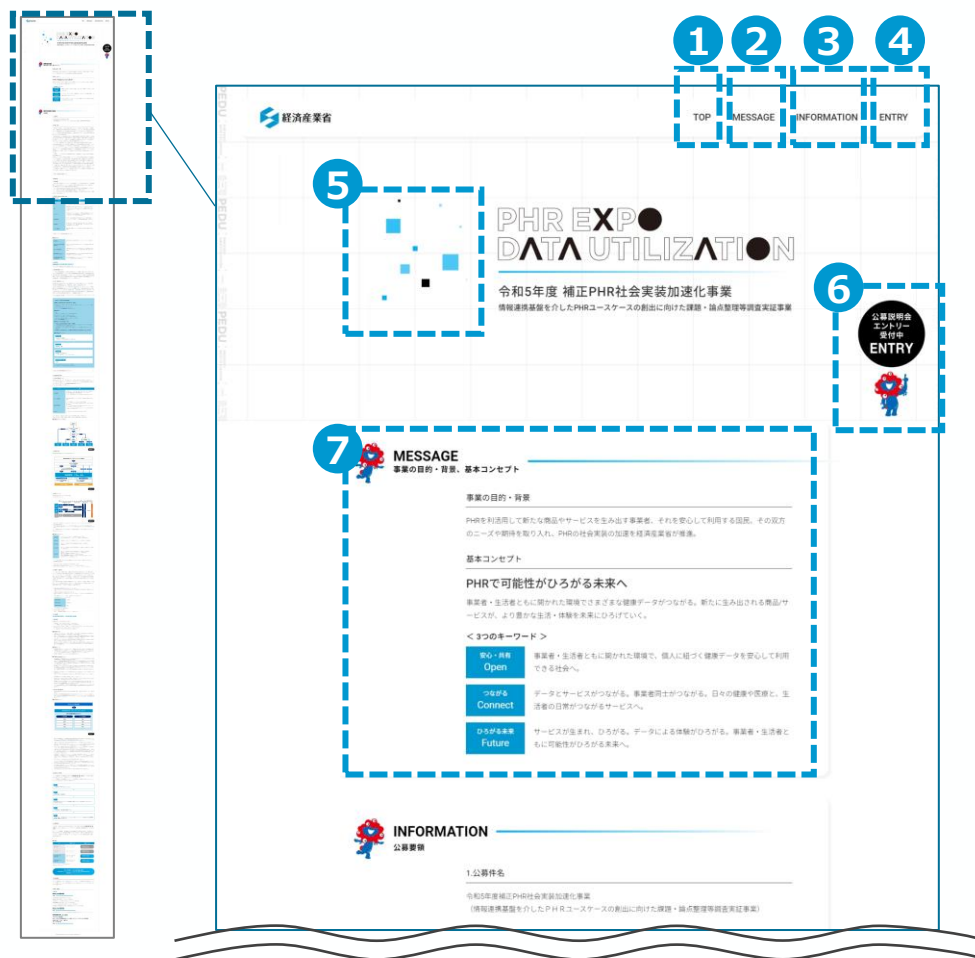
採択事業者一覧

PHR事業者 (500社)	サービス事業者 (500社)
<ul style="list-style-type: none"> Artery株式会社 株式会社asken 株式会社WizWe 株式会社Welmira 株式会社NTT FOC 株式会社ムンティアイ 	<ul style="list-style-type: none"> 大塚研 沢井製菓株式会社 株式会社スタートリバー (S) 株式会社SOXAI 株式会社FNC Technologies 株式会社Y4.com

公募サイトについて 1/5

- 本事業の公募情報を特設サイトにて掲載した

サイト全体像



エリア概要	記載内容・挙動
① ヘッダー TOP	<ul style="list-style-type: none"> 押下でファーストビューにページ内遷移
② ヘッダー MESSAGE	<ul style="list-style-type: none"> 押下でMESSAGEにページ内遷移
③ ヘッダー INFORMATION	<ul style="list-style-type: none"> 押下で各章に遷移できる項目リストがアコーディオン形式で開き、各項目にページ内遷移
④ ヘッダー ENTRY	<ul style="list-style-type: none"> 押下で公募説明会説明エリア(⑤)にページ内遷移
⑤ モチーフアニメーション	<ul style="list-style-type: none"> 「ヒト」「データ」が重なり合って織りなす「体験」を表現するアニメーションを掲出
⑥ 追従ボタン	<ul style="list-style-type: none"> 押下で公募説明会説明エリアにページ内遷移 スクロール時は画面右下に追従 SP版ではミyakミyak無版のボタンが画面右下に追従(右図参照)
⑦ MESSAGE	<ul style="list-style-type: none"> 事業の目的・背景および基本コンセプトを掲載



公募サイトについて 2/5

サイト全体像

The screenshot shows a vertical layout of the public tender website. Four blue dashed boxes with numbered callouts (8, 9, 10, 11) highlight specific areas:

- 8**: A table listing related companies (関係者一覧) with columns for company name and role.
- 9**: A section titled '契約締結から2025年3月31日(月)まで' (Contract conclusion from March 31, 2025).
- 10**: A flowchart titled '事業者区分パターンの考え方' (Thoughts on business category patterns) showing the process from application to contract.
- 11**: A multi-step registration process (ステップ表記) with steps 1 through 5.

エリア概要

記載内容・挙動

<p>8</p> <p>参考情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アコーディオン形式で掲載。押下で参考情報が表示される ・参考情報：公募要領内で点線枠で示される下記情報 <ul style="list-style-type: none"> ・ PHR関連の市場規模について ・ ユースケース創出を念頭に置いたマッチング ・ 大阪・関西万博開催後のレガシーについて
<p>9</p> <p>重要情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 契約期間・公募期間・連絡先などの重要情報を強調して記載 ・ 対象情報： <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業期間 ・ 公募期間 ・ 公募説明会参加申込締め切り日 ・ 連絡先
<p>10</p> <p>拡大表示ボタン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各埋め込み画像は「拡大表示」ボタン押下でモーダルにて拡大表示 ・ 対象画像： <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業者区分パターンの考え方 ・ 事業運営体制 ・ 事業スケジュール ・ NDA締結のイメージ
<p>11</p> <p>ステップ表記</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 応募手続きはステップ表記で掲載

公募サイトについて 3/5

サイト全体像



12 公募説明会参加ボタン

日時等	公募番号 (Team1)	公募番号 (Team2)
2024年4月23日 (水) 10:00-11:00	会議 ID: 222 500 147 991 パスワード: wGy308	公募説明会に参加する (Team2にも参加する)
2024年4月4日 (水) 11:00-12:00	会議 ID: 270 773 631 631 パスワード: Ag333y	公募説明会に参加する (Team2にも参加する)
2024年4月8日 (月) 15:00-16:00	会議 ID: 210 152 640 232 パスワード: PzKJR	公募説明会に参加する (Team2にも参加する)
2024年4月10日 (水) 15:00-16:00	会議 ID: 292 547 213 58 パスワード: jKcMz3	公募説明会に参加する (Team2にも参加する)

13 開催終了公募説明会

14 公募説明会エントリーフォームボタン

15 連絡先メールアドレス

7.別添書類等
上記「公募説明会」における「参加申込フォーム」において、これから書類の送付を希望するメールアドレスを記載すること。また、今後の連絡にあたっては、記載いただいたメールアドレスに対して行うため、留意すること。

8.質問・連絡先

■ EXPO-PHR運営事務局
MAIL : exl-phr-expo-data-utilization@meti.go.jp

■ EXPO-PHR広報事務局
MAIL : phr-expo-data-utilization-press@accenture.com

■ 申請書等送付先 (メールのみ)
アクセントチュア株式会社
住所: 107-8672 東京都港区赤坂 1-11-44 赤坂インナーシティ アクセントチュア株式会社
担当者: 志那 (くづみ)、佐藤 (京)
TEL : 03-3588-3000
MAIL : phr-expo-data-utilization@accenture.com

エリア概要

記載内容・挙動

12	公募説明会参加ボタン	<ul style="list-style-type: none"> ・ 押下で公募説明会Teamsに遷移 ・ 4/8,4/10公募説明会終了後、該当エリアのグレイアウト、参加ボタンの非活性化対応を実施
13	開催終了公募説明会	<ul style="list-style-type: none"> ・ スケジュールのグレイアウト、公募説明会ボタンの非活性化
14	公募説明会エントリーフォームボタン	<ul style="list-style-type: none"> ・ 押下で公募説明会エントリーフォームに遷移
15	連絡先メールアドレス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 押下で該当メールアドレス宛のメールが起動

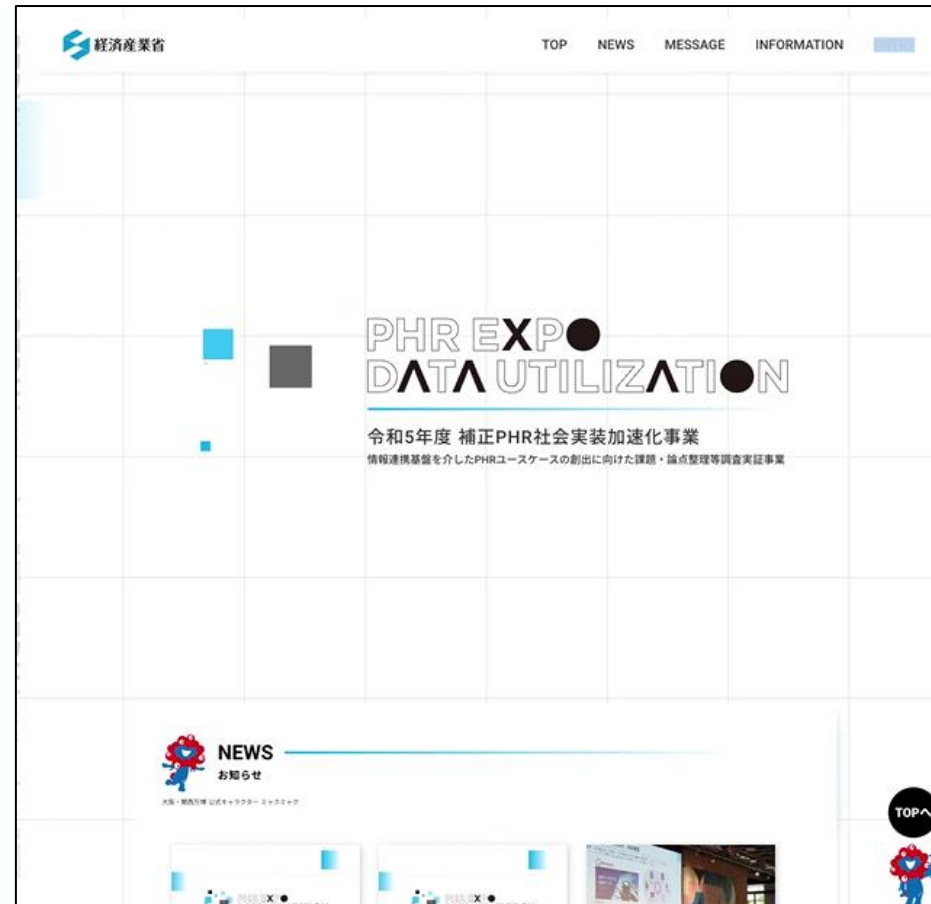
公募サイトについて 4/5

- サイト公開後、CMS機能を用いたお知らせ掲出エリアをトップページ上部に追加。×切のリマインドやプレスリリース等、随時お知らせコンテンツをサイト訪問者に訴求することを可能とした



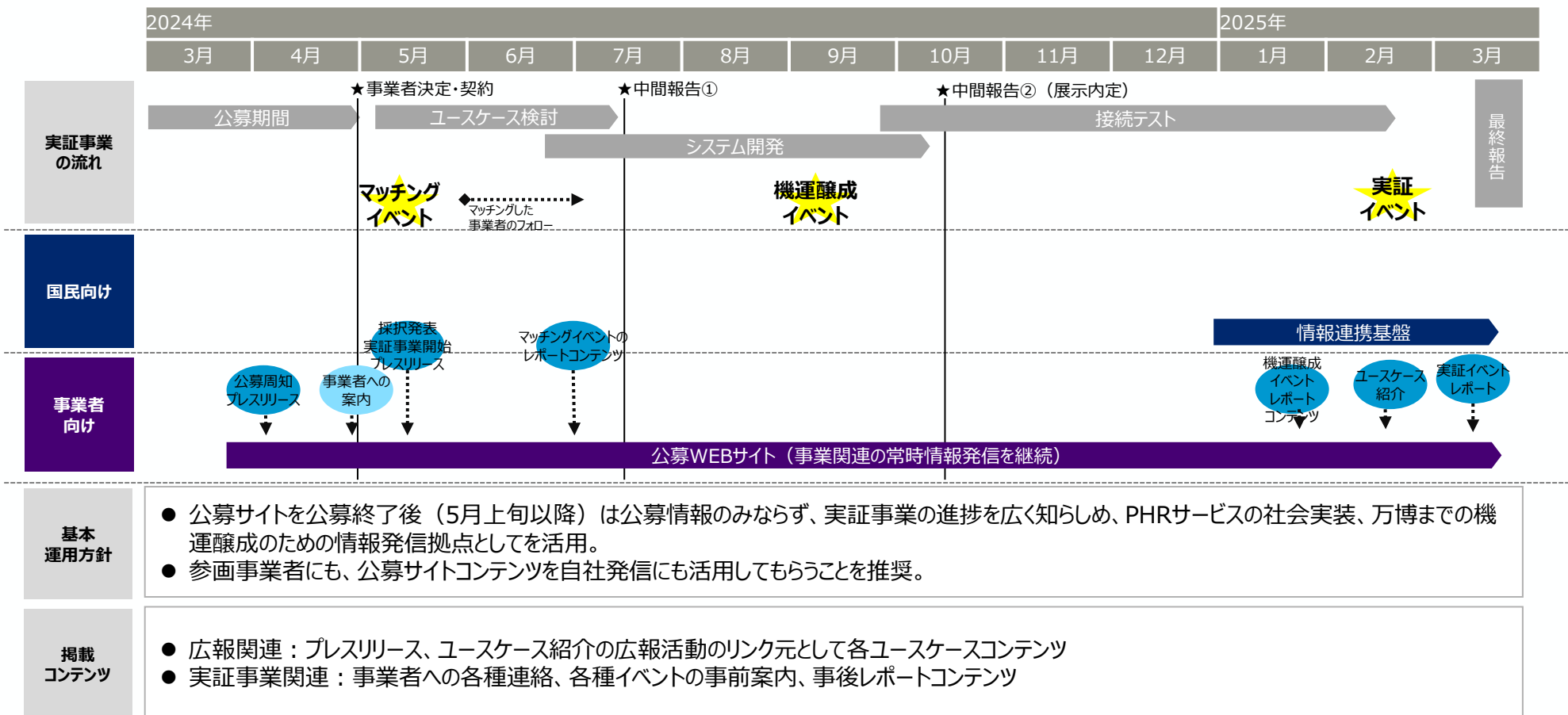
公募サイトについて 5/5

- 2024/4/23公募〆切のタイミングでEXTRY非活性、ボタンをTOPに変更



公募サイト運用方針

- 実証期間中は、公募サイトを実証事業に関する情報発信拠点として、広報関連のコンテンツ発信と事業者向けの情報発信を主とした運用を実施した。



公募サイトお知らせ欄コンテンツ

- 実証期間中の公募サイトお知らせ欄では、広報施策に関連する告知・コンテンツと、事業者向けの各種案内を掲載

2024年	5月	<ul style="list-style-type: none"> 採択発表、実証事業開始のお知らせ 	広報（プレスリリース掲載）
	6月	<ul style="list-style-type: none"> マッチングイベント事後レポートコンテンツ 	実証事業の進捗公開
	7月	<ul style="list-style-type: none"> 万博出展者選考についてのお知らせ 	事業者向けの案内
	8月	<ul style="list-style-type: none"> 実証事業の中間報告のレポートコンテンツ 	実証事業の進捗公開
	9月	—	—
	10月	<ul style="list-style-type: none"> 機運醸成イベント開催のお知らせ 	広報（プレスリリース掲載）
	11月	—	—
	12月	—	—
2025年	1月	<ul style="list-style-type: none"> 実証イベントの事前告知 	事業者向けの案内
	2月	<ul style="list-style-type: none"> 機運醸成イベント事後レポート／個別ユースケースの紹介／実証イベントの事後レポート 	実証事業の進捗公開

公募開始～公募〆切までの流れ

- 公募開始後、事前説明会を実施することで応募を検討する事業者に対する理解促進を図った

	公募申し込み開始	公募期間	公募〆切
日程	2024年3月25日	2024年3月25日～2024年4月19日	2024年4月19日 18時
担当者	事務局（弊社）	事務局（弊社）	事務局（弊社）
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 弊社、経済産業省のサイトに公募情報を掲載 ② 本事業専用の公募サイトをオープンし、公募情報を掲載（2024/4/8） 	<ul style="list-style-type: none"> ① 事前説明会申し込みのあった事業者に対して、公募様式資料を送付 ② 事前説明会実施 <ul style="list-style-type: none"> ① 2024年4月2日（火） 10:00-11:00 ② 2024年4月4日（木） 11:00-12:00 ③ 2024年4月8日（月） 15:00-16:00 ④ 2024年4月10日（水） 15:00-16:00 ③ 個別質問に対してメールにて回答 ④ 応募書類をメールにて受付 	<ul style="list-style-type: none"> ① 応募書類をメールにて受付

公募〆切～採択事業者決定の流れ

- 事前協議、審査委員会のプロセスを経ることにより、採択事業者の審査・絞り込みを行った

<審査における全体の流れ>

	事前スクリーニング	個別審査	審査委員会
日程	2024年4月19日 (公募〆切)	2024年4月19日～2024年4月23日 (公募〆切～審査委員会前日)	2024年4月25日
担当者	事務局（弊社）	各審査員	各審査員、事務局
実施内容	<p>① 事前スクリーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業者の提案内容を踏まえて、公募要件を充足しているか、採点基準にもとづき事前確認を実施した 事前確認により、提案を4分類（採用したい、採択を検討したい、採択の可能性あり、採択困難） <p>② 4分類順に提案を並び替えた事前スクリーニングリスト作成</p> <p>③ 事前スクリーニングリストと審査書類を審査員へ送付</p>	<p>① 個別審査</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価の観点にもとづき各提案の評点づけ <p>② 特に推薦したい事業者等を協議、選定</p> <ul style="list-style-type: none"> サービス事業者10社 PHR事業者20社 	<p>① 各事業者の提案書、推薦票、審査票（平均点提示）をもとに協議</p> <p>② 審査委員会全体の「推薦リスト」としてとりまとめ</p> <p>③ 審査委員会の意見交換を踏まえた審査員の採点（二次分）を4/26までに回収</p> <p>④ ②③の情報を統合し、採択事業者を確定</p>

採択事業者

- 2024/4/25審査委員会での協議結果踏まえ、以下事業者を採択した

PHR事業者※50音順

- Arteryex株式会社
 - 株式会社asken
 - 株式会社WizWe
 - 株式会社Wellmira
 - 株式会社NTTドコモ
 - 株式会社エムティーアイ
 - 大阪府
 - 沢井製薬株式会社
 - 株式会社スマートバリュー（※）
 - 株式会社SOXAI
 - 株式会社FiNC Technologies
 - 株式会社Y4.com
- ※スマートバリューは採択後、辞退

サービス事業者※50音順

- 株式会社Wellmira
- 株式会社NTT DXパートナー
- カゴメ株式会社
- 株式会社グリーンハウス
- 株式会社サステナブルパビリオン2025
- 株式会社ジーン
- リアルワールドゲームス株式会社
- 株式会社LIXIL
- 株式会社ワコール

目次

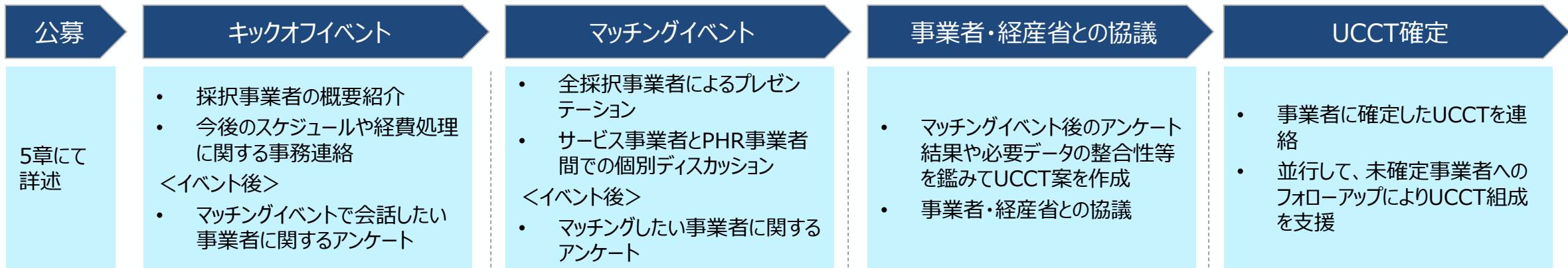
1. はじめに	-----	p.3
2. 本事業の目的	-----	p.7
3. 推進にかかるコンセプト	-----	p.12
4. 本事業の実施計画	-----	p.16
5. PHR事業者・サービス事業者の公募	-----	p.27
6. ユースケース検討	-----	p.40
7. 情報連携基盤の構築	-----	p.62
8. 機運醸成イベントについて	-----	p.131
9. 実証イベントについて	-----	p.143
10.映像・展示企画について	-----	p.165
11.UCCTにおける議論事項	-----	p.191
12.各事業遂行上の課題について	-----	p.224
13.まとめ	-----	p.236

6. ユースケース検討

- ① マッチング・ユースケース検討の進め方 --- p.42
- ② キックオフイベントについて --- p.45
- ③ マッチングイベントについて --- p.52
- ④ UCCT組成に向けた事業者・経産省との協議 --- p.59
- ⑤ UCCTの確定について --- p.60
- ⑥ 創出されたユースケース --- p.61

マッチング・ユースケース検討の進め方

- ユースケース検討に当たり、マッチングのための各種イベントや事業者間、事業者事務局間の協議・調整を経てUCCT (Usecase-CoCreation Team) を組成し、伴走支援を行った



5章にて
詳述

- キックオフイベント**
- 採択事業者の概要紹介
 - 今後のスケジュールや経費処理に関する事務連絡
 - ＜イベント後＞
 - マッチングイベントで会話したい事業者に関するアンケート

- マッチングイベント**
- 全採択事業者によるプレゼンテーション
 - サービス事業者とPHR事業者間での個別ディスカッション
 - ＜イベント後＞
 - マッチングしたい事業者に関するアンケート

- 事業者・経産省との協議**
- マッチングイベント後のアンケート結果や必要データの整合性等を鑑みてUCCT案を作成
 - 事業者・経産省との協議

- UCCT確定**
- 事業者に確定したUCCTを連絡
 - 並行して、未確定事業者へのフォローアップによりUCCT組成を支援

キックオフイベント資料 (抜粋)

TIME	内容	担当者	備考	備考
13:00-13:10	10分	ご挨拶	ご挨拶	経産省事務局
13:10-13:30	20分	事業概要、進め方	本事業の概要/今後のスケジュール	ACN本部
13:30-13:45	15分	イベント開催の趣意について	イベント開催/準備中のアンケート結果/広報/広報/広報/広報/広報	ACN本部
13:45-13:55	10分	企業説明会開始	参加企業説明/参加企業説明/参加企業説明	ACN本部
13:55-14:00	5分	休憩		-
14:00-14:40	40分	質疑応答時間について	質疑応答時間について/質疑応答時間について/質疑応答時間について	ACN本部
14:40-14:50	10分	参加企業紹介発表	参加企業紹介発表/参加企業紹介発表	ACN本部
14:50-15:00	10分	閉会挨拶		会場

マッチングイベントの様子



UCCT検討資料 (抜粋)

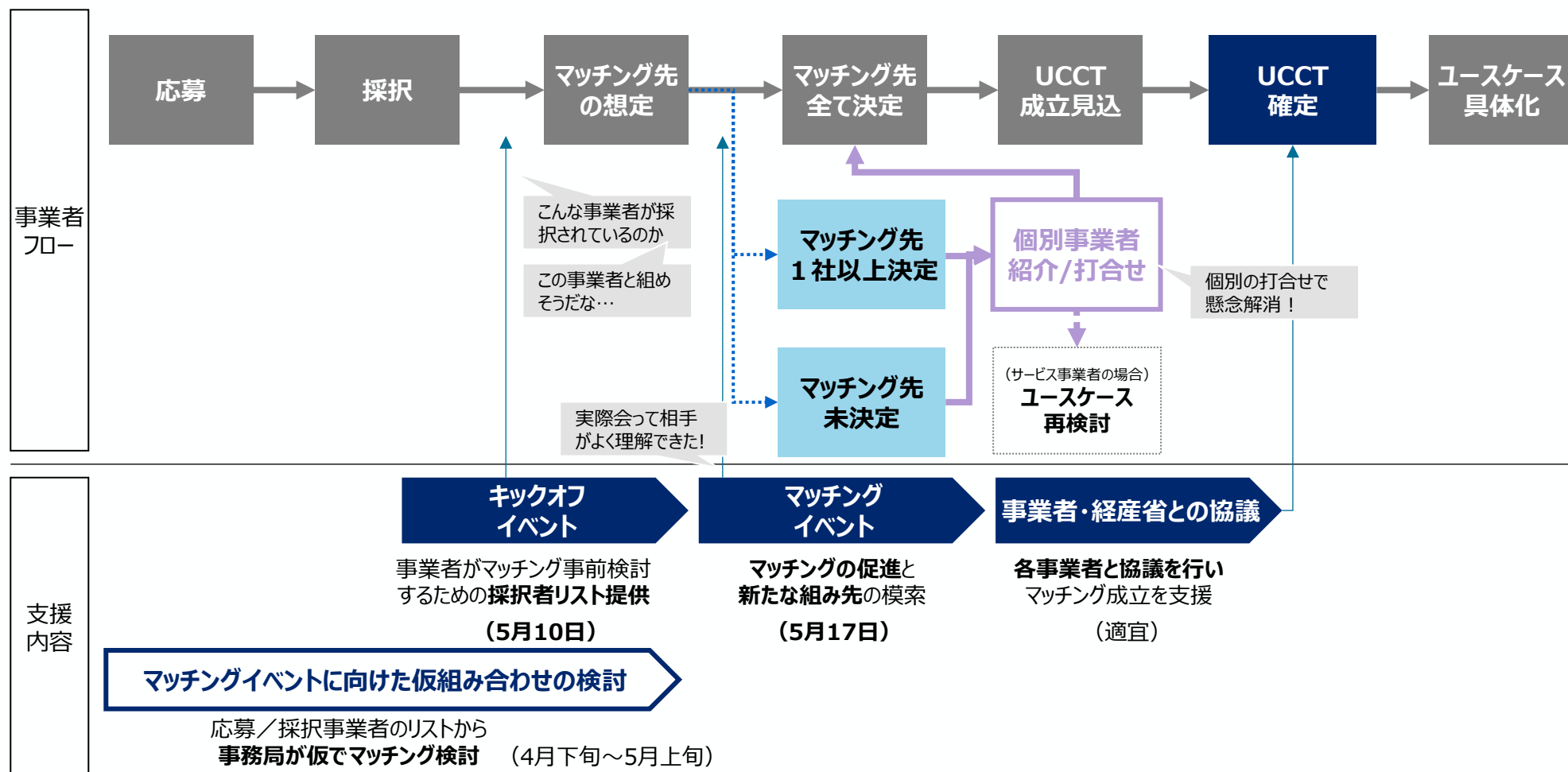
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
Wellmira (9)	0/0	/	/	/	0/0	/	0/0	/	/	/	/	0/0	/
NTT DIXY-ナター	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0/0	/	/
カゴメ	/	/	/	/	0/0	/	/	/	/	/	/	/	/
クレーンワズ	0/0	/	/	/	/	/	/	0/0	/	/	/	/	0/0
サステナブルパブリック2025	/	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	/	/	/	/	/	/	/
ジーン	/	/	/	0/0	0/0	/	/	/	/	/	/	/	/
リアルワークゲーム	/	0/0	/	/	0/0	0/0	/	/	/	/	/	/	/
LIXIL	/	/	/	/	0/0	/	/	/	0/0	/	0/0	0/0	/
フコル	/	/	/	0/0	/	/	/	/	/	/	/	0/0	/

UCCT検討結果

サービス提供者	情報事業者	ユースケース名
Wellmira	Arteryes, Y4.com	今日何食べた? by AI マラソン ～あなたの体調や好みから考えたお食事メニューをリアルタイムに提案～
NTT DIXY-ナター	SOXAI	ZZZN SLEEP APPAREL ZZZN: 野菜でつくる睡眠! ～あなたの生活リズムや睡眠リズムから最適な睡眠環境を提案～
カゴメ	NTT F3E	～New Wellness Sleep Program～ AIがあなたの生活リズムから最適な睡眠環境を提案する
クレーンワズ	asken, Arteryes, Y4.com	～あなたの生活リズムや睡眠リズムから最適な睡眠環境を提案～
サステナブルパブリック2025	NTT F3E, Wellmira	～あなたの生活リズムや睡眠リズムから最適な睡眠環境を提案～
ジーン	NTT F3E, Wellmira	～あなたの生活リズムや睡眠リズムから最適な睡眠環境を提案～
リアルワークゲーム	大塚博, エムシーアイ	～あなたの生活リズムや睡眠リズムから最適な睡眠環境を提案～
LIXIL	FINC Technologies, 次井製薬	～あなたの生活リズムや睡眠リズムから最適な睡眠環境を提案～
フコル	asken	～あなたの生活リズムや睡眠リズムから最適な睡眠環境を提案～
Wizwe	Y4.com	～あなたの生活リズムや睡眠リズムから最適な睡眠環境を提案～

UCCT組成までのフロー

- 採択～UCCT組成において、事業者のニーズ・段階に応じた支援を事務局より実施した



UCCT組成の考え方

- UCCT組成においては、連携希望データを揃えるだけでなく、事業者観点でのユースケース成立見込みや、社会実装を見据えた実現可能性を考慮してマッチングを検討した

事業者 として	データ観点	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 必要なデータの種類の揃っているか ✓ データの形式は何か ✓ 取得できるデータ量は十分か
	開発観点	<ul style="list-style-type: none"> ✓ データ連携は問題なく可能か ✓ データ連携する上での諸条件は確認できているか
	ユースケース 開発観点	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ユースケースの成立イメージがわいているか ✓ ユースケースを成立させられる程度のデータが揃っているか
	関係構築 観点	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 連携パートナーとして相応しいか（会社として／担当として）
事務局 として	実証事業 観点	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 最大30社の採択事業者が漏れなく組み合わせをする上で有効な組み合わせか ✓ 社会実装を見据えた際、事業として・顧客体験として見込みがあるか（レガシー）

キックオフイベント概要

- キックオフイベントでは本事業者に関する注意事項等を事業者へ情報共有した

【概要】

目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 実証事業のキックオフとして、事業全体の趣旨説明やゴールイメージを共有 ● 採択事業者情報の共有により、事業者にマッチング先の想定を促す ● 情報連携基盤への理解向上と接続要件6月末確定の意識づけ
成果	<ul style="list-style-type: none"> ● 各事業者を一堂に会し本事業趣旨・目的を一に共有した ● 事務局のサポート体制と直近の動き方について周知した
対象者	<ul style="list-style-type: none"> ● 主催側：EXPO-PHR運営事務局（コアメンバー） ● 事業者側：サービス／PHR事業者
日時	<ul style="list-style-type: none"> ● 2024年5月10日 13:00-15:00
形式	<ul style="list-style-type: none"> ● オンライン開催（Teams）
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 冒頭に司会者から簡単な頭出しをした後、経済産業省担当者よりご挨拶と本事業の概要についてご説明 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 事業参画への御礼 ➢ 本事業の概要やゴール、期待 等 ● 以降は弊社の各担当者がリレー形式で説明を行う ● イベント後半には開発チームから情報連携基盤接続要件の説明を行う <ul style="list-style-type: none"> ➢ ①接続仕様書についての説明／②基盤接続に係る進め方・スケジュール・役割分担の説明 ➢ 6月末目途で接続要件FIXを意識づけ

キックオフイベント タイムスケジュール

- 事業の大まかなスケジュールと採択事業者の紹介、基盤接続の要件と事務処理に関する説明を行った

	TIME	所要時間	コンテンツ	詳細
1	13:00-13:10	10分	ご挨拶	ご挨拶
2	13:10-13:30	20分	事業概要、進め方	本事業の概要をご説明 / 万博展示までの大まかなスケジュールと、マッチング・ユースケース初期仕様の確定（6月末）までのスケジュールを説明
3	13:30-13:45	15分	イベント開催と広報について	イベント説明と準備のためのアンケート依頼 / 広報計画と広報関連の依頼
4	13:45-13:55	10分	全採択事業者共有	組み先を想定してもらうための採択事業者紹介
5	13:55-14:00	5分	休憩	—
6	14:00-14:40	40分	基盤接続要件について	接続仕様書について / 基盤接続に係る進め方・スケジュール・役割分担
7	14:40-14:50	10分	委託事業における注意点	契約 / NDA / 確定検査などの概要説明
8	14:50-15:00	10分	質疑応答	—

キックオフイベント 詳細 (イベント開催と広報について)

- 「イベント開催と広報について」では、マッチングイベントと広報活動計画を説明した

マッチングイベント説明

- マッチングイベント概要を説明
- マッチングイベントに向けた資料準備やアンケートを依頼

広報活動計画

- 広報協力の依頼を実施
- 広報ガイドラインおよび広報活動配布キットについて説明

マッチングイベント概要 3/3

● 5/17(金)に大阪京橋の「QUINTBRIDGE」にてリアルイベントを開催します。

● 各事業者1-3名のご参加をお願いします。ご定券をおかけしますが、宜しくお願いします。

● 第1部は採択事業者向けに「QUINTBRIDGE」事務局からのご案内動画を配信し、第2部はマッチングイベント概要 1/3

● 5/17(金)に大阪京橋の「QUINTBRIDGE」にてリアルイベントを開催します。

● 各事業者1-3名のご参加をお願いします。ご定券をおかけしますが、宜しくお願いします。

● 採択事業者同士をマッチングさせ、ユースケース創出のためのチームを作ることを目的としたイベントです。

● 各事業者から4分のプレゼンテーションで自社を紹介いたします。その後、他の事業者とディスカッションを行います。

● 2024年5月17日 (金) 11:00-18:30

● イベントの開催 (17:30-18:30) で、交流会をQUINTBRIDGE 1 Fファーストスペースにて行います。

※交流会での事務局からの取次ぎの役割は、QUINTBRIDGEにてご自身で購入いただけます。

● NTT西日本オープンイノベーション施設「QUINTBRIDGE」
https://www.quintbridge.jp/access/

● 各社の代表者1-3名の現地参加をお願いします。

● 5/14のマッチングイベント出欠アンケートに事務局へお申し込みください。

● 本実証事業における業務担当者のご参加をお願いします。

● 4名以上でお越しになる場合は、事務局 (phr-expo-data-utilization@accenture.com) にご連絡ください。

● 当日は名刺を名札に入れて目から下げていただくので、名刺をご持参ください。

● 現地にお越しいただけない方は、オンライン参加の手続きもご用意します。

【ご依頼】マッチングディスカッションの資料準備 **TO DO | 5/17持参**

- ディスカッション用資料として提案書の抜粋版および追加資料をご持参ください。
- 当日は、Tea

【ご依頼】事業者プレゼンテーションの資料準備 **TO DO | 5/13締切**

- マッチングイベントの前半では各事業者にプレゼンテーションを行っていただきます。
- 事務局から5/7にメール送付したプレゼンテーションフォーマットを加筆・修正の上、5/13までにご返送ください。

コンテンツ	準備物
<p>事業者プレゼンテーション 4分×30事業者 (※A)</p> <p>● 目的：事業内容や自社強みを紹介しているユースケース (9-17名事業者)、競合データ (採択事業者) を紹介することで、ディスカッションのきっかけを創出する。</p> <p>● 形式：1事業者あたり4分までステージ発表。A4用紙資料は送付するフォーマットは別添です。</p> <p>※5/7にPowerPointのフォーマットを送付済みです。5/13までに事務局へご返送ください。</p> <p>※事業者プレゼンの録画映像は公募サイトでの一般公開を予定しているため、本実証関係者以外への公開を承知の上、資料作成をお願いいたします。</p>	<p>● A4用紙資料 (13冊)</p>

広報活動計画について - 広報活動配布キット

- 広報活動に関連する配布資料は以下になります。5/8(金)までお申し込みください。

● 本実証事業の広報・PRについては、以下の基準にてプレスリリース、ニュース掲載、イベント、公募サイトの掲載を行います。

● 経済産業省及びEXPO-PHR広報事務局による主な広報活動は、PHRサービスに対する機運醸成を目的に、①プレスリリース、②イベント、③公募サイト上にて実施する予定です。実証事業の期間内に、採択事業者の具体名を表記してニュースリリースや取材・記事化などに協力いただく想定です。

● 公募の採択者発表のプレスリリースは5月16日(木)11:00に発信を予定しています。

● 本事業で得られた成果、事業内容を発表・公開する場合は、事前にEXPO-PHR広報事務局へ報告の上、許可を得ること。

● 公開の是非、公開内容については、経済産業省及びEXPO-PHR広報事務局と内容を調整・合意のもと、協力して発信の信頼性向上を図るものとし、特段の理由がある場合を除き、その内容が本事業の成果として得られたものであることを明示すること。

キックオフイベント 詳細（全採択事業者情報共有）

- 「全採択事業者情報共有」のアジェンダでは、各事業者の概要をそれぞれ説明した

全採択事業者情報共有

- 各事業者の概要情報を順に紹介

採択事業者一覧

PHR事業者 ※50音順

- | | |
|----------------|-------------------------|
| ■ Arteryex株式会社 | ■ 大阪府 |
| ■ 株式会社asken | ■ 沢井製薬株式会社 |
| ■ 株式会社WizWe | ■ 株式会社スマートバリュー |
| ■ 株式会社Wellmira | ■ 株式会社SOXAI |
| ■ 株式会社NTTドコモ | ■ 株式会社FINC Technologies |
| ■ 株式会社エムティーアイ | ■ 株式会社Y4.com |

サービス事業者 ※50音順

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| ■ 株式会社Wellmira | ■ 株式会社ゾーン |
| ■ 株式会社NTT DXパートナー | ■ リアルワールドゲームズ株式会社 |
| ■ カゴメ株式会社 | ■ 株式会社LIXIL |
| ■ 株式会社グリーンハウス | ■ 株式会社ワコール |
| ■ 株式会社サステナブルパビリオン2025 | |

キックオフイベント 詳細 (基盤接続要件について)

- 「基盤接続要件について」では、情報連携基盤接続仕様書および基盤接続構築の進め方を説明

接続仕様書について

- 配布文書の構成を説明した
- 基盤を介したPHRデータ流通の基本的な考え方と全体概要および、各種仕様の概要について説明した

基盤接続のスケジュール

- 基盤接続に関する全体スケジュールの概要を説明した

タスク・役割分担

- ユースケース検討、設計・開発、各種テストのタスクと役割分担を説明した

4.1 ID連携仕様の概要

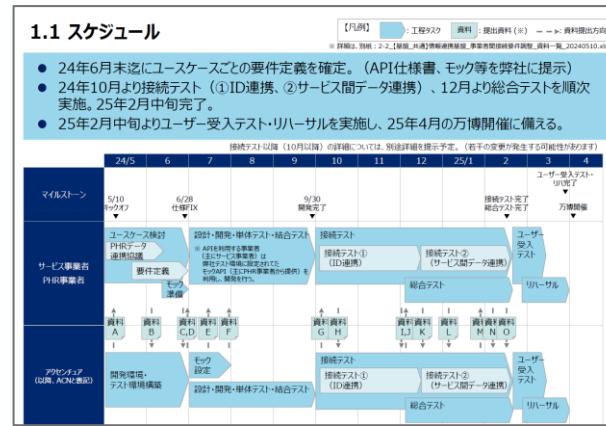
3.1 基盤との接続等を実現する連携処理

2.1 基本的な考え方

1.1 接続仕様書の目的と文書構成

目次

- 1 接続仕様書の目的と文書構成
 - 1.1 接続仕様書の目的と文書構成
- 2 基盤を介したPHRデータ流通の基本的な考え方と全体概要
 - 2.1 基本的な考え方
 - 2.2 基盤を介したPHRデータ流通の全体概要
- 3 接続仕様の全体概要
 - 3.1 基盤との接続等を実現する連携処理
- 4 ID連携の概要
 - 4.1 ID連携仕様の概要
- 5 サービス間データ連携の概要
 - 5.1 サービス間データ連携およびAPI共通仕様の概要
 - 5.2 API個別仕様の概要
 - 5.3 API個別仕様 (FHIR構造体形式) の概要
 - 5.4 API個別仕様 (任意構造体形式) の概要
- 6 情報セキュリティに関する留意事項
 - 6.1 情報セキュリティに関する留意事項
- 7 接続仕様に関する問合せ
 - 7.1 問合せ方法と問合せ先



2.3 タスク・役割分担 (接続テスト) 1/3

2.2 タスク・役割分担 (設計・開発・単体テスト・結合テスト)

2.1 タスク・役割分担 (ユースケース検討)

ユースケース検討のタスク・役割分担を以下に示す

No	タスク	タスク説明	PM	ACN	PM	PM	PM	PM	備考
1	要件定義	1. 今後の接続要件確定にあたり、ACN/PM/PM事業者・PHR事業者に、情報連携基盤との接続仕様・今後のシステム連携仕様(連携、ID連携、PHRデータ連携)の概要を提示する。							
2	PHRデータ連携構築 (ユースケース検討)	【タスク説明】 ① ID連携の要件定義が完了した上で、連携構築が可能なシステム連携仕様(連携、API)の作成に着手する。 ② 連携構築が完了した上で、連携構築が可能なシステム連携仕様(連携、API)の作成に着手する。 ③ 連携構築が完了した上で、連携構築が可能なシステム連携仕様(連携、API)の作成に着手する。							
3	要件定義	1. サービス事業者・PHR事業者にてユースケース連携仕様(連携、ID連携、PHRデータ連携)の概要を提示する。 ① 各事業者が所有するシステム連携仕様(連携、API)の作成に着手する。 ② ID連携・PHRデータ連携の要件定義が完了した上で、連携構築が可能なシステム連携仕様(連携、API)の作成に着手する。 ③ 連携構築が完了した上で、連携構築が可能なシステム連携仕様(連携、API)の作成に着手する。							
4	要件定義	1. サービス事業者・PHR事業者にて、要件定義が完了した上で、連携構築が可能なシステム連携仕様(連携、API)の作成に着手する。 ① 各事業者が所有するシステム連携仕様(連携、API)の作成に着手する。 ② ID連携・PHRデータ連携の要件定義が完了した上で、連携構築が可能なシステム連携仕様(連携、API)の作成に着手する。 ③ 連携構築が完了した上で、連携構築が可能なシステム連携仕様(連携、API)の作成に着手する。							
5	要件定義	1. サービス事業者・PHR事業者にて、要件定義が完了した上で、連携構築が可能なシステム連携仕様(連携、API)の作成に着手する。 ① 各事業者が所有するシステム連携仕様(連携、API)の作成に着手する。 ② ID連携・PHRデータ連携の要件定義が完了した上で、連携構築が可能なシステム連携仕様(連携、API)の作成に着手する。 ③ 連携構築が完了した上で、連携構築が可能なシステム連携仕様(連携、API)の作成に着手する。							
6	要件定義	1. サービス事業者・PHR事業者にて、要件定義が完了した上で、連携構築が可能なシステム連携仕様(連携、API)の作成に着手する。 ① 各事業者が所有するシステム連携仕様(連携、API)の作成に着手する。 ② ID連携・PHRデータ連携の要件定義が完了した上で、連携構築が可能なシステム連携仕様(連携、API)の作成に着手する。 ③ 連携構築が完了した上で、連携構築が可能なシステム連携仕様(連携、API)の作成に着手する。							

キックオフイベント 詳細 (委託事業における注意点)

- 「委託事業における注意点」では、契約・NDAおよび確定検査の留意点を説明した

契約・NDA締結

- 契約構造と注意点について説明した
- NDAの構造と注意点について説明した

確定検査について

- 各検査・検収に向けた準備について、大まかなスケジュールと依頼発出の頭出しを行った
- 直近必要となる人件費、旅費、財産管理の処理について説明した

質問票の運用について

- 本実証に関する質問事項の取りまとめについて、運用を説明した

契約・NDA締結 TO DO

- NDA締結については、採択事業者間での秘密保持を担保する観点から、ADKと連携各社間でを行うことを想定しております。
- 契約及びNDAにつきましては個別にご案内いたします。

契約関係

- ADK-採択事業者(各社)ごとの委託契約締結
- ユースケースにおける採択事業者間の契約は、個社間の締結を想定

(注意)
契約締結前の発注(作業)~支払済みの経費は対象外(見積もりは締結前でも可能)

NDA関係

- ADK-各採択事業者(各社)ごとのNDA

(注)
本実証では、事業全体のユースケース検討の進捗を踏まえ、必要に応じて個別のNDA締結を行うこととされています。NDA締結は、採択事業者間の秘密保持を担保する観点から、ADKと連携各社間でを行うことを想定しております。

PHR実証事業者	サービス事業者
A会社	E会社
B会社	F会社
C会社	G会社
D会社	H会社

人件費の計上において注意すべきポイント② TO DO

人件費の計上において注意すべきポイント① TO DO

各検査・検収に向けた準備について TO DO

- 別途、支出計画も含め見積書改訂版の提出をお願いする予定です。(5月末迄)
- 事業委託費については原則、契約締結日以降に発注、事業期間中に支払したものが対象となります。2回の中間検査、確定検査に向けて、経済産業省委託事務処理マニュアル(事務処理マニュアル(METI/経済産業省))を精読し、必要書類ご準備をお願いします。

2024年 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 2025年 1月 2月 3月 4月

- 4月: 事業決定
- 7月: 中間検査(1回目)
- 10月: 中間検査(2回目)
- 2月: ADK/ACNによる検収
- 4月: 確定検査、委託決定

委託費の対象範囲(契約締結日以降~事業完了以前)

OK! 見積 - 発注 - 納品 - 発注 - 検収 - 請求 - 支払

OK! 見積 - 発注 - 納品 - 発注 - 検収 - 請求 - 支払

NG! 発注 ... 契約前の発注はNGです

PHR実証・基盤に関するご質問票 スターキットから一部修正(赤字部分)

- PHR実証に関する問い合わせは、Teams(Share point)にのチャネル「FAQ」に格納されたExcelに起票をお願いいたします。
- なお、情報連携基盤に関する問い合わせについては、Teams(Share point)の情報連携基盤専用のチャネルに質問票を格納しますので、そちらに起票をお願いいたします。情報連携基盤の質問票についての詳細は別途お知らせいたします。

<PHR実証に関する質問票イメージ>

- チャネル「FAQ」に格納されたExcelファイルに記載日・企業名・氏名・質問内容を起票
- 起票完了したら、スレッドのコメント欄に企業名・氏名をご記載ください(必ず@ACNのメンションタグをつけるようお願いいたします)

マッチングイベントについて

- マッチングイベントではUCCT組成に向けた事業者間のディスカッションを行った

【概要】

目的	<ul style="list-style-type: none"> ● UCCT組成の土台となる、各事業者の想定ユースケースや提供データのすり合わせ ● 各事業者同士の交流、事業推進の機運醸成
成果	<ul style="list-style-type: none"> ● 同じ目的を持った事業者接点を築くことができた ● PHRを基軸に自社だけでは気が付かない、自社の取り組みの価値や連携による付加価値を、事業者間の交流によって見いだせた
対象者	<ul style="list-style-type: none"> ● 主催側：経済産業省／事務局 ● 事業者側：サービス／PHR事業者 各社1-3名（実務担当レベルの方／データ周りに理解がある方）
日時	<ul style="list-style-type: none"> ● 2024年5月17日 11:00-18:00（休憩を含む）
形式	<ul style="list-style-type: none"> ● QUINTBRIDGEにて現地開催（ハイブリット） ※ 採択事業者の代表者1-3名は現地参加必須とした
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 主催者挨拶 <ul style="list-style-type: none"> ➢ PHR利用の構想などを紹介した ● 各事業者による事業内容紹介のプレゼンテーション ● マッチングのための事業者間ディスカッション <ul style="list-style-type: none"> ➢ 事務局によるPHR事業者とサービス事業者の事前マッチングに基づき20分ずつ x 5セットのディスカッションを行った ➢ 後半は自由な組み合わせでのディスカッション時間を設けた ● 交流会

マッチングイベント タイムスケジュール

- 2部構成とし、前半に各事業者のプレゼンテーション、後半に個別商談を実施した

		TIME	所要時間	コンテンツ内容
第1部	1	11:00-11:10	10分	オープニングセッション/QUINTBRIGEのご紹介
	2	11:10-11:20	10分	主催者（経済産業省ヘルスケア産業課）からのご挨拶
	3	11:20-12:05	45分	サービス事業者プレゼンテーション
				小休憩（5分）
	4	12:10-13:20	70分	PHR事業者プレゼンテーション
				昼食・休憩（70分）
第2部	5	14:30-14:40	10分	マッチングディスカッションの流れの説明
	6	14:40-15:50	70分	マッチングディスカッション（前半：20分×3枠）
				小休憩（5分）
	7	15:55-16:45	50分	マッチングディスカッション（後半：20分×2枠）
	8	16:45-17:00	15分	マッチングフリーセッション
	9	17:00-17:05	5分	クロージングセッション
	10	17:05-18:00	55分	交流会（QUINTBRIDGE 1 Fカフェ前）

録画配信
後日公募サイトで一般公開

採択事業者のみ参加
Tous会議によるライブ配信

マッチングイベントに向けた事前組み合わせ作成

- データ項目、事前アンケート結果をもとにマッチングの仮説を作成した。この仮説を元に、マッチングイベントでの事業者間協議を設定した

データ項目抽出

- サービス事業者がユースケース創出に必要なデータ項目、PHR事業者が自社サービスから提供可能なデータ項目を抽出

組み合わせ仮説作成

- サービス事業者が必要とするデータ項目と、PHR事業者が提供可能なデータ項目がマッチするよう組み合わせ仮説を作成

事前アンケート (5/13メット)

- マッチングイベントの事前アンケートにて、マッチングイベントにおいて個別ディスカッションしたい事業者をヒアリング (詳細は、次項「マッチングイベント事前アンケート詳細」に記載)

マッチングイベント 組み合わせ作成

- 事前アンケートのヒアリング結果を踏まえて、マッチングイベントでの個別ディスカッションの組み合わせを作成 (詳細は、次々項「事前アンケートをもとにした組み合わせ想定」に記載)

提案書からデータ項目抽出

データ項目をもとにした組み合わせ仮説

事前アンケート項目 (抜粋)

マッチングイベント組み合わせ表

マッチングイベント事前アンケート詳細

- マッチングイベント前のアンケートにおいて、各事業者に対して、興味・連携想定のある事業者をヒアリングした

<p>目的</p>	<p>✓ 事業者の希望や課題感を事前に確認し、マッチングイベント当日の商談の采配やマッチングイベント内のフォローアップに活用する</p>
<p>ヒアリング項目（例）</p>	<p>PHR事業者：</p> <ul style="list-style-type: none"> 実証事業全体への期待値 興味あるサービス事業者と理由 連携した場合の不足や懸念点 イベントで確認したい内容 <p>サービス事業者：</p> <ul style="list-style-type: none"> 実証事業全体への期待値 連携想定しているPHR事業者と理由（データ） 連携した場合の不足や懸念点 イベントで確認したい内容
<p>実施方法</p>	<p>✓ Microsoft Forms</p>

マッチングイベント詳細（事業者プレゼンテーション）

- マッチングイベント前半では各事業者より5分程度でプレゼンを実施し、ユースケースイメージや提供可能なPHRデータについて事業者間の理解促進を図った

サービス事業者 プレゼン資料イメージ

会社概要

<応募書類から事務局記入>
株式会社●●●
主たる事業・目的
資本金／人員／主な業績
+
<事業者が記入>
会社紹介に関する自由コメント

ユースケースイメージ

<応募書類から事務局記入>
サービス名／利用環境／サービス目的
サービス概要
大阪・関西万博とその先の展開に向けた検討
+
<事業者が記入>
追加があれば自由コメント

活用したいPHRデータ

<応募書類から事務局記入>
活用を想定しているPHRデータ
本事業を通じて期待する成果
+
<事業者が記入>
(PHR事業者にもむけて) 自由コメント

PHR事業者 プレゼン資料イメージ

会社概要

<応募書類から事務局記入>
株式会社●●●
主たる事業・目的
資本金／人員／主な業績
+
<事業者が記入>
会社紹介に関する自由コメント

自社サービス概要

<応募書類から事務局記入>
サービス名／利用環境／サービス目的
サービス概要
大阪・関西万博とその先の展開に向けた検討
+
<事業者が記入>
追加があれば自由コメント

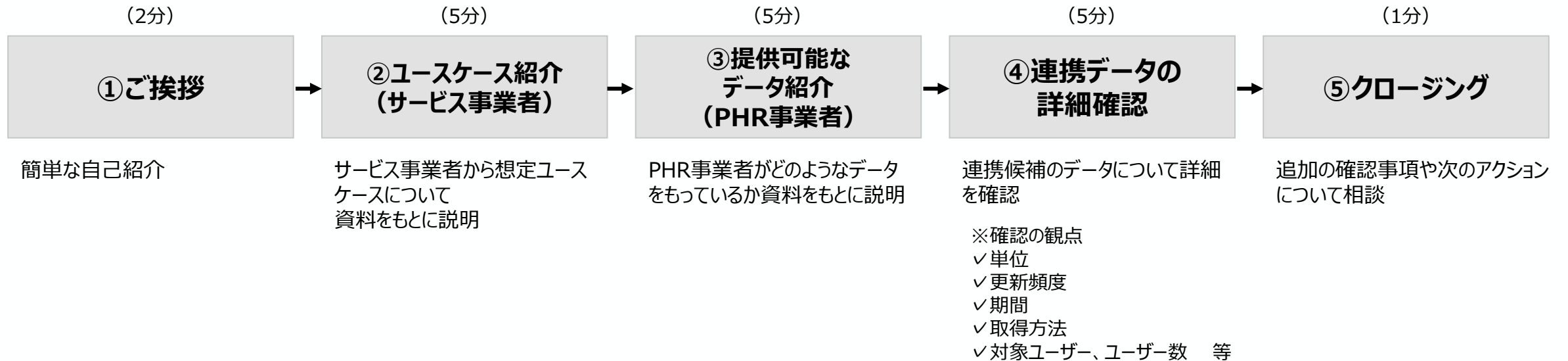
提供可能なPHRデータ

<応募書類から事務局記入>
連携可能なPHRデータ
本事業を通じて期待する成果
+
<事業者が記入>
(PHR事業者にもむけて) 自由コメント

マッチングイベント詳細（個別ディスカッション）

- マッチングイベント後半では、サービス事業者1社につき、PHR事業者5社と20分ずつディスカッションし、興味・関心がある事業者間の深いコミュニケーションを実現した

ディスカッションの流れと時間配分



マッチングイベント事後アンケート

- マッチングイベント後のアンケートにて、今後連携したい事業者のヒアリングを実施した

<p>目的</p>	<p>✓ マッチングイベントでのプレゼンテーションや個別ディスカッションを踏まえて連携したい事業者をヒアリングすることにより個別支援に活用する</p>
<p>ヒアリング 項目（例）</p>	<p>PHR事業者：</p> <ul style="list-style-type: none"> 商談した各サービス事業者と前向きに検討したいかどうか 連携した場合の不足や懸念点 現時点で組みたい事業者候補 今後の進行上の懸念点（あれば） 事務局にサポートいただきたいこと <p>サービス事業者：</p> <ul style="list-style-type: none"> 商談した各サービス事業者と前向きに検討したいかどうか 連携した場合の不足や懸念点 現時点で組みたい事業者候補 取得希望データの確保有無 今後の進行上の懸念点（あれば） 事務局にサポートいただきたいこと
<p>実施方法</p>	<p>✓ Microsoft Forms</p>

事業者・経産省との協議事例

- 事業者に納得度があり、かつユースケースの質を担保できるようなUCCTとなるように、複数の観点について事業者・経産省との協議を行った

観点	協議の論点	個別協議による解決方針
データ観点	ユースケース実現に必要なデータの種類の揃える必要がある	<ul style="list-style-type: none"> ✓ アンケート回答では必要なデータが揃わないと想定された場合は、必要なデータを保持しているPHR事業者へ事務局より声掛けを行い、サービス事業者とのマッチングを実施
ユースケース開発観点	ユースケースとしての魅力、有益性の充実を図る必要がある	<ul style="list-style-type: none"> ✓ サービス事業者が検討している内容よりさらに充実を図る必要があると想定されるユースケースにおいては、事務局より期待値等を個別に伝達
関係構築観点	(事業者として) 本事業をきっかけに関係を深めたい事業者がある	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 相手先事業者が連携に乗り気でない場合は、事業者間での想いを伝える場を事務局にてセットし、事業者としての関係構築意向を考慮したマッチングを実現

UCCT組成結果

- 事業者マッチングの結果、10個のUCCTが確定した

サービス事業者	PHR事業者	ユースケース名
Wellmira	Arteryex, Y4.com	今日何食べよ？ byカロママプラス ～ あなたの体調や好み!?を考えたお食事をパーソナルにご提案～
NTTDXパートナー	SOXAI	ZZZN SLEEP APPAREL
カゴメ	NTTドコモ	わくわく！野菜でカラフルVR！ ～あなたとあなたの大切な人たちでミライの健康を実践～
グリーンハウス	asken, Arteryex, Y4.com	～New・Wellness Sleep Program～ アプリとホテルステイで栄養士による眠活サポート！
サステナブルパビリオン 2025	NTTドコモ、Wellmira	話せるPHR Mirrored Body® ～あなた自身と健康チャット～
ジーン	NTTドコモ、Wellmira	VRチャンバラエクササイズ！過剰なカロリーぶった斬れ！
リアルワールドゲームス	大阪府、エムティーアイ	ゲームで遊びながら健康に?!「トトレ」!
LIXIL	FiNC Technologies, 沢井製薬	もっとグッスリ (More IoT for good sleep)
ワコール	asken	SCANBE 3Dボディスキャンから始まるヘルスケア体験
WizWe	Y4.com	100歳まで健康な脳はおしゃべりから！～Talk more, age well～

創出されたユースケース

- 各UCCTで検討・開発されたユースケースの概要は以下の通り

UCCT	ユースケース概要	UCCT	ユースケース概要
Wellmira w/Arteryex, Y4.com	Wellmiraの「カロママ プラス」に記録された食事、運動、睡眠、気分などのライフログデータと、Arteryexの「パシャッとカルテ」とY4.comの「Vital gain」に記録された服薬や健診情報をもとに、パーソナルAIが、ひとりひとりに最適な食事メニューを健康アドバイスと一緒に提案する。	ジーン w/ NTTドコモ, Wellmira	ジーンが提供するVRアトラクションゲームに、NTTドコモの「健康マイレージ」とWellmiraが提供する「カロママプラス」のデータを取り込むことで、武士となったプレイヤーのライフや使用する刀の長さ、飛来する回復アイテムが変化。健康的な人ほど、有利にゲームを楽しむことができる。
NTT DXパートナー w/SOXAI	NTTDXパートナーが開発したスリープアパレルとSOXAIのPHRデータと連動し、アパレルに内蔵されている光と音が作動することで、心地よい眠気を誘うとともに、最適なタイミングで分眠（仮眠）を持ち運ぶことができる。	リアルワールド ゲームス w/大阪府, エムティーアイ	リアルワールドゲームスの「TRAIN&TRAIN」と、エムティーアイが提供する「CARADA健診サポート」のPHRデータ、大阪府が提供する「アスマイル」のPHRデータの連携により、利用者が楽しく歩き、自然に健康になれるサービス実現を目指す。
カゴメ w/NTTドコモ	カゴメの「ベジチェック」で測定した野菜摂取レベルに加え、NTTドコモの「健康マイレージ」が提供する「ヘルスケア推定AI」から自身の健康状態の推定スコアを取得することで、VR空間で戦う敵と自分の攻撃力を決定。日々の生活習慣の改善を楽しく継続していただくプログラムである。	LIXIL w/FiNC, 沢井製薬	FiNC Technologiesの「FiNC」と沢井製薬の「SaluDi」の健康データから日中の活動量や体調を把握し、LIXILの「Life Assist2」を通じて、個人に合わせた適切なタイミングで住宅機器のコントロールや行動リコメンドを実施し、健康で心地よい生活を目指す。
グリーンハウス w/asken,Arteryex, Y4.com	askenやY4.comからの日々の食事や睡眠データ、またArteryexからの健康診断の結果や、グリーンハウスグループが運営する「ホテルグランパツ八京都セレクト」を使用して詳細な睡眠データを計測し、その結果に基づき専任アドバイザーや管理栄養士によるパーソナライズドアドバイスを行う。	ワコール w/asken	ワコールの3D計測サービス「SCANBE（スキャンビー）」と、askenのAI食事管理アプリ「あすけん」により 3Dボディデータや食事管理データの閲覧が可能。またタイプ別の食事や運動メニューの提案によって、利用者の“ありたい自分”の実現をサポートする。
サステナブルパピ リオン2025 w/ NTTドコモ, Wellmira	サステナブルパピリオン2025の3Dアバター対話サービス「Mirrored Body®」に、Wellmiraの「カロママ プラス」の食事データや健康アドバイス、とNTTドコモの「健康マイレージ」の「ヘルスケア推定AI」を連携することで、よりパーソナライズされた健康アドバイスを提供する。	WizWe w/Y4.com	ミドル～シニア世代をターゲットとし、WizWeの習慣化の知見や、Y4.comのPHRアプリやウェアラブルデバイスから収集される健康データを基に、ユーザーの継続状況を把握しフォローメッセージを配信するなど行動変容サポートを提供する。

目次

1. はじめに	-----	p.3
2. 本事業の目的	-----	p.7
3. 推進にかかるコンセプト	-----	p.12
4. 本事業の実施計画	-----	p.16
5. PHR事業者・サービス事業者の公募	-----	p.27
6. ユースケース検討	-----	p.40
7. 情報連携基盤の構築	-----	p.62
8. 機運醸成イベントについて	-----	p.131
9. 実証イベントについて	-----	p.143
10.映像・展示企画について	-----	p.165
11.UCCTにおける議論事項	-----	p.191
12.各事業遂行上の課題について	-----	p.224
13.まとめ	-----	p.236

7. 情報連携基盤の構築

① 情報連携基盤とは	---	p.64
② 情報連携基盤のコンセプト	---	p.65
③ 開発実施要領及びその管理	---	p.67
④ 要件定義	---	p.70
⑤ 基本設計、詳細設計について	---	p.74
⑥ 各種テスト仕様と結果報告	---	p.81
⑦ 本番稼働計画	---	p.114
⑧ データ保有・削除の考え方とオプトイン規約	---	p.115

情報連携基盤とは

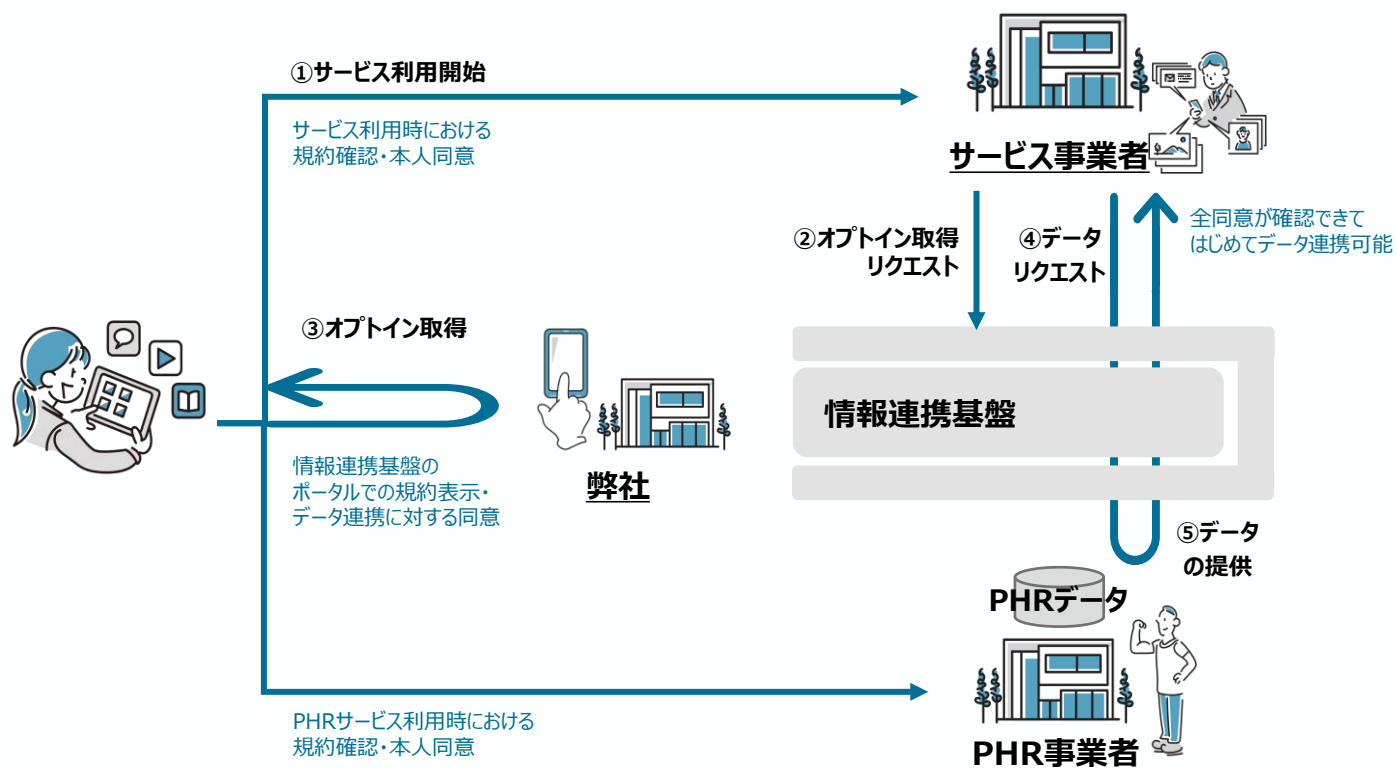
- 情報連携基盤とは、「複数のPHR 事業者と複数のサービス事業者が接続し、API(Application Programming Interface)で情報連携を行う情報連携基盤のこと」である。



情報連携基盤のコンセプト

- 情報連携基盤上にデータを保存しないシステム構成とし、事業者間でデータのハブとなる機能を提供。また各事業者に対して利用者からのデータ利活用に関する同意がなければ、データ連携はできない仕組みとした。

運用のイメージ



情報連携基盤を通じたPHRデータ流通フロー

①	サービス利用開始 ・利用者が、PHR事業者のデータを利用するサービス事業者のサービスを利用開始
②	サービス事業者から情報連携基盤へのオプトイン取得リクエスト ・サービス事業者は、PHR事業者情報を取得することに関するオプトイン取得を情報連携基盤にリクエスト
③	情報連携基盤によるユーザオプトイン取得 ・サービス事業者のオプトイン取得リクエストに基づき、サービス事業者サービス利用のためのPHR事業者情報取得に関するユーザオプトインを取得
④	サービス事業者からPHR事業者へのAPI-GWを通じたデータリクエスト ・ユーザオプトイン取得をもってAPI-GW がサービス事業者からPHR事業者へのデータリクエストを許可することで、オプトインベースのデータ連携を実現
⑤	PHR事業者からサービス事業者へのデータ提供 ・リクエストを踏まえたデータをPHR事業者からサービス事業者に提供

情報連携基盤における納品物一覧

- 本事業の仕様書に定められた情報連携基盤に関する納品物は、下記の通り経済産業省に提出済み

#	納品物
1	情報連携基盤関連_設計・開発実施計画書
2	情報連携基盤関連_設計・開発実施要領
3	情報連携基盤関連_設計・開発実施要領に基づく管理資料
4	情報連携基盤関連_要件定義書
5	情報連携基盤関連_基本設計書
6	情報連携基盤関連_詳細設計書
7	情報連携基盤関連_ソースプログラム
8	情報連携基盤関連_単体テスト仕様書兼結果報告書
9	情報連携基盤関連_結合テスト仕様書兼結果報告書
10	情報連携基盤関連_接続テスト仕様書兼結果報告書
11	情報連携基盤関連_運用テスト仕様書兼結果報告書
12	情報連携基盤関連_本番稼働計画書案

情報連携基盤 設計・開発実施計画サマリ（再掲）

- 情報連携基盤 設計・開発実施計画書は2024/3/28に経済産業省に提出した

項番	目次	概要
1	本書の目的・位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト全体の目的、前提条件、スケジュール等について、プロジェクト関係者の共通理解を得ることを目的 本事業の上位文書である事業全体実施計画書に基づき、設計・開発実施計画以降の工程別計画書の上位に位置づけられる文書
2	プロジェクト背景・目的	<ul style="list-style-type: none"> 民間事業者によるPHRを用いたサービス増加や健康寿命延伸や未病対策への期待の高まりに対し、PHRの利活用を政策的に推進する必要 本プロジェクト（情報連携基盤）では、情報連携基盤の整備によりPHR社会実装の加速に貢献することを目的とする
3	プロジェクトの目標	<ul style="list-style-type: none"> 各工程にて実施する設計・開発・テスト等の作業により情報連携基盤の構築を完了し、情報連携基盤への接続によるPHR事業者・サービス事業者間でのPHRデータ連携を可能とすること リハーサルの実施により、情報連携基盤が本番稼働に向け稼働可能な状態である事を確認すること 本番稼働計画書の作成を通じ、情報連携基盤の本番稼働に必要な運用計画を策定すること
4	用語の定義	<ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトで使用する用語を定義
5	前提条件/製薬事項	<ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトにおける前提条件/制約事項を示す
6	プロジェクトの範囲	<ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトの範囲とする対象領域と業務概要について整理
7	プロジェクトの推進体制	<ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトの体制図、関係者、および会議体を定義
8	実施計画	<ul style="list-style-type: none"> 8.1. WBSレベルの定義：本プロジェクトにおけるWBSレベルの定義を示す 8.2. 作業の概要：各工程の作業概要を示し、主要な実施主体を明記 8.3. 全体スケジュール：本プロジェクトの全体スケジュールを示す 8.4. 成果物：各フェーズで作成される成果物をリスト化して示す 8.5. 開始/終了基準：プロジェクトおよび各工程の開始・終了基準を明確に定義

開発実施要領 (1/2) (再掲)

- 本事業「(3) ユースケース間の相互連携を図る情報連携基盤の整備」の遂行に際し、プロジェクトを管理するための指針や手法、手順について関係者の共通理解を整理した

プロジェクト管理要領

	目的	基本的な考え方
コミュニケーション管理	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション管理に関する実施方法を定め、本プロジェクトにおける円滑な対面/非対面のコミュニケーションを促し、また、その内容を正確に記録することを目的 	<ul style="list-style-type: none"> 会議は、プロジェクトの実行において、議論や意思決定を行う重要なコミュニケーション手段であることから、本項目に定める実施方法に従い、議事録による記録を実施する。 経済産業省・弊社間の円滑なコミュニケーションのため、Teamsによるチャットやオンライン会議等を活用することとするが、改変・削除が可能である、または記録に残らないため、重要な連絡・確認事項等は、メールによるコミュニケーションや各種管理資料への記載を併用し、記録に残るよう留意する。
進捗管理	<ul style="list-style-type: none"> 進捗管理に関する実施方法を定め、本プロジェクト全体の状況を正しく把握し、計画したスケジュールに則り予定の作業を実行することを目的 	<ul style="list-style-type: none"> 進捗管理の手法や手順を定義する。本プロジェクトでは、本項目に規定するルール・プロセス等に則り、要件定義工程開始以降の進捗管理を実施する。 本プロジェクトの進捗状況は、隔週で経済産業省へ報告する。ただし、遅延や不測の事態が発生した場合には別途協議の上、必要により報告間隔を調整する。
課題管理	<ul style="list-style-type: none"> 課題管理に関する実施方法を定め、本プロジェクトにおいて発生する課題の解消を着実に実行することを目的 	<ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトにおいて発生する課題は、本項目に定義する実施方法により管理を行う。ただし、本プロジェクトの領域を超え、本事業全体または他領域への影響が懸念される課題については、事業全体会議への付議等によりエスカレーションを実施する。
リスク管理	<ul style="list-style-type: none"> リスク管理に関する実施方法を定め、本プロジェクトにおいて想定されるリスクを把握し、その影響を軽減・最小化することを目的 	<ul style="list-style-type: none"> 原則として、本プロジェクトにおいて想定されるリスクは、本項目に定義する実施方法により管理を行う。ただし、本プロジェクトの領域を超え、本事業全体または他領域への影響が懸念されるリスクについては、事業全体会議への付議等によりエスカレーションを実施する。

開発実施要領 (2/2) (再掲)

- 本事業「(3) ユースケース間の相互連携を図る情報連携基盤の整備」の遂行に際し、プロジェクトを管理するための指針や手法、手順について関係者の共通理解を整理した

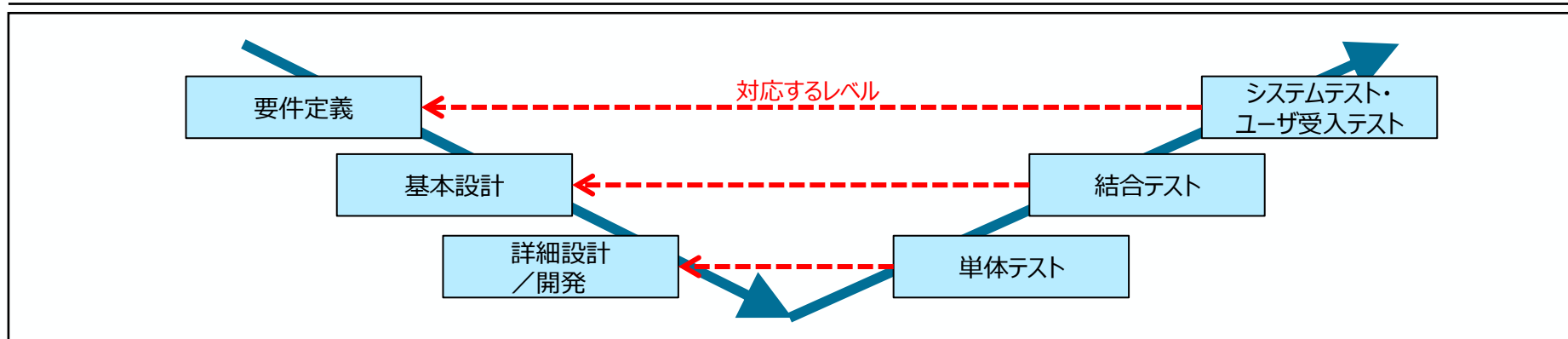
プロジェクト管理要領

	目的	基本的な考え方
成果物管理	<ul style="list-style-type: none"> 成果物管理に関する実施方法を定め、計画通り漏れなく本プロジェクトにおける成果物を納入することを目的 	<ul style="list-style-type: none"> 成果物の納品は、全工程終了時に一括で納入する。ただし、各工程のアウトプットとなるドキュメントは、「文書管理」で定義したルールに基づき、各工程の完了までに承認を得る。
文書管理	<ul style="list-style-type: none"> 文書管理に関する実施方法を定め、本プロジェクトにおいて作成した文書について、各文書を一意に特定し、速やかに必要な情報を参照・確認できることを目的 	<ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトにおいて作成する文書は、本項目に規定する管理プロセス・ルール、バージョン管理方法、ファイル命名規則に則り、その作成・更新を実施する。
変更管理	<ul style="list-style-type: none"> 変更管理に関する実施方法を定め、本プロジェクトにおいて発生する変更及びその影響を確実に管理することを目的 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトにおいて経済産業省・プロジェクト責任者が承認した成果物に対する変更を管理対象とする。変更は、本項目に定義する実施方法に準じて管理を行い、経済産業省・プロジェクト責任者との協議を経て本事業全体会議への付議・承認を得る。
品質管理	<ul style="list-style-type: none"> 品質管理に関する実施方法を定め、本プロジェクトの成果物について、その品質を確保することを目的 	<ul style="list-style-type: none"> ドキュメントの品質管理についてはレビュー、プログラム資材等の品質管理についてはテストにより実施する。 要件定義工程以降においては、工程完了時に成果物の品質評価を行い、品質が一定基準に達していることを確認する。
セキュリティ管理	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティ管理に関する実施方法を定め、事故及び障害の発生を未然に防ぐこと、並びに発生した場合に被害を最小限に抑えることを目的 	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティ文書を参考とし、また、本事業における弊社 情報セキュリティ責任者・情報セキュリティ管理者が示す本事業の情報セキュリティに関する指針・規定等に準じて設定する。

要件定義工程 概要

- 要件定義工程では本事業の情報連携基盤の設計・開発に必要な要件全体の定義づけを行った。
- 要件定義工程では、システムに対する要求を体系的に定義し、関係者間で合意形成を行い、要件として確定した。要件定義工程で定義された要件は、基本設計工程で技術的な要件やソフトウェア構成要素の要件等に詳細化した。
(※1)
- また、システム開発のV字モデルにおいて、要件定義工程はシステムテストやユーザー受入テスト(※2)に対応するレベルと位置付けられ、それらのテスト仕様の検討やテスト結果の確認は、要件定義内容への適合を確認することがそのベースとなる。
- 本プロジェクトの要件定義工程では、情報連携基盤が提供する画面のコンセプト・デザイン検討を中心に議論を進め、また、データ分析機能の各種要件やその他機能/非機能要件について確認を行い、情報連携基盤の設計・開発に必要な要件全体の定義を行った。

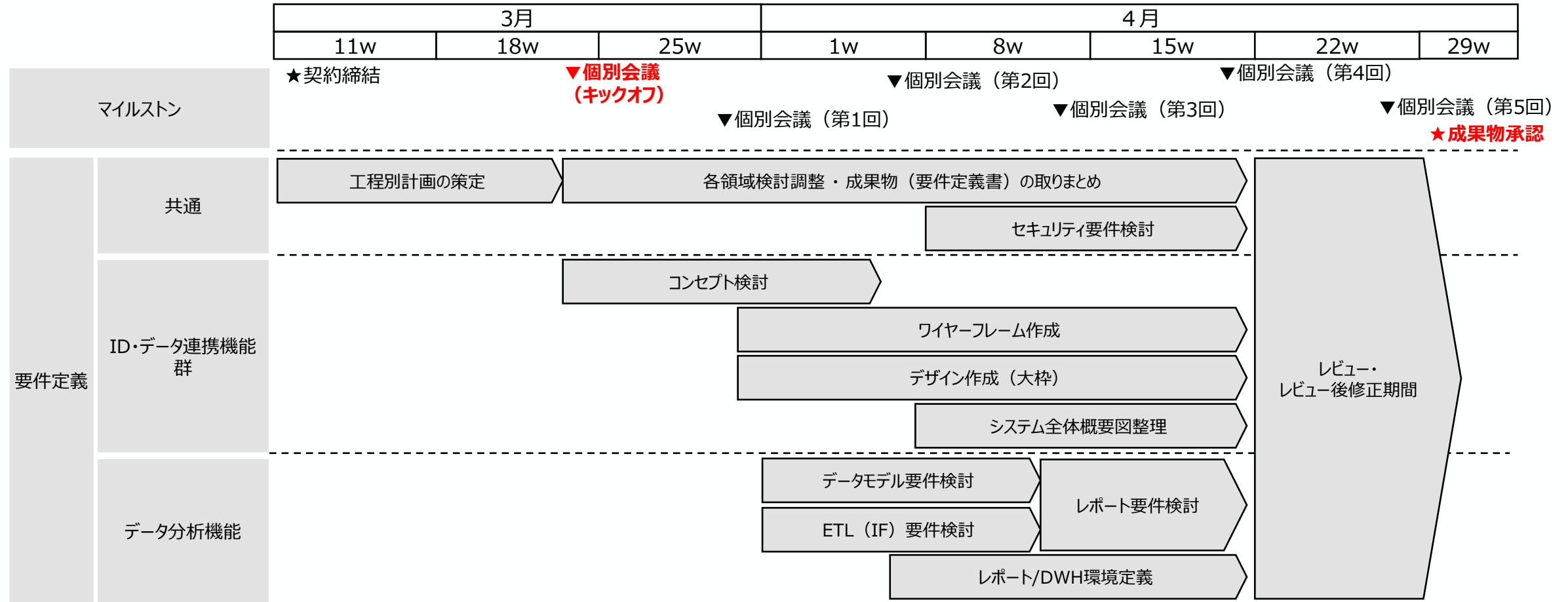
参考：システム開発のV字モデル



※1 IPA「ユーザのための要件定義ガイド第2版」より抜粋・一部改編
 ※2 本プロジェクトにおける運用テスト(ユーザー受入テスト)工程に相当

要件定義工程 作業内容 マスタースケジュール

- 要件定義工程のマスタースケジュールを以下に示す。



要件定義書 サマリ (1/2)

- 要件定義書（共通編、ID・データ連携機能群開発編、データ分析機能開発編）は2024/5/9に経済産業省に提出を行った

		概要		
目次	共通編	ID・データ連携機能群開発編	データ分析機能開発編	
本書の目的・位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトの遂行に際し、情報連携基盤が満たすべき業務、機能及び非機能についての要件を定義することを目的 「要件定義書（ID・データ連携機能群開発編）」及び「要件定義書（データ分析機能開発編）」の上位に位置する文書 	<ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトの遂行に際し、ID・データ連携機能群が満たすべき業務、機能及び非機能についての要件を定義することを目的 上位文書である「要件定義書（共通編）」に基づく文書であり、別冊とともにID・データ連携機能群の要件定義内容を示す文書 	<ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトの遂行に際し、データ分析機能が満たすべき業務、機能及び非機能についての要件を定義することを目的 上位文書である「要件定義書（共通編）」に基づく文書であり、別冊とともにデータ分析機能の要件定義内容を示す文書 	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 本事業では、情報連携基盤の整備を行うとともに、PHRを活用したユースケースの創出及び検証・分析を通じ今後に向けた論点・課題提案を実施 本事業終了後の成果発表・企画展示の実施に向けた検討を実施 	-		
業務要件	<ul style="list-style-type: none"> 3.1業務範囲：本基盤を活用する業務区分の定義 3.2規模：本基盤のユーザー及びユーザー数の前提を示す 3.3時期・時間：各業務区分について、本基盤の利用時期及び時間の前提を示す 3.4場所：各業務区分における本基盤の利用場所を示す 3.5情報セキュリティ：本事業において取り扱う情報の取扱いについて示す 3.6情報システム化の範囲：各業務区分における本基盤の利活用に向け、情報連携基盤の整備としてシステム化を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 2.1業務範囲と求める要件：本事業において情報連携基盤を活用する業務を区分する 		

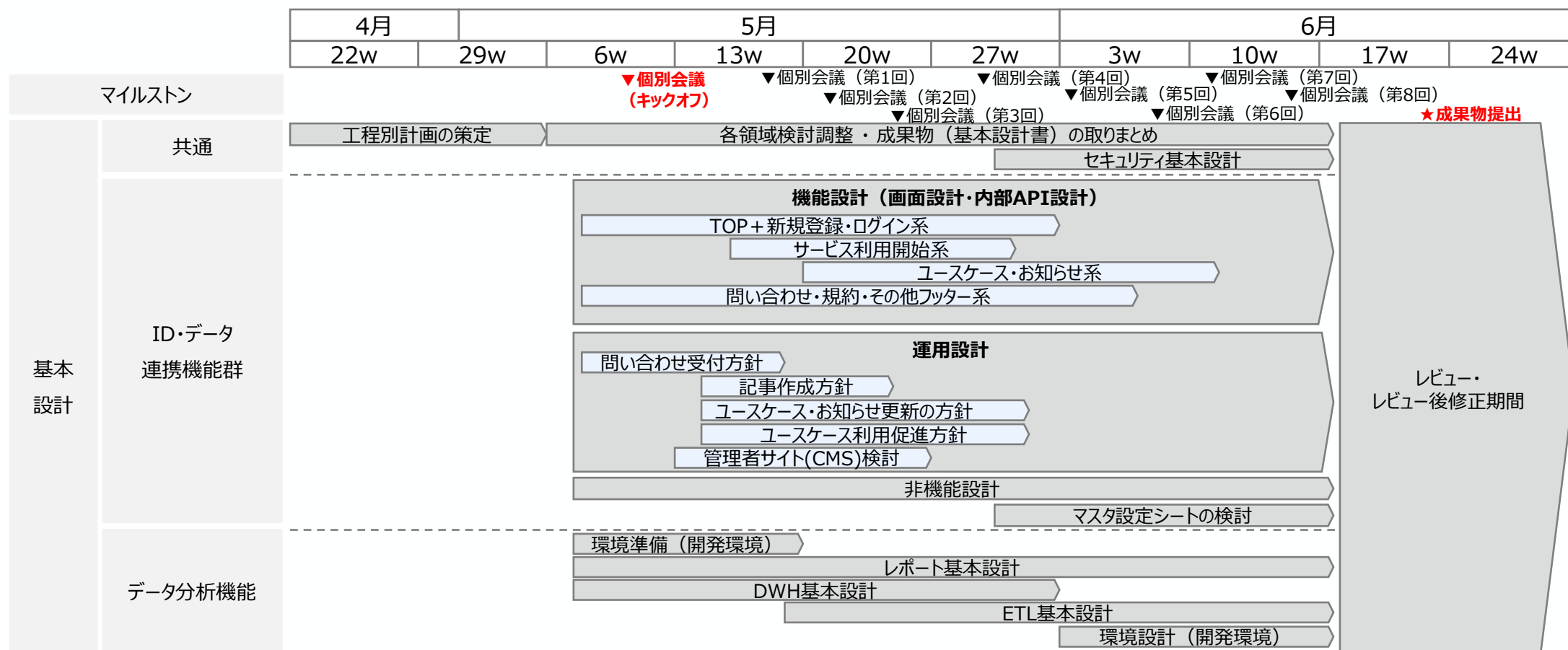
要件定義書 サマリ (2/2)

- 要件定義書（共通編、ID・データ連携機能群開発編、データ分析機能開発編）は2024/5/9に経済産業省に提出を行った

		概要	
目次	共通編	ID・データ連携機能群開発編	データ分析機能開発編
機能要件	<ul style="list-style-type: none"> 4.1機能要件の概要：各基本機能と「ID・データ連携機能群」及び「データ分析機能」との対応を示す 4.2定義項目：機能要件として定義する項目を示す 	<ul style="list-style-type: none"> 3.1機能要件：機能要件の対象範囲を示す 3.2画面要件：利用者がアクセスする画面について定義 3.3帳票要件：帳票の入出力は行わない 3.4ファイル要件：ファイルでのデータ授受を行わない 3.5データ要件：ID・データ連携機能群とデータ分析機能間において連携するデータ要件を示す 3.6外部インターフェース要件：ID・データ連携機能群とデータ分析機能間における外部インターフェース要件を示す 	<ul style="list-style-type: none"> 3.1機能要件：機能要件の対象範囲を示す 3.2画面要件：利用者がアクセスする画面について定義 3.3帳票要件：レポートの出力・保存方式を示す 3.4ファイル要件：ファイルでのデータ授受を行わない 3.5データ要件：データ項目等を定義、データ要件の定義内容を示す 3.6外部インターフェース要件：外部インターフェース要件を定義、データ要件の定義内容を示す
非機能要件	<ul style="list-style-type: none"> 5.1非機能要件の概要：仕様書に記載の要件を満たすこととする 5.2定義項目：非機能要件として定義する項目を示す 	<ul style="list-style-type: none"> 4.1信頼性要件：信頼性要件について前提、対応方針を示す 4.2性能要件：性能要件について前提、対応方針を示す 4.3運用要件：運用要件について前提、対応方針を示す 4.4セキュリティ要件：セキュリティ要件について前提、対応方針を示す 4.5品質・規模要件：品質・規模要件について前提、対応方針を示す 4.6拡張性要件：拡張性要件について対応方針を示す 4.7継続性要件：継続性要件について対応方針を示す 4.8情報システム稼働環境：稼働環境とその構築時期を定義 4.9ユーザビリティ・アクセシビリティ：ユーザビリティ及びアクセスビリティ確保に向けた考え方と対応方針を定義 	

基本設計工程 作業内容 マスタスケジュール

- 基本設計工程では、要件定義に基づき、各機能の基本設計を実施した。
- 基本設計工程のマスタスケジュールを以下に示す。



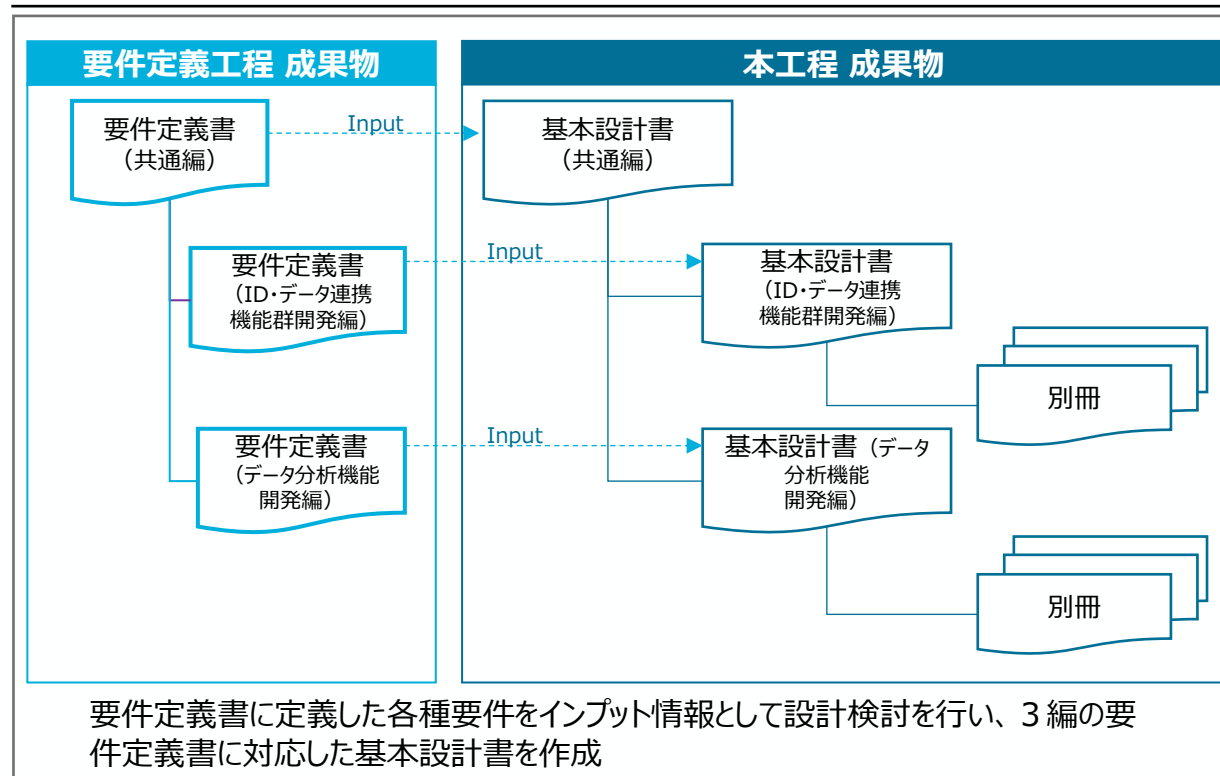
基本設計工程 成果物

- 基本設計工程にて作成する成果物およびその構成概要を以下に示す。

本プロジェクトの成果物

1	設計・開発実施計画書案
2	設計・開発実施要領案
3	設計・開発実施要領に基づく管理資料
4	要件定義書
5	基本設計書
6	詳細設計書
7	ソースプログラム
8	単体テスト仕様書兼報告書
9	結合テスト仕様書兼報告書
10	接続テスト仕様書兼報告書
11	運用テスト仕様書兼報告書
12	本番稼働計画書案

本工程成果物の構成概要



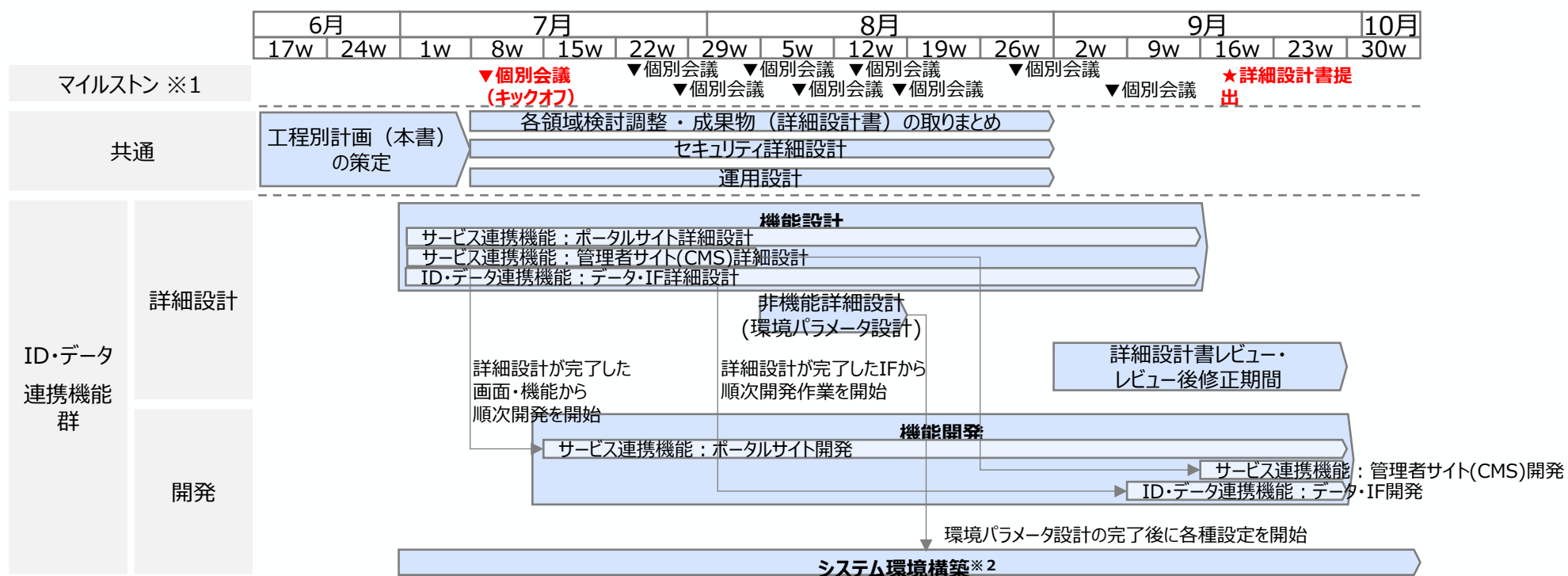
基本設計書 サマリ

- 基本設計書（共通編、ID・データ連携機能群開発編、データ分析機能開発編）は2024/7/8に経済産業省に提出を行った

目次	概要		
	共通編	ID・データ連携機能群開発編	データ分析機能開発編
本書の目的・位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトの遂行に際し、情報連携基盤がその要件を満たすために実装すべき構成、機能及び非機能を具体化し、プロジェクト関係者で認識を合わせ、詳細設計工程・開発工程・各種テスト工程・本番稼働（運用）工程の各工程における拠り所とすることを目的 		
システム構成	<ul style="list-style-type: none"> 本基盤は、「ID・データ連携機能群」と「データ分析機能」の2つに区分して構成する。それぞれの区分は、業務区分「ユースケースの利用・ユースケースの提供」及び「本基盤利用状況の確認」に対応した機能を実装 	<ul style="list-style-type: none"> ID・データ連携機能群は、2つの区分（「サービス連携機能」及び「ID・データ連携機能」）をもって構成し、弊社アセットであるDigital Communication Platform（以下、DCPという）を用いて構成 	<ul style="list-style-type: none"> データ分析機能は、2つの区分（「ETL・DWH機能」及び「可視化・公開機能」）をもって構成
機能設計	<ul style="list-style-type: none"> 本基盤の機能設計は、「ID・データ連携機能群」と「データ分析機能」の2つに区分して実施する。両区分はさらに細かな機能区分に分類し、機能区分毎に必要な機能を設計 	<ul style="list-style-type: none"> 業務区分「ユースケースの利用」及び「ユースケースの提供」について必要となる機能を実装する。機能設計は、システム構成に準じ、「サービス連携機能」「ID・データ連携機能」2つの機能区分を設けて設計 	<ul style="list-style-type: none"> 業務区分「本基盤利用状況の確認」について必要となる機能を実装する。機能設計は、データ分析機能のシステム構成に準じ、「ETL・DWH機能」「可視化・公開機能」の2つの機能区分を設けて設計
非機能設計	<ul style="list-style-type: none"> 本基盤の非機能設計は、基盤を構成する「ID・データ連携機能群」及び「データ分析機能」に対し共通の設計項目を定め、項目ごとに非機能要件を満たすために必要な設計を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 上位文書である「基本設計書（共通編）4.非機能設計」に定める設計項目を対象に実施 	
運用設計	<ul style="list-style-type: none"> 本書の運用設計では、本番稼働期間における運用設計の基本検討を行う。詳細な運用検討は、詳細設計・開発工程以降において実施 運用体制の詳細(担当/役割分担)、運用ツールの選定、運用手順や運用ルールの策定、運用マニュアルの作成等 	—	

詳細設計・開発工程 作業内容 マスタースケジュール (1/2)

- 詳細設計・開発工程では、基本設計に基づき、開発に向けて機能を実装するための詳細設計を行い、詳細設計に基づき、開発を実施した。
- 本工程におけるマスタースケジュールを以下に示す。

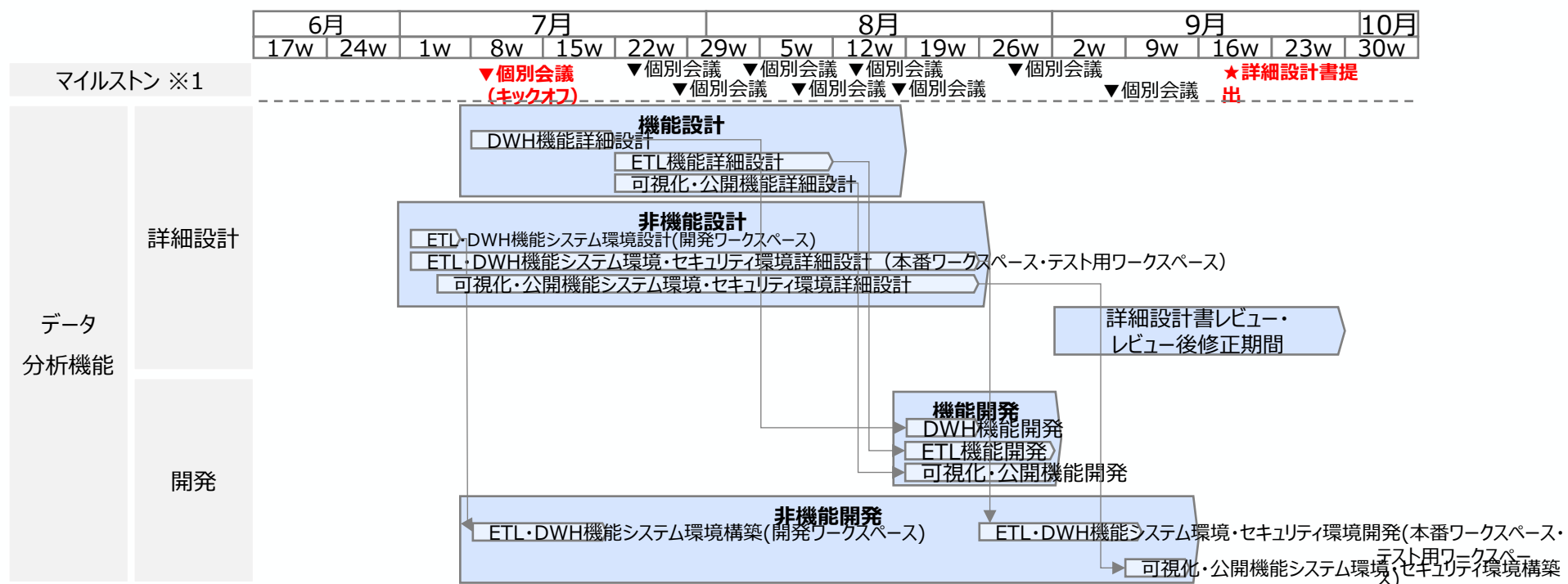


※1 個別会議の具体的な日程は改めて調整させていただく予定。

※2 テスト環境②(パフォーマンステスト用)・テスト環境③(セキュリティテスト用)・本番環境についてのシステム環境構築は、10月以降も継続して作業実施予定。

詳細設計・開発工程 作業内容 マスタースケジュール (2/2)

- 詳細設計・開発工程では、基本設計に基づき、開発に向けて機能を実装するための詳細設計を行い、詳細設計に基づき、開発を実施した。
- 本工程におけるマスタースケジュールを以下に示す。



※ 1 個別会議の具体的な日程は改めて調整させていただく予定。

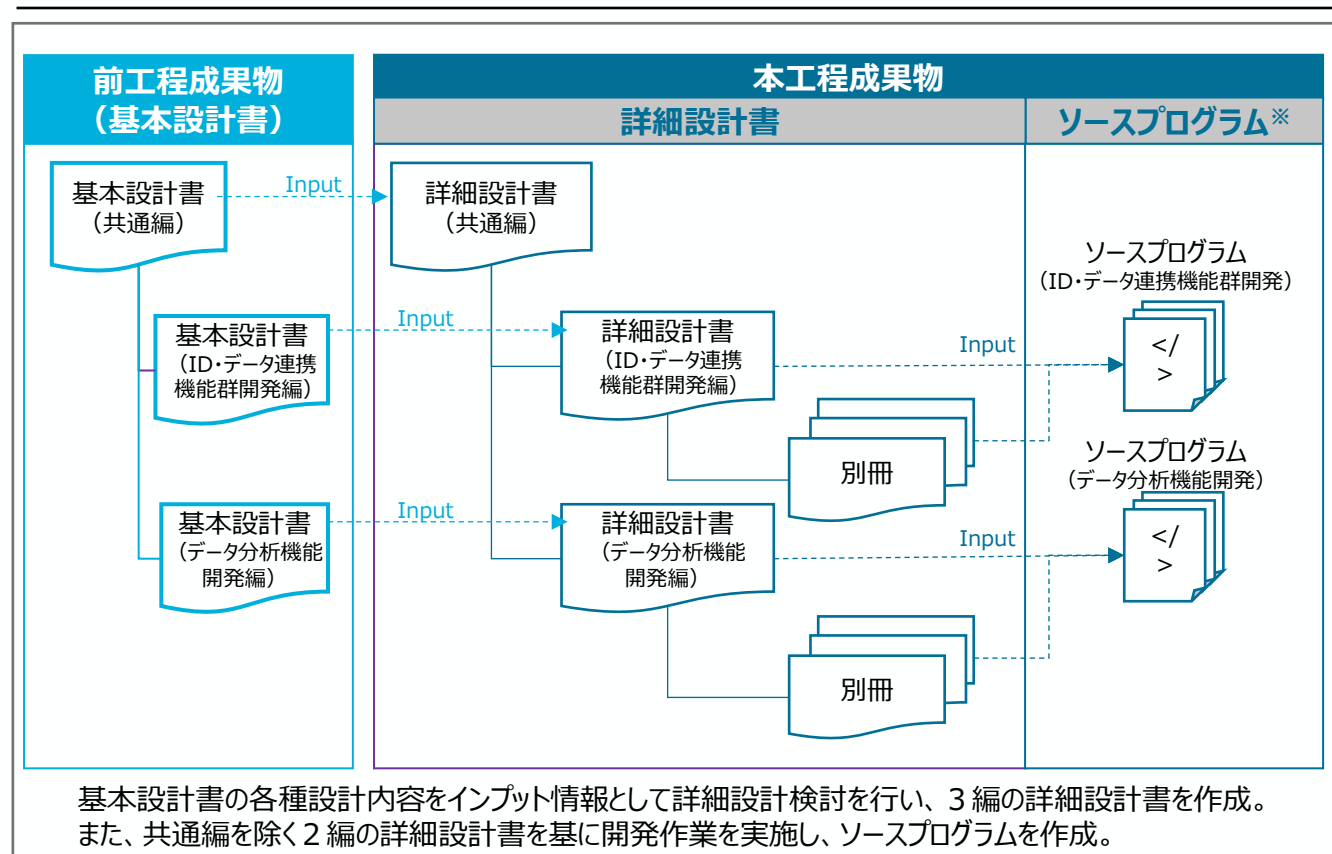
詳細設計・開発工程 成果物

- 詳細設計・開発工程にて作成する成果物およびその構成概要を以下に示す。

本プロジェクトの成果物

1	設計・開発実施計画書案
2	設計・開発実施要領案
3	設計・開発実施要領に基づく管理資料
4	要件定義書
5	基本設計書
6	詳細設計書
7	ソースプログラム
8	単体テスト仕様書兼報告書
9	結合テスト仕様書兼報告書
10	接続テスト仕様書兼報告書
11	運用テスト仕様書兼報告書
12	本番稼働計画書案

本工程成果物の構成概要



※ソースプログラムは、「設計・開発実施要領 2.5成果物管理」の既定に従い、本プロジェクト全工程の終了後に納入（当工程内での提出・承認の対象外）

詳細設計書 サマリ

- 詳細設計書（共通編、ID・データ連携機能群開発編、データ分析機能開発編）は2024/10/1に経済産業省に提出を行った

目次	概要		
	共通編	ID・データ連携機能群開発編	データ分析機能開発編
本書の目的・位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトの遂行に際し、情報連携基盤がその要件を満たすために実装すべき構成、機能及び非機能を具体化し、プロジェクト関係者で認識を合わせ、開発・各種テスト・本番稼働（運用）の各工程における拠り所とすることを目的 		
本書における設計スコープ	<ul style="list-style-type: none"> 本基盤は、「ID・データ連携機能群」と「データ分析機能」の2つに区分して構成 	<ul style="list-style-type: none"> ID・データ連携機能群は、「サービス連携機能」と「ID・データ連携機能」の2つに区分をスコープとし、各区分における詳細設計を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 「ETL・DWH機能」及び「可視化・公開機能」の2つに区分をスコープとし、各区分における詳細設計を実施
機能設計	<ul style="list-style-type: none"> 基盤を構成する「ID・データ連携機能群」及び「データ分析機能」に対し、共通の設計項目を定め、項目毎に必要な機能を設計 	<ul style="list-style-type: none"> システム構成に準じ、2つの機能区分（「サービス連携機能」及び「ID・データ連携機能」）を設けて設計 	<ul style="list-style-type: none"> システム構成に準じ、2つの機能区分（「ETL・DWH機能」及び「可視化・公開機能」）を設けて設計
非機能設計	<ul style="list-style-type: none"> 基盤を構成する「ID・データ連携機能群」及び「データ分析機能」に対し共通の設計項目を定め、項目毎に必要な設計を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 上位文書である「【基盤_共通】詳細設計書（共通編）4.非機能設計」に定める設計項目について設計を実施 	
運用設計	<ul style="list-style-type: none"> 基本設計工程において実施した基本検討を基に、本番稼働期間を対象とした運用について、必要な体制や業務内容等についての設計を実施 	—	

単体テスト工程 目的と概要

- 単体テスト工程では、開発されたポータル画面、API等の機能のコンポーネントレベルでの動作を確認した。

○：テストの実行の主体、△：テストの支援

区分 対象▼	テスト名	目的	概要	基盤事業者	PHR事業者	サービス事業者	経済産業省
単体テスト	単体テスト	<ul style="list-style-type: none"> 追加開発されたポータル画面、API等の機能がコンポーネントレベルで、設計書通りの機能を正しく満たし、同さすることを確認した 	<ul style="list-style-type: none"> 開発されたポータル画面、API等を個別に動作させ、外部仕様に基づいた入力値と出力値の検証と内部構造に着目した分岐や条件網羅の検証を組み合わせることで、入力値に対する出力値や処理フローが詳細設計書と一致することを多角的に確認し、品質を確保した。 	○	-	-	-
結合テスト	結合テスト	<ul style="list-style-type: none"> 追加開発のポータル画面等の機能が設計通りに動作する事を確認した 	<ul style="list-style-type: none"> 開発後のポータル画面等を結合し、機能間のタッチポイントを含めた処理が正常に動作する事を確認した 	○	-	-	-
接続テスト	接続テスト①（事業者間 ID連携）	<ul style="list-style-type: none"> 外部結合テストとして、各事業者とのID連携が設計通り動作する事を確認した 	<ul style="list-style-type: none"> 各事業者のアプリ・システムを利用し、ID連携によるDCPへのログイン等が正常に行える事を確認する 	○	○	○	-
	接続テスト②（事業者間 データ連携）	<ul style="list-style-type: none"> 外部結合テストとして、各事業者とのデータ連携が設計通り動作する事を確認した 	<ul style="list-style-type: none"> サービス事業者・PHR事業者の双方を基盤に接続し、データ連携が正常に行える事を確認した JMeterを用いて負荷を与えた状態において、そのデータ連携が正常に行える事を確認した 併せて事業者側のテストを実施し、そのアプリ・システムがエラーなく利用できる事を確認した 	○	○	○	-
総合テスト	負荷テスト	<ul style="list-style-type: none"> 基盤に実装した機能が、性能処理要件を満たしている事を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> JMeterを用いて、基盤のポータル・APIに対する負荷を発生させた状態で、エラーなく処理が可能である事を確認した 	○	-	-	-
	脆弱性診断	<ul style="list-style-type: none"> 基盤の脆弱性有無を確認した 	<ul style="list-style-type: none"> 外部事業者の脆弱性診断サービスを用いて脆弱性有無を確認した 	○	-	-	-
	運用テスト	<ul style="list-style-type: none"> 基盤に実装した機能が、運用要件を満たしていることの確認を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 運用に関する各機能（バックアップ・リストア、コンテンツ管理等）がエラーなく利用できる事を確認した 	○	-	-	-
	シナリオテスト	<ul style="list-style-type: none"> 本番稼働を想定したシナリオに基づき、構築した基盤が本番稼働で利用可能であること確認した 	<ul style="list-style-type: none"> シナリオに基づき基盤および各事業者のアプリ・システムを含めたユーザー操作がエラーなく完了する事を確認した 	○	○	○	-
ユーザー受入テスト	ユーザー受入テスト	<ul style="list-style-type: none"> 検収試験として、発注者が要求仕様通りシステムが完成している事を確認した 	<ul style="list-style-type: none"> 本番利用を想定したユーザー操作を、お客様自身がを行い、エラーなく利用できる事を確認した 	△	△	△	○

単体テスト工程 テスト範囲

- 単体テスト工程の実施範囲としては、本プロジェクトにて開発・設定する部分とした。
- クラウドサービスとして提供される部分は、クラウドサービスを提供する事業者が品質を担保するためテスト対象外とした。

	分類	具体的な例	単体テスト対象
ID・データ連携機能	クラウドにて提供される部分	<ol style="list-style-type: none"> 1. クラウド自体の機能・非機能 2. 弊社がクラウドサービスとして提供する機能 (標準の画面・APIを含む) 	対象外 クラウドサービス提供側が品質を担保する領域のため
	本プロジェクトで開発・設定する部分	<ol style="list-style-type: none"> 1. サービス連携機能 (ポータルサイト) 2. 管理者サイト (CMS) 3. ID・データ連携機能 (データ・IF) 	対象 本プロジェクトにて開発・設定を実施し、本プロジェクトにて品質を担保する領域のため
データ分析機能	クラウドにて提供される部分	<ol style="list-style-type: none"> 1. クラウド自体の機能・非機能 	対象外 クラウドサービス提供側が品質を担保する領域のため
	本プロジェクトで開発・設定する部分	<ol style="list-style-type: none"> 1. ETL・DWH機能 2. 可視化・公開機能 	対象 本プロジェクトにて開発・設定を実施し、本プロジェクトにて品質を担保する領域のため

単体テスト工程 実施内容（ID・データ連携機能）

- 単体テスト工程においては、テスト範囲の種類に応じて画面・IF・設定のそれぞれ単体で設計書通りに動作する事を確認した。

#	分類	テストの実施観点	テストケース
1	サービス連携機能 (ポータルサイト)	<ul style="list-style-type: none"> 設計した通りに画面が構成されていること 	<ul style="list-style-type: none"> 画面ごとにテスト仕様書を作成し、画面要素・データ・動作ごとにテストケースを作成 主なテストケース：画面におけるボタンの配置、リンクの配置確認 等
2	管理者サイト (CMS)	<ul style="list-style-type: none"> 設計した通りの設定であること 	<ul style="list-style-type: none"> パラメータシートに設計した内容をもとに、 観点：設計した通りの設定であることを確認画面等から確認 主なテストケース：確認画面より設定値の確認
3	ID・データ連携機能 (データ・IF)	<ul style="list-style-type: none"> 設計した通りにIF単体が動作すること 	<ul style="list-style-type: none"> テストデータのパターンを網羅的に洗い出しテストデータに応じたテストケースを作成 主なテストケース (APIの場合)：リクエスト・レスポンスの確認

単体テスト工程 実施内容（データ分析機能）

- 単体テスト工程においては、テスト範囲の種類に応じて画面・IF・設定のそれぞれ単体で設計書通りに動作する事を確認した。

#	分類	テストの実施観点	テストケース
1	ETL・DWH機能の設定	<ul style="list-style-type: none"> 設計した通りの設定であること 	<ul style="list-style-type: none"> パラメータシートに設計した内容をもとに、 観点：設計した通りの設定であることを確認画面等から確認 主なテストケース：設定・確認画面より設定値の確認
2	可視化・公開機能の設定	<ul style="list-style-type: none"> 設計した通りの設定であること 	<ul style="list-style-type: none"> パラメータシートに設計した内容をもとに、 観点：設計した通りの設定であることを確認画面等から確認 主なテストケース：設定・確認画面より設定値の確認

単体テスト工程 結果概要 品質結果

- ID・データ連携機能、データ分析機能ともに、テスト計画書で定義した品質基準を満たすことができ十分な品質を得ることができた。

品質基準 (テスト計画書(単体テスト) 2.(8) 品質基準(合否基準)抜粋)	ID・データ連携機能	データ分析機能
機能の網羅性 開発された画面・IFの機能について、 テストケースを作成し100%完了	基準達成 テストケース・項目において全件数テストを実施 済みである。	基準達成 テストケース・項目において全件数テストを実施 済みである。
機能の正確性 作成された単体テスト仕様書をもとに、 テスト項目における消化率が100%完了	基準達成 テストケース・項目において全件数テストを実施 済みである。	基準達成 テストケース・項目において全件数テストを実施 済みである。
機能の信頼性 単体テストで再テストを実施しても解消しない不具合件数 <u>0件</u>	基準達成 不具合残件数0件 テスト実施した結果、NG項目における原因・対 応の実施をすることにより、不具合の件数は0件 である。	基準達成 不具合残件数0件 テスト実施した結果、NG項目における原因・対 応の実施をすることにより、不具合の件数は0件 である。
品質(バグ密度) 開発された画面・IFの機能に対する品質測定として、バグ 密度(バグ件数/規模)を使用し、基準内であるか確認 する。	基準達成 基準値を踏まえ、品質の確保は問題なくできてい ると評価する。	対象外 プログラミングによる開発はなく、設定した内容に おける確認によるテストであるため。

結合テスト工程 目的と概要

○：テストの実行の主体、△：テストの支援

- 結合テスト工程では開発されたポータル画面等の機能が設計通りに動作することを確認した。

区分	テスト名	目的	概要	基盤事業者	PHR事業者	サービス事業者	経済産業省
単体テスト 対象▼	単体テスト	<ul style="list-style-type: none"> 追加開発されたポータル画面、API等の機能がコンポーネントレベルで、設計書通りの機能を正しく満たし、同さすることを確認した 	<ul style="list-style-type: none"> 開発されたポータル画面、API等を個別に動作させ、外部仕様に基づいた入力値と出力値の検証と内部構造に着目した分岐や条件網羅の検証を組み合わせることで、入力値に対する出力値や処理フローが詳細設計書と一致することを多角的に確認し、品質を確保した。 	○	-	-	-
結合テスト	結合テスト	<ul style="list-style-type: none"> 追加開発されたポータル画面等の機能が設計通りに動作する事を確認した 	<ul style="list-style-type: none"> 開発後のポータル画面等を結合し、機能間のタッチポイントを含めた処理が正常に動作する事を確認した 	○	-	-	-
接続テスト	接続テスト①（事業者間 ID連携）	<ul style="list-style-type: none"> 外部結合テストとして、各事業者とのID連携が設計通り動作する事を確認した 	<ul style="list-style-type: none"> 各事業者のアプリ・システムを利用し、ID連携によるDCPへのログイン等が正常に行える事を確認した 	○	○	○	-
	接続テスト②（事業者間 データ連携）	<ul style="list-style-type: none"> 外部結合テストとして、各事業者とのデータ連携が設計通り動作する事を確認した 	<ul style="list-style-type: none"> サービス事業者・PHR事業者の双方を基盤に接続し、データ連携が正常に行える事を確認した JMeterを用いて負荷を与えた状態において、そのデータ連携が正常に行える事を確認した 併せて事業者側のテストを実施し、そのアプリ・システムがエラーなく利用できる事を確認した 	○	○	○	-
総合テスト	負荷テスト	<ul style="list-style-type: none"> 基盤に実装した機能が、性能処理要件を満たしている事を確認した 	<ul style="list-style-type: none"> JMeterを用いて、基盤のポータル・APIに対する負荷を発生させた状態で、エラーなく処理が可能である事を確認した 	○	-	-	-
	脆弱性診断	<ul style="list-style-type: none"> 基盤の脆弱性有無を確認した 	<ul style="list-style-type: none"> 外部事業者の脆弱性診断サービスを用いて脆弱性有無を確認した 	○	-	-	-
	運用テスト	<ul style="list-style-type: none"> 基盤に実装した機能が、運用要件を満たしていることの確認を行った 	<ul style="list-style-type: none"> 運用に関する各機能（バックアップ・リストア、コンテンツ管理等）がエラーなく利用できる事を確認した 	○	-	-	-
	シナリオテスト	<ul style="list-style-type: none"> 本番稼働を想定したシナリオに基づき、構築した基盤が本番稼働で利用可能であること確認した 	<ul style="list-style-type: none"> シナリオに基づき基盤および各事業者のアプリ・システムを含めたユーザー操作がエラーなく完了する事を確認した 	○	○	○	-
ユーザー受入テスト	ユーザー受入テスト	<ul style="list-style-type: none"> 検収試験として、発注者が要求仕様通りシステムが完成している事を確認した 	<ul style="list-style-type: none"> 本番利用を想定したユーザー操作を、お客様自身が行い、エラーなく利用できる事を確認した 	△	△	△	○

結合テスト工程 テスト範囲

- 結合テスト工程の実施範囲としては、本プロジェクトにて開発・設定する部分とした。
- クラウドサービスとして提供される部分は、クラウドサービスを提供する事業者が品質を担保するためテスト対象外とした。

	分類	範囲	テスト対象
ID・データ連携機能	クラウドにて提供される部分	<ol style="list-style-type: none"> 1. クラウド自体の機能・非機能 2. 弊社がクラウドサービスとして提供する機能(標準の画面・APIを含む) 	対象外 クラウドサービス提供側が品質を担保する領域のため
	本プロジェクトで開発・設定する部分	<ol style="list-style-type: none"> 1. サービス連携機能 (ポータルサイト+管理者サイト(CMS)) 	対象 本プロジェクトにて開発・設定を実施し、本プロジェクトにて品質を担保する領域のため
データ分析機能	クラウドにて提供される部分	<ol style="list-style-type: none"> 1. クラウド自体の機能・非機能 	対象外 クラウドサービス提供側が品質を担保する領域のため
	本プロジェクトで開発・設定する部分	<ol style="list-style-type: none"> 1. ETL・DWH機能 2. 可視化・公開機能 3. 機能間連携 <ul style="list-style-type: none"> • ID・データ連携機能～ETL・DWH機能 • ETL・DWH機能～可視化・公開機能 • データ連携する一連の流れ 	対象 本プロジェクトにて開発・設定を実施し、本プロジェクトにて品質を担保する領域のため

結合テスト工程 実施内容 (ID・データ連携機能)

- 結合テスト工程では、画面間の遷移、画面における機能の動作等が、設計書どおりに動作することを確認した。
- また、正常系だけでなく、異常系や境界値等も考慮し、テストを実施した。

#	分類	テストの実施観点	テストケース
1	サービス連携機能 (ポータルサイト+管理者 サイト(CMS))	<ul style="list-style-type: none"> 設計した通りに画面遷移・機能が動作すること 	<ul style="list-style-type: none"> 基本設計書（機能の特性に応じて詳細設計書も含む）をもとにテスト仕様書を作成し、画面遷移・画面の動作ごとにテストケースを作成 主なテストケース： <ul style="list-style-type: none"> ポータルサイトの画面遷移 ポータルサイトとCMSの連携確認 等 <ul style="list-style-type: none"> CMSからデータを入力することで、「記事データの作成」「承認フロー」「公開」の一連の動作の確認 CMSでの非公開設定における動作の確認（非公開であることの確認）

結合テスト工程 実施内容（データ分析機能）（1/2）

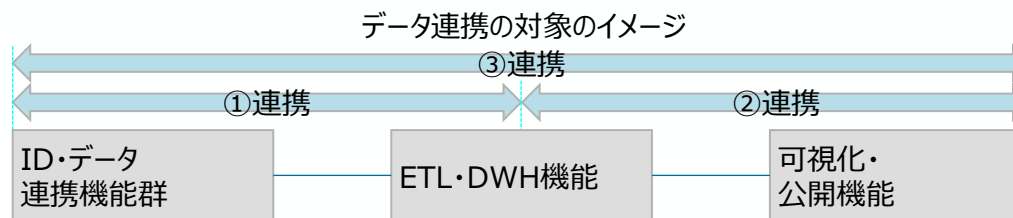
- 結合テスト工程では、画面間の遷移、画面における機能の動作等が、設計書どおりに動作することを確認した。
- また、正常系だけでなく、異常系や境界値等も考慮し、テストを実施した。

#	分類	テストの実施観点	テストケース
1	ETL・DWH機能	<ul style="list-style-type: none"> 設計した通りに機能が動作すること 	<ul style="list-style-type: none"> 基本設計書（機能の特性に応じて詳細設計書も含む）をもとにテスト仕様書を作成し、機能ごとにテストケースを作成 観点：基本設計した通りの動作を確認 主なテストケース： <ul style="list-style-type: none"> 自動的に更新させる処理の動作確認 等
2	可視化・公開機能	<ul style="list-style-type: none"> 設計した通りに機能が動作すること 	<ul style="list-style-type: none"> 基本設計書（機能の特性に応じて詳細設計書も含む）をもとにテスト仕様書を作成し、機能ごとにテストケースを作成 観点：基本設計した通りの動作を確認 主なテストケース： <ul style="list-style-type: none"> 自動的に更新させる処理の動作確認 画面を動的に操作した時における集計結果の確認

結合テスト工程 実施内容（データ分析機能）（2/2）

- 結合テスト工程では、画面間の遷移、画面における機能の動作等が、設計書どおりに動作することを確認した。
- また、正常系だけでなく、異常系や境界値等も考慮し、テストを実施した。

#	分類	テストの実施観点	テストケース
3	機能間連携	<ul style="list-style-type: none"> 設計した通りに機能が動作すること 	<ul style="list-style-type: none"> 基本設計書（機能の特性に応じて詳細設計書も含む）をもとに、機能間のデータ連携の動作を確認（下図①②）。また、機能間のデータ連携だけでなく、全体を通してのデータ連携も確認。（下図③） 観点：基本設計した通りの動作をすることを確認 主なテストケース： <ol style="list-style-type: none"> 「ID・データ連携機能」から「ETL・DWH機能」へのデータ連携の確認、受領データ※を利用した動作確認 「ETL・DWH機能」から「可視化・公開機能」へのデータ連携の確認、受領データ※を利用した動作確認 「ID・データ連携機能」から「ETL・DWH機能」を通して、「可視化・公開機能」への一連のデータ連携の確認、受領データ※を利用した動作確認 <p>※受領データは、正常系、異常系、境界値などのバリエーションを考慮する</p>



結合テスト工程 結果概要 品質結果

- ID・データ連携機能、データ分析機能ともに、「機能の網羅性・正確性・信頼性」について基準を満たすことができ、十分な品質を得ることができた。

品質基準 (テスト計画書 (結合テスト) 2.(8) 品質基準 (合否基準) 抜粋)	ID・データ連携機能群	データ分析機能
機能の網羅性 開発された画面・IFの機能について、 テストケースの作成が100%完了	合格 (基準達成) テストケース・項目を全件数作成済み。	合格 (基準達成) テストケース・項目を全件数作成済み。
機能の正確性 作成された結合テスト仕様書をもとにテストを実施し、 テスト項目消化率が100%完了	合格 (基準達成) テストケース・項目において全件数テストを実施済み。	合格 (基準達成) テストケース・項目において全件数テストを実施済み。
機能の信頼性 結合テストで再テストを実施しても解消しない不具合件数0件	合格 (基準達成) 不具合残件数0件 発生したNGに対し原因の特定・対応策の実施を行い、 再テストにおける不具合の件数は0件となった。	合格 (基準達成) 不具合残件数0件 発生したNGに対し原因の特定・対応策の実施を行い、 再テストにおける不具合の件数は0件となった。
品質 (バグ密度) 開発された画面・IFの機能に対する品質測定として、バグ密度 (バグ件数/規模) を使用し、基準内であるか確認する。	合格 基準値を踏まえ、品質の確保は問題なくできていると評価する。	対象外 プログラミングより開発・テストを実施する区分ではなく、 各種設定・設定値を確認する区分であるため、バグ密度 の測定対象外とする。

接続テスト工程 目的と概要

- 接続テスト工程では、事業者と情報連携基盤間のID連携、サービス事業者とPHR事業者間でのサービス間データ連携が正常(接続仕様書通り)に動作することの確認を目的とした。

テスト種別	テストの目的	連携の概要
接続テスト① ID連携 ※1 (ログイン連携・オプトイン・ユーザ情報取得・オプトアウト)	<ul style="list-style-type: none"> 事業者と情報連携基盤間のID連携が正常（接続仕様書通りであること）に稼働することを確認した 	<ul style="list-style-type: none"> 情報連携基盤の認証局を利用したID認証連携。オプトイン/オプトアウトを含む 情報連携基盤の認証局で認証することで各サービスを利用した
接続テスト② サービス間データ連携 ※2	<ul style="list-style-type: none"> サービス事業者とPHR事業者間でのサービス間データ連携が正常（接続仕様書通り）に稼働することを確認した 	<ul style="list-style-type: none"> 情報連携基盤より発行する共通IDをキーとして、サービス事業者（データ利用者）とPHR事業者（データ提供者）間でデータ連携を行った

※1「接続仕様書 別冊1 ID連携仕様書」のシート「シーケンス図_ID連携」がテスト範囲。

※2「接続仕様書 別冊3 サービス間データ連携仕様書」のシート「シーケンス図_データ連携（認可コードフロー）」がテスト範囲。
 ユースケース単位で、データ連携が設計通り動作するかを検証頂く。

接続テスト工程 結果概要 品質結果

- 「接続テスト計画書」－「2.(6)品質基準（合否基準）」にて定義した品質基準（合否基準）をもとに、接続テスト実施結果の評価を実施。
- 全UCにおいて、「テストに関する品質（テストケース・項目の網羅性）」「性能に関する品質」について基準を満たすことができ、十分な品質を得ることができたことから、全品質基準について合格と判定した。

【接続テスト①】

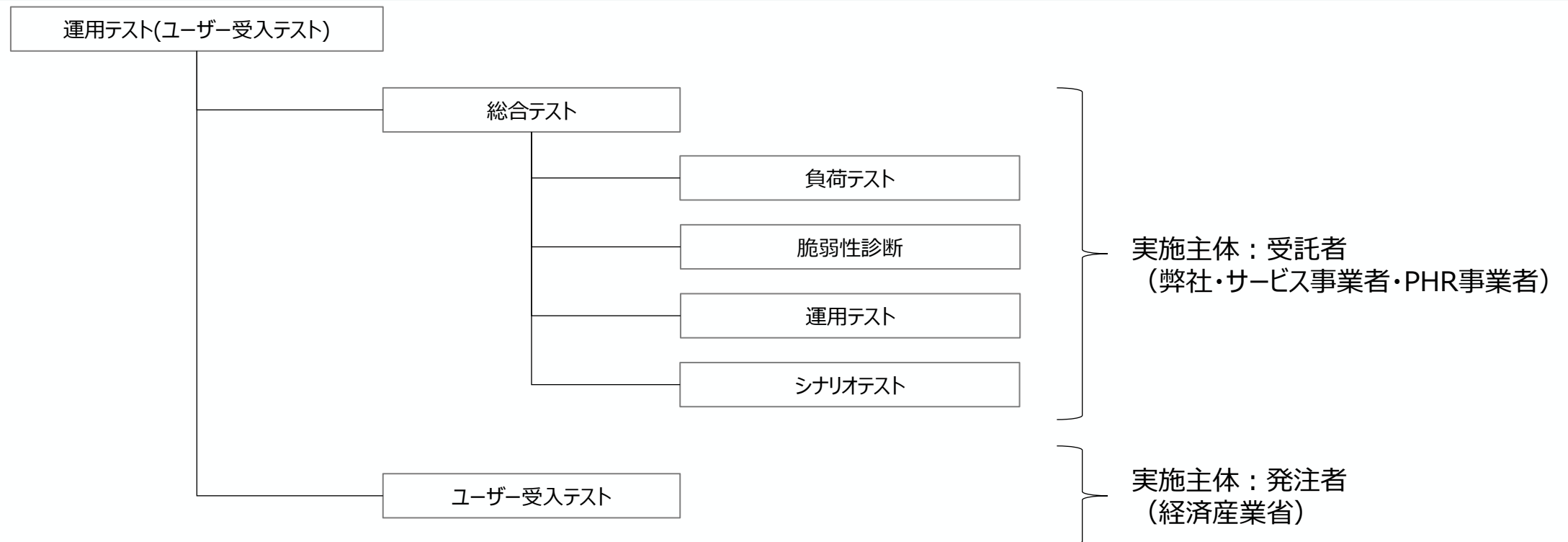
品質基準 (接続テスト計画書 2.(6) 品質基準 (合否基準) 抜粋)	全10UC
テストに関する品質 (テストケース・項目の網羅性) 事業者と情報連携基盤間でID連携が正常（接続仕様書通り）に行えること。 また、各事業者の仕様、デバイス種別、アプリ種別、テスト観点をもとに、網羅的にテストケース・項目を洗い出しテストを実施すること。	合格 (基準達成) 全事業者のテストにおいて、 テストケース・項目を全件数作成・実施済み。
性能に関する品質 各事業者サービスの画面やAPIにおけるレスポンスが、 各事業者にて定義した性能要件を満たしていること。	合格 (基準達成) 全事業者のテスト及びその進捗報告の場において、 性能要件を満たしていることを確認済み。

【接続テスト②】

品質基準 (接続テスト計画書 2.(6) 品質基準 (合否基準) 抜粋)	全10UC
テストに関する品質 (テストケース・項目の網羅性) サービス事業者とPHR事業者の間において、 情報連携基盤間を介してデータ連携が正常（接続仕様書通り）に行えること。 また、各ユースケース内の仕様、デバイス種別、アプリ種別、テスト観点をもとに、網羅的にテストケース・項目を洗い出しテストを実施すること。	合格 (基準達成) 全事業者のテストにおいて、 テストケース・項目を全件数作成・実施済み。
性能に関する品質 各事業者サービスの画面やAPIにおけるレスポンスが、 各事業者にて定義した性能要件を満たしていること。 本番稼働時に想定される負荷状態において、データ連携が正常に動作できること。	合格 (基準達成) 全事業者のテストにおいて、 性能要件を満たしていることを確認済み。

運用テスト(ユーザー受入テスト)工程

- 本事業における運用テスト(ユーザー受入テスト)工程は、受託者が実施主体となる「総合テスト」と、発注者が実施主体となる「ユーザー受入テスト」に区分して実施した。
- また「総合テスト」では、「負荷テスト」「脆弱性診断」「運用テスト」「シナリオテスト」の4つのテストを実施した。



総合テスト工程 目的と概要

- 総合テスト工程では、開発されたシステムが要件通りに動作することを確認することを目的に、「負荷テスト」「脆弱性診断」「運用テスト」「シナリオテスト」の4つのテストを実施した。

○：テストの実行の主体、△：テストの支援

区分	テスト名	目的	概要	基盤事業者	PHR事業者	サービス事業者	経済産業省
単体テスト	単体テスト	<ul style="list-style-type: none"> 追加開発されたポータル画面、API等の機能がコンポーネントレベルで、設計書通りの機能を正しく満たし、動作することを確認する 	<ul style="list-style-type: none"> 開発されたポータル画面、API等を個別に動作させ、外部仕様に基づいた入力値と出力値の検証と内部構造に着目した分岐や条件網羅の検証を組み合わせることで、入力値に対する出力値や処理フローが詳細設計書と一致することを多角的に確認し、品質を確保する。 	○	-	-	-
結合テスト	結合テスト	<ul style="list-style-type: none"> 追加開発されたポータル画面等の機能が設計通りに動作する事を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> 開発後のポータル画面等を結合し、機能間のタッチポイントを含めた処理が正常に動作する事を確認する 	○	-	-	-
接続テスト	接続テスト① (事業者間 ID連携)	<ul style="list-style-type: none"> 外部結合テストとして、各事業者とのID連携が設計通り動作する事を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> 各事業者のアプリ・システムを利用し、ID連携によるDCPへのログイン等が正常に行える事を確認する 	○	○	○	-
	接続テスト② (事業者間 データ連携)	<ul style="list-style-type: none"> 外部結合テストとして、各事業者とのデータ連携が設計通り動作する事を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> サービス事業者・PHR事業者の双方を基盤に接続し、データ連携が正常に行える事を確認する JMeterを用いて負荷を与えた状態において、そのデータ連携が正常に行える事を確認する 併せて事業者側のテストを実施し、そのアプリ・システムがエラーなく利用できる事を確認する 	○	○	○	-
対象▼	総合テスト	<ul style="list-style-type: none"> 稼働後の利用を想定した負荷を発生させることで、情報連携基盤の性能要件を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 負荷発生ツールを利用して負荷を発生させ、正常に処理可能である事を確認する 	○	-	-	-
	脆弱性診断	<ul style="list-style-type: none"> 情報連携基盤の開発されたAPI等に対する脆弱性を特定し、必要な脆弱性対策を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> セキュリティ専門業者の脆弱性診断サービスを利用し、国際的な基準・ガイドラインをもとに脆弱性の特定を実施する。緊急度・重要度が高い脆弱性に対し、対策を実施する。 	○	-	-	-
	運用テスト	<ul style="list-style-type: none"> 運用要件を踏まえ、本番稼働後に情報連携基盤を安定運用できるようにするため、運用業務・運用フロー等を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 運用業務・フロー・手順書をもとに、運用時における一連のながれを確認する。 	○	-	-	-
	シナリオテスト	<ul style="list-style-type: none"> ユースケースに基づいて、ユーザー視点でのシナリオを定義し、ユーザーが利用する動作を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> シナリオに基づき基盤および各事業者のアプリ・システムを含めたユーザー操作が正常に完了する事を確認する 	○	○	○	-
ユーザー受入テスト	ユーザー受入テスト	<ul style="list-style-type: none"> 検取試験として、発注者が要求仕様通りシステムが完成している事を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> 本番利用を想定したユーザー操作等を、お客様自身がを行い、要求仕様どおり利用できる事を確認する 	△	△	△	○

負荷テスト工程 目的と概要

- 負荷テスト工程では、稼働後を想定した環境にてテストを実施し、API等の処理が性能要件を満たしていることを確認し、本番稼働時に負荷が発生した状態でも正常に稼働することを確認することが目的である。

テストの目的

- 負荷テストでは、稼働後を想定した環境にてテストを実施し、API等の処理が**性能要件を満たしていることを確認**し、本番稼働時に負荷が発生した状態でも正常に稼働することを確認することが目的である。

テストの概要

- ID・データ連携機能では、負荷発生ツールを利用して負荷を発生させ、画面・APIへのアクセスが性能要件を満たしていることを確認する。
- データ分析機能では、ID・データ連携機能からのデータ連携・処理時間が、設計したどおりの時間内で処理できるか確認する。

負荷テスト工程 テスト範囲

- 負荷テスト工程における実施範囲は、本プロジェクトにて開発・設定した部分とした。
- クラウドサービスとして提供される部分は、クラウドサービスを提供する事業者が品質を担保するためテスト対象外とした。

	分類	範囲	テスト対象
ID・データ連携機能	クラウドにて提供される部分	1. クラウド自体の機能・非機能 2. 弊社がクラウドサービスとして提供する機能(標準の画面・APIを含む)	対象外 クラウドサービス提供側が品質を担保する領域のため
	本プロジェクトで開発・設定する部分	1. サービス連携機能(ポータルサイト)	対象 本プロジェクトにて開発・設定を実施し、本プロジェクトにて品質を担保する領域のため
データ分析機能	クラウドにて提供される部分	1. クラウド自体の機能・非機能	対象外 クラウドサービス提供側が品質を担保する領域のため
	本プロジェクトで開発・設定する部分	1. ETL・DWH機能 2. 可視化・公開機能	対象 本プロジェクトにて開発・設定を実施し、本プロジェクトにて品質を担保する領域のため

負荷テスト工程 テスト実施内容 (ID・データ連携機能)

- 本番稼働後を想定した環境にて、APIを実行することにより、性能要件を満たしていることを確認した。
- テストでは、API単体の性能を確認する「①単体性能テスト」と、利用ピーク時での画面処理の性能を確認する「②ストレステスト」の2種類を実施した。

#	分類	テストの実施観点	テスト実施内容と主なテストケース
1	1. サービス連携機能 (ポータルサイト)	<ul style="list-style-type: none"> • 性能要件を基に確認 • 画面応答時間 <ul style="list-style-type: none"> • 平常時：3秒以内 • ピーク時：5秒以内 	<ul style="list-style-type: none"> • 負荷テストを次の2つの観点で実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ① 単体性能テスト：200万のユーザーが登録された状態で、APIに対して負荷を発生させ、性能要件通りに処理ができることを確認 ② ストレステスト：画面を構成するAPIに対して、利用ピーク時の負荷を発生させ、性能要件通りに処理ができることを確認 • 画面応答時間は端末の性能に影響されるため、負荷テストではAPIの処理時間を測定する。画面の応答時間も考慮して、APIの処理が完了していることを確認する。 • 負荷テスト実施にあたっては、負荷発生ツール (JMater) を利用する。 • 主なテストケース： <ul style="list-style-type: none"> • ①API単体での応答時間の確認 • ②想定シナリオをもとに、APIの応答時間の確認

負荷テスト工程 テスト実施内容（データ分析機能）

- 本番稼働後を想定して環境にて、「ETL・DWH機能」「可視化・公開機能」におけるデータ処理が正常に動作し、性能要件を満たすことを確認した。

#	分類	テストの実施観点	テスト実施内容と主なテストケース
2	1. ETL・DWH機能 2. 可視化・公開機能	<ul style="list-style-type: none"> 性能要件を基に確認 処理時間 <ul style="list-style-type: none"> ETL・DWH機能：6時間内 可視化・公開機能：1時間内 	<ul style="list-style-type: none"> 本番稼働後に想定されるデータ量にて、次の機能にて想定の時間内に処理が完了することを確認する。 <ol style="list-style-type: none"> ETL・DWH機能 <ul style="list-style-type: none"> ID・データ連携からデータを取得し、ETL・DWH機能にてデータを処理し、データの処理が時間内（6時間内）に完了すること 可視化・公開機能 <ul style="list-style-type: none"> ETL・DWHの処理後から、可視化・公開機能における処理が時間内（1時間以内）に完了すること 主なテストケース： <ol style="list-style-type: none"> 本番稼働後の想定データ量にて、ETL・DWH機能のデータ取得・処理を実施 本番稼働後の想定データ量にて、可視化・公開機能におけるデータ処理を実施

負荷テスト工程 結果概要 品質結果

- 「テスト計画書（総合テスト）」－「2.(2) 負荷テスト⑧品質基準（合否基準）」にて定義した品質基準（合否基準）をもとに、結合テスト実施結果の評価を実施。
- ID・データ連携機能、データ分析機能ともに、「網羅性・正確性・信頼性」について基準を満たすことができ、十分な品質を得ることができた。

品質基準 (テスト計画書(総合テスト) 2.(2) 負荷テスト⑧品質基準(合否基準) 抜粋)	ID・データ連携機能群	データ分析機能
<p>網羅性</p> <ul style="list-style-type: none"> 平常時において、性能要件（応答時間・処理時間）を満たすことを確認する。 また、ピーク時においても性能要件（応答時間・処理時間）を満たすことを確認する。 	<p>合格(基準達成)</p> <p>平常時・ピーク時^{※1※2}を考慮したテストケース・項目が作成され、テスト実施済み。</p>	<p>合格(基準達成)</p> <p>平常時・ピーク時^{※2}を考慮したテストケース・項目を全件数作成済み。</p>
<p>正確性</p> <ul style="list-style-type: none"> 負荷テストを実施するにあたり、以下の内容をふまえて、テストを実施する。 <ul style="list-style-type: none"> 実際の利用環境（テストデータ、利用想定人数等）に近い状態 負荷発生ツールを利用し、正確なテストの実施 	<p>合格(基準達成)</p> <p>実際の利用環境（テストデータ、利用想定人数等）^{※1※2}に近い状態で実施済み。 負荷発生ツールを利用し、テストを実施済み。</p>	<p>合格(基準達成)</p> <p>実際の利用環境（テストデータ、利用想定人数等）^{※2}に近い状態で実施済み。 連携元システムにおいて必要な負荷データ量を用意し、テストを実施済み。</p>
<p>信頼性</p> <ul style="list-style-type: none"> 負荷発生時に、負荷発生状況を確認し、適切なチューニング（APIロジックの見直し、設定の見直し、リソースの見直し等）がされたことを確認する。 テストで検出された不具合を修正し、再テストで不具合が再現しないことを確認する。 不具合とは、テストケースに対して想定した結果と異なる結果であった場合を指す。 	<p>合格(基準達成)</p> <p>NG発生件数は0件だった。</p>	<p>合格(基準達成)</p> <p>基準未達・不具合残件数0件 1回目テストで基準未達につきNGとなった項目に対し、チューニングを実施し、再テストにおける基準未達の件数は0件となった。</p>

※1 要件定義書（ID・データ連携機能群開発編）別冊6-2にて定義されたピーク時の想定ユーザ数（289ユーザ / 分）を踏まえ、1分間に300ユーザのアクセス想定で検証を実施。

※2 要件定義書（ID・データ連携機能群開発編）別冊6-2にて定義された想定延べ利用登録者数（200万ID）を想定して検証を実施

脆弱性診断工程 目的と概要

- 情報連携基盤の開発されたAPI、クラウド環境に対して、存在する可能性のあるセキュリティ上の脆弱性を特定し、脆弱性対策をすることを目的とする。

テストの目的

- 情報連携基盤の開発されたAPI、クラウド環境に対して、存在する可能性のあるセキュリティ上の**脆弱性を特定し**、**脆弱性対策**をすることを目的とする。
- これにより、不正アクセスや情報漏洩などのセキュリティインシデントを未然に防止し、システムの安全性の確保を目指す。

テストの概要

- 脆弱性診断においては、**デジタル庁「政府情報システムにおける脆弱性診断導入ガイドライン」**を参考に、実施する。
- 脆弱性診断のサービス選定においては、**経済産業省の「情報セキュリティサービス基準」**を満たす**セキュリティ専門業者**のサービスを活用する。
- 脆弱性診断にあたっては、次の2種類を実施する。
 - IDデータ連携機能
 - 本プロジェクトにて追加開発した画面を構成するAPIに対し、**Webアプリケーション診断**を実施
 - 国際的なアプリケーションのセキュリティ検証基準 (ASVS^{※1})**を基に脆弱性を特定
 - データ分析機能
 - クラウドの設定により提供されるデータ分析機能に対しては、**クラウド診断**（クラウドの設定値を確認し脆弱性有無を確認）を実施
 - ガイドライン (CISベンチマーク^{※2})**を基に脆弱性の特定
- 特定した脆弱性の評価については、**国際的に活用されているCVSS^{※3}**に基づき、脆弱性のスコアを測り、深刻度に応じて対応を実施する。

※1 ASVS (Application Security Verification Standard) とは、国際的な非営利組織OWASPが策定しているアプリケーションセキュリティの検証基準である。

※2 CISベンチマーク (CIS: Center of Internet Security) とは、安全に構築・維持管理するためのベストプラクティスをまとめたガイドラインである。

※3 CVSS (Common Vulnerability Scoring System) とは、脆弱性の深刻度を評価するための国際的な指標である。

脆弱性診断工程 テスト範囲

- 脆弱性診断工程における実施範囲としては、本プロジェクトにて開発・設定した部分とした。
- クラウドサービスとして提供される部分は、クラウドサービスを提供する事業者が品質を担保するためテスト対象外とした。

	分類	範囲	テスト対象
ID・データ連携機能	クラウドにて提供される部分	1. クラウド自体の機能・非機能 2. 弊社がクラウドサービスとして提供する機能(標準の画面・APIを含む)	対象外 クラウドサービス提供側が品質を担保する領域のため
	本プロジェクトで開発・設定する部分	1. サービス連携機能(ポータルサイト)	対象 本プロジェクトにて開発・設定を実施し、本プロジェクトにて品質を担保する領域のため
データ分析機能	クラウドにて提供される部分	1. クラウド自体の機能・非機能 2. 可視化・公開機能※ ※ 可視化・公開機能はSaaSを利用する部分であり、脆弱性対応についてはクラウドサービス提供側の範囲となるため	対象外 クラウドサービス提供側が品質を担保する領域のため
	本プロジェクトで開発・設定する部分	1. ETL・DWH機能	対象 本プロジェクトにて開発・設定を実施し、本プロジェクトにて品質を担保する領域のため

脆弱性診断工程 テスト実施内容 (ID・データ連携機能)

- 国際的なアプリケーションセキュリティの検査基準に基づき、脆弱性診断を実施した。
- 診断した結果、脆弱性の深刻度（スコア）に基づき、緊急・重要性が高い（スコア7.0以上）と警告・注意・情報レベル（スコア7.0未満）だが、本プロジェクトとして対応が必要な脆弱性に対して対応した。

#	分類	テストの実施観点	テスト実施内容と主なテストケース
1	1. サービス連携機能 (ポータルサイト)	<ul style="list-style-type: none"> • 国際的なアプリケーションセキュリティの検査基準 (ASVS) に基づき実施 	<ul style="list-style-type: none"> • 本プロジェクトでは、画面を構成するAPIを追加開発したため、追加開発を実施したAPIを対象にWebアプリケーション診断を実施する。 • セキュリティ専門業者のサービスにて診断を実施する。 • ASVS ※1に基づき脆弱性診断を実施する。 • 診断した結果、脆弱性の深刻度を示すCVSS※2のスコアに基づき対応する。 <ul style="list-style-type: none"> • 深刻度が緊急・重要（スコア 7.0以上）の脆弱性については、対応する。 • 深刻度が警告・注意・情報（スコア7.0未満）の脆弱性については、内容を確認して対応の要否を判断し対応する。 • 主なテストケース： <ul style="list-style-type: none"> • XSS攻撃を緩和するためにコンテンツセキュリティポリシーが設定されていること • パスワード変更時にアウトオブバンドで通知されること 等 <p>※1 ASVS (Application Security Verification Standard) とは、国際的な非営利組織OWASPが策定しているアプリケーションセキュリティの検証基準である。</p> <p>※2 CVSS (Common Vulnerability Scoring System) とは、脆弱性の深刻度を評価するための国際的な指標である。</p>

脆弱性診断工程 テスト実施内容 (データ分析機能)

- 国際的なガイドラインに基づき、脆弱性診断を実施した。
- 診断した結果、脆弱性の深刻度（スコア）に基づき、緊急・重要性が高い（スコア7.0以上）と警告・注意・情報レベル（スコア7.0未満）だが、本プロジェクトとして対応が必要な脆弱性に対して対応した。

#	分類	テストの実施観点	テスト実施内容と主なテストケース
2	1. ETL・DWH機能	<ul style="list-style-type: none"> • 国際的なCISベンチマークに基づき実施 	<ul style="list-style-type: none"> • クラウド環境の設定により機能を実現するため、クラウド機能の設定ミスによる情報漏洩等の脆弱性がないか確認するクラウド診断を実施する。 • セキュリティ専門業者のサービスにて診断を実施する。 • CISベンチマーク※1に基づき脆弱性診断を実施する。 • 診断した結果、脆弱性の深刻度を示すCVSS※2のスコアに基づき対応する。 <ul style="list-style-type: none"> • 深刻度が緊急・重要（スコア 7.0以上）の脆弱性については、対応する。 • 深刻度が警告・注意・情報（スコア7.0未満）の脆弱性については、内容を確認して対応の要否を判断し対応する。 • 主なテストケース： <ul style="list-style-type: none"> • 証跡ログがストレージの保持されること • 証跡ログが適切に暗号化されていること • 管理者アカウント（root、Administrator）の利用が通知されること • SSHの通信が制限されていること 等 <p>※1 CISベンチマーク（CIS: Center of Internet Security）とは、安全に構築・維持管理するためのベストプラクティスをまとめたガイドラインである。</p> <p>※2 CVSS（Common Vulnerability Scoring System）とは、脆弱性の深刻度を評価するための国際的な指標である。</p>

運用テスト工程 目的と概要

- 運用テスト工程では、稼働後におけるシナリオを想定し情報連携基盤を安定運用できるようにするため、運用業務・運用フロー等を確認することを目的とする。

テストの目的

- 運用要件を踏まえ、本番稼働後に情報連携基盤を安定運用できるようにするため、**運用業務・運用フロー等を確認**することを目的とする。

テストの概要

- 基本設計、詳細設計で設計した運用設計の内容をもとに、運用業務を確認する。
- 運用業務の確認にあたっては、運用フローに従い業務を実施し、プロセス、手順、管理様式を確認する。

運用テスト工程 実施内容

- 運用テスト工程の実施にあたっては、稼働後における運用のシナリオを想定し、運用における作業頻度等を考慮して、テスト仕様を作成し実施した。また、運用業務上、追加で必要な運用業務・フローがある場合にはテスト仕様書に組み込み、テスト対象として確認した。

#	分類	テストの実施観点	テスト実施内容と主なテストケース
1	運用業務・運用フロー	<ul style="list-style-type: none"> 運用業務・運用フロー、各種管理資料の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 稼働後における運用のシナリオを想定し、詳細設計書にて定義した運用業務・運用フロー、を想定を確認する。 運用フローに従い、運用業務の確認、各種資料（管理資料、手順書）に不足がないか確認する。 主なテストケース： <ul style="list-style-type: none"> 「ユーザからのご意見・ご要望対応」の運用フローに従い、運用作業を確認 「月次のレポート出力対応」の運用フローに従い、運用作業を確認 「作業申請」の運用フローに従い、運用作業を確認 等
2	運用手順書	<ul style="list-style-type: none"> 運用手順書の確認 	<ul style="list-style-type: none"> データ分析機能群では、稼働後における運用にて、運用作業を行うために運用手順書が必要となるため、運用手順書を確認する。 ID・データ連携機能群では、クラウドサービスにて提供される運用サービスを活用するため、運用手順書はないため、運用手順書の確認は対象外である。 主なテストケース： <ul style="list-style-type: none"> 「運用手順書」の確認 等

運用テスト工程 結果概要 品質結果

- 「テスト計画書（総合テスト）」－「2.(4)運用テスト ⑧品質基準（合否基準）」にて定義した品質基準（合否基準）をもとに、運用テスト実施結果の評価を実施。
- ID・データ連携機能、データ分析機能ともに、「網羅性・正確性・信頼性」について基準を満たすことができ、十分な品質を得ることができた。

品質基準 (テスト計画書(総合テスト) 2.(4)運用テスト ⑧品質基準(合否基準) 抜粋)	ID・データ連携機能群	データ分析機能
網羅性 運用フロー・手順書におけるOK,NGの条件分岐の部分を含め、全てのパターンを確認する。	合格(基準達成) テストケース・項目を全件数作成済み。	合格(基準達成) テストケース・項目を全件数作成済み。
正確性 運用フロー・手順に従い、タスク・作業を実施した場合に、運用フロー・手順書に記載の内容と一致しているか確認すること。	合格(基準達成) テストケース・項目において全件数テストを実施済み。	合格(基準達成) テストケース・項目において全件数テストを実施済み。
信頼性 テストを実施し不具合が検出された場合には、不具合を修正し、再テストで不具合が再現しないことを確認すること。不具合とは、テストケースに対して想定した結果と異なる結果であった場合を指す。	合格(基準達成) 不具合残件数0件 発生したNGに対し原因の特定・対応策の実施を行い、再テストにおける不具合の件数は0件となった。	合格(基準達成) 不具合残件数0件 発生したNGに対し原因の特定・対応策の実施を行い、再テストにおける不具合の件数は0件となった。

シナリオテスト工程 目的と概要

- シナリオテスト工程では、各ユースケースにおけるJourney Mapをもとに、サービスの利用からPHRデータのデータ連携といった一連のシナリオを定義し、ユーザー視点で想定したどおりの動作が実施され、システムを提供できることを確認する。

テストの目的

- 各ユースケースにおけるJourney Mapをもとに、サービスの利用からPHRデータのデータ連携をといった一連のシナリオを定義し、ユーザー視点で想定したどおりの動作が実施され、システムを提供できることを確認する。

テストの概要

- シナリオテストの前提として、各事業者、情報連携基盤は、各種テストにておいて、バリデーションの確認などを実施していることを前提とし、ユーザー視点での動作確認を実施する。
- 動作確認にあたっては、各ユースケースのJourney Mapをもとに、サービスの利用からPHRデータのデータ連携をといった一連のシナリオを定義する。

シナリオテスト工程 テスト範囲

- サービス事業者・PHR事業者にて検討したユースケースを対象とした。

■ユースケースを構成する事業者一覧

#	サービス事業者	PHR事業者
011	Wellmira	Arteryex
		Y4.com
021	NTTDXパートナー	SOXAI
031	カゴメ	NTT ドコモ
041	グリーンハウス・asken	Arteryex
		Y4.com
051	サステナブルパビリオン2025	Wellmira
		NTT ドコモ
061	ジーン	NTT ドコモ
		Wellmira
071	リアルワールドゲームス	エムティーアイ
		大阪府
081	LIXIL	FiNC
		サワイ製薬
091	ワコール	asken
102	WizWe	Y4.com

シナリオテスト工程 テスト実施内容

- シナリオテスト工程では、ユースケースにおいて想定する一連の流れをユーザー視点にて確認し、利用開始から終了までの一連の流れを確認した。

#	分類	テストの実施観点	テスト実施内容と主なテストケース
1	全体	<ul style="list-style-type: none"> ユースケースを基に、利用者視点での動作の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 各ユースケースにおけるJourney Mapをもとに、ユーザーの一連の動作をシナリオとして定義し、テストを実施する。 テスト実施にあたっては、サービス事業者・PHR事業者、基盤とで連携してテストを実施する。 各サービス事業者・PHR事業者、基盤のそれぞれが担当する領域でテストが完了済みであることを前提とする。 (この前提のもと、当テストでは、データバリエーション等観点については網羅的な実施を必須としては求めない。) 主なテストケース： <ul style="list-style-type: none"> ユースケースにおける主要な操作の流れ確認 (各サービスへのログイン・操作、PHRデータの連携、連携データを反映したサービスの表示・操作の確認) 等

シナリオテスト工程 結果概要 品質結果

- 「総合テスト計画書（シナリオテスト）」－「2.(6)品質基準（合否基準）」にて定義した品質基準（合否基準）をもとに、シナリオテスト実施結果の評価を実施。
- 全10UC全てにおいて、「テストケースの網羅性」「シナリオの正確性」「システムの信頼性」について基準を満たすことができ、十分な品質を得ることができたことから、全品質基準について合格と判定する。

品質基準 (テスト計画書(シナリオテスト) 2.(6) 品質基準(合否基準) 抜粋)	全10UC
<p>テストケースの網羅性 全ユースケースを対象に、シナリオを定義しテストを実行することで、ユーザー視点での確認を実施する。 全UCにおけるテストケースの作成・実施が100%完了</p>	<p>合格(基準達成) テストケースの作成・実施を全UCにおいて実施済み。</p>
<p>シナリオの正確性 シナリオに沿った操作を行うことで、実際に一連のシナリオが完了し、期待通りの結果が得られることを確認する。 上記確認のためのテスト項目の実施が100%完了</p>	<p>合格(基準達成) テストケース・項目を全件数作成・実施済み。</p>
<p>システムの信頼性 シナリオを通してテストすることにより、想定通り動作することを確認する。 (サービスの操作、各サービスから情報連携基盤へのアクセス、PHRデータの連携、PHRデータ取得後の処理等、一連の操作が想定通りであることの確認) 上記確認のためのテスト項目の実施が100%完了</p>	<p>合格(基準達成) テストケース・項目を全件数作成・実施済み。</p>

ユーザー受入テスト工程 目的と概要

- ユーザー受入テスト工程では、検収試験として、要求仕様通りシステムが完成している事の確認を発注者（経済産業省）が実施した。

区分	テスト名	目的	概要	基盤事業者	PHR事業者	サービス事業者	経済産業省
単体テスト	単体テスト	<ul style="list-style-type: none"> 追加開発されたポータル画面、API等の機能がコンポーネントレベルで、設計書通りの機能を正しく満たし、動作することを確認する 	<ul style="list-style-type: none"> 開発されたポータル画面、API等を個別に動作させ、外部仕様に基づいた入力値と出力値の検証と内部構造に着目した分岐や条件網羅の検証を組み合わせることで、入力値に対する出力値や処理フローが詳細設計書と一致することを多角的に確認し、品質を確保する。 	○	-	-	-
結合テスト	結合テスト	<ul style="list-style-type: none"> 追加開発されたポータル画面等の機能が設計通りに動作する事を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> 開発後のポータル画面等を結合し、機能間のタッチポイントを含めた処理が正常に動作する事を確認する 	○	-	-	-
接続テスト	接続テスト①（事業者間 ID連携）	<ul style="list-style-type: none"> 外部結合テストとして、各事業者とのID連携が設計通り動作する事を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> 各事業者のアプリ・システムを利用し、ID連携によるDCPへのログイン等が正常に行える事を確認する 	○	○	○	-
	接続テスト②（事業者間 データ連携）	<ul style="list-style-type: none"> 外部結合テストとして、各事業者とのデータ連携が設計通り動作する事を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> サービス事業者・PHR事業者の双方を基盤に接続し、データ連携が正常に行える事を確認する JMeterを用いて負荷を与えた状態において、そのデータ連携が正常に行える事を確認する 併せて事業者側のテストを実施し、そのアプリ・システムがエラーなく利用できる事を確認する 	○	○	○	-
総合テスト	負荷テスト	<ul style="list-style-type: none"> 稼働後の利用を想定した負荷を発生させることで、情報連携基盤の性能要件を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 負荷発生ツールを利用して負荷を発生させ、正常に処理可能である事を確認する 	○	-	-	-
	脆弱性診断	<ul style="list-style-type: none"> 情報連携基盤の開発されたAPI等に対する脆弱性を特定し、必要な脆弱性対策を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> セキュリティ専門業者の脆弱性診断サービスを利用し、国際的な基準・ガイドラインをもとに脆弱性の特定を実施する。緊急度・重要度が高い脆弱性に対し、対策を実施する。 	○	-	-	-
	運用テスト	<ul style="list-style-type: none"> 運用要件を踏まえ、本番稼働後に情報連携基盤を安定運用できるようにするため、運用業務・運用フロー等を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 運用業務・フロー・手順書をもとに、運用時における一連のながれを確認する。 	○	-	-	-
対象▼	シナリオテスト	<ul style="list-style-type: none"> ユースケースに基づいて、ユーザー視点でのシナリオを定義し、ユーザーが利用する動作を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> シナリオに基づき基盤および各事業者のアプリ・システムを含めたユーザー操作が正常に完了する事を確認する 	○	○	○	-
ユーザー受入テスト	ユーザー受入テスト	<ul style="list-style-type: none"> 検収試験として、発注者が要求仕様通りシステムが完成している事を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> 本番利用を想定したユーザー操作等を、お客様自身がを行い、要求仕様どおり利用できる事を確認する 	△	△	△	○

ユーザー受入テスト工程 結果概要 完了条件の確認結果

- 「ユーザー受入テストの完了条件（クライテリア）」として定義した各項目に対する確認結果を本頁に示す。

ユーザー受入テストの完了条件 (クライテリア)	確認結果
<ul style="list-style-type: none"> 経済産業省によるユーザー受入テストの完了 	<p style="text-align: center;">完了（基準達成）</p> <p>全UCにおいて、ユーザー受入テスト仕様書兼結果報告書に記載のテストケース・項目を実施済み。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 総合テストのテスト仕様書兼結果報告書の確認 	<p style="text-align: center;">完了（基準達成）</p> <p>2/20(木)に総合テストのテスト仕様書兼結果報告書一式を経済産業省に提示済み</p>
<ul style="list-style-type: none"> 経済産業省からの問合せへの回答完了 <p>※ただし、問合わせ・障害ともに、テスト期間内での対応が難しい場合には、経済産業省と調整を実施し、本番運用への申し送り事項とすること。</p>	<p style="text-align: center;">完了（基準達成）</p> <p>ユーザー受入テスト時における問合せ内容への回答を完了済み。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 基盤における障害への対応完了 <p>※ただし、問合わせ・障害ともに、テスト期間内での対応が難しい場合には、経済産業省と調整を実施し、本番運用への申し送り事項とすること。</p>	<p style="text-align: center;">完了（基準達成）</p> <p>ユーザー受入テスト時に発生した不具合（障害）における対応を完了済み。</p>

本番稼働計画 サマリ

- 本番稼働計画書は2025/2/27に経済産業省に提出を行った。

項番	目次	概要
1	本書の目的・位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> 本事業の事業内容「(3) ユースケース間の相互連携を図る情報連携基盤の整備」の遂行に際し、本基盤の本番稼働に向けて、運用に関する共通理解を得ることを目的 本基盤の運用設計を記した「詳細設計書(共通編)」に基づき、本基盤における運用体制、運用業務、運用管理等を示す文章
2	本番稼働の概要	<ul style="list-style-type: none"> 本番稼働計画における目的は、本基盤を本番稼働中においても安定的に運用し、また障害が発生時においても迅速な対応・復旧を実現することを目的 目的を実現するために、「システムの安定稼働」「障害時における復旧」「異常の検知」を目標とし本番稼働を実施
3	運用体制	<ul style="list-style-type: none"> 本基盤の運用における体制は下記の通り <ul style="list-style-type: none"> 運用・保守統括 兼 業務運用グループ IDデータ連携機能群 運用・保守グループ データ分析機能 運用・保守グループ
4	運用業務	<ul style="list-style-type: none"> 運用業務を業務の内容に応じて下記の分類で定義 <ul style="list-style-type: none"> 基盤環境切替業務：運用期間の開始・終了時に必要となる基盤本番環境の立上げ・閉塞に関する業務 定常時対応業務：会期前/会期中/会期後運用期間において、定常的に実施する業務 障害時対応業務：会期前/会期中/会期後運用期間において、障害発生時に実施する業務
5	運用管理	<ul style="list-style-type: none"> 本基盤を円滑に運用するにあたり、下記の運用管理項目を定め、運用に関する管理ルールやプロセスを定義 <ul style="list-style-type: none"> 体制管理：運用体制及び要員変更に係るルール・プロセスを定め、その管理を実施 コミュニケーション管理：運用に係る関係者間のコミュニケーション方法やプロセスを定め、その管理を実施 作業管理：作業の開始から完了までの一連のプロセスについて管理を実施 課題管理：運用業務における課題の抽出から対応までのプロセスを管理 リスク管理：リスクによる業務影響を軽減・最小化するため、リスクの抽出から対応までのプロセスを管理 情報セキュリティ管理：情報セキュリティインシデント発生時の対応等について管理を実施

データ保有・削除の考え方とオプトイン規約関係について

- 本情報連携基盤の検討に際して、データ保有削除の取扱いについて全事業者で方針をそろえたうえで対応の推進を図った

データ保有・削除の運用

- データ保有・削除の考え方の原則は、本件事業ではデータを保有しない、保有したとしても事業終了時に削除することとされているが、別途、経済産業省とデータ保有を行う場合の取扱いについては了承を得る形で対応として進めることとした
- 上記のデータ保有の取扱いについては、オプトイン関連規約においても、データ削除の取扱いについて明記しているが、PHR CYCLE利用規約により、経済産業省が認める場合として、例外的取扱いを可とする想定。他方、データ削除の求めがあった場合に、どのように対応を行うかは各事業者にてご検討をいただくこととした（基本的に、各事業者のアプリ等から照会を掛けてもらい、該当IDのデータテーブル等を削除することになる）

オプトイン規約の確認

- 各種、個人情報保護方針を参照し、事業者側で備えるべき規約の文言調整を検討いただくこととした

バイドール手続きの対応

- 今回開発等行うAPIについては、バイドールにより、権利を開発者に留保する処理を行うこととし、「確認書」の提出をいただく対応を執った

各種規約に対する調整

- 今回、青枠部分の規約について共有し、各事業者への検討を図った



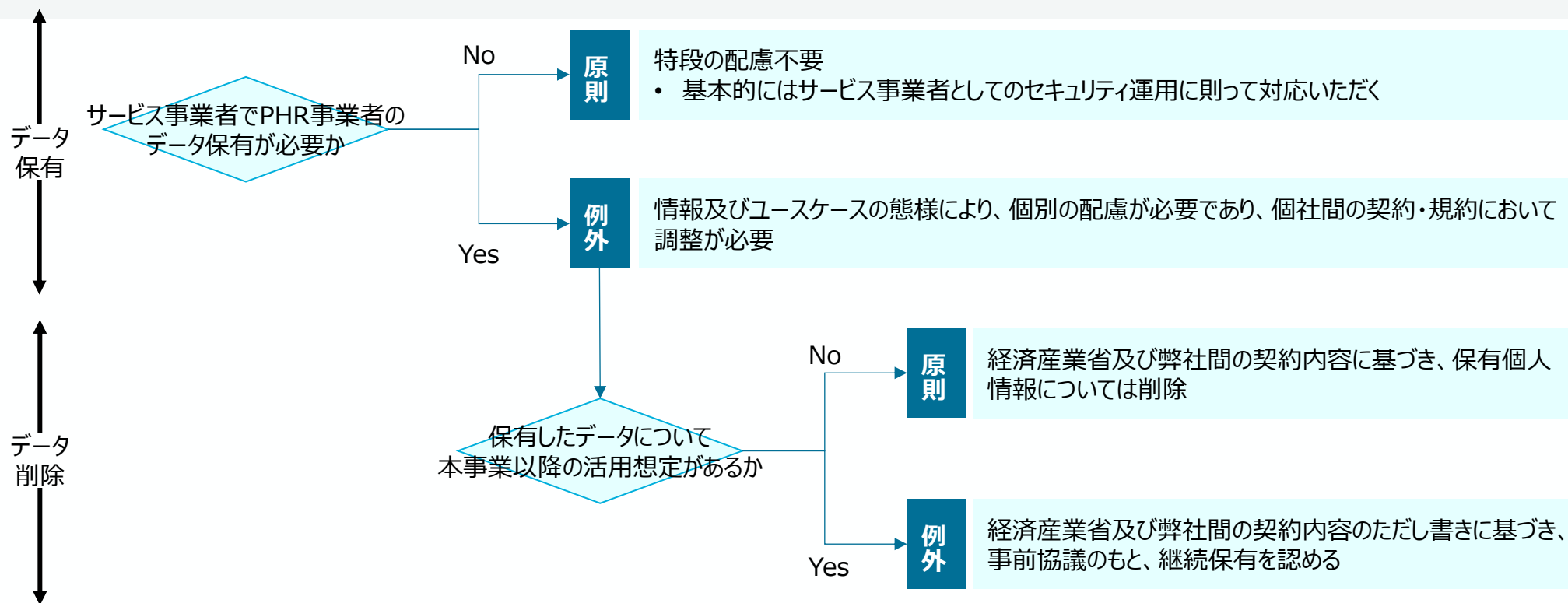
(参考) 情報連携基盤ID・データ連携仕様説明資料より

各アプリ側で
設定いただく

データ保有・削除の基本的考え方

- 経済産業省契約書及び仕様書上の主旨から、サービス事業者側においてPHR事業者のデータは保有しない運用を念頭にしつつも、一定の配慮を想定した運用とした

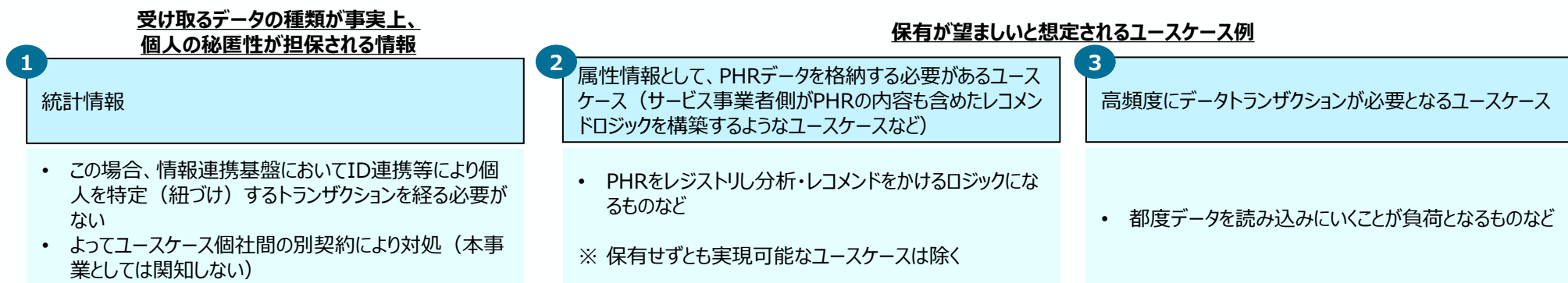
※なお、PHR事業者から取得するか否かに関わらず、特に「削除」については個別協議が必要となる場合がありうる



データ保有・削除の考え方（①データ保有について）

- 一定程度データ保有が必要と想定されるユースケースが存在することから、原則保有しない運用を念頭に検討いただきつつ、保有を認める運用とした

※保有にあたっては、そのデータの内容に応じてPHR指針等の対応を行っていただく必要あり



データ保有・削除の考え方（②データ削除について）

- 保有を行った場合の「削除」については、契約条項上要請されているところであるため事業完了後の削除を求めることとしつつ、ユースケースの社会実装の観点から事業者よりお知らせいただき、事務局交えた事前協議のうえで例外的取扱いを認める運用とした

【原則】 契約条項上の前提事項（抜粋） ※各事業者は乙（AC）の再々委託先	第38条 （情報セキュリティの確保） （略） 4 乙は、委託業務遂行中に得た委託業務に関する情報（紙媒体及び電子媒体）について、甲の許可なく当省外で複製してはならない。また、作業終了後には、複製した情報が電子計算機等から消去されていることを甲が確認できる方法で証明しなければならない。 （略）	
	第39条 （個人情報等の取扱い） 2 乙は、個人情報等を取り扱わせる業務を第三者に再委託する場合は、事前に甲の承認を得るとともに、本条に定める、甲が乙に求めた個人情報等の適切な管理のために必要な措置と同様の措置を当該第三者も講ずるように求め、かつ、当該第三者が約定を遵守するよう書面で義務づけなければならない。承認を得た再委託先の変更並びに再委託先が再々委託及びそれ以下の委託を行う場合についても同様とする（以下本条において承認を得た再委託先、再々委託先及びそれ以下の委託先を「再委託先」という。）。 3 （略） 4 乙は、次の各号に掲げる行為をしてはならない。ただし、事前に甲の承認を得た場合は、この限りでない。 （1）甲から預託された個人情報等を第三者（前項記載の書面の合意をした再委託先を除く。）に提供し、又はその内容を知らせること。 （2）甲から預託された個人情報等について、甲が示した利用目的（特に明示がない場合は本契約の目的）の範囲を超えて使用し、複製し、又は改変すること。 （3）委託業務に関して自ら収集し、又は作成した個人情報について、甲が示した利用目的（特に明示がない場合は本契約の目的）の範囲を超えて使用すること。	
【例外】 例外取扱いの検討ポイント	本事業終了後	メリット <ul style="list-style-type: none"> サービス事業者による情報漏洩リスクを最小限にすることができる。
	削除する場合	デメリット <ul style="list-style-type: none"> データ保有を前提として提供されていたサービスや機能の継続が困難となり停止する、あるいはその一部機能等が制限される可能性がある。 別事業体にて情報連携基盤によるデータ連携が再開された後も、サービスや機能の再開のためには、改めて利用者にオプトイン操作を求め、破棄したデータの全量を再取得する必要がある。
本事業終了後	メリット <ul style="list-style-type: none"> データ保有を前提として提供されていたサービスや機能を事業期間後も継続できる。 オプトインやデータ取得など事業期間に得られた利用実績を活用できるため、利用者に手続きや操作の負担を求めことなくサービス・機能を継続できる。 	
	削除しない場合	デメリット <ul style="list-style-type: none"> サービス事業者のセキュリティレベルを完全にコントロールできないため、一定の情報漏洩リスクが生じる。（ただしサービス事業者への情報提供は利用者が同意している以上、サービス事業者の責任でしかなさそう）

- 継続利用によるシナジーが得られないなどのデメリットはあるものの、契約の記載から、**原則として本事業終了後は「データを削除」いただく想定**

- 例外的に継続して保有を求める事業者とは**個別協議**とし、柔軟性を持たせる
- ※ただし、情報漏洩等リスクの帰責は各事業者が負う形で条項等を整理する

データ保有・削除の例外的取扱いの運用方法について

- 例外的取扱いの運用方法については、それぞれ、各事業者における例外的取扱いの必要性和セキュリティ遵守状況等を事務局へ提示いただき、それをもとに経済産業省と事務局（弊社）にて個別協議して認める運用とした

データを保有する場合

（１）ユースケースにおけるデータ保有の確認

- ① ユースケース協議の際に、保有が必要なデータの内容を確認
- ② 当該事業者のPHR基本指針準拠状況確認
※データ保有にあたり、必要な対応は後掲チェックシートにて整理
- ③ 準拠できていない場合は、いつ準拠を行うか等の対応方針を事業者より提示いただく

（２）EXPO-PHR運営事務局による運用上の確認

- ① (1)の②チェックシートや③対応方針をもとに準拠の対応状況をEXPO-PHR運営事務局にて確認・担保

保有したデータを事業期間終了後も削除しない場合

（１）規約による適切な情報管理の担保

- 規約により以下が担保されているかEXPO-PHR運営事務局にて確認
 - ① 本事業期間後もデータ利用を継続すること
 - ② 本事業期間後もデータを削除しないこと
 - ③ 利用者に①②の同意を得られていること

情報セキュリティ基準確認書の取扱い（1/2）

- 公募断面でも情報セキュリティに関する水準で該当する項目を回答いただき、水準を確認した

該当項目 (該当番号に ○を記載)	基準 (用語詳細はP.3参照)		
	1	任意	プライバシーマーク、ISO/IEC27001を取得している
	2	任意	プライバシーマーク、ISO/IEC27001の取得に向けた準備を進めている
	3	いずれか 必須	経産省「民間PHR事業者による健診等情報の取扱いに関する基本的指針」に準拠している ※健診情報を取り扱うPHR事業者は該当する必要あり
	4		経産省「民間PHR事業者による健診等情報の取扱いに関する基本的指針」の準拠に相当する準備を進めている
	5		経産省「民間PHR事業者による健診等情報の取扱いに関する基本的指針」について存在を知っており、OSやソフトウェアを最新の状態にしておくことや、ウイルス対策ソフトの導入、バックアップの保管、強靱なパスワードを平素から利用するなどしてセキュリティ対応を図っている
	6		IPA「5分でできる！情報セキュリティ自社診断」を実施し、セキュリティ対応を確認した

情報セキュリティ基準確認書の取扱い（2/2）

- 弊社が提示する以下の情報連携基盤への接続に係るセキュリティガイドラインの遵守について確認した場合、チェックを求めた

□ 弊社は、以下の内容について確認し、遵守することを誓います

<p>セキュリティ ガイドライン（概 要・案）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 情報連携基盤の利用においては、次の内容に従うこと。 <ul style="list-style-type: none"> PHR事業者およびサービス事業者は、本契約の有効期間中、次の各号に定めるところに従って提供パーソナルデータ（PHRデータを含む個人情報）等を利用・管理するものとする。 <ol style="list-style-type: none"> パーソナルデータを取り扱うに当たり、パーソナルデータの漏えい等のリスクに対し、必要かつ適切な安全管理措置を講じること。 パーソナルデータ等を他の情報と明確に分別し、善良なる管理者の注意をもって保管・管理すること。 総務省「スマートシティセキュリティガイドライン」を理解し、実施が推奨される対策を参考に、必要な情報セキュリティ対策等を講じること。 情報セキュリティ対策等を本サービスの利用期間中に継続して実施しなければならず、自己の責任により情報セキュリティを担保し、当社、ユーザーその他の説明を求める者に対して説明責任を果たすこと。なお、当社が、ユーザーその他の第三者に対し、直接又は間接に、PHR事業者・サービス事業者において情報セキュリティ対策等を実施している旨を表示した場合であっても、それによって、PHR事業者・サービス事業者が情報セキュリティ等を担保する義務及び説明責任を免れることはなく、PHR事業者・サービス事業者が当該責任を怠ったことにより、ユーザーその他の第三者に生じた損害について、当社は一切責任を負わない。
<p>技術的対応① ID連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> OpenID Connect Core 1.0の定義に従い、情報連携基盤からIDトークンを検証できること。 参考：https://openid-foundation-japan.github.io/openid-connect-core-1_0.ja.html#TokenResponseValidation
<p>技術的対応② データ連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> OAuth2.0の定義に従い、APIリクエストに含まれるアクセストークンを検証できること。 参考：https://www.rfc-editor.org/rfc/rfc6749#section-7

情報セキュリティ基準の用語説明

- 情報セキュリティ基準の説明にあたっては以下の定義を伝えたところ

用語	内容
プライバシーマーク	<ul style="list-style-type: none"> 事業者が個人情報の取扱いを適切に行う体制等を整備していることを評価し、その証として“プライバシーマーク”の使用を認める制度。JIS Q 15001「個人情報保護マネジメントシステム－要求事項」に基づいた「プライバシーマークにおける個人情報保護マネジメントシステム構築・運用指針」に即し、個人情報保護マネジメントシステム（以下「PMS」という。）を定めていること、PMSに基づき実施可能な体制が整備されて個人情報の適切な取扱いが行われていること、「プライバシーマーク付与に関する規約（PMK500）」に定める欠格事項に該当しない事業者であることが条件です。 本制度の取得状況を確認することにより、個人情報の適切な取り扱い体制が整備されているかを確認します。
ISO/IEC27001	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）に関する国際規格です。 情報の機密性・完全性・可用性の3つをバランスよくマネジメントし、情報を有効活用するための組織の枠組みを示し、審査を経て認証取得となります 本規格の取得状況を確認することにより、情報セキュリティのリスクアセスメント・リスク対応に関して適切な体制が整備されているか確認します。
経産省「 民間PHR事業者による健診等情報の取扱いに関する基本的指針 」	<ul style="list-style-type: none"> 安全、安心な民間 PHR（Personal Health Record）サービスの利活用の促進に向けて、健診等情報を取り扱う事業者による PHR の適正な利活用が効率的かつ効果的に実施されることを目的として、PHR サービスを提供する事業者が遵守すべき事項 本指針の準拠状況を確認することにより、PHRサービスの適正な利活用のための体制が整備されているか確認します。健診情報を取り扱う事業者は準拠していることが必須となります。
IPA「 5分でできる！情報セキュリティ自社診断 」	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティ対策のレベルを数値化し、問題点を見つけるためのツール 本診断の実施状況を確認することにより、情報セキュリティに関する適切な体制が整備されているか確認します。

事業者向けセキュリティチェック

- 事業者向けセキュリティチェックについて、全事業者向けの技術観点での確認、健診情報を取り扱う事業者向けの運用面での確認の2段階に分けて実施済み

事業者向けセキュリティチェックの実施概要

- 第一段階では全事業者に対して技術面要素をチェックし、第二段階では健診情報を取り扱う事業者を中心に、PHR基本的指針項目の技術面以外の事項をスクリーニングする
- 第一段階での検証要素は多くの事業者であればクリアできている事項と想定されることと、第二段階は健診情報を取り扱う事業者を対象としているPHR基本的指針の主旨に則り、**健診事業者を対象とし、実施**

チェック	第1段階	第2段階
目的	システムとして 技術的に 満たすべきセキュリティ対応のチェック	より機微な情報（健診情報）を使う事業者に対し、 技術面以外でのセキュリティ のチェック
チェックの観点	次の2つの観点でチェックを実施 ・NISCにおけるSBDマニュアル ・PHR基本的指針の情報セキュリティ対策（案）のうち、 技術面で対応 が必要な部分	・PHR基本的指針の情報セキュリティ対策（案）のうち、 技術面以外の組織等 の部分
対象	全事業者	本事業にて健診等情報を取り扱う事業者（7事業者）

事業者向けセキュリティチェックの実施結果

- 第一段階では、1事業者を除く全事業者において、システムとして技術的に満たすべきセキュリティ対応を確認済み
- 第二段階では、1事業者を除く6事業者において、健診等情報の取り扱いに当たり、PHR基本的指針への準拠を確認済み

	第1段階	第2段階
対応中	1事業者	1事業者
完了	18事業者	7事業者
合計 (対象事業者)	19事業者	8事業者
備考	<ul style="list-style-type: none"> 対応中の事業者については、2025年2月末日途に対応が完了する見込み 	<ul style="list-style-type: none"> 対応中の事業者については、万博展示までに対応が完了するよう依頼中

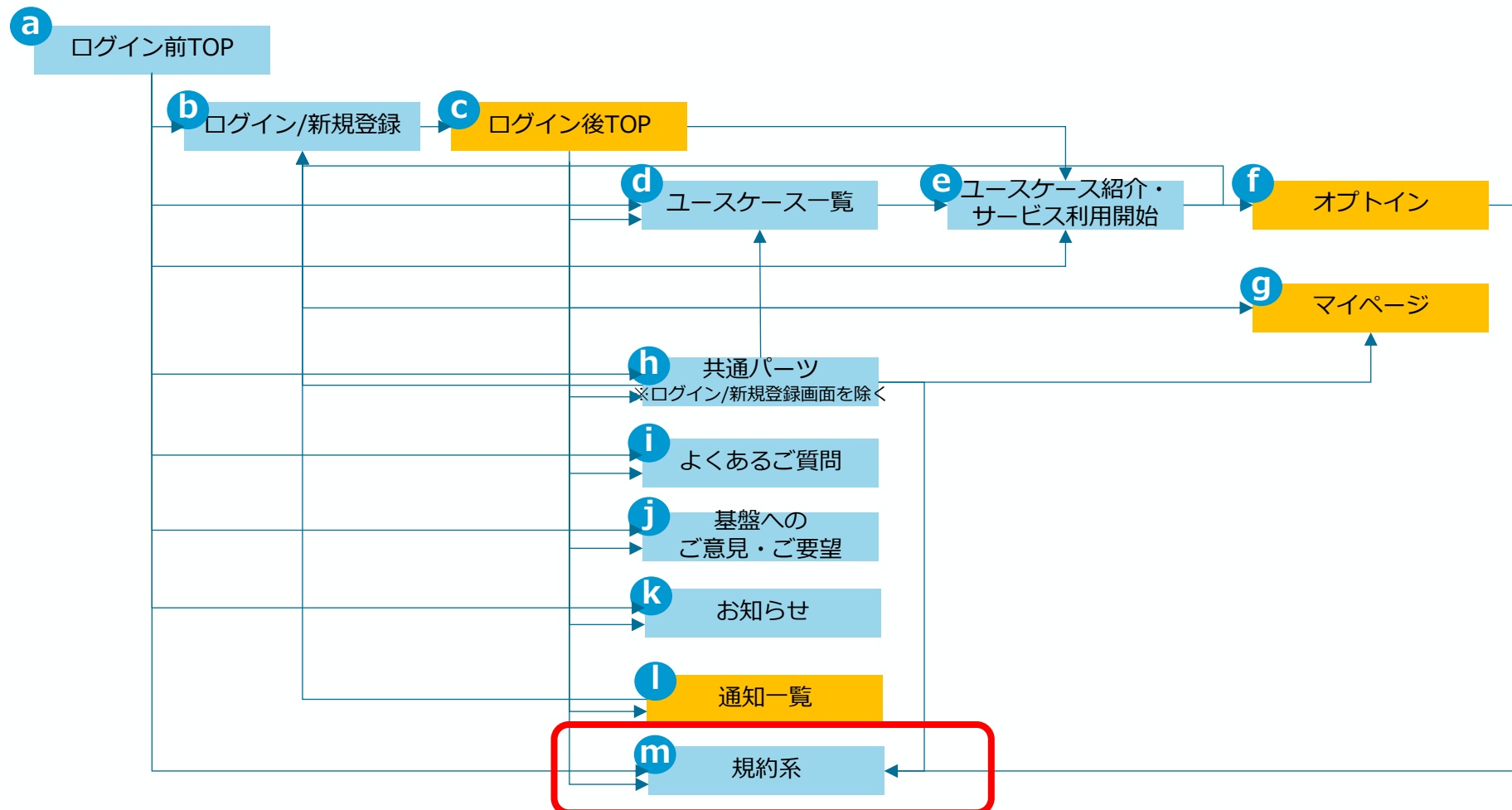
画面遷移図：画面遷移概要

凡例

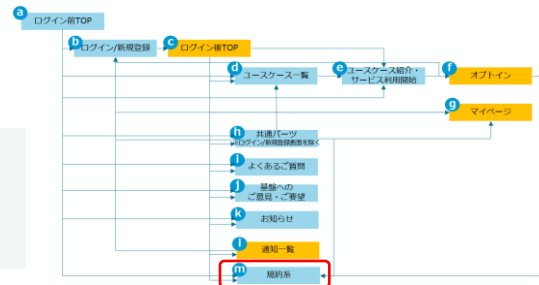
共通

ログインユーザのみ

- 個人情報保護規約、PHR CYCLE規約は m.規約 から閲覧可能



規約系



- 個人情報保護規約、PHR CYCLE規約は例えば以下の画面から閲覧することとなる

規約更新確認

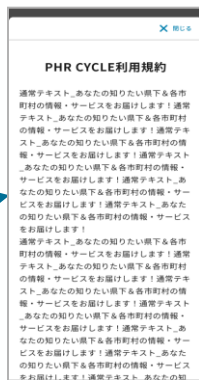
画面ID:13-1



バリデーション1,2
初期表示時、規約への
チェック及び同意ボタンを
非活性 (画面ID:13-2)

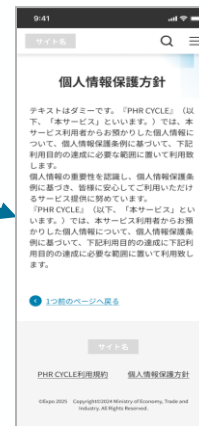
規約本文せりあがりモーダル

画面ID:13-4



規約本文画面

画面ID:13-3



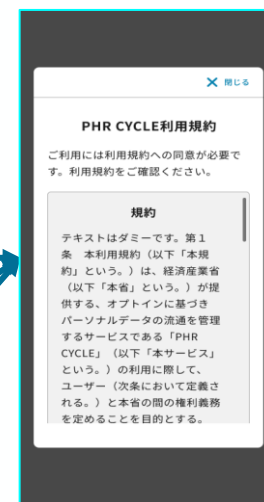
ログインナビゲーション

画面ID:3-1,3-2



規約本文モーダル

画面ID:13-5



ユースケース一覧、ユースケース紹介・利用開始、オプトイン (1/4)

- ユースケース紹介画面を基点としてPHR/サービス事業者提供サービスとの接続を行い、利用開始する。
- 利用者の流入経路によって辿る導線は異なる可能性がある。基盤からの流入者が辿る基本導線は「基盤とPHR事業者との接続」➡「基盤とサービス事業者との接続」➡「サービス(ユースケース)利用開始」を推奨とし提示する。



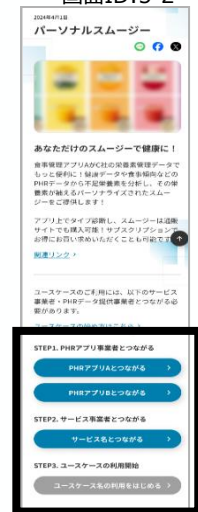
ユースケース利用開始までの流れ(大枠)

前提

- 利用開始における**基点となる画面は「ユースケース紹介画面」とする**
- 1つのユースケースに**複数のPHR事業者が参画するケースあり**(例：サービス事業者LIXIL-PHR事業者①沢井製薬/②FiNC)
- ユースケースを利用開始するためには、**ユースケースに属するすべての事業者と基盤の接続を必須とする**
- 基盤との**接続順は、「PHR事業者」➡「サービス事業者」の順とする**(複数の接続順があるため、UX考慮し基盤からの推奨案を提示)

ユースケース紹介 (ログイン後)

画面ID:5-2



囲み箇所画面拡大



Step.1

**PHR事業者
と基盤の接続**
※複数のPHR事業者
が参画する場合は
順番に全て接続

Step.2

**サービス事業者
と基盤の接続**

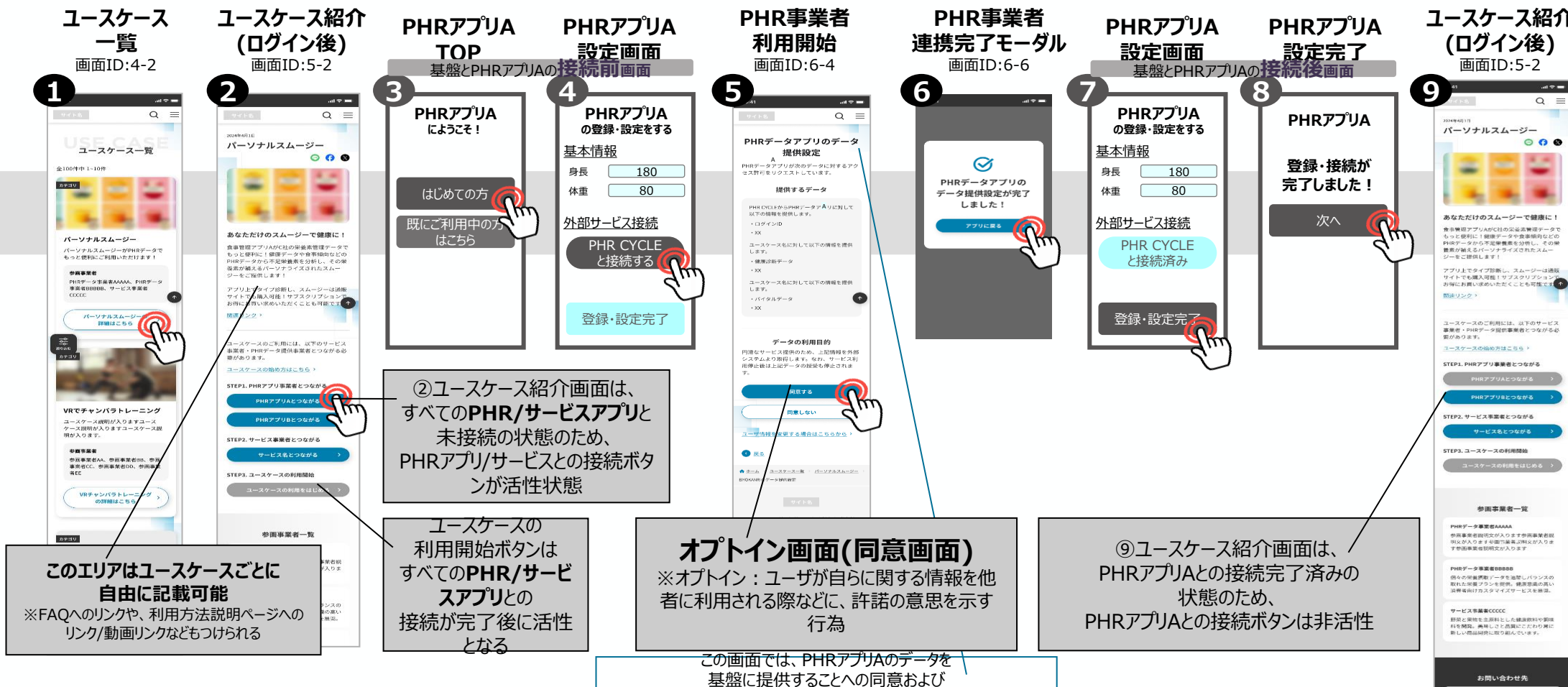
Step.3

**ユースケース
(サービス)
利用開始**
※Step1~2を完了
次第、こちらのボタンが
活性化される仕様

ユースケース一覧、ユースケース紹介・利用開始、オプトイン (2/4)

基盤(PHR CYCLE)画面
 PHR事業者が保有する画面
 ※事業者ごとに異なる
 (本資料内では推奨導線・サンプルを掲載)

詳細導線 Step.1



ユースケース一覧、ユースケース紹介・利用開始、オプトイン (3/4)

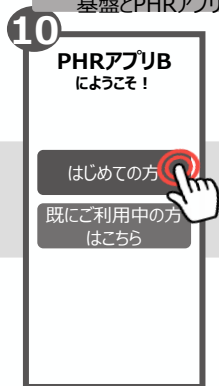
基盤(PHR CYCLE)画面
 PHR事業者が保有する画面
 ※事業者ごとに異なる
 (本資料内では推奨導線・サンプルを掲載)

詳細導線 Step.1

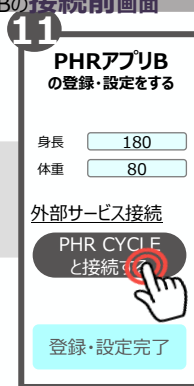
ユースケース紹介
(ログイン後)
画面ID:5-2



PHRアプリB
TOP
基盤とPHRアプリBの
接続前画面



PHRアプリB
設定画面
登録・設定をする



PHR事業者
利用開始
画面ID:6-4



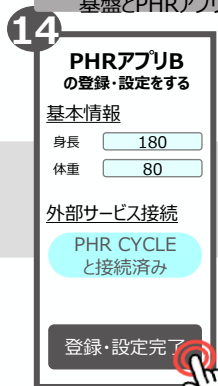
オプトイン画面(同意画面)

この画面では、PHRアプリBのデータを
基盤に提供することへの同意および
PHRアプリBが参画するすべてのユースケースへの
データ提供への同意を一括取得する

PHR事業者
連携完了モダール
画面ID:6-6



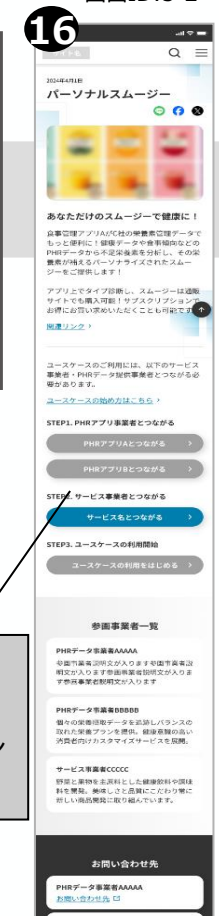
PHRアプリB
設定画面
基盤とPHRアプリBの
接続後画面



PHRアプリB
設定完了
接続後画面



ユースケース紹介
(ログイン後)
画面ID:5-2



⑨ユースケース紹介画面は、
PHRアプリ全件との接続完了済みの
状態のため、サービスアプリとの接続ボタ
ンのみ活性状態となる

ユースケース一覧、ユースケース紹介・利用開始、オプトイン (4/4)

基盤(PHR CYCLE)画面
サービス事業者が保有する画面
 ※事業者ごとに異なる/サンプル

詳細導線 Step.2

Step.3

ユースケース紹介
(ログイン後)
画面ID:5-2

サービスアプリ
TOP
基盤とサービスアプリの
接続前画面

サービスアプリ
設定画面
サービスXXX
の登録・設定をする

サービス事業者
利用開始
画面ID:6-1

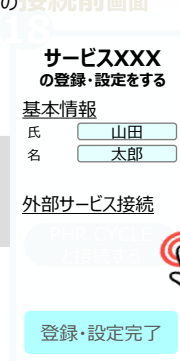
サービス事業者
連携完了モダル
画面ID:6-3

サービスアプリ
設定画面
基盤とサービスアプリの
接続後画面

サービスアプリ
設定完了
サービスXXX
登録・接続が
完了しました!

ユースケース紹介
(ログイン後)
画面ID:5-2

ユースケース
利用開始



基盤からサービス事業者提供アプリ
へのデータ提供への同意を取得する
※データの例: ユーザの基盤への
ログインID情報など

ユースケース紹介画面は、
PHR/サービスアプリ全件との
接続完了済みの状態のため、
ユースケース利用開始ボタンが
活性状態となる(利用開始できる)

目次

1. はじめに	-----	p.3
2. 本事業の目的	-----	p.7
3. 推進にかかるコンセプト	-----	p.12
4. 本事業の実施計画	-----	p.16
5. PHR事業者・サービス事業者の公募	-----	p.27
6. ユースケース検討	-----	p.40
7. 情報連携基盤の構築	-----	p.62
8. 機運醸成イベントについて	-----	p.131
9. 実証イベントについて	-----	p.143
10.映像・展示企画について	-----	p.165
11.UCCTにおける議論事項	-----	p.191
12.各事業遂行上の課題について	-----	p.224
13.まとめ	-----	p.236

8. 機運醸成イベントについて

機運醸成イベント・サマリー

- 2024年10月8日にPHR事業展望発表会を開催し、メディア、事業者、有識者等141名が参加。本事業紹介の他、大阪・関西万博での展開および創出ユースケース10件の概要発表を行った。

<p>目的</p>	<p>産業内の事業者側、および国民（エンドユーザー）双方に対し、25年4月より開催される万博やその後の、PHRサービスのさらなる社会実装（“自然と健康になれる社会”を実現するPHR）に向けての機運を醸成する。</p>		
	<p>広報ターゲット別</p>	<p>to Business (ヘルスケア産業内の事業者)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本事業の推進内容・進捗状況（創出されつつあるユースケース）およびビジョン（万博での展開・その後の目指す姿）を示し、産業内の将来的なPHRユースケース創出に向け、PHRサービスのニーズの高まりや具体的なユースケースを見せ、PHRサービス開発の検討の機会を創出する
		<p>to Consumers (国民・サービスのエンドユーザー)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本事業で創出しているユースケースをエンドユーザー目線で具体的に示し、万博で体験できるユースケースへの期待を醸成し、PHRサービスへの関心を高める
<p>参加者</p>	<p>登壇者</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主催側：経済産業省／事務局 事業者側：各ユースケース1-2名（ユースケースの説明員・広報担当者） ゲストスピーカー：PHRサービス事業協会、PHR普及推進協議会 他 	<p>招致プレス</p> <ul style="list-style-type: none"> 報道関係者 20～30名 ※事前登録制 経済紙・ビジネス・ヘルステック媒体全国紙記者 医療業界専門紙の記者、健康情報誌の編集者・ライターなど
<p>日時・会場</p>	<ul style="list-style-type: none"> 10月8日（火）10:30-12:30 / アクセンチュア・イノベーション・ハブ東京（東京都港区三田一丁目4番1号 住友不動産麻布十番ビル8F） 		
<p>実施内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主催者スピーチ：「経済産業省によるPHR社会実装加速化事業について」 基調講演：「日本におけるPHRの課題と今後の展望」 万博展開の発表：「大阪・関西万博におけるPHR展開」 ユースケース紹介：「ユースケースのご紹介：より豊かな生活・体験を未来にひろげるPHRサービス」 パネルディスカッション：「PHRのビジネスポテンシャル」 質疑応答・個別取材：個別インタビュー、展示ブース 		

イベント開催概要

【名称】 “自然と健康になれる社会”を実現するPHR事業展望発表会

～経済産業省と民間事業者が創出するPHRユースケースとプロジェクト全体概要／大阪・関西万博への展望～

【日時】 10月8日（火） 10:30～12:30（受付開始10:00）

【会場】 アクセンチュア・イノベーション・ハブ東京（東京都港区三田一丁目4番1号 住友不動産麻布十番ビル8F）

	時間	所要時間	コンテンツ内容
1	10:30～	14分	主催者スピーチ／「経済産業省によるPHR社会実装加速化事業について」
2	10:44～	15分	★基調講演／「日本におけるPHRの課題と今後の展望」
3	10:59～	6分	万博展開の発表／「大阪・関西万博におけるPHR展開」
	11:05～	3分	転換
4	11:08～	20分	ユースケース紹介／「ユースケースのご紹介：より豊かな生活・体験を未来にひろげるPHRサービス」
	11:28～	2分	転換
5	11:30～	20分	★パネルディスカッション／PHRのビジネスポテンシャル
6	11:50～	10分	質疑応答
7	12:00～	30分	個別取材／個別インタビュー、展示ブース

露出結果サマリー

- 経済・業界メディアを中心に、イベント由来の露出は、TV/新聞/雑誌/WEB媒体で25件あった。
- 事業者広報との連携による露出の最大化を行い、露出結果は合計332件となった。

イベント由来の露出媒体一覧

※2024年11月11日時点
※ハイライトは転載記事。

No.	カテゴリ	媒体種	媒体名	媒体社名
1	経済	TV	ワールドビジネスサテライト	テレビ東京
2	建築	新聞	建設工業新聞	日刊建設工業新聞社
3	工業	新聞	化学工業日報	化学工業日報社
4	化粧品・日用品	雑誌	国際商業	国際商業出版
5	化粧品・日用品	雑誌	国際商業	国際商業出版
6	建築	雑誌	Housing Tribune Vol.692	創樹社
7	経済	WEB	共同通信	共同通信社
8	経済	WEB	OVA (オーヴォ)	共同通信社
9	オールジャンル	WEB	GZNews	エキスプレス
10	経済	WEB	Cubeニュース	キューブ・ソフト
11	オールジャンル	WEB	ガジェット通信	東京産業新聞社
12	オールジャンル	WEB	StartHome	キングソフト
13	オールジャンル	WEB	tokyochips	エキスプレス
14	オールジャンル	WEB	gooニュース	NTTドコモ
15	オールジャンル	WEB	dメニューニュース	NTTドコモ
16	オールジャンル	WEB	NEWS Collect	ノアドット
17	建築	WEB	Housing Tribune Online	創樹社
18	経済	WEB	News Picks	ユーザーベース
19	経済	WEB	Business Journal	メディアバックアップ
20	工業	WEB	化学工業日報	化学工業日報社
21	オールジャンル	WEB	マイライフニュース	ヒューマン・データ・ラボラトリ
22	オールジャンル	WEB	livedoor ニュース	ライブドア
23	経済	WEB	THE OWNER	日本M&Aセンターホールディングス
24	化粧品・日用品	WEB	国際商業ONLINE	国際商業出版
25	化粧品・日用品	WEB	国際商業ONLINE	国際商業出版

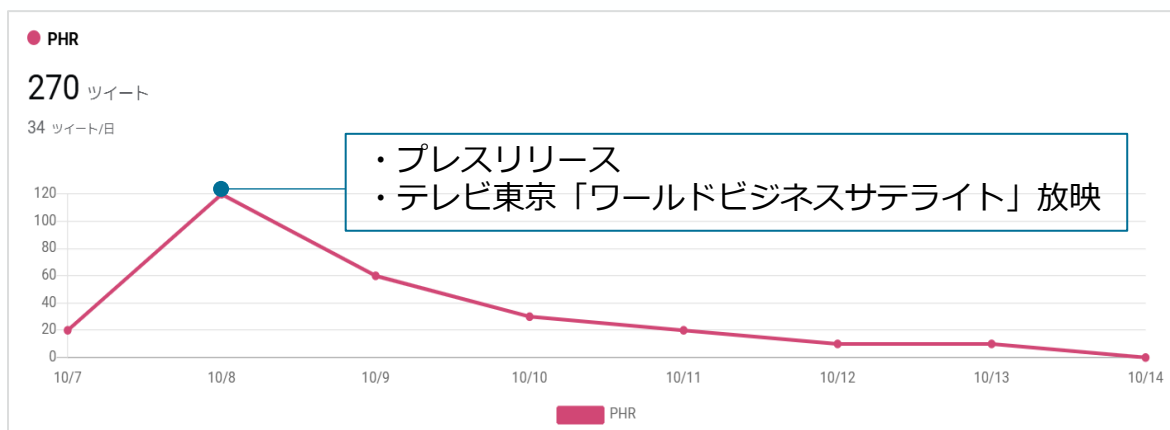
前回までのプレスリリースとの露出比較

	4月8日配信 公募開始 リリース	5月16日配信 採択結果 リリース	10月8日配信 ユースケース 発表リリース
EXPO-PHR 広報事務局	47件 (元記事：1件、 転載：46件)	46件 (元記事：2件、 転載：45件)	65件 (元記事：17 件、転載：48 件)
事業者広報	—	175件 (元記事：16 件、転載： 159件) ※事業者11社よ り11件のプレス リリース発信	267件 (元記事：16件、 転載：251件) ※事業者14社よ り18件のプレス リリース発信
合計	47件	221件	332件

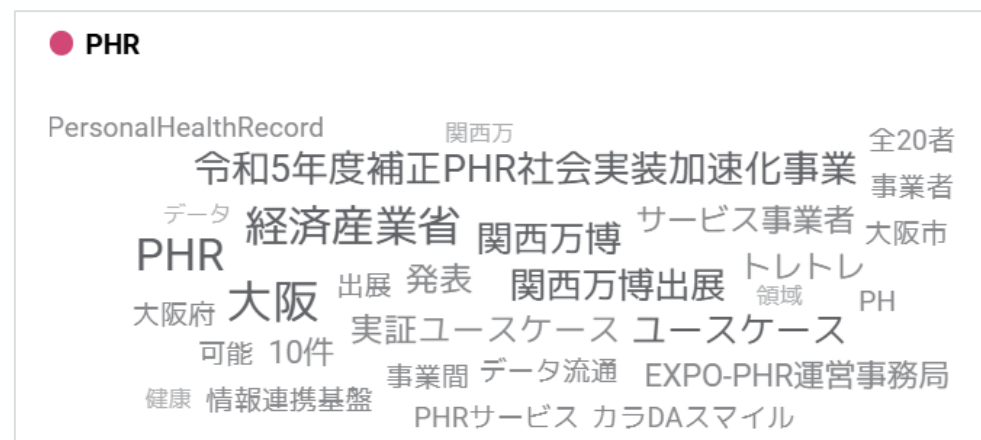
効果分析：PHRキーワードの露出

- 10月8日は事業関係者の発信に加えTV放送もあり、Xでの投稿数はPHR関連で約120件。
- PHRの共起ワードは、「関西万博」「経済産業省」「ユースケース」などプレスリリースの内容から想起されるものが多くあがった。

Xでの「PHR」検索結果



「PHR」共起ワード



データ出典：ソーシャルリスニングツール「Insight Intelligence Q」

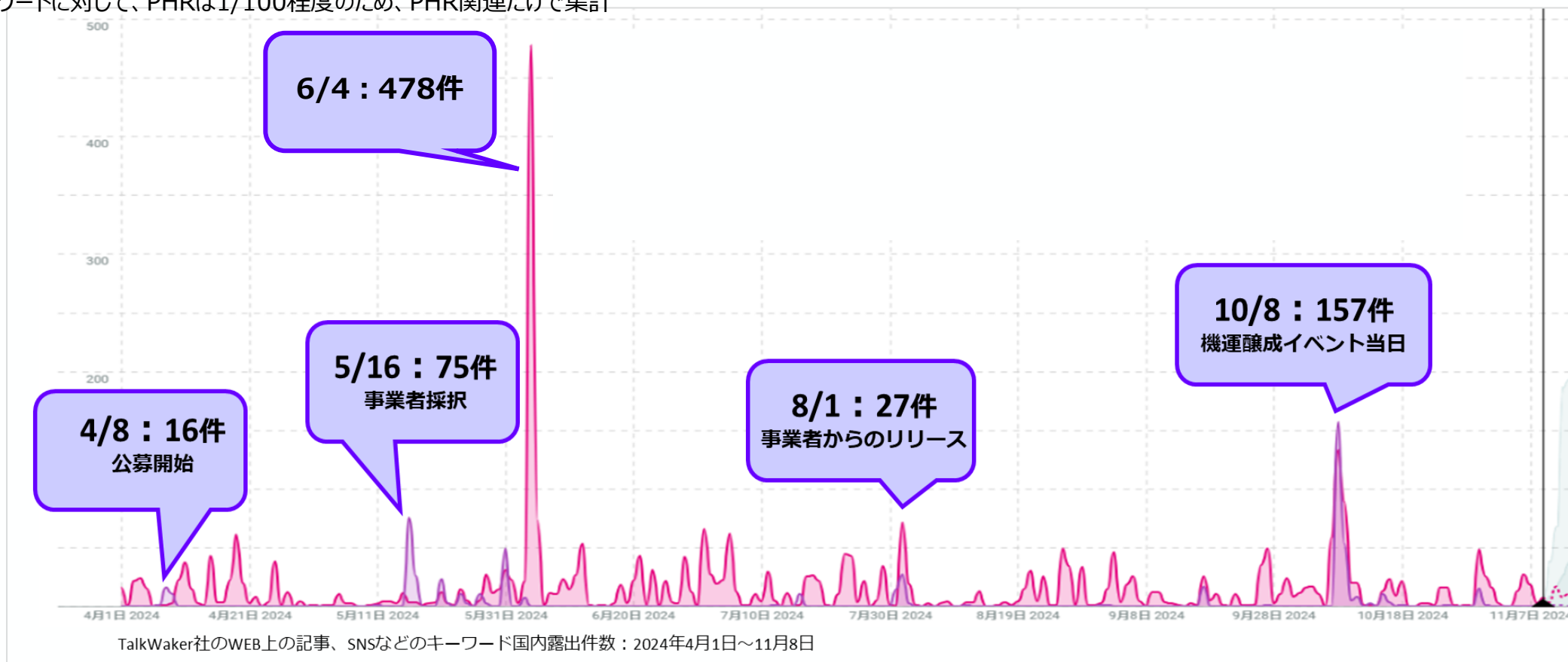
集計期間：2024年10月7日～10月14日

効果分析：キーワード検索件数（時系列の露出）

- PHRのキーワード検索において、公募開始からの7か月間で2番目に大きな露出件数を獲得

キーワード：「PHR」（ピンク） / 「PHR社会実装加速化事業」（紫）

万博のキーワードに対して、PHRは1/100程度のため、PHR関連だけで集計



イベントの成果

- 機運醸成イベントにおける本事業広報活動に対しての成果は以下の通り。

	評価項目	得られた成果
1	目的の達成度	<ul style="list-style-type: none"> TV、新聞・通信、雑誌、WEBでの露出でビジネス層へ推定100万人以上にリーチし、本イベントの広報ターゲットへのPHRサービス社会実装の機運醸成が達成した。 オールジャンル系メディアでのイベント内容を網羅するレポート記事の露出により、経済産業省、有識者、PSBA、PHRC、事業者の取り組みを一般層（国民・サービスのエンドユーザー）に向けて紹介でき、PHRサービスへ関心を高める土壌を築けた。
2	イベントプログラムの内容	<ul style="list-style-type: none"> プログラム全体のバランス、発表内容とともにメディアから評価が高く、基調講演やユースケースの紹介、パネルディスカッションについては内容が具体的で記事化に役立つとの評価を得られた。 事業者のイベントプログラム（ステージ登壇・展示ブースの設置）の参画により、事業者側での広報発信への意欲が高まり、事業者発信による広報活動での露出の最大化が実現できた。複数の事業者が参画する事業としての一面を見せられ、PHRの将来的な期待感を醸成できた。 展示ブースへの個別取材枠では各メディアが直接取材できたことで、PHRサービスが具体的に可視化され、メディア露出内容が具体的になり、露出拡大につながった。
3	事業者広報の相乗効果	<ul style="list-style-type: none"> 事業者側の広報協力により、建築・工業・食品・化学系の専門媒体への記事化につながり、業界に向けて事業者の取り組みやユースケース概要、万博展開についての告知ができた。 プレスリリーステンプレートやオフィシャル写真など広報キットの充実により、14事業者からの同時プレスリリースで267件のイベント内容も網羅した良質な記事露出が事業者発で実現。
4	万博に向けた広報の成果	<ul style="list-style-type: none"> イベント準備段階から事業者側のユースケース単位での万博展開の検討が進み、事業全体としての万博への解像度が上がった。 公募開始以降最も多い露出を獲得し、「PHR」に関する露出件数も2番目に多い結果となり、一般には認知が低かった「PHR」普及促進に寄与し、PHR活用のユースケースを体験できる万博への期待感を高めた。

今後の課題

- 機運醸成イベントで築いた土壌を活かしつつ、以下の課題について、万博直前期の25年3月～6月の広報活動では、万博に絡めた国民向け広報を強化する。

	論点	課題	検討方針
1	広報ターゲット	<ul style="list-style-type: none"> 今回のイベントではビジネス系メディアの露出が大半となり（読売新聞など一般紙もイベントに参加したが露出につながらなかった）ため、一般国民向け広報の強化が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 万博直前期の各事業者のユースケースがさらに具体化されたタイミングに、万博で体験できるユースケースにフォーカスした広報活動を、事業者広報と連携し、一般国民向け活動を強化する（プレスイベント/ペイド記事など）。
2	メディアアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> 今回は新聞・雑誌は専門誌の露出が中心だったため、WEBへの拡散も期待される一般層向けの紙媒体（新聞および雑誌）へのアプローチ強化が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> アプローチすべき媒体（新聞および雑誌）を特定し、各事業者の広報と連携して、その媒体にフィットする情報提供など質の高いメディアアプローチを行う。 万博開催地関西でのメディアアプローチ・発信をより強化する。
3	PHR事業の社会実装加速化	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトが推進中のため、メディアが必要とする具体的な成果や効果を一部しか示せてないため、PHRサービスのメリットや使い方などエンドユーザー視点での訴求が不足。 	<ul style="list-style-type: none"> ユースケースが完成した万博直前期には、事業者として伝達したい内容ではなく、エンドユーザー視点でのストーリー/素材/コンテンツを充実させたプレスリリースの作成を行い、メディアアプローチを行う。 ユースケースの進捗と連携し、事業者発の情報発信や個別取材の機会を創出する。

制作物一覧 1/2

当日使用物として、以下の資料等を制作。

① 進行台本



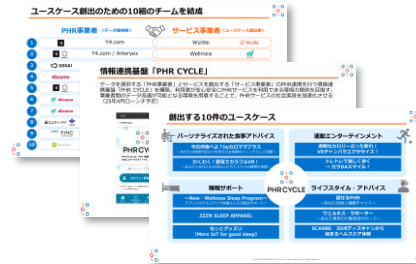
- ・ イベント進行のロジ資料

② 運営マニュアル



- ・ イベント進行のサブ資料

③ 投影資料



- ・ 経産省様パートの投影資料
及び全体進行用のスライド

④ 取材要綱



- ・ 当日次第、留意事項、オフィシャル素材格納先などを掲載

⑤ 参加者媒体リスト

メディア	種別	種別名	担当者名	所属	人数	性別	カメラ	マイク	心音計	心電計
1	TV	朝日	山本	朝日放送	1	●				
2	TV	朝日	丸山	朝日放送	4					
3	ラジオ	朝日	丸山	朝日放送	1					
4	ラジオ	朝日	丸山	朝日放送	1					
5	ラジオ	朝日	丸山	朝日放送	1					
6	ラジオ	朝日	丸山	朝日放送	1					
7	ラジオ	朝日	丸山	朝日放送	1					
8	ラジオ	朝日	丸山	朝日放送	1					
9	ラジオ	朝日	丸山	朝日放送	1					
10	ラジオ	朝日	丸山	朝日放送	1					

- ・ メディアの社名、記者氏名、カメラ種別の一覧

⑥ プレスリリース



- ・ METI-EXPO広報事務局発行のプレスリリース

⑦ 事後アンケート



- ・ イベントへの意見・改善点の収集を目的としたアンケート (Googleフォームで収集)

⑧ ユースケースポスター



- ・ ポスター及びA4サイズ出力資料

制作物一覧 2/2

当日使用物として、以下の資料等を制作。

⑨メディアリスト



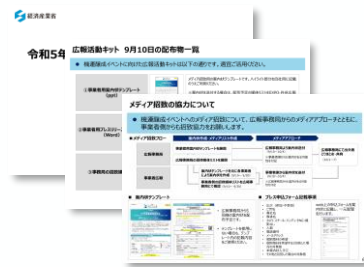
- 誘致メディアの一覧

⑩案内状



- メディア誘致用の取材案内状

⑪事業者向け広報ガイドライン



- 事業者の広報ルールとメディアへの案内協力依頼

⑫想定問答集



- メディアからの想定質問と回答の一覧

⑬露出一覧

日時	会場	出演者	内容	備考
10月10日	東京	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
10月11日	大阪	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
10月12日	名古屋	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
10月13日	福岡	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
10月14日	札幌	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
10月15日	仙台	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
10月16日	広島	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
10月17日	岡山	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
10月18日	徳島	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
10月19日	高松	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
10月20日	松山	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
10月21日	高知	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
10月22日	香川	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
10月23日	愛媛	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
10月24日	高松	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
10月25日	高松	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
10月26日	高松	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
10月27日	高松	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
10月28日	高松	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
10月29日	高松	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
10月30日	高松	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇

- イベントに加え、広報事務局・事業者のリリースの露出一覧

⑭活動報告書



- 振り返り、今後の戦略を含めた本報告書

目次

1. はじめに	-----	p.3
2. 本事業の目的	-----	p.7
3. 推進にかかるコンセプト	-----	p.12
4. 本事業の実施計画	-----	p.16
5. PHR事業者・サービス事業者の公募	-----	p.27
6. ユースケース検討	-----	p.40
7. 情報連携基盤の構築	-----	p.62
8. 機運醸成イベントについて	-----	p.131
9. 実証イベントについて	-----	p.143
10.映像・展示企画について	-----	p.165
11.UCCTにおける議論事項	-----	p.191
12.各事業遂行上の課題について	-----	p.224
13.まとめ	-----	p.236

9. 実証イベントについて

実証イベント：実施目的

- 実証イベントについては、基盤を介したPHRの連携によるユーザー体験・付加価値提供・将来的なレガシー検討に向けた示唆を得ることが必要。
- 実施方法について、**基本的には全ユースケース一括**で実施することとし、ユースケース特有の事情により一括実施が困難な場合は、**例外的に個別実証**を認める運用で実施。

イベント実施趣旨

- 成果発表・展示に近い環境下で、情報連携基盤を介したPHRデータの連携によるユーザー体験・付加価値の質を検証し、今後のあるべきユースケース像の解像度を上げる。
- 実証したユースケースの事業化に向けて、事業者視点からの成果、課題等の示唆を得る。

イベント実施内容

(実施内容)

- 各事業者からの成果報告、実証体験、それに対するユーザーからのフィードバック 等

実証の到達条件

(実証の到達条件)

- 情報連携基盤を介したPHRデータの連携（オプトインを含む）が問題なく行われること。
- 経済産業省ご担当者様にて、実際のサービス、商品提供等の体験ができること。

実施方法

1

全ユースケース
一括で実施

- 課題
- ユースケース特有の事情により、一括実施が困難な事業者の対応
 - 実証に係る準備負担

2

ユースケース別に
個別で実施
(NTTDX、グリーンハウス、LIXIL、ワコール、)

- 確定検査対応の遅れに懸念
- 事業としての一体感が薄れる（全事業者で集まる場がない）
- 他のユースケースとの比較、比較による示唆の獲得が困難

- 実施方法について、左記のとおり全ユースケース一括で実施する場合において、個別対応が必要な事業者がいる。
- 他方、ユースケース別に個別で実施する場合、検収の工数が別途発生し、確定検査の報告リードタイムに懸念が生じること等が懸念される。

- 上記を踏まえ、折衷案として、**基本的には全ユースケース一括で実施**することとし、ユースケース特有の事情により一括実施が困難な場合は、**個別実施の場合は、遠隔にて認める運用**で実施

イベント実施概要

- 基盤を介したPHRの連携によるユーザー体験・付加価値提供・将来的なレガシー検討に向けた示唆を得ることを目的に、本事業の総括として実証イベントを実施した。

目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報連携基盤を介したPHRの連携（オプトインを含む）が問題なく行われること。 ● 経済産業省ご担当者様にて、実際のサービス、商品提供等の体験ができること。 ● 万博展示におけるユーザー体験構築の準備となること。 		
名称	「令和5年度補正PHR社会実装加速化事業」実証イベント		
日時	2025年2月18日(火) 11:00～18:45	会場	「QUINTBRIDGE」（NTT西日本施設） 〒534-0024 大阪府大阪市都島区東野田町4-15-82
形式	現地＋オンライン開催（Teams）		
イベント内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 各事業者からの成果報告 ● ユースケース実証 ● ユースケースブラッシュアップのためのディスカッション 		参加者 133名の参加（遠隔参加含む） 内訳： <ul style="list-style-type: none"> ● 経済産業省：4名 ● 来賓：3名 ● 事務局弊社：20名 ● 運営（NTT西日本：5名、ADKマーケティングソリューションズ：2名） ● 事業者：67名 ● パネル：22名 ● 遠隔参加者：9名

イベントプログラム内容

		TIME	所要時間	配信有無	コンテンツ内容
	0	9:00-11:00	120分	—	開場/受付・ブース準備
オープニング	1	11:00-11:05	5分	ハイブリット	開会/本日の流れ説明
	2	11:05-11:15	10分	ハイブリット	主催者挨拶
コンテンツ① 活動報告	3	11:15-12:00	45分	ハイブリット	ユースケース毎に「実証事業報告書」にて報告
		12:00-13:00	転換：昼休憩、実証・パネル参加者受付（60分）		
コンテンツ② 実証	4	13:00-13:15	15分	ハイブリット	<ul style="list-style-type: none"> ・実証体験の流れ説明 ・「実証結果報告書」の発表（実証実施済のユースケース）
	5	13:15-16:30	195分	現地のみ	パネルのユースケース体験、ユーザー受入テスト
		16:30-16:45	転換：休憩、実証・パネル参加者退出（15分）		
コンテンツ③ ワークショップ	6	16:45-17:45	60分	ハイブリット	ワークショップ
クロージング	7	17:45-18:00	15分	ハイブリット	クロージング
	8	18:00-18:45	45分	現地のみ	懇親会

制作物一覧

- パネル実証および実証イベントにて使用した制作物は以下の通り。

① 運営マニュアル

「令和5年度補正PHR社会実装加速化事業」
【当日】2月18日(火) | 運営スケジュール

受付計画 | 概要

- イベント全体の運営資料

② 投影資料

「令和5年 本事業の主な取り組み」

新たなWEBサイト

- 経産省様パート及び全体進行用のスライド

③ 式次第

実証イベント 開催概要

ユーケース体験/ユーザー受入テスト 日程表

会場レイアウト

Wi-Fiについて

- 当日次第、プログラム、会場配置などを掲載

④ パネル向け操作説明資料

「令和5年度補正PHR社会実装加速化事業」
体験イベント会場のご案内

ご依頼事項

PHR CYCLEのアカウント作成 (1/3)

- 実証パネル向けの事前案内資料

⑤ パネル向けアンケート

「令和5年度補正PHR社会実装加速化事業」
体験イベント会場のご案内

アンケート

- 実証パネルの体験ユースケースへの満足度・意見収集を目的としたアンケート

⑥ イベントレポート記事（公募サイト）

「令和5年度補正PHR社会実装加速化事業」
体験イベント会場のご案内

イベントレポート

<https://phr-expo-data-utilization.meti.go.jp/news/YCVF9vXS>

事業者作成資料

- 実証イベントにて事業者側が準備／記載した書類は以下の通り。

① 実証事業報告書

- 実証事業の活動報告としてイベント内で事業者から発表

② 実証内容確認書

- どのような実証を実施するのかを内容記載

③ 検証視点

カテゴリ	検証視点	確認方法	
1	データ関連	データの連携が問題なく行えているか (ユーザー視点/システム観点)	サービス体験開始前/白紙で確認等 ※確認方法の詳細は別添付資料を参照してください
2	データ関連	データの連携が問題なく行えているか (ユーザー視点/システム観点)	サービス体験開始前/白紙で確認等 ※確認方法の詳細は別添付資料を参照してください
3	サービス挙動	PHRを起動し、サービスアプリが起動し、問題なく動作しているか	サービス体験前/白紙で確認
4	体験評価	ユースケースに対するユーザーの実証後評価はどの程度か	体験/事後フォロー事後アンケートより確認
5	体験評価	PHR活用前/後のアンケートに回答したか	体験/事後フォロー事後アンケートより確認
6	万博関連	万博特設展示のオペレーションが万博会場/レガシー上の連携等	サービス体験前/白紙で確認
7	レガシー	特設展示/社会実装に合わせた課題や状況	実証実施を受けて考察
8	XXX	【その他検証視点をご自由に設定して記載ください。書ききれない場合は備考欄でください。】	XXX
9	XXX	【その他検証視点をご自由に設定して記載ください。書ききれない場合は備考欄でください。】	XXX

- 実証において検証すべき視点を記載。必須項目と任意項目で構成

④ 実証結果報告書

- 実証結果の報告資料。検証視点と合わせて、データ関連・サービス挙動・ユーザー体験評価・万博レガシー関連・その他の項目で報告

エグゼクティブサマリー

実証の成果：パネルアンケート結果（ユーザー視点）

- 本事業のユースケース体験に対して総じて高評価。PHR CYCLEは期待の声も多数あるが、IDデータ連携の手間を指摘する意見も一定数存在。またPHR提供に抵抗感を持つユーザーも一部いるため、安全性の伝達も必要。

	評価項目	調査結果	今後の打ち手
ユースケース評価	ユースケース満足度	<ul style="list-style-type: none"> 本事業で創出したユースケースに対して体験者の約9割が満足（満足+やや満足計）と回答しており高い評価が見られた。 どのユースケースも8-10割の満足度となっており、一定の高い評価が得られている。 約9割が「面白さ・興味深さ」「今後も利用したい」と感じた一方、「お金を払ってでも利用したい」と感じた人は半数程度にとどまる結果となった。 	<p><万博まで/万博期間中></p> <ul style="list-style-type: none"> 全体的にユースケース満足度は高いものの、体験者から各ユースケースの改善点は多数挙がっているため、各事業者には体験者の意見を参考としながら、万博期までの対応策を検討をいただく<事業者> 一部PHR提供へ懸念を感じるユーザーも存在するため、PHR CYCLEの安全性を伝えるコンテンツ作成を検討する<事務局> ※本ページ下部「安心感を感じる要素」参照 <p><レガシーフェーズ></p> <ul style="list-style-type: none"> 課金しても利用したいと感じる更なる付加価値創出の工夫が求められる<事業者>
	PHR活用への意見	<ul style="list-style-type: none"> ユースケース体験を自身のPHRで行った体験者の約8割が、PHRを活用したパーソナライズのメリットを感じている。また、PHR提供へ抵抗感を示した人は2割弱にとどまる。 ユースケース体験により「PHR自体への理解/興味関心が高まった」「健康への意識関心が高まった/普段の健康習慣を変えたい」という意見も約8割となり、本ユースケース体験がPHRの普及や国民の健康意識向上に寄与する可能性が示された。 	
	改善点	<ul style="list-style-type: none"> 体験者からユースケース個別の改善点が挙げられており、万博期までの対応が求められる。 	
PHR CYCLE評価	利用開始手続きについて	<ul style="list-style-type: none"> ユースケースの利用開始手続きについてスムーズと回答した人は約4割。ユースケース毎にスムーズさの評価は異なり、各ユースケースでの導線の見直しも求められる。 	<p><万博まで/万博期間中></p> <ul style="list-style-type: none"> PHR CYCLE/万博期WEBサイト内でのアプリ連携手順説明や各ユースケースでのUI改善を検討<事業者/事務局> PHR CYCLE訴求時には認証システムやデータの使用用途の明確さ、経産省主導等の情報をコンテンツに盛り込む<事務局> <p><レガシーフェーズ></p> <ul style="list-style-type: none"> ユースケースコンテンツ拡充による充実化
	継続利用意向	<ul style="list-style-type: none"> 継続利用意向は約半数。自由回答では、便利そう/健康へのメリットが高そう/今後のコンテンツ増加等への期待が見られた。 一方で、手間がかかる・使いにくい/現時点で判断できない等の意見も一定数存在。 	
	安心感を感じる要素	<ul style="list-style-type: none"> PHR CYCLEの安心感を感じる要素としては「認証システムがある」「データの使用用途が明確」が評価。「経産省が関わっているサービスである」も次いで高い。 	

実証の成果：実証結果報告書サマリー（事業者視点） 1/7

- データ連携は概ね問題なく実施された。PHR活用によるユーザー体験向上など成果がある一方、データ連携の可視化や手順の簡略化・明確化などユーザーの負担を軽減し、離脱を防ぐ仕組みの検討が必要。

検証視点	得られた成果	課題や気づき	万博期までの打ち手
<p>1</p> <p>データの連携が問題なく行えているか (ユーザー観点/システム観点)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● データ連携は概ね問題なく行えた ● 連携のスムーズさが確認された (API連携速度が速く、ユーザー体感としても遅延が少なかった) ● PHRデータが正しく反映された (健診データの活用や健康スコア・健康リスクの一致を確認) ● 一部のユーザー体験向上が見られた (ゲーム内で有利に戦えたなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ● データ連携がスムーズにいかないケースがあった <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前準備時にトラブル ・ アカウントの誤案内 ・ 特定アプリでのデータ取得不具合など ● 問い合わせ先が明確でない場合があった <ul style="list-style-type: none"> ・ ユーザーが問題発生時にどこへ問い合わせるべきか不明瞭 ● システム面の調査・運用整備の必要性 <ul style="list-style-type: none"> ・ トラブル時の調査状況を迅速に把握できるようにする必要あり ● UI・情報提示の改善の必要性 <ul style="list-style-type: none"> ・ 連携状況を可視化する仕組み、連携できない際のエラーメッセージ表示など ● 手順が複雑な場合、ユーザーの離脱リスクがある <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要なステップが多く、スムーズな体験を妨げる可能性 	<p><事業者側対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ● データの自動連携などスムーズな連携の検討 ● データ連携がうまくいかない場合の運用ルールを明確化 (FAQの整備、問い合わせ先の明確化) ● エラーメッセージや案内表示の工夫 (未連携の場合の明確な表示) ● 問い合わせ対応の運用整備 (万博時の問い合わせ体制など) <p><事務局対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ● PHR CYCLE/万博期WEBサイト内でのアプリ連携手順を掲示。

実証の成果：実証結果報告書サマリー（事業者視点） 2/7

- データ蓄積は概ね問題なく実施された。データを効果的に活用できたという成果がある一方、データ蓄積の可視化やユーザー側での入力負担減、データ蓄積の動機付けなど、利用継続してもらう仕組みの検討が必要。

検証視点	得られた成果	課題や気づき	万博期までの打ち手
<p>2</p> <p>データの蓄積が問題なく行えているか（ユーザー観点/システム観点）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● データの蓄積は概ね問題なく実施された ● アプリ間のデータ連携も確認できた ● データを効果的に活用できた ● データ蓄積を補助する仕組みが機能した（飛び入り参加者向けにAIスコアの代替アンケートを用意し、スムーズに体験提供） ● PHRを活用した新たなインサイトを得られた（睡眠データによるアドバイスの幅拡大、LLMの補完機能の効果確認） 	<ul style="list-style-type: none"> ● データ蓄積がうまくいかないケースが一部発生 <ul style="list-style-type: none"> ・ 特定アプリでデータ連携が難航 ・ オプトイン完了状況が不明瞭 ● データ蓄積のモチベーションを高める必要性 <ul style="list-style-type: none"> ・ 蓄積のメリットが分かりづらい ・ データ入力の手軽さが大きい ● 事前準備が不十分なユーザーへの対応が必要 <ul style="list-style-type: none"> ・ 未インストールや連携未完了のまま参加するケースへのフォロー ● データ蓄積の手順が煩雑 <ul style="list-style-type: none"> ・ アプリ連携や入力手順が多く、ユーザー負担が大きい ● データ取得のアナウンス方法の改善が必要 <ul style="list-style-type: none"> ・ データ未取得者への適切な連絡・通知方法の明確化 ● 万博後のデータ削除ルールの検討が必要 <ul style="list-style-type: none"> ・ PHR CYCLE退会時のデータ取り扱い 	<p><事業者側対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ● データ蓄積の可視化・通知強化（アプリから通知で蓄積を促進するなど） ● データ入力の手軽化（入力項目の簡略化、アプリ間自動連携強化） ● 未準備ユーザーへの対応策を確立（ユーザーサポート、代替手段） ● データ蓄積の動機付け・アナウンス <p><事務局対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ● データ削除・管理のルール・運用策定（万博終了後のデータ取り扱いについて詳細を詰める）

実証の成果：実証結果報告書サマリー（事業者視点） 3/7

- サービスアプリ・機器は概ね正常に動作した。本番環境（万博会場の通信環境・混雑状況）を想定した動作確認が必要。

検証視点	得られた成果	課題や気づき	万博期までの打ち手
<p>3</p> <p>PHRを取得したサービスアプリ・機器が問題なく動作してるか)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 各種サービス・機器は概ね正常に動作 ● PHRを基にしたレコメンド機能の有効性を確認（健診データを活用した指導、適切な対話体験） ● リアルタイムなPHR活用によるユースケース実証 ● ユーザー体験の向上につながる機能の実装・確認（アプリとの連携、パーソナライズされたアドバイスの提供） ● 複数のサービス・アプリ間のデータ連携が問題なく実施された ● 各種デバイスの動作確認ができた 	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境によりデバイスの動作が不安定になる可能性 <ul style="list-style-type: none"> ・ VRゴーグルの複数台連携 ・ ネットワーク環境による影響 ● PHRアプリ上で正しく結果表示されないケース発生 <ul style="list-style-type: none"> ・ VRゲームとの連携など ● 日々のPHR（睡眠・活動量）を活用しきれてない <ul style="list-style-type: none"> ・ 健診データは活用できたが、日常データはまだ不十分 ● UI/UX面での改善の余地あり <ul style="list-style-type: none"> ・ 読み込み中の表示がなく、意図したデータが出ているか分かりにくい ・ レシピ表示がフレームに収まらない ● テスト環境と本番環境の違いによる動作確認課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人混みや周囲の影響を考慮した事前テストが必要 	<p><事業者側対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ● デバイスの動作安定性向上と本番環境を想定したテストの実施（混雑時の通信環境、複数デバイスの同時使用を想定した動作確認） ● UI/UXの改善（読み込み中の表示追加、レシピ表示のフレーム調整など、視認性向上） <p><事務局対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 万博会場の通信環境・混雑想定などの情報を事業者に共有

実証の成果：実証結果報告書サマリー（事業者視点） 4/7

- ユーザー満足度は全体的に高く、PHR体験も好評。今後は体験前の工程の簡略化や一般ユーザーへの訴求強化が課題。

検証視点	得られた成果	課題や気づき	万博期までの打ち手
<p>4 ユーザーのユースケースの満足度評価およびその理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ユーザー満足度は全体的に高かった ● PHR活用のパーソナライズ体験が好評（食事レコメンド、睡眠アドバイス、健康行動のゲーム反映） ● 新規性や未来感を感じたユーザーが多かった（VR体験、PHR連携など） ● 健康意識を高めるきっかけとなった（PHRと連動した体験が、生活習慣の改善につながることを示唆） ● ユースケースの今後の発展可能性が示された（ヘルスケア関連のサービスへの関心を持つユーザー層の拡大が期待できる） 	<ul style="list-style-type: none"> ● PHRの活用範囲が限定的に感じられた <ul style="list-style-type: none"> ・一部のユーザーは既存のアプリと変化を感じにくかった ● 開始前の工程が多く、説明が長いことが不満要因 <ul style="list-style-type: none"> ・準備に時間を要し、体験までの負担が大きい ● VRや映像体験の技術的課題 <ul style="list-style-type: none"> ・処理落ちによる映像の見えづらさ ・複数デバイスの接続課題 ● 一般ユーザー向けの訴求が課題 <ul style="list-style-type: none"> ・既存のPHRユーザーには一定の満足度が得られたが、PHRに馴染みがない層にどう受け入れられるかが不明 	<p><事業者側対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 体験までの工程を簡略化・スムーズ化（説明の短縮、手順の見直し、ガイドの最適化） ● 技術的課題の解決 ● 一般ユーザー向けの訴求を強化（PHR未経験者でも楽しめる体験設計とマーケティングの検討）

実証の成果：実証結果報告書サマリー（事業者視点） 5/7

- 短時間の体験でもPHRによるパーソナライズを実感したという声が多数。一方でPHRの効果やどのように体験に反映されているのか分かりにくいケースもあり、アプリ上でのPHR効果の可視化やPHR活用のメリットなどの訴求が必要。

検証視点	得られた成果	課題や気づき	万博期までの打ち手
<p>5</p> <p>PHR活用ならではのパーソナライズされた体験提供ができたか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● PHRを活用したパーソナライズ体験は概ね提供できた <ul style="list-style-type: none"> ・ 「自分に適したメニューが提案された」「健康意識が高まった」などの声 ● 短時間の体験でもパーソナライズを実感する声が多数 <ul style="list-style-type: none"> ・ 特に睡眠やVRゲームの難易度変化などPHRを活用したレコメンドや行動変容の可能性を確認 ・ 栄養×睡眠、脳波データ×睡眠などの新たな組み合わせの提案 ● PHRによるパーソナライズメッセージの配信が成功 <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活習慣に応じたフィードバックの提供 ● データの掛け合わせで新たな価値創出 <ul style="list-style-type: none"> ・ 3Dボディデータ×食事管理 ・ 睡眠データ×住宅機器制御 	<ul style="list-style-type: none"> ● PHRの体験への反映が分かりにくい <ul style="list-style-type: none"> ・ データがどう活用されているのか明示がなく、パーソナライズを実感しにくい ● パーソナライズ効果を可視化する工夫が必要 <ul style="list-style-type: none"> ・ 体験後のバイタル変化や健康改善の可視化が求められる ● PHRを活用しきれていないケースがあった <ul style="list-style-type: none"> ・ 一部のデバイスやアプリで蓄積データを十分に反映できていなかった ● アドバイスの伝え方に工夫が必要 <ul style="list-style-type: none"> ・ ネガ表現の抑制、ポジティブフィードバック強化が必要 ● 変化を実感しにくい体験があった <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人で行う体験では何が変わったのか分かりにくい ● レコメンドのバリエーションが少ないと飽きる可能性 <ul style="list-style-type: none"> ・ 提供する提案の幅を増やし、長期利用を促進する必要 	<p>＜事業者側対応＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● PHRの活用ポイントを説明・可視化 ● パーソナライズの効果を可視化する機能を導入（バイタルデータの変化、健康スコアの推移などを分かりやすく表示） ● データ活用の最適化を進める（蓄積データをできる限り反映し、個別最適化を強化） ● アドバイスの伝え方を改善（ネガティブな表現を抑え、ポジティブな言い回しを強化） ● フィードバックの仕組みを工夫（リアルタイムで変化を感じられるよう、例えば「色が変わる」などの仕掛けを追加） ● レコメンドのバリエーションを増やし、継続的な体験を促進（食事提案の選択肢を増やす） <p>＜事務局対応＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● PHR CYCLEのメール配信機能をなどを活用し、ユーザーにPHR活用のメリットや各ユースケースのと特長などを訴求

実証の成果：実証結果報告書サマリー（事業者視点） 6/7

- 全ユースケースにて万博時を想定したオペレーションを実証できた。事前登録・連携の周知や未登録者への対応策、予約システムの運用体制構築、英語対応、問い合わせ体制・FAQ整備など、万博来場者の各ステップ（事前登録・蓄積・体験）に応じたユーザー対応マニュアルの策定が各ユースケースにて必要。

検証視点	得られた成果	課題や気づき	万博期までの打ち手
<p>6</p> <p>万博時を想定したオペレーションができたか／オペレーション上の課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 想定していたオペレーションが確認できた ● 事前登録・アプリ連携の重要性を再認識 <ul style="list-style-type: none"> ・ 登録済みユーザーの体験がスムーズだったため、万博時も事前周知が鍵 ● 待機時間の活用ができた <ul style="list-style-type: none"> ・ ユースケース説明動画の導入で、無駄なくオペレーションを進行 ● 予約システムの活用が有効と判明 <ul style="list-style-type: none"> ・ 3Dスキャナーなどの体験で予約制が必要と確認 ● 英語対応の必要性を認識 <ul style="list-style-type: none"> ・ 万博時は英語対応スタッフの準備が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ● 万博時は未登録ユーザー対応が必要 <ul style="list-style-type: none"> ・ その場でアプリDL・登録を求められるケースへの対策検討 ● 体験前の説明が長くなりがち <ul style="list-style-type: none"> ・ 動画説明の導入など工夫が必要 ● 予約システムの導入・運用ノウハウ不足 <ul style="list-style-type: none"> ・ 万博時は予約管理が重要だが、導入経験がない企業もあり ● 歩きスマホの安全対策が必要 <ul style="list-style-type: none"> ・ 屋外体験では安全上の問題を考慮する必要あり ● 一部機能の実施検証が未完了 <ul style="list-style-type: none"> ・ 3Dスキャナーの動作確認 ・ 服薬記録の登録ルール ● 問い合わせ対応・FAQの整備が必要 <ul style="list-style-type: none"> ・ 万博時は多くの質問が予想されるため、準備が必要 ● シニア層向けの配慮が必要と判明 <ul style="list-style-type: none"> ・ ターゲット層を考慮した説明方法の工夫が必要 	<p><事業者側対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 万博会場でのアプリ登録・ID連携対応策を準備（DL・登録に時間がかかる場合の代替案を用意） ● 体験前の説明の簡略化と体験時間の再設定（動画の活用・説明内容の改善・体験時間や予約枠を再定義する） ● 予約システム導入後の運用体制の整備 ● 体験者用の事前準備資料をさらに明確にしつつ最終化する ● 英語対応スタッフの配置（多言語対応） ● 歩きスマホのリスク対策（注意喚起の表示や、音声案内の導入を検討） ● 問い合わせ対応の準備（FAQの作成、問い合わせ先の明確化） <p><事務局対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 事前登録・連携の周知徹底（予約サイトや事前メール等の導線を整備し、アプリインストール・登録を促進） ● 予約システムの運用マニュアル等の作成（事業者向けに事前に説明会などを実施）

実証の成果：実証結果報告書サマリー（事業者視点） 7/7

- 将来的な社会実装に向けては、PHRによるパーソナライズ体験の可能性をパネル体験により確認できたことに加えて、サービスの拡張やデータ連携によるシナジー、体験の楽しさによる利用意欲などポジティブな気づきが見られる。
- 今後は、PHRの活用範囲の拡大やユーザーの負担軽減、継続利用促進の仕組み化の検討が必要。

検証視点	得られた成果	課題や気づき	レガシーフェーズに向けた打ち手
<p>7 将来的な社会実装に むけた課題や気づき</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● PHRを活用したパーソナライズ体験の可能性を確認 <ul style="list-style-type: none"> • 食事・睡眠・運動データの組み合わせによる新たな気づきや行動変容の促進 ● レコメンドの有効性を確認 <ul style="list-style-type: none"> • ユーザーに適した提案を行うことで、健康意識の向上や行動変容を促す可能性 ● サービスの拡張性が示唆された <ul style="list-style-type: none"> • デリバリー連携 • 香り・振動機能の追加 • エンタメ領域との連携 ● PHRのデータ連携・掛け合わせによるシナジーの可能性を確認 <ul style="list-style-type: none"> • 3Dボディデータ×食事管理 • 脳波データ×睡眠 ● 体験の楽しさや継続利用の意欲を引き出せる可能性を確認 	<ul style="list-style-type: none"> ● PHRデータの活用範囲を広げる必要性 <ul style="list-style-type: none"> • 飲食店・メニュー提案にとどまらず、デリバリーや実店舗との連携も重要 ● レコメンドのエビデンス強化が必要 <ul style="list-style-type: none"> • 提案の効果をもたらすのかを可視化し、信頼性を向上させる ● データ入力の手間が課題 <ul style="list-style-type: none"> • PHRの手動入力が煩雑で、UXの向上が求められる ● リアルタイムデータの活用が不十分 <ul style="list-style-type: none"> • 睡眠や活動データの取得頻度が少なく、即時フィードバックができない ● 社会実装に向けたビジネスモデル確立が必要 <ul style="list-style-type: none"> • データのマネタイズや利用者の拡大戦略が未確立 ● サービス継続の仕組みが不足 <ul style="list-style-type: none"> • 体験後もユーザーが継続して活用できるような仕組みが必要 	<p><事業者側対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ● PHRの活用範囲を拡大（デリバリー連携、住宅機器との連携、医療・介護分野への応用などを検討） ● レコメンドのエビデンスを強化（行動変容データの収集・分析などを検討） ● データ入力の負担を軽減（音声入力や自動連携機能を導入し、手入力を最小化） ● 継続利用を促進する仕組みの構築（体験後もユーザーが自分の健康目標に向けて継続できるサポート機能の開発） ● マネタイズに向けた価格設定・サブスクなどビジネスモデルの確立（データ提供のマネタイズ、BtoB/BtoCの収益構造の明確化）

実証体験者（パネル）アンケートサマリー

体験パネルアンケート 概要

- 体験パネルのユースケース体験後にWEBアンケートによるユーザー調査を実施

【調査期間】 2025年2月12日（水）～ 2025年2月21日（金） ※ユースケースによってアンケート回収期間は異なる

【調査手法】 ユースケース体験後、WEBアンケート形式にて回収

【調査対象者】 ユースケース体験パネル計100名 ※10ユースケースの体験パネルの合計人数

※体験パネルは各ユースケースで準備（事業者の社員およびインターン生等の関係者）

共通設問

- アンケート同意取得
- 回答者のお名前
- ＜①ユースケース評価＞
- ユースケース 満足度
- ユースケース 満足度理由（自由回答）
- ユースケース 要素別評価
- ダミーデータ利用有無
- ユースケースでのPHR活用への意見
- PHRが活用されているメリット（自由回答）
- ユースケースでのPHR活用による意識変化
- ユースケースの印象
- ユースケースの改善点（自由回答）
- ＜②PHR CYCLE関連＞
- PHR CYCLE 印象評価
- PHR CYCLE デザインへの好感度理由（自由回答）
- PHR CYCLEへの意見
- PHR CYCLE「利用準備がスムーズに行えた」理由（自由回答）
- ＜③フェース項目＞
- 性別
- 年代
- お住まい
- PHRサービス利用経験
- 運動頻度
- 食事に気を使っているか
- 睡眠に気を使っているか

オリジナル設問

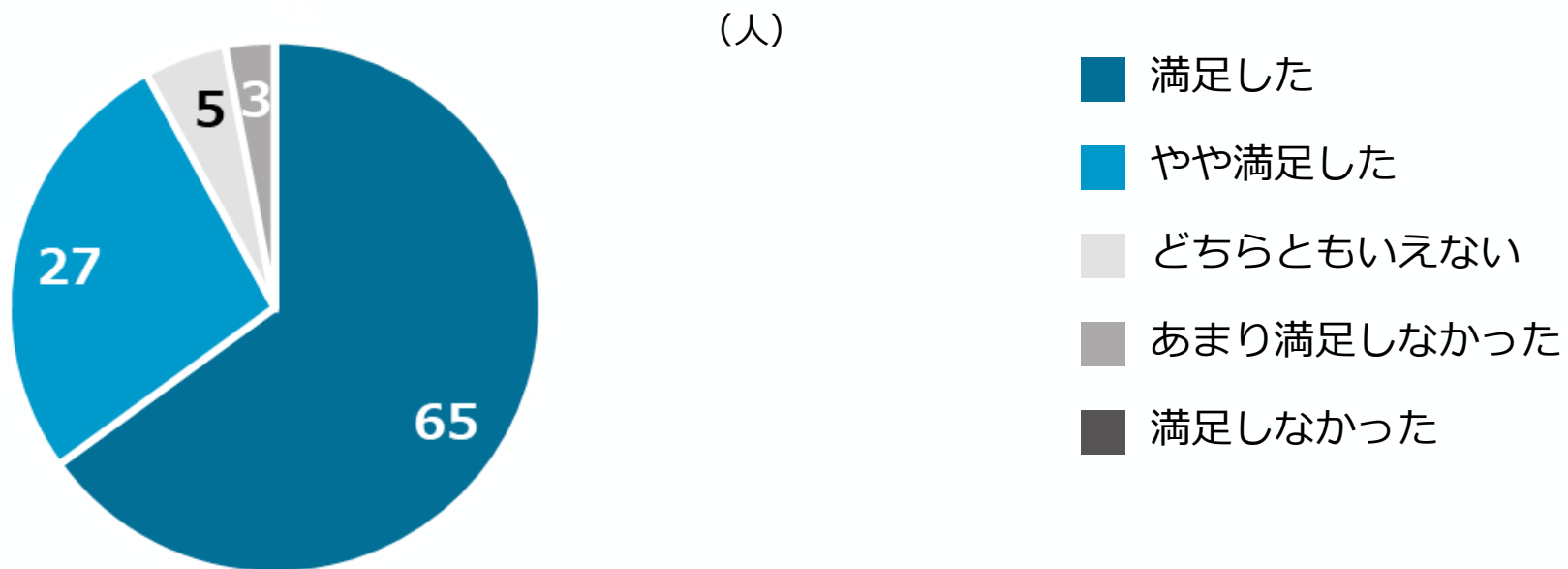
- 各事業者で個別に設定する設問
- ※別途ローデータにて事業者へデータ提供

+

ユースケース満足度（※10ユースケース合算）

- 本事業で創出した10ユースケースを体験いただいた合計100名に対して満足度を聴取。
- 回答者100名のうち92名が満足（満足65人／やや満足27人）と回答しており、本事業で創出したユースケースは総じて満足度が高い結果となった。

Q.あなたは体験したユースケースにどの程度満足しましたか。



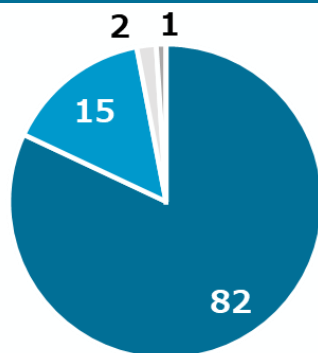
ユースケース 要素別評価（※10ユースケース合算）

- 「面白さ・興味深さ」「今後も利用したい」を高く評価した回答者が多数。一方、「お金を払ってでも利用したい」と感じた回答者は半数程度にとどまる結果になった。

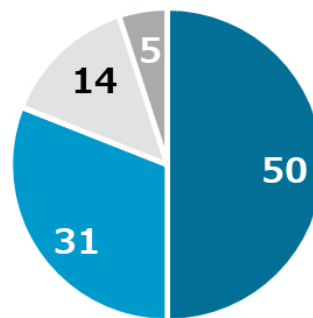
Q.あなたが体験したユースケースの以下の点について、どの程度感じましたか。

(人)

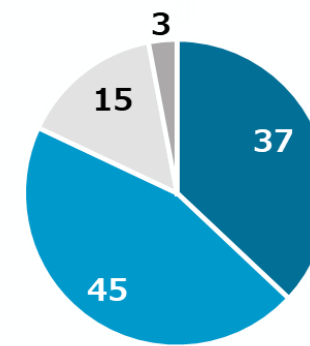
面白さ・興味深さ



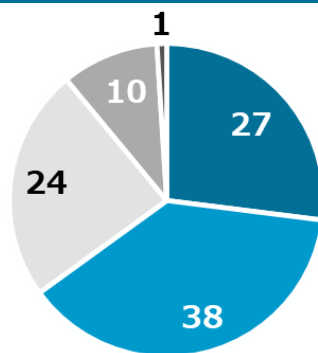
新規性



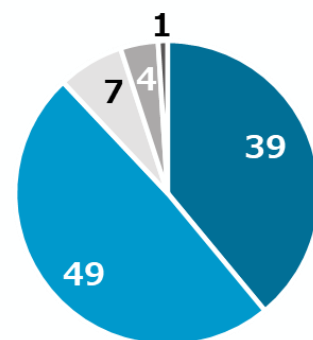
将来的な商品化・ビジネス化への期待



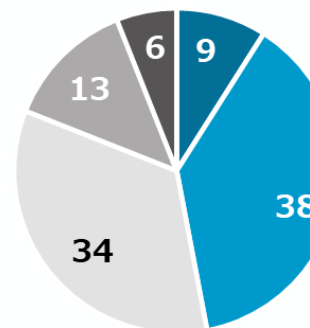
インターフェースの使いやすさ



今後も利用したいと感じたか



お金を払ってでも利用したいか



■ 感じた ■ やや感じた ■ どちらともいえない ■ あまり感じない ■ 感じない

ユースケースでのPHR活用への意見（※10ユースケース合算）

- 回答者の約8割が「パーソナライズされた体験と感じた」「PHR活用のメリットを感じた」と回答。
- 回答者の約6割がPHRを提供することに抵抗を感じないと回答（そう思わない38名／あまりそう思わない22名）

Q. ご体験いただいたユースケースでは、「PHR(Personal Health Record)」(=個人の健康データ)を活用しています。

あなたはユースケースを体験し、以下の点についてどの程度そう思いましたか。

※PHR（Personal Health Record）とは、健康診断情報をはじめとする、体重・血圧・血糖値等の情報やウェアラブルデバイスやセンサー機器等で取得される食事・運動・睡眠等の情報です。

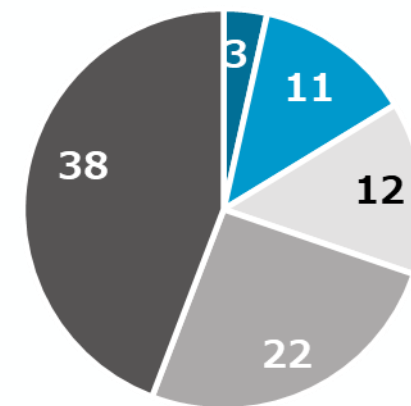
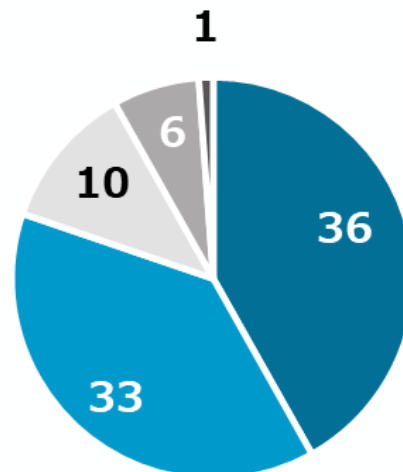
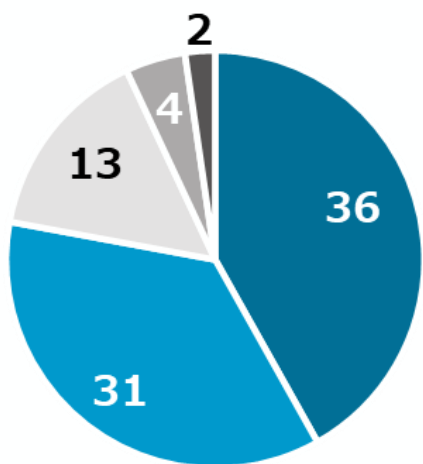
回答者ベース：「自分のPHR（健康データ）を利用して体験を行った」「一部ダミーデータを使用して体験した」人

（人）

自分の健康状態に合ったパーソナライズされた体験ができたと感じた

ユースケースにPHRが活用されているからこそ得られるメリット・良さが感じられた

PHRを提供することに抵抗を感じた

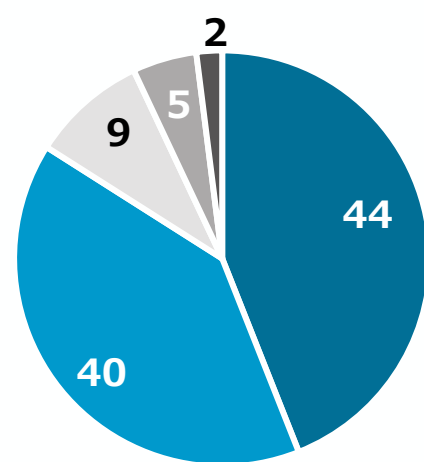
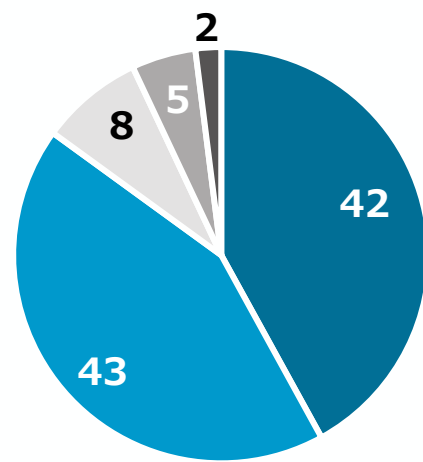
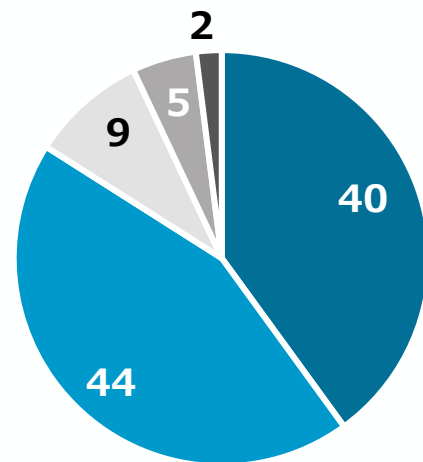
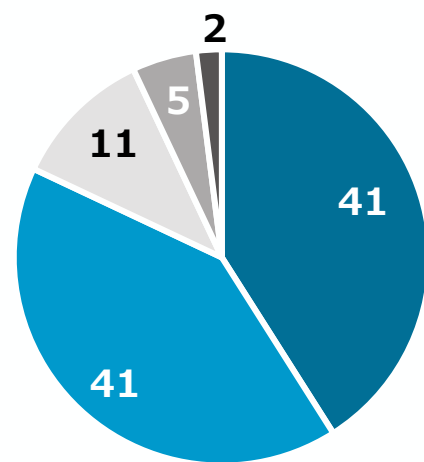


■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない

ユースケースでのPHR活用による意識変化（※10ユースケース合算）

- 本ユースケースを通して「PHR自体への理解／興味関心が高まった」人は約8割。さらにユースケース体験を通して「健康への意識関心が高まった／普段の健康習慣を変えたい」という意見も8割以上となった。

Q.ご体験いただいたユースケースでは、「PHR(Personal Health Record)」(=個人の健康データ)を活用しています。あなたはユースケースを体験し、以下のPHR自体やご自身の健康意識についてどの程度そう思いましたか。
 ※PHR（Personal Health Record）とは、健康診断情報をはじめとする、体重・血圧・血糖値等の情報やウェアラブルデバイスやセンサー機器等で取得される食事・運動・睡眠等の情報です。
 (%)



■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない

目次

1. はじめに	-----	p.3
2. 本事業の目的	-----	p.7
3. 推進にかかるコンセプト	-----	p.12
4. 本事業の実施計画	-----	p.16
5. PHR事業者・サービス事業者の公募	-----	p.27
6. ユースケース検討	-----	p.40
7. 情報連携基盤の構築	-----	p.62
8. 機運醸成イベントについて	-----	p.131
9. 実証イベントについて	-----	p.143
10.映像・展示企画について	-----	p.165
11.UCCTにおける議論事項	-----	p.191
12.各事業遂行上の課題について	-----	p.224
13.まとめ	-----	p.236

10. 映像・展示企画について

- ① 成果発表・展示企画にかかる事業計画書・展示設計書 --- p.167
- ② 成果発表・展示企画にかかる映像 --- p.182

大阪・関西万博における経産省PHR事業のアクションプラン

- 経済産業省は「PHR連携が生み出す、新時代のウェルネス体験」として、来場者に「食事・運動・睡眠」等の分野においてユースケース体験を提供。「健康とウェルビーイングウィーク」（2025年6月20日～7月1日）と連動する形で実施予定。

タイトル	<ul style="list-style-type: none"> ■ (日本語) PHR連携が生み出す、新時代のウェルネス体験 (英語) Unlock a new wellness era with PHR data utilization
実施目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大阪・関西万博の場を活用し、国民にPHRを用いたサービス体験を提供し、PHRの周知およびサービス普及を促進し、ヘルスケア産業の発展に寄与する。
展示内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ 経済産業省は、「自然に健康になれる社会」の実現を目指し、体重、血圧、血糖値などの情報やウェアラブルデバイスで取得される個人の健康データ=PHR（パーソナル・ヘルス・レコード）を活用したサービス創出を図る「PHR社会実装加速化事業」を推進。万博会場では、事業に参画する20事業者による「運動・食事・睡眠」などの新しいサービスを体験いただき、自身の健康データを活用した未来の健康社会の可能性を実感いただくことができる。
展示期間	<ul style="list-style-type: none"> ■ テーマ（ウィーク）：健康とウェルビーイング ウィーク ■ テーマ（問い）：『一人ひとりのウェルビーイングが共鳴する社会をどう実現するか？』 ■ テーマ領域：感染症対策、ウェルビーイング、ゲノム医療、再生・細胞医療・遺伝子治療、PHR、健康寿命、SBNR、安全な水とトイレ など

万博展示コンセプト

- 実証事業の基本コンセプトを受けた万博展示コンセプトは下記の通り。展示コンセプトを基に展示体験や空間デザインの設計を行う。

実証事業コンセプト

基本コンセプト

PHRで可能性がひろがる未来へ

事業者・生活者ともに開かれた環境でさまざまな健康データがつながる。新たに生み出される商品/サービスが、より豊かな生活・体験を未来にひろげていく。

< 3つのキーワード >

安心・共有
Open

事業者・生活者ともに開かれた環境で、個人に紐づく健康データを安心して利用できる社会へ。

つながる
Connect

データとサービスがつながる。事業者同士がつながる。日々の健康や医療と、生活者の日常がつながるサービスへ。

ひろがる未来
Future

サービスが生まれ、ひろがる。データによる体験がひろがる。事業者・生活者ともに可能性がひろがる未来へ。

<https://phr-expo-data-utilization.meti.go.jp/>

展示コンセプト

PHRによってひろがる未来が体験できる場所

サービス事業者・PHR事業者・生活者がPHRでつながり、暮らすだけで、自然と健やかになる未来のPHRが体験できる展示。

Open

経済産業省（事業主体）・事業者（ユースケース提供）・生活者（来場者）がオープンに対話できる。

Connect

経済産業省（事業主体）・事業者（ユースケース提供）・生活者（来場者）が連携し合い、FLE/メッセ/PHR CYCLEも一体となる。

Future

事業者がユースケースを通じてPHRがもたらす未来の生活を示し、来場者がPHRによる未来の生活を体験できる。

展示スペース概要：メッセ

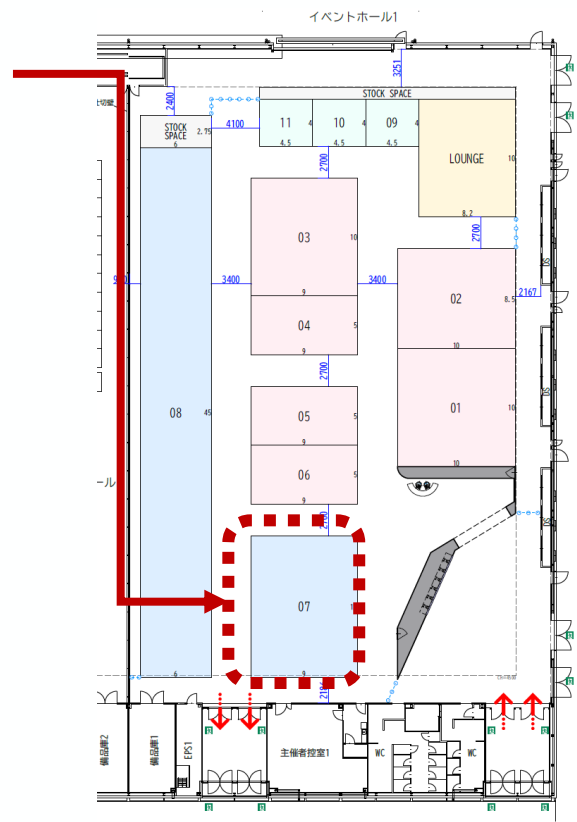
- メッセ会場内の108㎡のスペースを利用して展示を行う。
- 会期は、2025年6月21日（土）～6月29日（土）9日間を予定。

2025年大阪・関西万博
「健康とウェルビーイング」ウィーク
HEALTH DESIGN

07：縦12m×横9m＝108㎡

01	再生・細胞医療・遺伝子治療	100 ㎡
02	障害者自立支援機器等開発促進	85 ㎡
03	認知症バリアフリー	90 ㎡
04	日本の先進的な医薬品等の情報発信	45 ㎡
05	介護ロボット等テクノロジーの普及	45 ㎡
06	ユニバーサル・ヘルス・カバレッジって大事だね！	45 ㎡
07	PHRを活用した万博体験	108 ㎡
08	次世代医療機器等の体験コーナー	270 ㎡
09	-	18 ㎡
10	-	18 ㎡
11	-	18 ㎡

合計 842 ㎡



建築概要	鉄骨造 屋内型展示場
展示面積	4,000㎡(2分割使用/各2,000㎡)
展示場サイズ	間口 約72m/奥行 約56m/高さ 約6m(中央間仕切り部分は約3.5m)
展示場照明	平均400lx
最大収容人員	3,000人(2分割使用時 各1,500人)
設備概要	●放送設備 ●給排水設備 ●床下ピット ●吊下げ用フック
付帯設備	催事主催者用事務室

※2024年10月10日インフォーマ発信版

※大阪・関西万博にかかる展示企画の検討に際し、FLE展示の会場敷設・主たるデザインに関する権利は大阪・博覧会協会が、メッセ展示の同様の権利はインフォーママーケットジャパン社がそれぞれ有しています。これらに関連する図面や情報は、各権利者に帰属し、これらを無断で複製、転用、販売、配布することを禁じます。

展示スペース概要：FLE

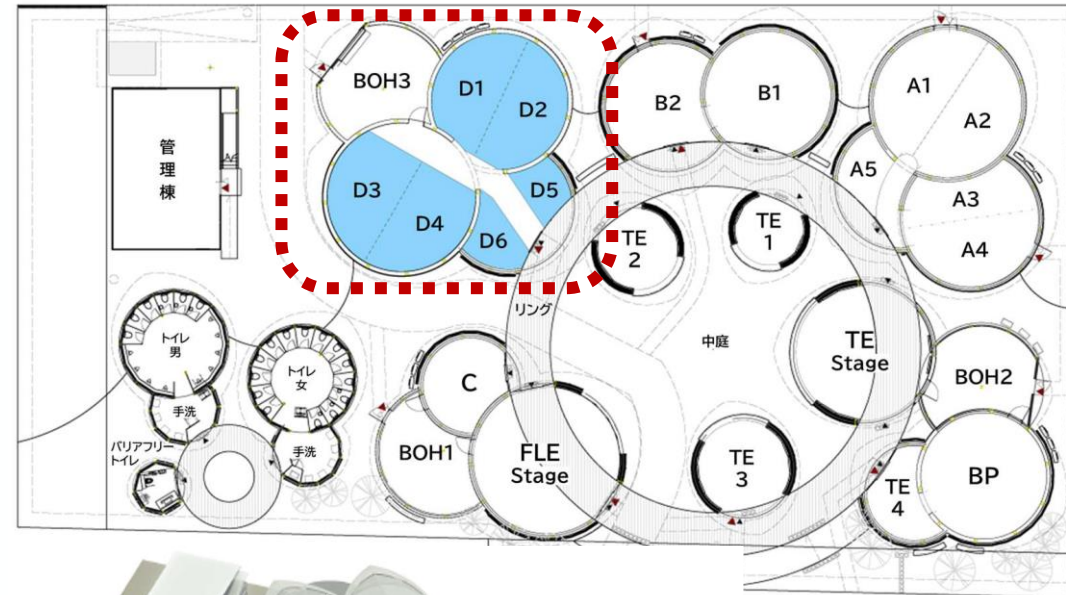
- FLEのD1~6スペースを利用して展示を行う。
- 会期は2025年6月24日（月）～7月7日（月）14日間を予定。

フューチャーライフエクスペリエンス (FLE) 期間展示エリア

D1~D6：149m²

※白い部分は通路のため設置不可

展示建屋番号	用途
A1- A4, B1-B2, C	フューチャーライフエクスペリエンス(FLE)常設展示エリア
D1-D6	フューチャーライフエクスペリエンス(FLE)期間展示エリア
TE1-TE4	「TEAM EXPOパビリオン」(TEP)展示エリア
TE Stage	「TEAM EXPOパビリオン」(TEP)ステージ
FL5 Stage	フューチャーライフエクスペリエンス (FLE)ステージ
BP	ベストプラクティス(BP)展示スペース
BOH1, BOH2	テクニカル機器関連、備品類の倉庫、ステージ前の準備スペースとしての役割を担います。
BOH3	貸出仕物の収納スペース及び、開催期間中の荷物受取場所となります。



※FLE期間展示展示装飾ガイドライン ver.1.5
2024/10/29 発信版

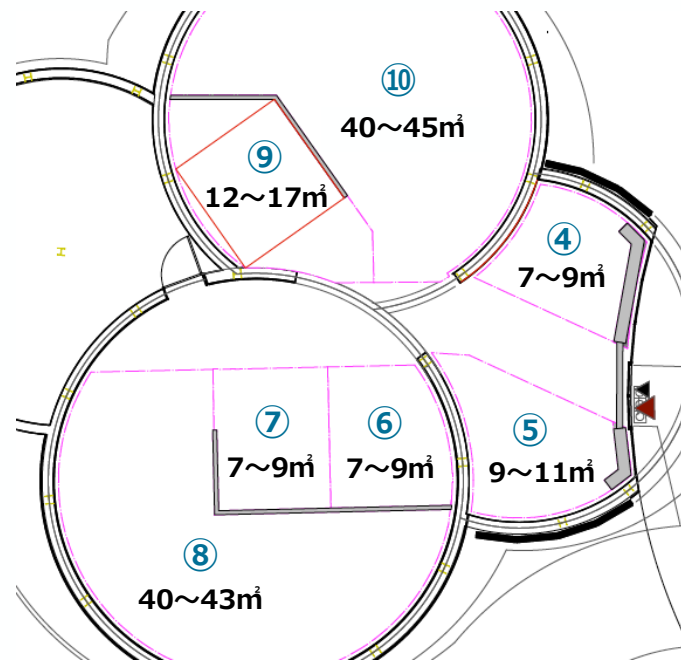
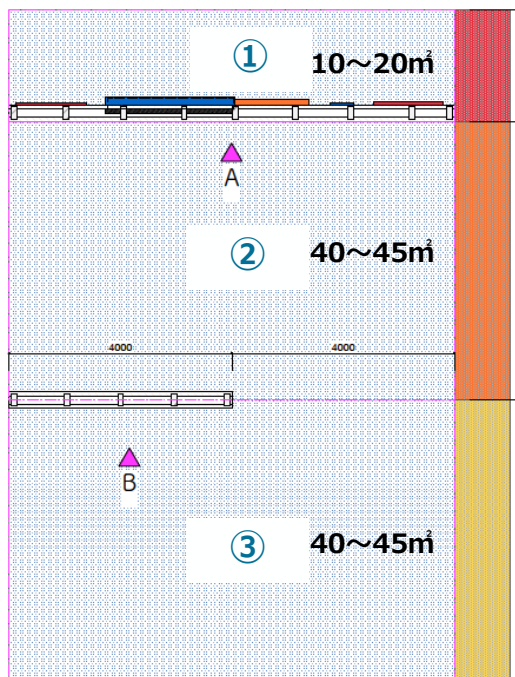
※大阪・関西万博にかかる展示企画の検討に際し、FLE展示の会場敷設・主たるデザインに関する権利は大阪・博覧会協会が、メッセ展示の同様の権利はインフォーマーマーケットツジャパン社がそれぞれ有しています。これらに関連する図面や情報は、各権利者に帰属し、これらを無断で複製、転用、販売、配布することを禁じます。

展示スペース配置案：メッセ/FLE

- 経産省の事業関連展示と事業者ユースケースのスペース配置は以下の通り。

メッセ
2025/6/21 (金) ~6/29 (日)

FLE
2025/6/24 (火) ~7/7 (月)



※各スペースサイズ/形は今後、最終化のため調整が入ることがあります。

#	ユースケース名	事業者
①	経済産業省事業展示	—
②	SCANBE 3Dボディスキャンから始まるヘルスケア体験	ワコール・asken
③	もっとグッスリ (More IoT for good sleep)	LIXIL・FiNC Technologies・沢井製薬
④	経済産業省事業展示 ・ ウェルネス・サポーター ~あなた専用の行動変容サポート~ ・ ~New・Wellness Sleep Program~アプリとホテルステイで栄養士による眠活サポート!	・ WizWe・Y4.com ・ グリーンハウス・Y4.com・Arteryx
⑤	話せるPHR Mirrored Body®~あなた自身と健康チャット~	サステナブルパビリオン2025・Wellmira・NTTドコモ
⑥	今日何食べよ? byカロママプラス	Wellmira・Arteryx・Y4.com
⑦	トレトレで楽しく歩く→カラDAスマイル!	リアルワールドゲームス・エムティーアイ・大阪府
⑧	ZZZN SLEEP APPAREL	NTT DXパートナー・SOXAI
⑨	VRチャンバラエクササイズ! 過剰なカロリーぶった斬れ!	ジーン・Wellmira・NTTドコモ
⑩	わくわく! 野菜でカラフルVR! ~あなたとあなたの大切な人たちがミライの健康を実践~	カゴメ・NTTドコモ

FLEステージ：開催概要

FLE展示期間中のステージ開催概要

FLE開催期間：2025年6月24日（火）～7月7日（月）
※メッセ開催期間：2025年6月21日（金）～6月29日（日）

<経済産業省のFLEステージ出展日程>

■ 日程

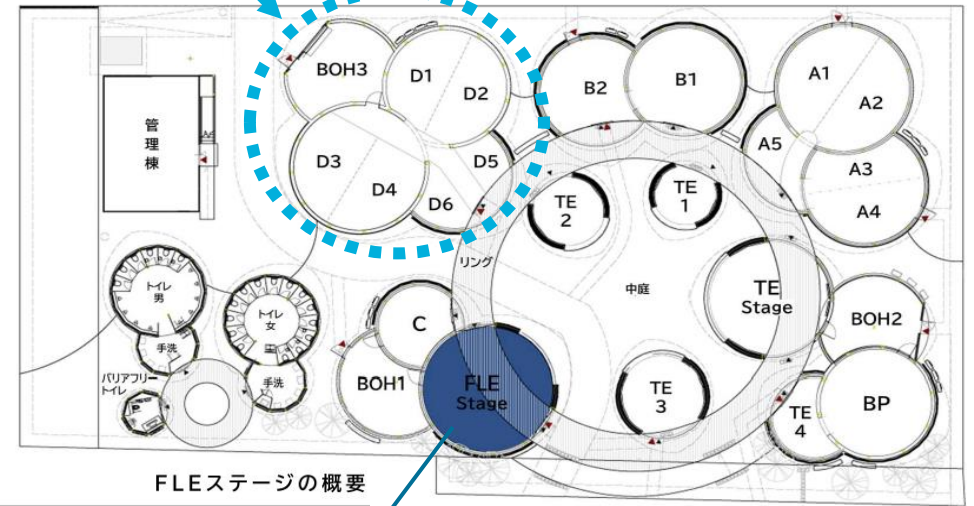
- 2025年6月24日（火）
- 2025年6月25日（水）
- 2025年7月1日（火）
- 2025年7月2日（水）

■ 時間枠

- ① 10時～12時
- ② 13時～15時
- ③ 15時～17時

上記日程時間のうち8枠（16時間相当）が本事業にて出展可能な枠になります。

経済産業省PHRゾーン



FLEステージの概要

改訂 2024.10.29

■ FLEステージ イメージパース



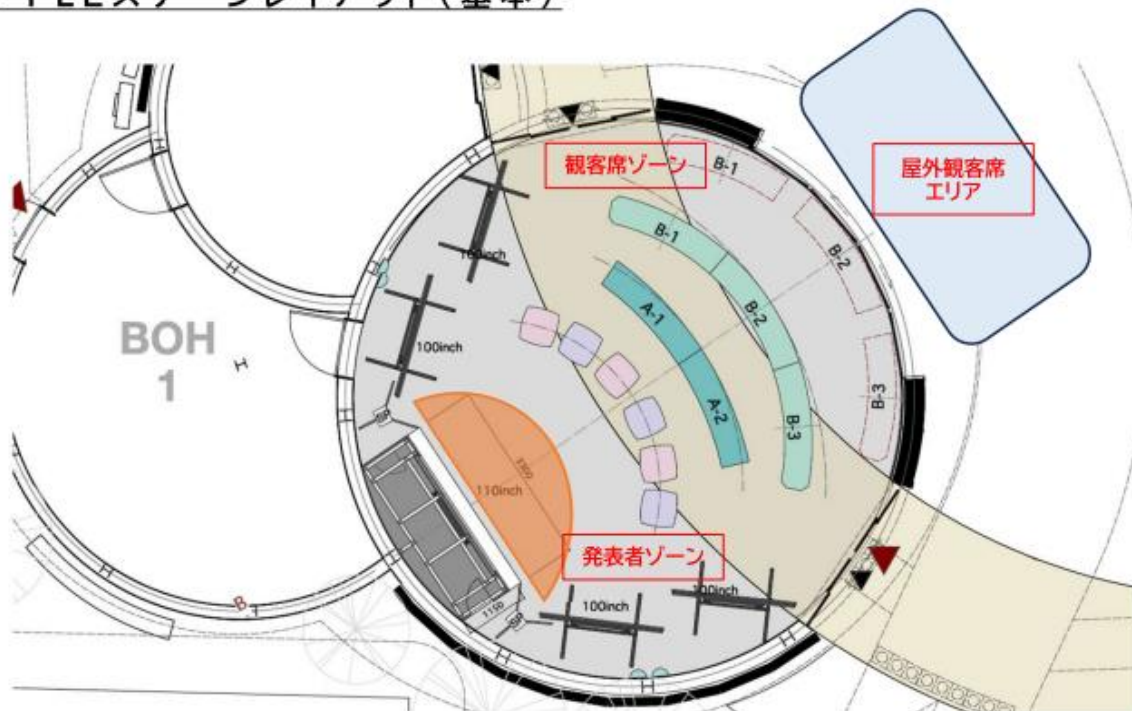
※企画段階でのイメージです。今後変更になる可能性がございます。

ステージは自由に人が出入りできるオープン型で、観客数が最大でも20名程度の小規模なステージになります。

FLEステージ：ステージレイアウト

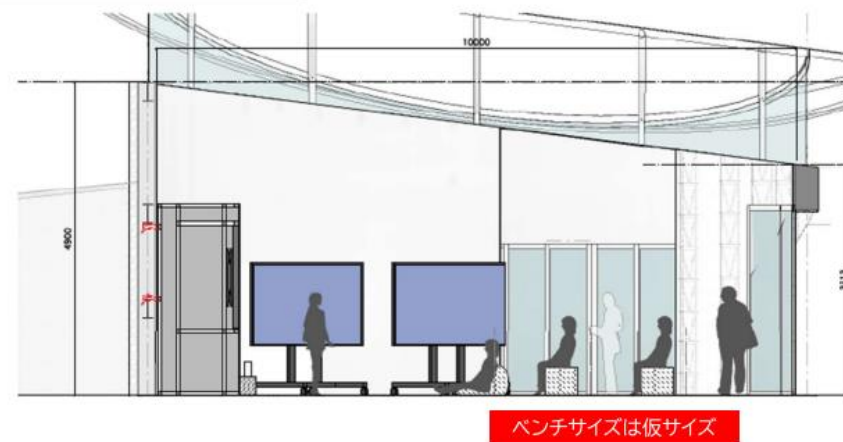
FLEステージのレイアウトと収容人数は以下の通り

■ FLEステージレイアウト(基本)



常設家具として、(Co-Design Challenge 協賛物品)として、
 ・ビーズクッション 6台
 ・2~3人掛けベンチ(可動式) 5台
 を用意しております。
 レイアウトの変更は可能
参加者自身による追加の椅子などの持ち込みは禁止

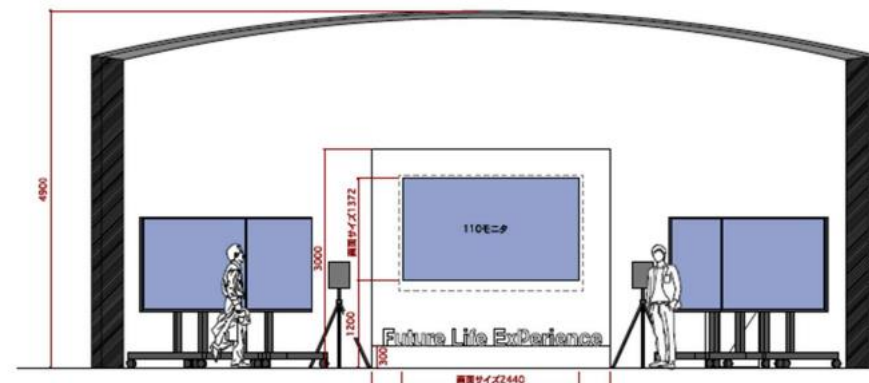
■ FLEステージ立面図



■ FLEステージ 想定収容人数

ビーズクッション着席人数 6名
 ベンチ着席人数 10~15名程度
 立見人数(FLEステージ建物内) 20名程度

■ FLEステージ正面図



展示体験設計：考え方

- 環境的制約を踏まえながら、以下のように展示コンセプトに基づき本事業としての体験設計を行った。

環境的制約・課題

- テーマウィーク/メッセ/FLEの会期が異なり、かつ万博会場内でも距離があるため、来場者の体験が分散する。
- メッセ/FLEでは、施設ごとの特性および異なる展示・デザインレギュレーションがあり、共通化しづらい。
- 経産省スペースは、事業者による複数のユースケースの混在があり、スペース全体でのメッセージ性が薄れる可能性がある。

体験設計の考え方

- **OPEN**：より多くの人々が体験できるように開かれた空間設計、導線設計に配慮する。
- **CONNECT**：経済産業省および事業者によるユースケースの一体感をつくる
- **FUTURE**：PHRによる自然と健康になる未来の体験価値をつくる

メッセ

「HEALTH DESIGN」の複数の展示を回遊する目的の来場者を
経産省スペースに確実に誘引するため、

入り口を複数設けるオープン型で、
あらゆる方向からの流入を可能にし、さらには
経産省スペース内の回遊を促す体験設計。

FLE

入り口が一つしかない経産省の期間展示に興味を引き付け、
入場を促すため、

エントランスでの「映像体験」で眼を引き付け、
そこから繋がる「ユースケース体験」の流れに引き込む
体験導線をつくる。

展示全体のコンセプトボード（キービジュアル）

- 展示全体の空間デザインのコンセプトボード（キービジュアル）。共通部分の装飾などは下記のトーン & マナーで展開した。

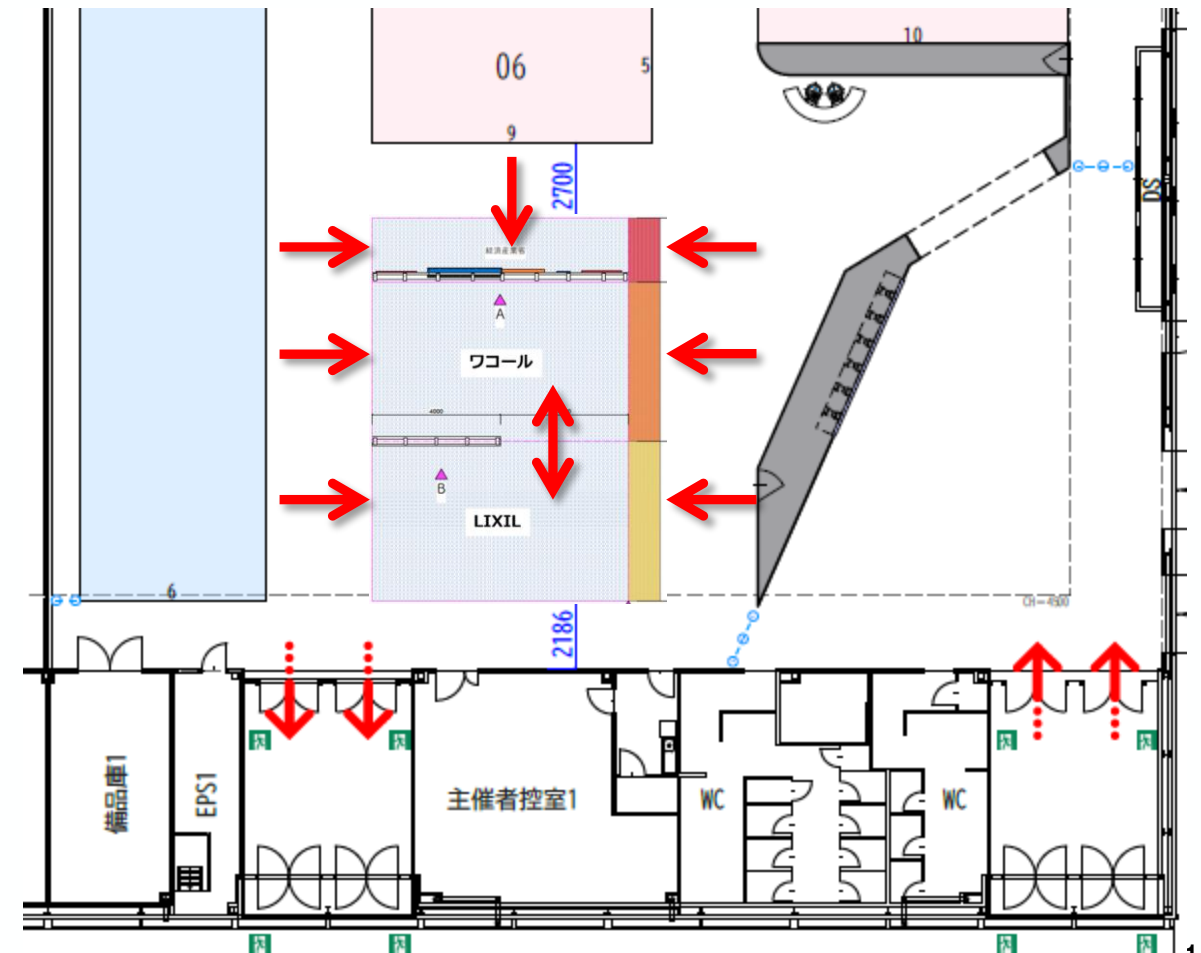


展示体験設計：メッセ

- メッセ内のHEALTH DESIGN全体の配置を考慮した体験設計を以下のように行った。

メッセ

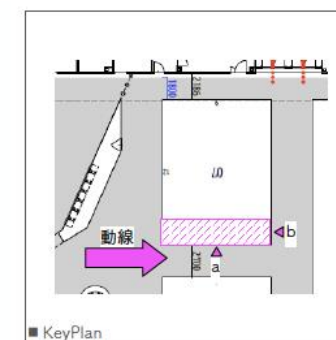
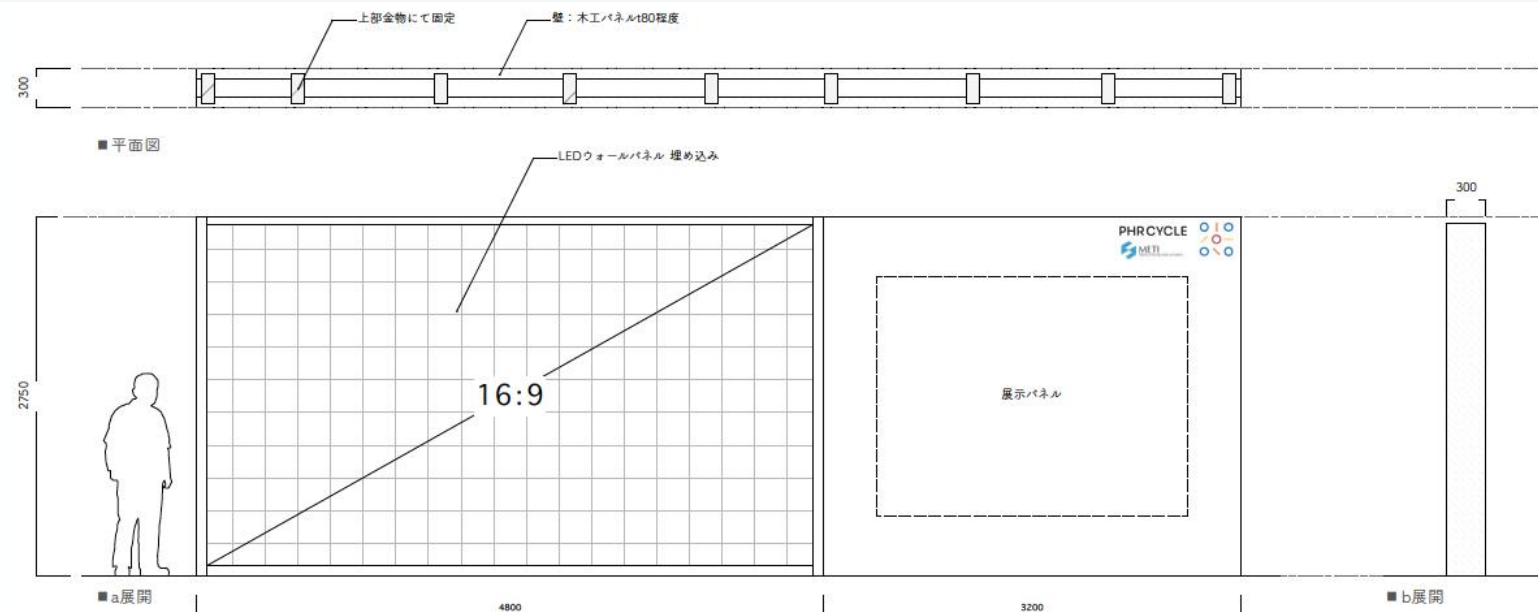
- HEALTH DESIGN会場の入口側（図面：右側）を開口部として、極力壁面を設けず、多くの人が入り出りできるように間口を広げる。
- 経済産業省事業展示ゾーンが最初の体験接点となり、かつ事業者ユースケースゾーンとのつながりを持たせて人流を促すため、図面上部右側をセットバックする。
- HEALTH DESIGN会場の出口側（図面：左側）も人流が見込めるため、流入導線を設ける
- ワコールーLIXIL間の壁面は、スペース全体としての一体感を持たせるための仕様を検討する（ユースケース毎の展示内容を考慮の上調整）。



演出プラン：メッセ（経産省事業展示スペース）

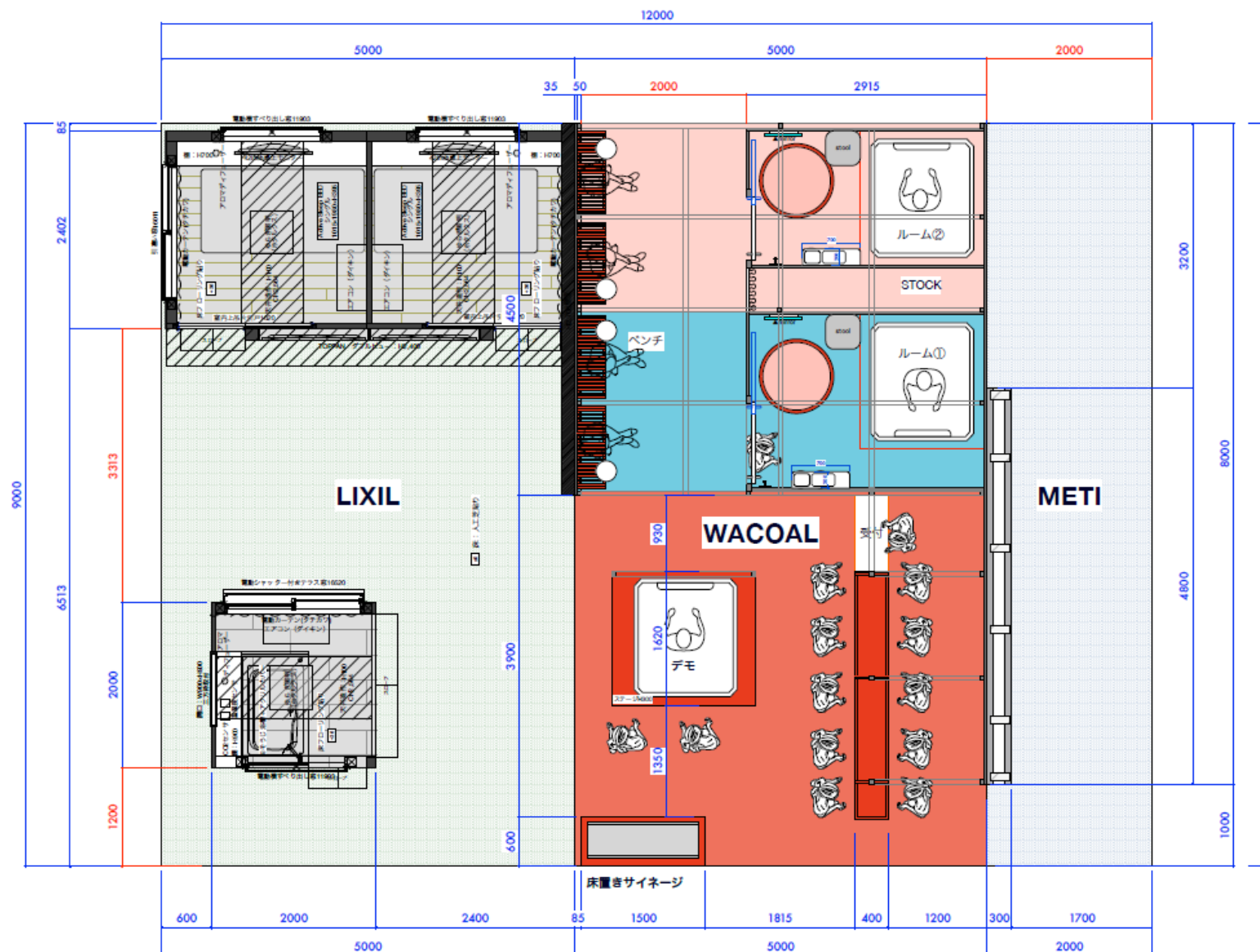
- 壁面左の大型LEDパネルで映像を投影し、右スペースのパネル展示で事業概要を紹介。

- LEDパネルは16：9の比率に調整。
- 位置は左に寄せることで、展示パネルを広くとり掲示範囲を確保することができる。
- 入口に近い左側でインパクトのある動画を流すことで来場客へのアイキャッチとし、経産省ブースへと誘導する。



万博展示：展示プラン（メッセ全体レイアウト）

*as of 25/02/20



必要開口範囲
12000mm/3=4000mm
開口範囲
2000mm+2000=4000mm

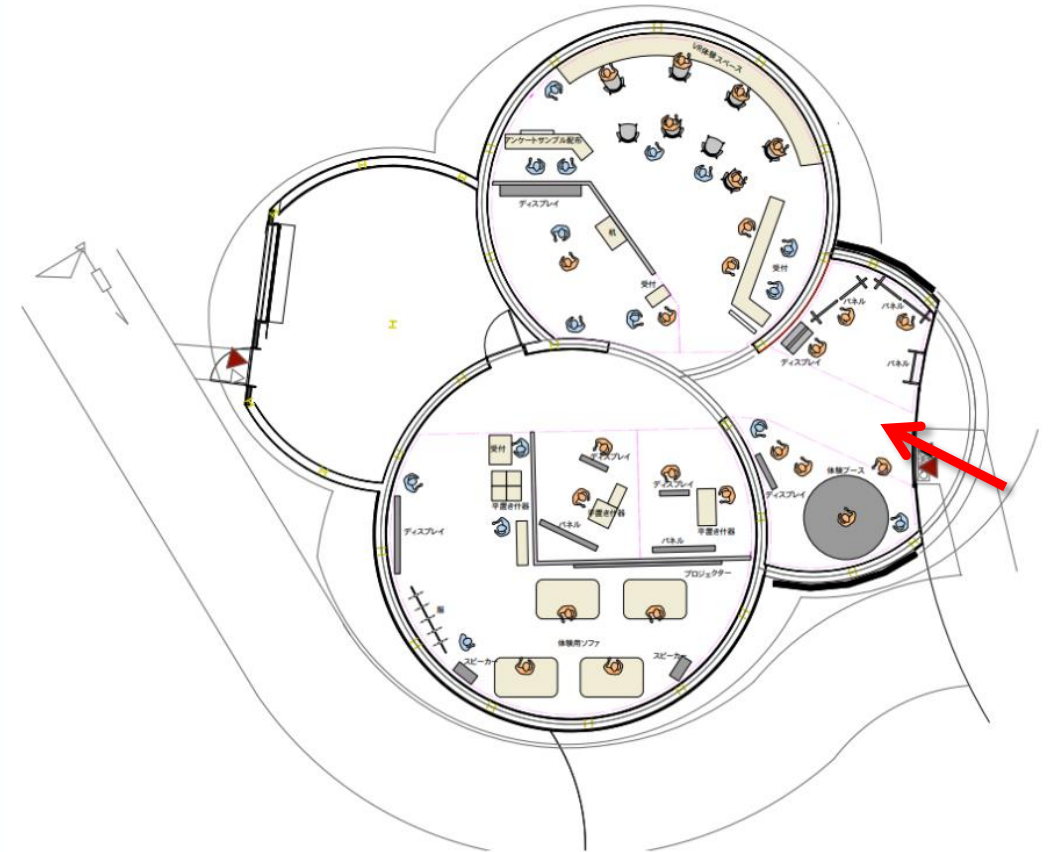
必要開口範囲
9000mm/3=3000mm
開口範囲
1200mm+3313mm=4513mm

展示体験設計：FLE

- FLEの構造的特徴に即した導線設計を考慮した体験設計を以下のように行った。

FLE

- FLEのD1～D6への入口は、自動ドア1か所のため、エントランス部分で、映像を中心とした本事業全体のブランディングを行う。
- 会場の構造および各ユースケースの事情を汲み取った導線にて、来場者が一連の流れでユースケースを体験できるように配慮する。
- 入ってすぐ右手に経産省事業展示のスペースを設け、下記の内容を展開する。
- 全体を通して、本事業の一体感ができるように、ユースケース事業者には、造作物やツールなどのガイドラインを設定し、一体感を創出する。



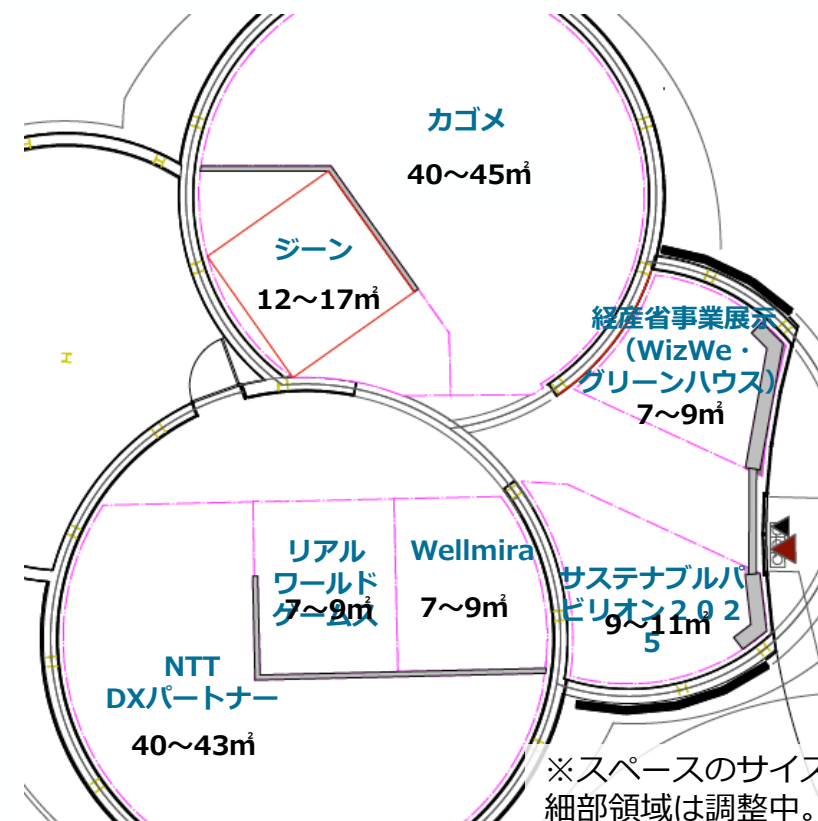
演出プラン：FLE（D1～D6）

- 複数のユースケースが同居するFLEでは、来場者にとっての体験テーマを設定し、事業としての一体感を持たせた“一連の体験”として構成し、提供する。
- 体験テーマに即して、各ユースケースのゾーニング・導線を最適化。

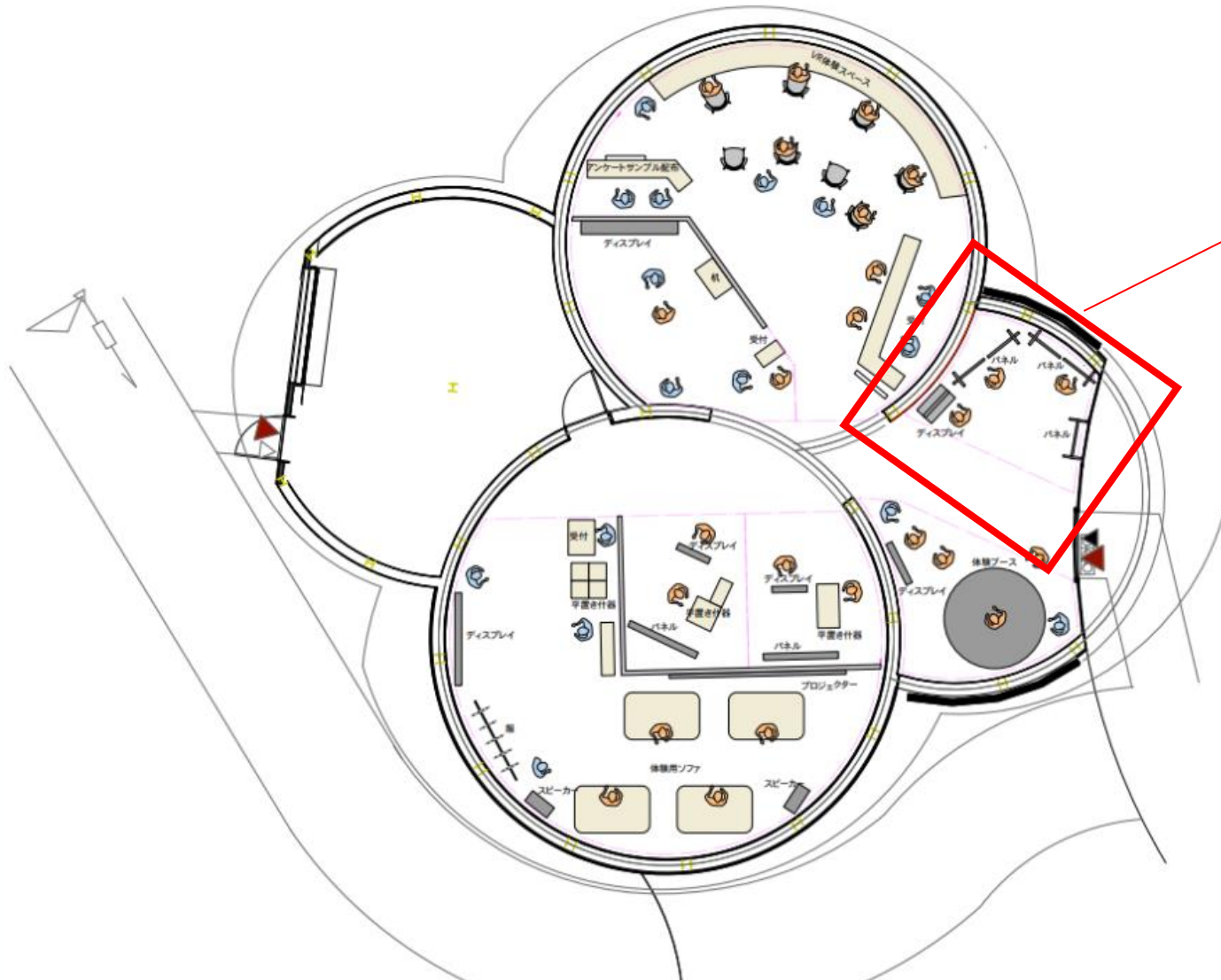
- 体験テーマ：「PHRのある一日」（仮）
- 来場者がエントランスで見る映像で表現するPHRのある未来の生活を、生活者視点のシーンや時間軸で構成。
（例）

	食事	運動	睡眠	ライフスタイルアドバイス
朝	Wellmira			サステナブルパビリオン2 025
昼	カゴメ	ジーン・リアルワールドゲームス	NTT DXパートナー	WizWe※
夜			グリーンハウス※	

※WizWe/グリーンハウスは経産省事業展示スペース内の掲出



万博展示：展示プラン（FLE全体レイアウト）



■ 経産省事業展示スペースイメージ



※WizWe、グリーンハウスのパネル展示含む

PHR 映像制作クリエイティブブリーフ（基本骨子）

映像の目的

何を達成するのか？

万博会場にて映像を見た人に「PHR活用の未来に期待感が湧く」
「自分もPHRを活用してみたい」と思っていただけ

映像の内容

何を表現するのか？

食事・睡眠・運動の3カテゴリーを中心に
PHRを活用することで、生活がどんな風に変化するのか、
どんなメリットがあるのか、その生活シーンを描く

ターゲット

誰を対象とするか？

万博に来場するすべての人々

具体的イメージとしては、① 大阪在住家族（父母子2人）② 東京在住シニア夫婦
③ 訪日中カップル ④ 若者・高校生グループ

※PHR CYCLEが国内在住対象のため③については想定ターゲットとしないが、訪日中の万博来場者には映像内でスーパー・サブタイトルでの英語表記にて対応を想定。

トーン

どんな雰囲気？

現在より少し先の未来 = 先進性 & リアリティ

10のユースケースでは実現できていない未来感・先進性を描きたい。
一方で、現実から遠く離れた未来ではなく、手の届くリアリティを感じさせたい

留意点

- PHRの仕組みなどを理解させる必要はない。上記目的の方が重要。
- 映像の総時間/尺については、会場での視聴体験を考慮して検討。（ex.人の滞留など）
- バイナリコードの描き方について、見る人に不快を感じさせないように留意。
- 登場人物については、日本人をベースに検討。

映像の成果物

- 本事業の全体コンセプトや、各ユースケースの内容に合わせたPHRが活用された未来の社会を描いた映像を、長尺版・短縮版の2パターン制作

① PHR が活用された未来の社会を描いた映像 - 本編

内容	<ul style="list-style-type: none"> PHRが生活の中に自然に溶け込んでいる、少し未来の3世代家族の一日。子供～シニアの3世代家族を登場させ、朝～昼～夜の時間軸に沿って運動・食事・睡眠などのシーンを描き、それぞれの世代にPHRがもたらすベネフィットを表現する。
長さ	<ul style="list-style-type: none"> 約3分
用途	<ul style="list-style-type: none"> 万博来場者に向け、PHRへの期待感を抱かせ、ユースケース展示へ誘導するイメージ映像として、メッセ、FLEの経済産業省ブースで放映する。

②メッセ HEALTH DESIGN用動画-30秒カットアウト版

内容	<ul style="list-style-type: none"> 本編エンディングをベースに、PHRの文字や各ユースケースのダイジェストを見せ、「PHR」を印象に残しながらそのベネフィットを簡潔に表現。グラフィカルな描写で他の協賛者映像との差別化を図る。
長さ	<ul style="list-style-type: none"> 30秒
用途	<ul style="list-style-type: none"> メッセ HEALTH DESIGN入り口で、経産省以外の各協賛者含めたHEALTH DESIGN全体の展示内容を紹介するローテーション動画の一部として放映する。




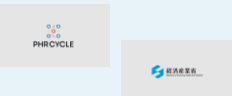
①PHR が活用された未来の社会を描いた映像 - 本編サマリ

- 少し未来の3世代家族の一日。子供～シニアの3世代家族を登場させ、朝～昼～夜の時間軸に沿って運動・食事・睡眠などのシーンを描き、それぞれの世代にPHRがもたらすベネフィットを表現した。

構成	シーン		概要	イメージ
オープニング	—	—	PHRにまつわる様々な文字や数字をタイポグラフィで印象的に表現し、映像への期待感を醸成する。	
シーン① 「暮らし」	朝	洗面所	朝、洗面台の前に30代女性が立つと、スマートミラーが女性の睡眠の状況やストレスの指数、肌の状態などを読み取っておすすめのメイク・髪型を提案。	
シーン② 「運動」	昼	公園	未来のメガネ型デバイスを身につけ、ARオブジェクトのゲームを楽しみながら運動をするシニア夫婦。	
		オフィス	仕事の合間に、両親の健康状態を確認して笑顔になる男性。	
シーン③ 「食事」	夜	レストラン	仕事終わりのレストランで、同僚と一緒にそれぞれの健康状態に合わせたおすすめ料理を楽しむ男性。	
シーン④ 「睡眠」	夜～朝	子供部屋	就寝中の状態がモニタリングされ、心地よく眠り、健やかな朝を迎える子供。	
		リビング	朝のリビングに集い、遠隔地に暮らすシニア夫婦もオンラインで繋がれた団らんが描かれ、登場人物が家族であったことがわかる。	
エンディング	—	—	象徴的な画像とメッセージが表示され、PHR・経産省ロゴで締めくくり。	

②メッセ HEALTH DESIGN用動画-30秒カットアウト版サマリ

- 本編エンディングをベースにPHRの文字や各ユースケースのダイジェストを見せ、「PHR」を印象に残しながらベネフィットを簡潔に表現。グラフィカルな表現で他の協賛者映像との差別化を図った。

構成	シーン		概要	イメージ
イントロ	—	—	PHRにまつわる様々な文字や数字をタイポグラフィーで印象的に表現し、映像への期待感を醸成する。	
ユースケース	朝～夜	—	本編のユースケース（暮らし・運動・食事・睡眠）のダイジェストをテンポよく見せ、PHRと暮らしとのつながりを視覚的に伝える。	
メインメッセージ	—	—	メイン訴求「あなたらしく過ごすことで、自然と健やかに。」メッセージを表示。	
ロゴ	—	—	PHR CYCLE・経産省ロゴで締めくくり。	

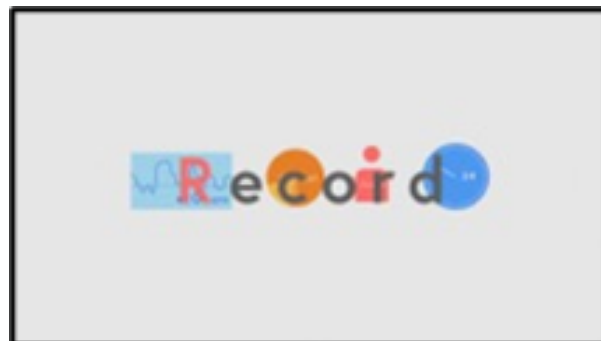
映像詳細 「PHR が活用された未来の社会を描いた映像 - 本編」 (1/4)

- ・ <オープニング>PHRやPHRにまつわる様々な文字や数字をタイポグラフィとグラフィックで視覚的、印象的に表現。

バイナリコード0/1が弾けるように現れる
日々記録されるデータを表現したグラフィック



「Record」



「Personal」



「Personal Health Record」



「Health」



グラフィックが消失し、
「PHR」のみに



映像詳細 「PHR が活用された未来の社会を描いた映像 - 本編」 (2/4)

- ・ <PHRがもたらす未来> PHRを活用することで生活がどんな風に変化するのか、どんなメリットがあるのか、カテゴリーごとに具体的な生活シーンをとおして表現。

朝のシーン@洗面所

洗面台のスマートミラーに女性のPHRデータが取り込まれ、メイク方法などがレコメンドされる。



昼のシーン@公園

シニア夫婦がメガネ型デバイスを装着するとARのオブジェクトが出現。動くたびに体からでるPHRデータがデバイスに取りこまれ、ゲーム形式で運動を楽しむ。



映像詳細 「PHR が活用された未来の社会を描いた映像 - 本編」 (3/4)

- ・ <PHRがもたらす未来> PHRを活用することで生活がどんな風に変化するのか、どんなメリットがあるのか、カテゴリーごとに具体的な生活シーンをとおして表現。

昼のシーン@オフィス、レストラン

会社の同僚が仕事の合間に昼食に。各々のPHRデータにあわせた食事メニューがレコメンドされ、飲食を楽しむ3人。



夜のシーン@寝室

寝ている男の子のPHRデータがセンサーに取り込まれ、空調が起動しカーテンが自動で開く。目覚めた男の子にバーチャルスクリーンで睡眠データが表示される。



映像詳細 「PHR が活用された未来の社会を描いた映像 - 本編」 (4/4)

- ・ <エンディング> PHRがもつビジョンを端的に宣言。PHRの意義と価値を浸透させ、PHRがもたらす未来への期待感を醸成する。

PHR
(Personal Health Record)



様々な生活シーン



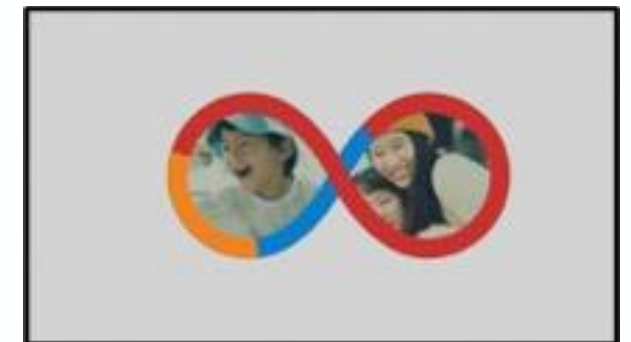
暮らしにまつわる多様なデータが
リアルタイムでつながるテクノロジー



あなたらしく暮らすだけで、自然と健やかに。



掛け合わせは無限大可能性も無限大



PHRCYCLEロゴ、経済産業省ロゴ



映像詳細「メッセ HEALTH DESIGN用 - 30秒版」

- グラフィカルな本編のエンディングをベースに、PHRがもたらす未来の具体的な生活シーンを盛り込むことで、PHRが持つベネフィットを端的に訴求し、期待感を醸成する。

PHR
(Personal Health Record)



暮らしにまつわる多様なデータが
リアルタイムでつながるテクノロジー



様々な生活シーン



様々な生活シーン



あなたらしく暮らすだけで、自然と健やかに。



PHRCYCLEロゴ、経済産業省ロゴ



目次

1. はじめに	-----	p.3
2. 本事業の目的	-----	p.7
3. 推進にかかるコンセプト	-----	p.12
4. 本事業の実施計画	-----	p.16
5. PHR事業者・サービス事業者の公募	-----	p.27
6. ユースケース検討	-----	p.40
7. 情報連携基盤の構築	-----	p.62
8. 機運醸成イベントについて	-----	p.131
9. 実証イベントについて	-----	p.143
10.映像・展示企画について	-----	p.165
11.UCCTにおける議論事項	-----	p.191
12.各事業遂行上の課題について	-----	p.224
13.まとめ	-----	p.236

11.UCCTにおける議論事項

- | | | |
|---|--------------------|----------|
| ① | Wellmira UC | ---p.194 |
| ② | NTTDXパートナー UC | ---p.197 |
| ③ | カゴメ UC | ---p.200 |
| ④ | グリーンハウス UC | ---p.203 |
| ⑤ | サステナブルパビリオン2025 UC | ---p.206 |
| ⑥ | ジーン UC | ---p.209 |
| ⑦ | リアルワールドゲームス UC | ---p.212 |
| ⑧ | LIXIL UC | ---p.215 |
| ⑨ | ワコール UC | ---p.218 |
| ⑩ | Wizwe UC | ---p.221 |

UCCTにおける議論事項

- 本事業で進めてきたユースケース・情報連携基盤・実証・展示・レガシーフェーズにおける協議事項をユースケース毎に整理

ユースケースの概要

- 本事業で創出したユースケース内容やデータ連携、および2月に実施した実証内容や、万博で検討している展示・運営計画について記載

The image displays three overlapping screenshots of a web application interface, likely for managing use cases. The top-left screenshot shows the 'ユースケース内容' (Use Case Content) page, detailing a specific use case with fields for '想定ペルソナ' (Assumed Persona), 'ユースケース名' (Use Case Name), and 'サービス事業者' (Service Provider). The top-right screenshot shows the '資料) 活動報告' (Material) Activity Report page, which includes a 'ユースケース内容' section and a 'PHR CYCLE接続' (PHR CYCLE Connection) section. The bottom screenshot shows the '資料) 実証内容' (Material) Verification Content page, which is divided into '実施概要' (Implementation Overview), '検証視点' (Verification Points), and '実証手順' (Verification Procedure). A diagonal 'Image' watermark is present over the right side of the screenshots.

ユースケース内容

ユースケース名	今日何食べよ? byカロママプラス
サービス事業者	株式会社Wellmira
PHR事業者	Arteryex株式会社、株式会社Y4.com

ユースケース内容：ユーザーの体調や好み等を考慮した食事をパーソナルにご提案

想定ペルソナ

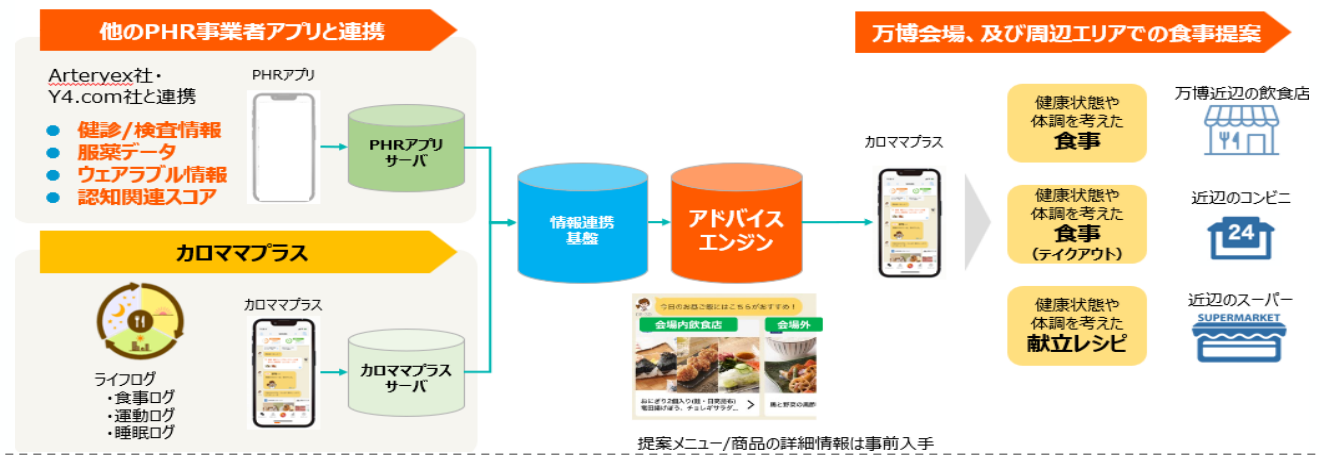
共創ユースケース

今日何食べよ? byカロママプラス～ あなたの体調や好み!?を考えたお食事をパーソナルにご提案～

ユーザーへの提供価値

- 食事、運動、睡眠、気分など健康にかかわるライフログ全般のアドバイス提供、一括管理を可能に。
- 管理栄養士×AIによって、個人に最適な食事内容や運動などのアドバイスを提供。

ユースケース提供フロー/万博展示イメージ



万博以降の展開

- 関西圏の店舗連携、またPHR事業者との連携を強化し利用者の増加を図る

サービス事業者 提供サービス

PHR事業者 提供サービス・提供データ

「カロママプラス」
 食事や運動、睡眠、気分など健康にかかわるライフログを登録するだけで、専門家からアドバイスがもらえるAI健康管理アプリ。管理栄養士監修かつ、パーソナライズされたアドバイスにより、食事内容の提案や運動を促す。

Arteryex株式会社
 「パシャッとカルテ」お薬手帳、血液検査、健康診断をスマホで撮影するだけでデータ化し、管理しつつ、診断の補助などに活用できるアプリ。

株式会社Y4.com
 健康管理アプリ「Vital gain」健康状態を顕す重要指標を可視化し、インセンティブやイベント機能と運動させながら人の行動変容を促すアプリ。



ペルソナ1
 働き盛りの男性とその家族

ペルソナ2
 アクティブシニア夫婦

40代 / 会社員
 今まで健康そのものだったが、今回の健診でBMI「肥満」を指摘された。めんどくさがり屋だが、何か始めようと、最近、ヘルスケアアプリをインストール、ウェアラブルデバイスを購入。

60代夫婦 / 定年後、パート
 平日は5時間ほど近所の児童館に勤務。健康診断は定年後も欠かさず受診。アプリで歩数チェックや血圧管理を欠かさない。テクノロジーに抵抗はない。

潜在ニーズ

初めて健診で指摘されたため、「大丈夫だろう」という気持ちの半面、今のうちに何とかしたいという焦りもある

血圧のコントロールはある程度できている。健康には留意しているが、何か出来ることがあれば知りたい。

※本スライドに掲載されている各事業者のサービス・製品、画面、名称、ロゴ等の知的財産権は、各事業者に帰属します。これらを無断で複製、転用、販売、配布することを禁じます。

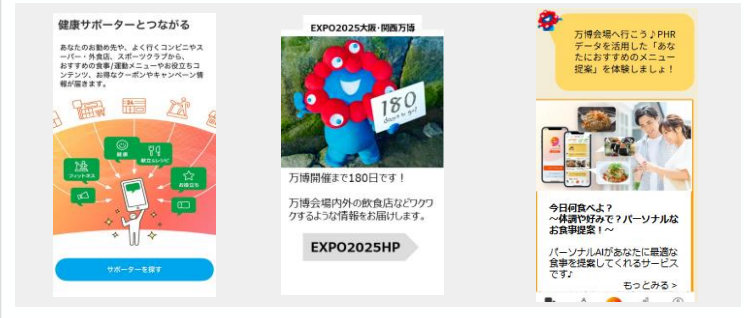
活動報告

ユースケース名	今日何食べよ? byカロママプラス
サービス事業者	株式会社Wellmira
PHR事業者	Arteryex株式会社、株式会社Y4.com

ユースケース内容：ユーザーの体調や好み等を考慮した食事をパーソナルにご提案

ユースケース創出（実証／万博）

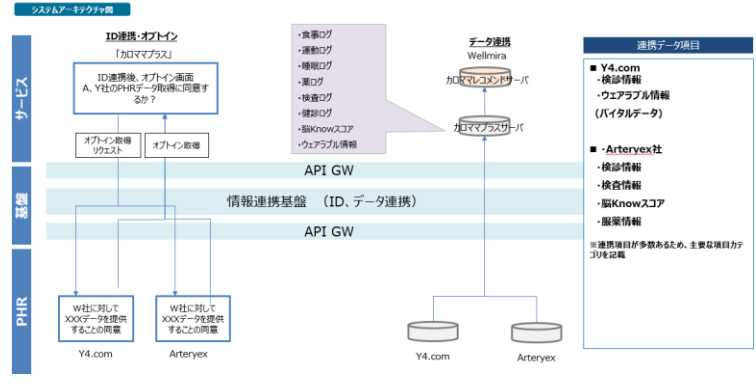
- Wellmira／Arteryex／Y4.comの3社でマッチングし、ユースケース検討を開始
- Wellmiraのサービス（カロママプラス）をベースとし、PHRを付加することで個々に最適化された食事提案のユースケースを開発
- 万博でのPHR体験について計画
- 万博情報を告知する特設ページ「万博サポーター」をアプリ内に作成、万博情報や、本事業のユースケース、PHR連携企業や連携する飲食店情報を発信



PHR CYCLE接続（データ連携）

- <利用データ>
- Arteryex：検診情報、検査情報、脳Knowスコア、服薬情報
 - Y4.com：検診情報、ウェアラブル情報（バイタルデータ）
- 接続テスト①②およびシナリオテストも完了しており、データ連携の一連のシナクセスに現状問題はない

システムアーキテクチャ



レガシーフェーズの検討（事業化への課題や政府に求める動き等）

- 万博で連携した店舗との継続、新規店舗の拡充。
- サービス主旨に沿う店舗への打診
- 今後のサービス展開の方針を踏まえ、連携が必要なPHRデータの特定（例：運動状況の反映のため、歩数データを追加で連携）
- 当該データを提供可能なPHR事業者の特定
- toB：健保等経由による社員への推奨
- toC：LINE等、他メディア経由の広告、自治体経由での市民への推奨
- 連携事業者との協議を通じた料金体系の決定と、利用状況に応じた柔軟な料金プランを検討

実証内容

ユースケース名	今日何食べよ? byカロママプラス
サービス事業者	株式会社Wellmira
PHR事業者	Arteryx株式会社、株式会社Y4.com

ユースケース内容：ユーザーの体調や好み等を考慮した食事をパーソナルにご提案

実証を通して 得たい成果・示唆

- ユースケース「今日何食べよ? byカロママプラス」がユーザーに問題なくご利用いただけることの確認
- ユーザーのユースケースに対する満足点や不満点を抽出し、今後の改善に役立てること
- 万博で想定するオペレーションの改善点把握
- 万博後に対する手ごたえ感・課題感の把握

実証内容

実施概要

- 実施日：2月18日
- 実施場所：QUINTBRIDGE
- 実証環境：検証環境

PHRならではの体験価値

- 従来は自社のPHRデータ・ライフログを基に食事提案がされていた。今回万博というハレの日の要素も鑑みつつ更にPHR事業者の健診・検査データ、バイタル情報が加わることでより詳細に健康状態を加味した飲食店提案が可能になる

検証視点

- データの連携・蓄積が問題なく行えているか
- PHRを取得したサービスアプリ・機器などが問題なく動作してるか
- ユースケースに対するユーザーの満足度評価およびその理由
- PHR活用ならではのパーソナライズされた体験提供ができたか
- 万博時を想定したオペレーションができたか/オペレーション上の課題等
- 将来的な社会実装にむけた課題や気づき

実証手順

1. **アプリダウンロード・ID連携を完了**
情報連携基盤にアクセスし、アカウント作成および各アプリ（カロママ/VitalGain /パシャッとカルテ）のダウンロード、ID連携を実施
2. **アプリ使用（PHR蓄積） | 7~14日間**
3つのアプリでPHRを記録
3. **データの疎通を確認**
昼食を入力> アドバイス受信> 夕食の飲食店レコメンド受信
4. **健康メニューや健康アドバイスを提案**

ユースケース内容

ユースケース名	ZZZN SLEEP APPAREL SYSTEM
サービス事業者	NTT DXパートナー
PHR事業者	SOXAI

ユースケース内容： PHRデータに基づいてリアルタイムに仮眠を促す最新の衣服体験

想定ペルソナ



ペルソナ

30代 / IT企業 / エンジニア

- ・長時間働くことや緊張感の高い状態が多く、日中に眠気を感じる
- ・革新的な技術・サービスに感度が高い

潜在ニーズ

- ・ぐっすり眠りたい
- ・ストレスから解放されたい
- ・ヘルステックや睡眠アプリを使っているが、具体的な活用方法がわからない

共創ユースケース

ZZZN SLEEP APPAREL

場所を問わず、適切なタイミングで睡眠を促す着衣型睡眠プロダクトを通じて、仮眠・分眠の重要性を体験することができる

ユーザーへの提供価値

- 長期間の労働勤務による脳由来の疲労(集中力・想像力・注意力)の回復。
- 脳パフォーマンスの回復による労働生産性の改善。
- 仮眠文化の醸成
- 革新的な機能と技術
- 心拍数、ストレス値、睡眠時間、睡眠スコア等を取得し、仮眠が必要と思われるタイミングでアパレル側の機構を制御作動させ、仮眠に適した環境を作り、仮眠を促す

ユースケース提供フロー/ 万博展示イメージ

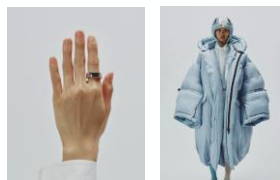
万博以降の展開

サービス事業者 提供サービス

- 活動量情報のPHRデータを活用することで仮眠を誘導し、パーソナルに眠りを持ち運ぶことができる「スリープアパレル」を提供

着用・装着

来場者への説明、SOXAIリングとスリープアパレルを貸与



仮眠スペースへ移動

着用・装着後、仮眠スペースへ移動



- スリープアパレルの普及・展開

基盤接続・ID連携 データ取得

基盤接続・ID連携の設定し、SOXAIリングからバイタルデータを取得



サービス体験

バイタルの変動に合わせてスリープアパレルが起動し、仮眠に適した体験を提供



PHR事業者 提供サービス・提供データ

- 指輪型ウェアラブルデバイスを用いて、日常生活におけるバイタルデータを取得し、睡眠・ストレス・活動状態を可視化するサービスを提供
- SOXAI RING / SOXAI APP

活動報告

ユースケース名	ZZZN SLEEP APPAREL
サービス事業者	NTT DXパートナー
PHR事業者	SOXAI

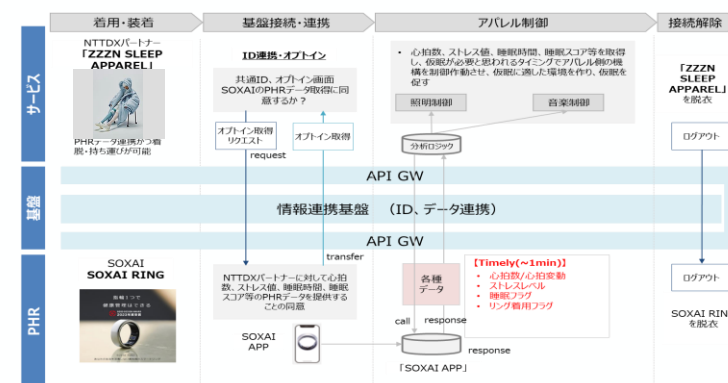
ユースケース内容：PHRデータに基づいてリアルタイムに仮眠を促す最新の衣服体験

ユースケース創出（実証／万博）

- DXパートナーが開発した場所を問わず、適切なタイミングで睡眠を促す着衣型睡眠プロダクト「スリープアパレル」に、睡眠に関するPHRデータが取得できるSOXAIのSOXAIリングで組成されたチーム
- SOXAIリングのPHRデータをリアルタイムで取得し、個人ごとに仮眠が必要と思われるタイミングでスリープアパレルの温度・照明を調整し仮眠を促す
- 2/6-8の個別実証では、基盤・プロダクト間とのデータ疎通だけでなく、万博展示を想定したオペレーション（仮眠時間や導線確認の適切性）も検証する予定

PHR CYCLE接続（データ連携）

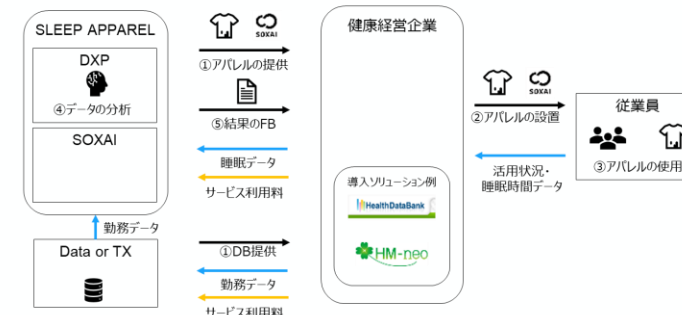
- SOXAIから心拍数、心拍変動、ストレスレベルのPHRデータを5分単位で取得
- 各種テストにおいて、DXパートナー、SOXAIにて実証・万博時のPHR連携の動作を再現、確認済み



レガシーフェーズの検討 (事業化への課題や政府に求める動き等)

- よりリアルタイム性を追求するために、データ更新頻度1分単位での検証
- 今後の展開としてはアパレルショップへのスリープアパレルのBtoBtoCモデルを優先的に検討
- 将来的には、健康経営支援としてスリープアパレルを活用するモデルを想定。NTTグループ各社と連携した普及を目指す。

凡例：サービスの流れ → カネの流れ → 情報の流れ →



実証内容

ユースケース名	ZZZN SLEEP APPAREL
サービス事業者	NTT DXパートナー
PHR事業者	SOXAI

ユースケース内容：PHRデータに基づいてリアルタイムに仮眠を促す最新の衣服体験

実証を通して得たい成果・示唆

- スリープアパレルとSOXAIリング装着により、ユーザにとって適切なタイミングで仮眠を促すことができること
- 仮眠することにより、ユースケース体験前と比べて回復した感覚を得られるかを確認

実証内容

実施概要

- 実施日：2/6-8
- 実施場所：FRAME GALLERY（東京都渋谷区神宮前4-27-6 Y.S.JビルB1）
- 実証環境：本番環境

PHRならではの体験価値

- SOXAIリングから取得するパネルのPHRデータにより、スリープアパレルの機能が変化
- 心拍・ストレスレベルに応じて個別に温度・照明が変化することで仮眠を体験する

検証視点

- データの連携が問題なく行えているか（ユーザー観点／システム観点）
- データの蓄積が問題なく行えているか（ユーザー観点／システム観点）
- PHRを取得したサービスアプリ・機器などが問題なく動作してるか
- ユースケースに対するユーザーの満足度評価およびその理由
- PHR活用ならではのパーソナライズされた体験提供ができたか
- 万博時を想定したオペレーションができたか／オペレーション上の課題等
- 将来的な社会実装にむけた課題や気づき
- ユースケース体験を通じた仮眠中・仮眠後の評価

実証手順

パネルには以下セットアップ完了した貸出スマホ(iPhone)、スリープアパレル、SOXAIリングを貸与予定（セットアップはDXパートナーにて対応）

- 1)アプリダウンロード・ID連携を完了
- 2)スリープアパレルとPHRデータ疎通の確認
- 3)オプトインへの同意
紙もしくはタブレットにて代用
- 4)リング・スリープアパレルを装着し仮眠体験(約30分)
 - ①リングの号数選択&装着（3分）
 - ②動画説明（2分）
 - ③アパレル着用（3分）
 - ④ユースケース体験（15分）
 - ⑤体験終了後、データ確認&アンケート実施（2分）

ユースケース内容

ユースケース名	わくわく！野菜でカラフルVR ～あなたとあなたの大切な人たちでミライの健康を実践～
サービス事業者	カゴメ株式会社
PHR事業者	株式会社NTTドコモ

ユースケース内容：大切な人のからだの状態を知り、みんなで野菜をとって大切な人の健康を守る

想定ペルソナ



籠目 苦都

- 男性 (46)
- 職業：会社員
- 家族：妻 (43) 娘 (11)、息子 (9)
- 健康診断結果が悪化している自覚
食事には気を付けないといけないと
考えているが実践できていない
- 子どもの健全な育成にはバランスの
良い食事が重要と考えているが、
子どもが野菜を食べたがらない。

潜在ニーズ

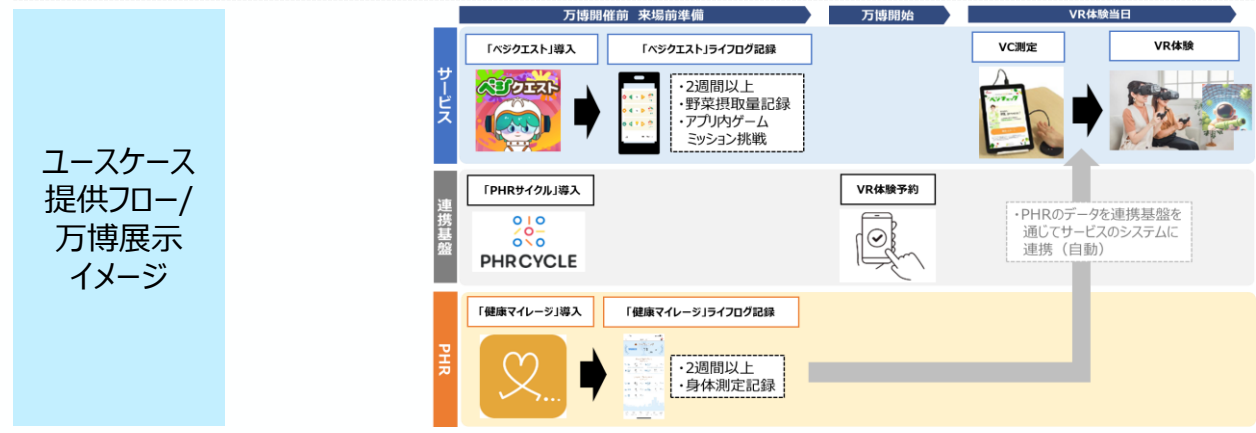
- 食生活や栄養バランスを改善したい
- 野菜不足の自覚があり、何かしら解消したい
- 大切な人（家族、パートナー、友人等）とのつながりを感じたい
- 健康管理だけでなく楽しい体験をしたい

※本スライドに掲載されている各事業者のサービス・製品、画面、名称、ロゴ等の知的財産権は、各事業者に帰属します。これらを無断で複製、転用、販売、配布することを禁じます。

共創ユースケース

わくわく！野菜でカラフルVR！～あなたとあなたの大切な人たちでミライの健康を実践～

- ユーザーへの提供価値
- 自分や身近な人の体には様々なリスクが潜んでいること、野菜の力をそれを抑えることができることを、ゲームを通じて体感することで、楽しみながら食生活改善、健康行動を促進させる。



万博以降の展開 ● ベジクエスト拡張版をB2B、B2C向けに提供、食育支援で活用することを検討している

サービス事業者 提供サービス

- カゴメ株式会社**
- ベジチェック
 - センサーに手のひらをかざして30秒ほどで野菜摂取量が推定できる
 - アプリ「ベジクエスト」
 - ゲームを通じて野菜摂取量を記録するアプリ

PHR事業者 提供サービス・提供データ

- 株式会社NTTドコモ**
- 健康マイレージ
 - 日常的なスマートフォン利用を通じて、健康活動を促進するアプリ
 - スマホを携帯するだけで「からだところの健康（フレイル）」、「血圧上昇習慣」、「免疫力」の度合いを検知する推定AI機能から連携されたデータも取得可能

活動報告

ユースケース名	わくわく！野菜でカラフルVR ～あなたとあなたの大切な人たちがミライの健康を実践～
サービス事業者	カゴメ株式会社
PHR事業者	株式会社NTTドコモ

ユースケース内容：大切な人のからだの状態を知り、みんなで野菜をとって大切な人の健康を守る

ユースケース創出（実証／万博）

【実証まで】

- ユースケースのコンセプト作成
体験者が楽しく自分や身近な人の健康を考え、野菜を食べる意味を知り、野菜を食べようと思えるプログラム」を行動変容理論に基づき作成。
- 体験プログラムの設計/開発
スマホアプリ「ベジクエスト」の開発、VRゲームの開発
→βテスト完了
※プログラム内容で提示する野菜の機能などはエビデンスに基づき作成

【万博まで】<予定>

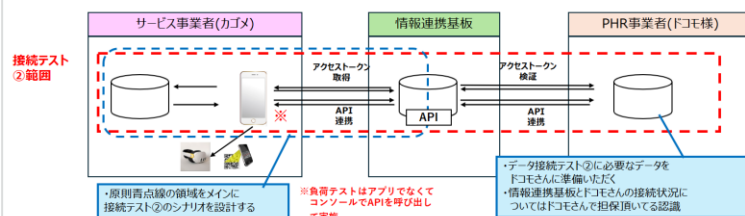
- プログラムのブラッシュアップより「楽しさ」を感じるためのシナリオ改善
- 広報活動
カゴメのステークホルダーに対するユースケースの広報活動実施

PHR CYCLE接続（データ連携）

・ドコモ様や弊社と作成したテスト方針書を用いて、綿密なコミュニケーションを図り、課題解決しながら推進

・下図のような構成図を用いてドコモ様と認識合わせを実施

2. システム構成図と接続テスト②の範囲



使用API	No	API名/内容	準備する企業	本テストで使用	リクエスト元
	001	ログイン判定API	アクセンチュア	○	カゴメ
	002	ログイン判定API (汎用) ※自サービス以外	アクセンチュア	○	カゴメ
	003	ユーザ情報取得API	アクセンチュア	○	カゴメ
	004	健康マレーン情報取得API	ドコモ	○	カゴメ
	005	個別仕様_「イタル」Observation情報取得API	ドコモ	-	-
	006	個別仕様_「健診データ」Observation情報取得API	ドコモ	-	-

実証内容

ユースケース名	わくわく！野菜でカラフルVR ～あなたとあなたの大切な人たちでミライの健康を实践～
サービス事業者	カゴメ株式会社
PHR事業者	株式会社NTTドコモ

ユースケース内容：大切な人のからだの状態を知り、みんなで野菜をとって大切な人の健康を守る

実証を通して得たい成果・示唆

【万博展示を通じて得たい成果】

- 本体験をきっかけに楽しみながら野菜を食べる意味を理解して、楽しみながら生活習慣の改善をする国民を増やす。

【体験者に提供する価値】

- 自分や身近な人の体には様々なリスクが潜んでいること、野菜の力をそれを抑えることができることを、ゲームを通じて体感してもらう。

【実証を通じて得たい成果】

- 来場者に問題なく展示を提供できるかを検証し、当日のオペレーションの課題を抽出する。

実証内容

実施概要

- 実施日：2月18日
- 実施場所：QUINTBRIDGE
- 実証環境：本番環境

PHRならではの体験価値

- VRゲームで戦う敵キャラクターは、PHRデータに基づいて生成される。
- ユーザーの健康リスクに応じて敵の種類が、リスクに応じて敵の強さが設定される。
- また、自身のアバターの武器の強さも、これまでの食生活により決定される。

検証視点

- サービスアプリとPHRアプリとの連携確認
- 記入されたデータが正しくゲーム内に反映されることの確認
- 1グループあたりの体験時間の確認
- 体験案内オペレーション業務の課題抽出

実証手順

1. アプリ導入状況確認
2. ベジチェック測定
3. データ連携が正常に行われるか確認
→データ連携確認
4. VRゲーム世界観説明
5. VRゲーム体験
→シナリオ、オペレーション確認
6. レガシープラン説明
7. 実証体験アンケート

ユースケース内容

ユースケース名	～New・Wellness Sleep Program～アプリとホテルステイで栄養士による眠活サポート！
サービス事業者	グリーンハウス
PHR事業者	Y4.com、Arteryex、asken

ユースケース内容：睡眠改善に向けたアプリ&ホテルのアドバイス、およびホテルでの睡眠環境の提供

想定ペルソナ



働き盛りの男性



40歳代後半/男性/会社員

- ・グローバル企業の管理職。長時間勤務が多く、睡眠の質に課題。出張が多い
- ・短時間で効果的に休息を取れるサービス、ストレスや疲労の軽減方法を探索
- ・食事は不規則で仕事関係の夕食・飲酒の機会も多い
- ・自宅での食事は就寝直前の摂取になることが多い
- ・近年は健康診断結果が悪化傾向
- ※その他も複数ペルソナを設定

潜在ニーズ

- 食生活・運動・睡眠の習慣を見直したい
- 上記の見直しによる健康改善により、仕事のパフォーマンス向上につなげたい

共創ユースケース

～New・Wellness Sleep Program～アプリとホテルステイで栄養士による眠活サポート！

「あすけん」アプリ内で睡眠改善コンテンツ・アドバイスの提供。グリーンハウス運営のホテル「ホテルグランバツ八京都セレクト」では、パーソナライズされた睡眠改善アドバイスと、“睡眠ドック”サービスとして最適化された睡眠環境（食事・照明・入浴などを含む）を提供。

ユーザーへの提供価値

● 睡眠を中心とした生活習慣改善による、仕事のパフォーマンス向上、私生活の充実

- ✓ 睡眠の質向上により仕事のパフォーマンス向上
- ✓ 専門カウンセリングとサポート等による健康状態向上
- ✓ カスタマイズ睡眠プログラムでウェルネス強化
- ✓ 睡眠データ活用しトレーニング効果を最適化
- ✓ 育児・家事のエネルギー増加・リラクセスとリフレッシュ・ストレス軽減
- ✓ 時差ボケ軽減・旅行中の疲労回復・リラクゼーション
- ✓ 社員への睡眠改善プログラムで健康意識向上と生産性向上

ユースケース提供フロー/ 万博展示イメージ

- 「あすけん」アプリでの睡眠改善アドバイス
- ホテルでの快眠体験と食事、パーソナライズされた睡眠アドバイスの提供
- ※ 今後詳細化予定

万博以降の展開

ホテルでの提供(BtoC)に加えて、企業・高齢者施設への提供(BtoBtoC)についても検討

サービス事業者 提供サービス

- 宿泊施設（客室・リラクセス空間・食事）
- アクセスの良い立地で安全安心な宿泊体験を提供
- 宿泊関連サービスの提供（予約代行等）
- 食事の提供（一部ホテルのみ）

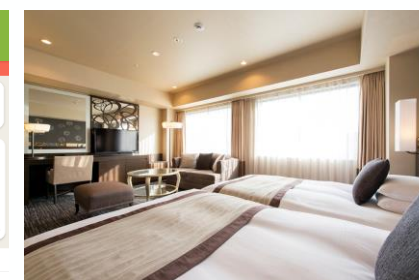
PHR事業者 提供サービス・提供データ

Y4.com

- 生活習慣の簡単可視化
- 行動変容の為にモチベーション向上施策提供
- 継続的な健康管理サポートの情報提供

Arteryex

- 紙の医療情報のデジタル化
- 医療データの提供
- 健康関連の商品等の広告配信による販促



活動報告

ユースケース名	～New・Wellness Sleep Program～アプリとホテルステイで栄養士による眠活サポート！
サービス事業者	グリーンハウス
PHR事業者	Y4.com、Arteryex、Asken

ユースケース内容：睡眠改善に向けたアプリ&ホテルのアドバイス、およびホテルでの睡眠環境の提供

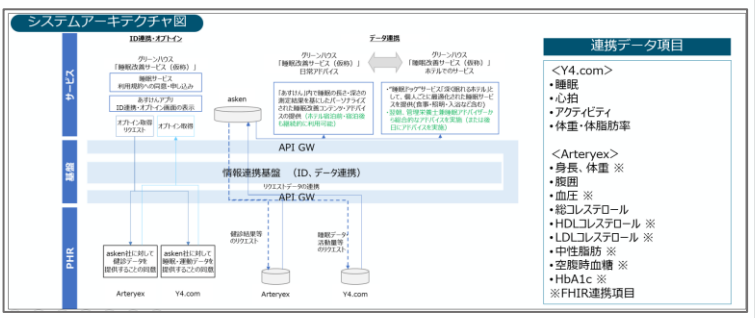
ユースケース創出（実証／万博）

- グリーンハウスのホテル事業と、あすけんのアプリによるアドバイスサービス、Y4.comで収集する運動や睡眠のデータと、Artyrexで収集する健診データを組み合わせたユースケースを検討
- 睡眠の改善を起点として、食事や生活習慣全般に及ぶアドバイスを、日常的に利用するアプリから提供
- ホテルを利用するユーザーには、快適な睡眠環境を提供すると共に脳波測定を含めたデータに基づくアドバイスを実施



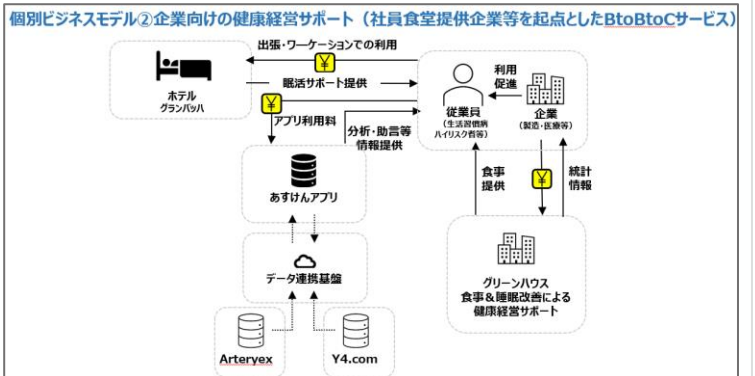
PHR CYCLE接続（データ連携）

- <利用データ>
- Y4.com：睡眠、心拍、アクティビティ
 - Artyrex：健診データ（身長、体重、血圧、血液検査結果等）
 - あすけん：食事データ
- 連携データはあすけんアプリの管理者画面に集約して表示され、アプリからのアドバイスおよびアドバイザーの閲覧に利用
 - 接続テスト①②およびシナリオテストが完了



レガシーフェーズの検討（事業化への課題や政府に求める動き等）

- レガシービジネスモデルとして以下の3パターンを検討
 - ①宿泊者向けの個人サービス
 - ②シフトワーカーを対象とした企業向け事業
 - ③高級シルバー施設を対象とした健康増進事業
- 特に②では、グリーンハウスの既存ビジネス（社員食堂）で培ったチャネルを利用し、社員への睡眠改善プログラムで健康意識向上と生産性向上を訴求



※本スライドに掲載されている各事業者のサービス・製品、画面、名称、ロゴ等の知的財産権は、各事業者に帰属します。これら無断で複製、転用、販売、配布することを禁じます。

実証内容

ユースケース名	～New・Wellness Sleep Program～アプリとホテルステイで栄養士による眠活サポート！
サービス事業者	グリーンハウス
PHR事業者	Y4.com、Arteryex、asken

ユースケース内容：睡眠改善に向けたアプリ&ホテルのアドバイス、およびホテルでの睡眠環境の提供

実証を通して得たい成果・示唆

- PHRデータの連携が問題なく行えること
- 参加したユーザーが、アプリからのレコメンド・アドバイザーからの示唆により、睡眠の重要性を理解し、他の生活習慣を含めて改善しようという意識を持つこと
- 参加したユーザーが日常生活の中で睡眠を改善できる部分を見出し、より活力ある毎日を過ごすための行動変容を起こすこと
- 将来のビジネス展開に向けた課題を抽出すること

実証内容

実施概要

- 実施日：2/12-21
※ プレ実証として1/22-23にも宿泊を伴う実証を実施
- 実施場所：ホテルグランバツハ京都セレクト
- 実証環境：本番環境

検証視点

- データの蓄積・同期が問題なく行われているか
- 機器の動作に問題がないか
- ユースケースに対するパネルの満足度
- 万博期間の展開を想定したオペレーションができたか
- 社会実装に向けた気付き
- ユーザーが実証に参加することで睡眠の重要性を理解し、改善しようという意識を持てたか

PHRならではの体験価値

個人の生活習慣に対する具体的なアドバイス

- 睡眠の質に影響している要素をPHRから特定し、具体的なアドバイスが受けられる
- ホテルで取得する個人の睡眠データ（脳波）をPHRに組み合わせることで、より実態に即した改善指導が可能となる

実証手順

- ①（宿泊7日以上前）各アプリDL・ID連携
- ②7日間のアプリ使用（PHR蓄積）
パシャッとカルテ：健康診断データ(1回)
バイタルゲイン：運動・睡眠(毎日) fitbitで取得
あすけん：食事(毎食)
- ③（宿泊当日）グランバツハ京都セレクトに宿泊
イントロダクションを実施
- ④（宿泊当日夜）睡眠時脳波計測
- ⑤（宿泊翌日）翌朝に睡眠アドバイスを受ける
朝食後に専任カウンセラーから7日間のPHRデータと1晩の脳波データに基づいた睡眠アドバイスを受け取る

ユースケース内容

ユースケース名	話せるPHR Mirrored Body®～あなた自身と健康チャット～
サービス事業者	サステナブルパビリオン2025
PHR事業者	Wellmira、NTTドコモ

ユースケース内容：世界でただ一つの「自分の分身」から自身の気が付かない示唆を得る、体験共有を受ける

想定ペルソナ



ガジェット好き男子

30代 / IT企業勤務 / 企画職

ITに関して一定の知識あり
ジムに通っているが、食事・運動など包括的な健康管理の知識はまだ乏しい

潜在ニーズ

- 生活をスマートにしたい
- 健康管理だけでなく面白い体験をしたい
- 自身の健康状態への不安や向上心を何かしらで解消したい

※本スライドに掲載されている各事業者のサービス・製品、画面、名称、ロゴ等の知的財産権は、各事業者に帰属します。これら
を無断で複製、転用、販売、配布することを禁じます。

共創ユースケース

話せるPHR Mirrored Body® ～あなた自身と健康チャット～

Mirrored Body®をハブとして様々なデータを一つにまとめ自分だけのAIアドバイザーを作り出すことを目指す

ユーザーへの提供価値

- さまざまな情報を紐づけ安全に管理する格納庫としての自己主権型情報管理モデル
- PHR連携（基本バイタル、食事、アドバイス、血圧上昇習慣、免疫力等）から、自身のアバターを通じて未来予兆や生活習慣改善等のアドバイスを受ける
- 未来予兆をアバターに反映、視覚でも示唆を受けられる

ユースケース提供フロー/ 万博展示イメージ

- 大阪・関西万博シグネチャーパビリオン「null²」では鏡との対話ができる「ショーケース」、ならびにサステナブルパビリオン2025アプリ「Mirrored Body」で自身のPHRデータを活用したもう一人の自分との対話・アドバイスを受ける



null²
「ショーケース」
※選抜者のみ鏡と対話



サステナブルパビリオン2025アプリ「Mirrored Body」
*イメージ画像

万博以降の展開

- サステナブルパビリオン2025アプリ「Mirrored Body」の普及。会話とAIによるデータ成形をベースに、業界をつなぐハブの役割や、認証ツール化を目指す

サービス事業者 提供サービス

サステナブルパビリオン2025

- 視覚芸術を通じてデジタルと人間の新しい関係性を社会に示す
- Mirrored Body (GenAI活用アプリ)

PHR事業者 提供サービス・提供データ

Wellmira

- ウェルネスのミライを創造する(毎日のライフログから専門家のアドバイスが届く)
- カロママ プラス (AI健康アドバイスアプリ)

NTTドコモ

- 日常的なスマートフォン利用を通じて、健康活動を促進（ふだんの健康づくり・ミライの健康・イマの見守り・ポイント付与等）
- 健康マイレージ（疾患リスクを活用した健康活動支援の提供、ネイティブアプリ）

活動報告

ユースケース名	話せるPHR Mirrored Body®～あなた自身と健康チャット～
サービス事業者	サステナブルパビリオン2025
PHR事業者	Wellmira、NTTドコモ

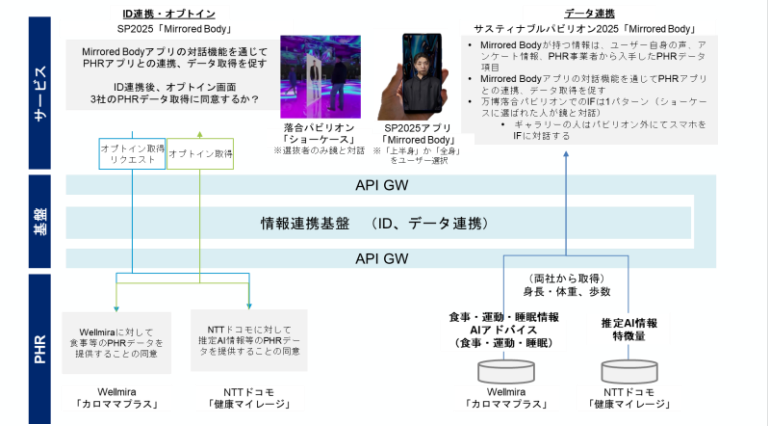
ユースケース内容：世界でただ一つの「自分の分身」から自身の気が付かない示唆を得る、体験共有を受ける

ユースケース創出（実証／万博）

- サステナブルパビリオン2025のMirrored Body(MB)アプリをベースに、自身の性格とWellmira・ドコモのPHRを組み合わせ、よりパーソナライズされた健康アドバイスの提供を検討
- またMBの予後の体形・加齢の変化を実現するため、万博では3Dスキャナーを用いて3D画像のMBを生成し、より体験価値の高いMBとの対話を提供予定
- 経産省エリアに加えて「null²」にも出展予定。映像を用いてMBアプリの世界観を演出

PHR CYCLE接続（データ連携）

- Wellmiraの「カロママプラス」から食事・運動・睡眠等のデータ、ドコモの「健康マイレージ」から血圧上昇習慣、免疫力・フレイル等の推定AIデータを連携
- 各種テストにおいて、PHR事業者からダミーデータを提供いただき、実証・万博時のPHR連携の動作を再現・確認済



レガシーフェーズの検討（事業化への課題や政府に求める動き等）

- 日々の健康意識の向上や生活習慣改善に向けた行動変容を促進するため、アドバイスの精度向上、およびMB対話継続の仕組み作りの検討
- MBアプリに接続するPHRデータの追加（特に健診情報）および連携強化の検討
- マネタイズに向けたユーザの適正価格の設定および無料トライアル期間の提供の検討
- (MBの服装のコーディネートや3Dモデルの操作等におけるオプションを課金により増加させることを検討)

実証内容

ユースケース名	話せるPHR Mirrored Body®～あなた自身と健康チャット～
サービス事業者	サステナブルパビリオン2025
PHR事業者	Wellmira、NTTドコモ

ユースケース内容：世界でただ一つの「自分の分身」から自身の気が付かない示唆を得る、体験共有を受ける

実証を通して得たい成果・示唆

- 自身と類似したアバター（MB）と対話できること
- カロママプラスや健康マイレージを介さずに、健康アドバイスを受け取ること
- 健康意識・生活習慣の改善促進に資する、MBからの健康アドバイス内容
- 対話を日々継続してもらうための、MBとの対話内容

実証内容

実施概要

- 実施日：2月18日（火）
- 実施場所：QUINTBRIDGE
- 実証環境：テスト環境

PHRならではの体験価値

- PHRの長期蓄積と、自身の外見や声を再現したMirrored Body(MB)との対話の継続により、パーソナライズされた健康アドバイスが具体的な内容でアウトプットされ、日々の健康意識の向上や生活習慣改善を促進

検証視点

- データの連携・蓄積が問題なく行えているか
- PHRを取得したサービスアプリ・機器などが問題なく動作してるか
- ユースケースに対するユーザーの満足度評価およびその理由
- PHR活用ならではのパーソナライズされた体験提供ができたか
- 万博時を想定したオペレーションができたか／オペレーション上の課題等
- 将来的な社会実装にむけた課題や気づき
- Mirrored Bodyからのアドバイスの参考度合い
- Mirrored Bodyが自身の分身として活動する未来を感じさせられたか

実証手順

- ① **アプリダウンロード&ID連携を完了**
情報連携基盤にアクセスし、アカウント作成と各アプリのダウンロード、ID連携を実施
- ② **アプリ使用（PHR蓄積） | 14日間**
「カロママプラス」「健康マイレージ」アプリでPHRを収集
- ③ **データの疎通を確認 | 5分**
- ④ **スキャンとアバター生成を実施 | 5分**
- ⑤ **MBを通じた対話体験の確認 | 15分**
各パネルのスマホ上で対話を実施
- ⑥ **接続解除・アンケートの回答 | 5分**

ユースケース名	VRチャンバラエクササイズ！過剰なカロリーぶった斬れ！
サービス事業者	株式会社ジーン
PHR事業者	株式会社NTTドコモ、株式会社Wellmira

ユースケース内容

ユースケース内容：PHRデータを利用したVRチャンバラエクササイズの提供により、楽しく健康になれる体験を提供

想定ペルソナ



健康マイレージもしくは
カロママプラスを利用し
ている「お父さん/お母さ
ん」

30～40代 男性/女性

詳細情報

- ・ 小学校低学年の子どもがいる
- ・ 日々忙しく仕事をしている

潜在ニーズ

- ・ ストレス解消と健康管理に興味がある
- ・ 忙しい日常生活の中で、健康に気を使っているが具体的な運動には至っていない
- ・ 子供との楽しい時間を過ごしたい

共創ユースケース

VRチャンバラエクササイズ！過剰なカロリーぶった斬れ！

PHRデータを利用したVRチャンバラエクササイズの提供により、楽しく健康になれる体験を提供

ユーザーへの 提供価値

- ・ PHRデータを活用することでよりVRチャンバラエクササイズが楽しくなる
 - PHRデータによりStage選択時におススメや気遣いコメント
 - PHRに基づきライフが増えたり、武器が長くなる
 - 果物・野菜摂取量が一定以上あると、ゲーム中に果物が飛んでくる

ユースケース 提供フロー/ 万博展示イメージ

- ・ PHR×VRチャンバラのステージは大きく5タイプあり、それぞれでPHRデータを活用
- ・ ドコモは新たな利用者から、Wellmiraは既存サービスの利用者から得たデータを利用する

アカウント登録

- ・ 利用者はWebサイトでアカウントを登録
- ・ Webサイトで表示されたQRコードをVRアプリで読み取り
- ・ PHRデータ連携

ステージ選択時

- ・ 血圧上昇習慣推定AIや睡眠時間にもとづく、コメント
- ・ 活動量にもとづくステージのリコメンド

VRチャンバラエクササイズ体験

- ・ ステージは大きく5タイプ
- ・ 4タイプ：消費したいカロリーに合わせた構成
- ・ 1タイプ：睡眠時間や推定AI情報、果物・野菜摂取量をもとにライフやアイテムが変動

万博以降の展開

- ・ 万博で提供したPHR×VRチャンバラを、利用者の自宅（ユーザー購入型）またはテーマパーク・博物館等（設置型）に展開

サービス事業者 提供サービス

- ・ VRチャンバラアトラクション「VS真田幸村」イベント活用15件、常設3件
- ・ 2019年度以降、可児市、岐阜県、日置市、寄居町よりそれぞれVRチャンバラアトラクションを受注開発

PHR事業者 提供サービス・提供データ

NTTドコモ

- ・ 健康マイレージ
- ・ 日常的なスマートフォン利用を通じて、健康活動を促進（ウォーキング支援、みまもり支援、ポイント付与による継続支援）

Wellmira

- ・ AI健康アプリ「カロママプラス」
- ・ 食事・運動・睡眠・健診データを記録、AIによる食事・運動・睡眠アドバイスを提供、ポイント付与による継続支援、パーソナル広告提供

活動報告

ユースケース名	VRチャンバラエクササイズ！過剰なカロリーぶった斬れ！
サービス事業者	株式会社ジーン
PHR事業者	株式会社NTTドコモ、株式会社Wellmira

ユースケース内容：PHRデータを利用したVRチャンバラエクササイズの提供により、楽しく健康になれる体験を提供

ユースケース創出（実証／万博）

サービス事業者

- 株式会社ジーン

PHR事業者 提供サービス・提供データ

- 株式会社NTTドコモ（健康マイレージ、健康マイレージプラス）
【提供データ】
生年月日、性別、身長（FHIR）、体重（FHIR）、
推定AI（血圧上昇習慣）、推定AI（免疫力）、
推定AI（からだところの健康）
- 株式会社Wellmira（カロママプラス）
【提供データ】
年齢、性別、身長（FHIR）、体重（FHIR）、入眠時刻
起床時刻、摂取野菜全般、摂取緑黄色野菜、摂取果物

上記、PHRデータを利用したVRチャンバラエクササイズの提供により、ユーザーへ楽しく健康になれる体験を提供。

日々の健康的な生活を送れば送るほど、VRチャンバラエクササイズが楽しくなる機能を実装。

万博での来場者には、上記PHRデータを十分に貯めておくことができないユーザーもいるため、特定のPHRデータでの体験を提供する。

PHR CYCLE接続（データ連携）

- ユースケースにおけるアカウントはPHR CYCLEとID連携を行った。
- VRアプリ内で利用するPHRデータは保持せずに、VRゲーム内の効果処理を行うのち破棄をすることでセキュリティを高めている。
- 接続テストにおいて、サービス提供側はどのようなPHRアプリ利用をすればよいか（操作を行えばPHRデータが貯まるのか）もっと協議・資料を作成を行う必要があった。

レガシーフェーズの検討 （事業化への課題や政府に求める動き等）

- 万博で提供したVRチャンバラエクササイズを、利用者の自宅（ユーザー購入型）またはテーマパーク・博物館等（設置型）に提供できるように検討を進めたい。
- ユーザー購入型としては、PCアプリ販売 WebサービスであるSteamでの販売を検討。
- 設置型としては、健康イベントなどで利用していただける自治体への導入の働きかけを検討。

実証内容

ユースケース名	VRチャンバラエクササイズ！過剰なカロリーぶった斬れ！
サービス事業者	株式会社ジーン
PHR事業者	株式会社NTTドコモ、株式会社Wellmira

ユースケース内容：PHRデータを利用したVRチャンバラエクササイズの提供により、楽しく健康になれる体験を提供

実証を通して得たい成果・示唆

- ユースケース「VRチャンバラエクササイズ」がユーザーに問題なくご利用いただけることの確認
- VRゲームにおける操作性、ゲーム内容の評価
- 万博に向けた運用フローのブラッシュアップ
- 将来的なビジネス化に向けた改善点の確認

実証内容

実施概要

- 実施日：2月18日
- 実施場所：QUINTBRIDGE
- 実証環境：本番環境

PHRならではの体験価値

- PHRデータを活用することでよりVRチャンバラエクササイズが楽しくなる
 - －PHRデータによりStage選択時におススメや気遣いコメント
 - －PHRデータに基づきライフが増えたり、武器が長くなる
 - －果物・野菜摂取量が一定以上あると、ゲーム中に果物が飛んでくる

検証視点

- データが問題なく疎通されるか
- サービスWebサイトのQRコードをVRアプリで認識し、ログイン動作が問題なく行われるか
- ユーザーのVRゲーム評価
- 万博期の運用に向けた来場者対応フローの評価

実証手順

- ① PHRアプリ登録前にPHR CYCLEのアカウント作成いただく
- ② 2週間前までに健康マイレージアプリを登録いただき、PHRデータを収集
- ③ 1週間前までにカロママプラスアプリを登録いただき、PHRデータを収集
- ④ サービスWebサイトでID連携により、ログインいただき、QRコードを表示させる
- ⑤ VRアプリにQRコードを認識させ、VRゲームを体験いただく
- ⑥ 体験後、アンケート記入をいただく

ユースケース内容

ユースケース名	トトレで楽しく歩く→カラDAスマイル！
サービス事業者	リアルワールドゲームズ株式会社
PHR事業者	株式会社エムティーアイ、大阪府

ユースケース内容：ゲームで遊びながら健康になれる、位置情報ゲーム

想定ペルソナ



ペルソナ

30代 男女/ 運動不足になる職業

- ・好きなもの：旅（フットワークが軽い）、グルメ、観光地、イベントごと
- ・健康も少し気になる。昔より太りやすくなり体力も落ちてきた。次の健康診断が少し怖い

潜在ニーズ

健康行動（毎週の運動やジム、栄養を気遣った食事）をするのは面倒だけど、楽しく自然に健康になりたい

共創ユースケース

トトレで楽しく歩く→カラDAスマイル！

位置情報×ゲーム性×PHR情報

家から万博会場までの移動、さらに万博会場内でも、楽しい健康体験！

ユーザーへの提供価値

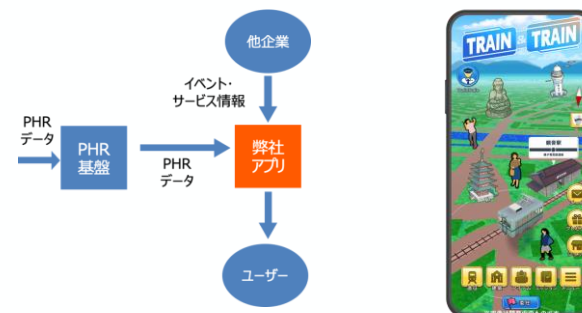
- ・ PHRを活用して個人に最適な位置情報をレコメンドしつつ、ゲーム内のコンテンツにより、楽しみながら移動できる。アプリの継続利用を通じて、外出の動機付けを行う。
- ・ ゲームを通じて健康的な活動を実施していくことで、ヘルスリテラシーを向上させる。

ユースケース提供フロー/ 万博展示イメージ

万博以降の展開

大阪府

株式会社エムティーアイ



- ・ 対応エリアの拡大や、連携するPHRデータの拡充により、より多くのシーンで個別化したサービスを提供できる。

サービス事業者 提供サービス

- ・ 「TRAIN&TRAIN」
鉄道を使った位置情報スマホアプリ。全国11090駅、625路線との提携が目標。
- ・ 観光地やリアルイベントを巡ることで、アイテムを集めてゲームを進め、自身の移動の記録を残すアプリ。

PHR事業者 提供サービス・提供データ

株式会社エムティーアイ

- ・ 「CARADA健診サポート」「CARADA」
歩数や体重、コンディション、食事など、カラダの様々なデータを記録・管理できる。データはグラフ化され、ライフスタイルの見直しに役立てられる。

大阪府

- ・ 「アスマイル」
歩く、朝食をとるなど、毎日の簡単な健康づくり活動を記録する。貯めたポイントに応じて抽選に参加できる。
- ・ (ユーザー数:438,428人、AU：非公表)

活動報告

ユースケース名	トトレで楽しく歩く→カラDAスマイル！
サービス事業者	リアルワールドゲームズ株式会社
PHR事業者	株式会社エムティーアイ、大阪府

ユースケース内容：ゲームで遊びながら健康になれる、位置情報ゲーム

ユースケース創出（実証／万博）

株式会社エムティーアイの「CARADA健診サポート」
「CARADA」、大阪府の「アスマイル」の健診データを活用し、あなたがより健康になるためにおすすめの目的地を提案します。

「トトレで楽しく歩く→カラDAスマイル！」は、現実世界の移動がアプリ内に反映され、アイテムを収集しながら移動する位置情報ゲームです。

TRAIN&TRAINをちよこちよこ触っていると、外出をしたくなります。

地図上の乗客を電車に乗せ、実際の駅に送り届け、全国の駅を集め、日本一の社長を目指しましょう！

万博期間中、PHRデータを連携すれば特別な「ミyakミyak集め」イベントに参加ができます！

ユーザーに提供する価値

PHRを活用して個人に最適な位置情報をレコメンドしつつ、ゲーム内のコンテンツにより、移動を楽しみながら行えます。そして、アプリを継続的に利用することで、外出の動機付けを行うことができます。

また、ゲームを通じて健康的な活動を実施していくことで、ユーザー自身のヘルスリテラシーを向上させます。

PHR CYCLE接続（データ連携）

- ・健診データ以外にも、その日の気分や体調・歩数などのデータを取得。

- ・各種アプリを横断してオプトイン処理を行う必要があり、利用者が連携のステップで躓きやすそうだと感じました。

レガシーフェーズの検討 (事業化への課題や政府に求める動き等)

PHRを活用した以下の要素がポイントです。

- ・現実世界と連動した3D地図体験
- ・ゲーミフィケーションを活用した健康行動の動機づけや継続促進
- ・「位置情報」のレーティング

ゲームの仕組みやおすすめ目的地、提案ロジックを変更することで、以下の分野でも活用が期待できると思っています。

- ・介護、認知症対策、地域イベント、観光、回遊促進、防災、福利厚生 など

実証内容

ユースケース名	トトレで楽しく歩く→カラDAスマイル！
サービス事業者	リアルワールドゲームズ株式会社
PHR事業者	株式会社エムティーアイ、大阪府

ユースケース内容：ゲームで遊びながら健康になれる、位置情報ゲーム

実証を通して得たい成果・示唆

- ユースケース「トトレで楽しく歩く→カラDAスマイル！」の一連の流れをユーザーに体験いただき、サービスの評価ポイント、改善点を確認する。
- 万博期の実装に向けて、実装する機能を検証する。
- 将来的なビジネス化に向けて、PHR連携による価値を確認し、更なる連携の可能性を検討する。

実証内容

- #### 実施概要
- 実施日：2025年2月18日（火）
 - 実施場所：QUINTBRIDGE
 - 実証環境：テスト環境

- #### PHRならではの体験価値
- PHRによって、おすすめ目的地が変わる。おすすめから目的地を選択し、無理なく歩行ができる。
 - 個人に合わせたおすすめをすることや、アイテム集めなどゲーム性を付加することで、毎日継続できそうきそうだと感じられるように工夫をしている。

- #### 検証視点
- データの連携が問題なく行えているか（ユーザー観点／システム観点）
 - データの蓄積が問題なく行えているか（ユーザー観点／システム観点）
 - PHRを取得したサービスアプリ・機器などが問題なく動作してるか
 - ユースケースに対するユーザーの満足度評価およびその理由
 - PHR活用ならではのパーソナライズされた体験提供ができたか
 - 万博時を想定したオペレーションができたか／オペレーション上の課題等
 - 将来的な社会実装にむけた課題や気づき
 - 楽しめたか/継続ができそうか

- #### 実証手順
- 1)アプリダウンロード&ID連携を完了**
情報連携基盤にアクセスし、アカウント作成および各アプリ（CARADA/アスマイル/TRAIN&TRAIN）のダウンロード、ID連携を実施。
※いずれもテスト環境のため、パネルのメールアドレスや関連アカウント等を事前に事業者連携しておく必要がある
 - 2)アプリ使用（PHR蓄積） | 7日間**
「CARADA」（テスト環境）「アスマイル」（テスト環境）アプリでPHRを収集
 - 3) データの疎通を確認**
「TRAIN&TRAIN」サービスの表示や、地図上のミャクミャクの表示がされることを確認する（ブースで説明）
 - 4) QUINTBRIDGE内外の京橋周辺を散策しながらアプリの指示に従って遊ぶ**
各種PHRを元にアプリからいくつかの目的地提示をし、利用者はその中から自分で目的地を選択する。目的地に行くことでポイントが貯まり、次の物語が読めるようになる。また、地図上に出現するミャクミャクを集めてアイテムと交換するという仕組みもとり入れる。

ユースケース内容

ユースケース名	もっとグッスリ (More IoT for good sleep)
サービス事業者	株式会社LIXIL
PHR事業者	株式会社 FiNC Technologies / 沢井製薬株式会社

ユースケース内容：PHRと連携した住宅機器コントロールによる睡眠環境の最適化

想定ペルソナ



睡眠お悩みママ

40代 / 地方在住 / 会社員

- 70代の父、40代夫及び13歳の子供の4人家族
- 夫の帰りが遅いので寝る時間が遅く、睡眠不足を感じている。祖父の起床も早い。
- 仕事と家事の両立が大変で、プライベートの時間もあまり取れず、休む時間の確保も難しい。

潜在ニーズ

- 家族中心の生活を送っているが、本当は自分の身体のためにきちんとケアをしたい
- 睡眠の質を上げてしっかり休んで、明日からの元気を手に入れたい

共創ユースケース

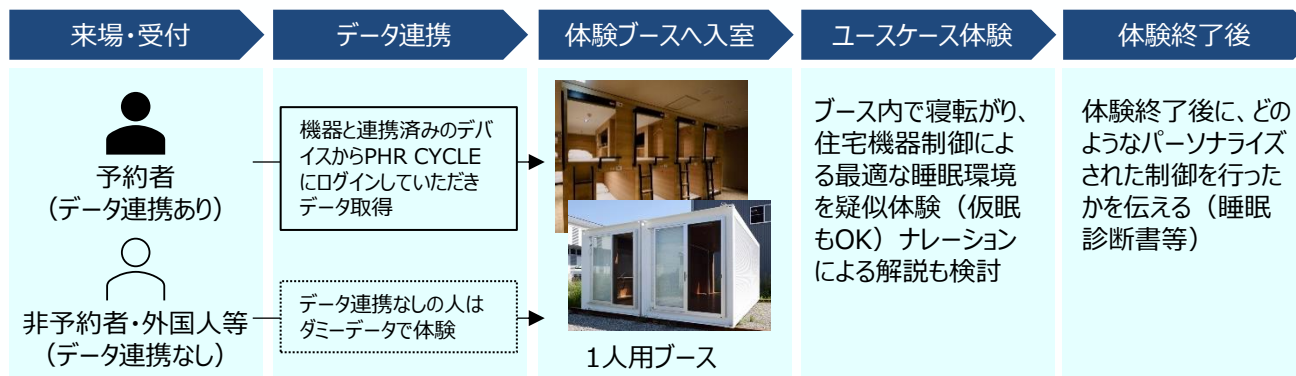
もっとグッスリ (More IoT for good sleep)

PHRデータにより日中の活動や体調等を把握し、住宅設備をコントロールし、個人に合わせた快適・安心な暮らしを提供

ユーザーへの提供価値

- その日の活動量や体調に合った最適な睡眠環境を提供
- 入浴～入眠～睡眠中～起床時という一連の流れの中で、適切なタイミングで住宅機器コントロールや行動リコメンドを実施
- 万博会場の体験ブースにてPHRに基づく住宅機器制御による最適な睡眠環境を疑似体験

ユースケース提供フロー/ 万博展示イメージ



万博以降の展開

- LifeAssist2の住宅機器コントロールに住宅センサーに加えてPHRデータの活用を検討

サービス事業者 提供サービス

LIXIL

- 住宅内のセンサーとLifeAssist2アプリにより、住宅機器をコントロールしてスマートホームを提供

PHR事業者 提供サービス・提供データ

FiNC Technologies

- FiNCアプリ
- 体重・歩数・食事・運動・睡眠・生理などひとつのアプリで記録が可能

沢井製薬

- SaluDiアプリ
- 日々の健康状態を自身で記録・管理するアプリ

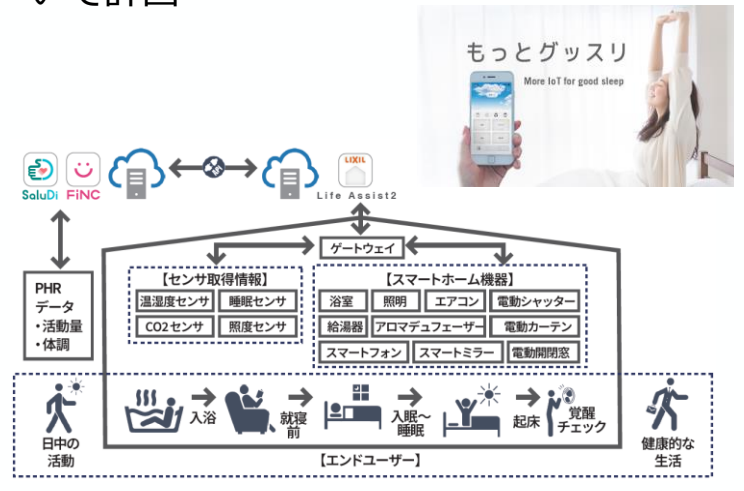
活動報告

ユースケース名	もっとグッスリ (More IoT for good sleep)
サービス事業者	LIXIL
PHR事業者	FiNC Technologies / 沢井製薬

ユースケース内容 : もっとグッスリ (More IoT for good sleep)

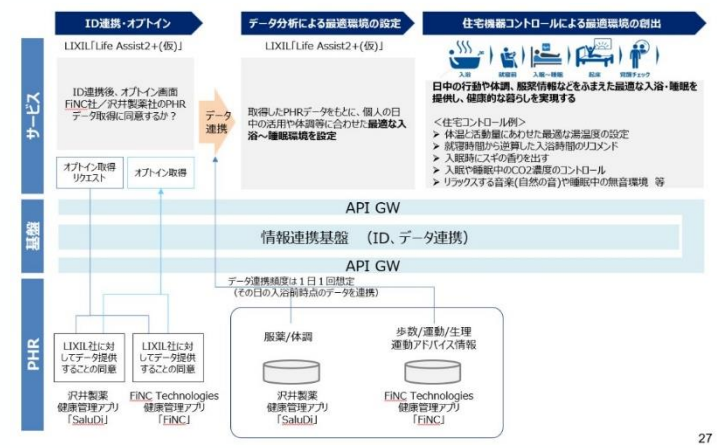
ユースケース創出 (実証/万博)

- LIXIL/FiNC/沢井製薬の3社でマッチングし、ユースケース検討を開始
- LIXILのIoT事業サービス (LifeAssist2) をベースとし、PHRを付加することで個々に最適化された睡眠体験のユースケースを開発
- 万博での睡眠ブースによる疑似体験について計画



PHR CYCLE接続 (データ連携)

- 取得するデータは、FiNCアプリの「歩数/運動/生理/睡眠スコア/目標起床時刻」および沢井製薬SaluDiアプリの「投薬/体調」のデータ
- 接続テスト①②およびシナリオテストも完了しており、データ連携の一連のシーケンスに現状問題はない



レガシーフェーズの検討 (事業化への課題や政府に求める動き等)

- 既存事業の付加価値アップとして、既存の商流の中でPHRサービスを提供 (無料提供/サブスク等)
- 山形大学等アカデミック機関との協業による睡眠に効果のあるファクト作り継続 <継続検討課題>
- ユーザーの睡眠スコアを蓄積してビッグデータの分析を行い、ユーザーの適切なシーン設定 (住宅機器の制御) のリコメンドを行う機能の追加
- マネタイズ化に向けて無料提供だけでなく、サブスクサービスも検討予定。またPHR事業者へのデータ提供料の支払い等データ提供側のメリットも検討

実証内容

ユースケース名	もっとグッスリ (More IoT for good sleep)
サービス事業者	LIXIL
PHR事業者	FiNC Technologies / 沢井製薬

ユースケース内容：もっとグッスリ (More IoT for good sleep)

実証を通して得たい成果・示唆

- ユースケース「もっとグッスリ」がユーザーに問題なくご利用いただけることの確認
- ユーザーのユースケースに対する満足点や不満点を抽出し、今後の改善に役立てること
- 万博で想定するオペレーションの改善点把握
- 将来的なビジネス化に対する手ごたえ感・課題感の把握

実証内容

実施概要

- 実施日：2月18日
- 実施場所：実証施設「みらいえらぼ」
- 実証環境：本番環境

PHRならではの体験価値

PHRに合わせた住宅機器制御による最適な睡眠環境の提供

- PHRから最適な入浴タイミングで浴槽の自動清掃・お湯張りで手間軽減
- 入眠のタイミングでは揺らぎ照明やアロマのスイッチが入り、起床のタイミングでシャッターやカーテンが開き、自然な目覚めを提供
- 体調が悪い方には低めの湯温を提案。活動量が多い方には、普段よりも長めの睡眠を提案して睡眠休養感を高める

検証視点

- データの連携・蓄積が問題なく行えているか
- PHRを取得したサービスアプリ・機器などが問題なく動作しているか
- ユースケースに対するユーザーの満足度評価およびその理由
- PHR活用ならではのパーソナライズされた体験提供ができたか
- 万博時を想定したオペレーションができたか／オペレーション上の課題等
- 将来的な社会実装にむけた課題や気づき

実証手順

- ① **アプリダウンロード・ID連携**
実証前日までに情報連携基盤にアクセスし、アカウント作成および各アプリ (FiNC/Saludi) のダウンロード、ID連携を実施
- ② **アプリ使用 (PHR蓄積) | 1日間**
※実証日当日の朝から体験時間までのPHRを利用予定
- ③ **データの疎通を確認 (15分/全員)**
貸出用デバイスにてPHR CYCLEにログインし、FiNCアプリとSalDiアプリから正しくデータが取得できているか確認
- ④ **LifeAssist2アプリでPHRデータを条件としたシーン操作のデモ (30分/全員)**
- ⑤ **睡眠疑似体験 (10分/1人) ※同時体験：1人**
- ⑥ **ログアウト作業**

ユースケース内容

ユースケース名	SCANBE 3Dボディスキャンから始まるヘルスケア体験
サービス事業者	株式会社ワコール
PHR事業者	株式会社asken

ユースケース内容：

3Dボディデータや食事管理データから自分のからだや生活を見つめることで“ありたい自分”が見つかる・アドバイスが受けられる

想定ペルソナ

1 成人男性



2 成人女性



3 子ども・ファミリー



- 1 日々忙しく、自己研鑽等、自身へ「投資」する時間がなかなか持てない
- 2 好奇心旺盛で、行動力がありプラス思考、自分らしいライフスタイルを楽しむ
- 3 子どもに健やかに成長してほしいが、成長に期待や不安を抱く

潜在ニーズ

- 自分のことをもっと知りたい
- 短時間でからだ向き合いたい
- 客観的なアドバイスが欲しい
- 楽しみながらヘルスケアしたい

※本スライドに掲載されている各事業者のサービス・製品、画面、名称、ロゴ等の知的財産権は、各事業者に帰属します。これらを無断で複製、転用、販売、配布することを禁じます。

共創ユースケース

SCANBE 3Dボディスキャンから始まるヘルスケア体験

3Dボディデータや食事管理データから自分のからだや生活を見つめることで“ありたい自分”が見つかる・アドバイスが受けられる

ユーザーへの提供価値

- 計測した3Dボディデータ・登録PHRデータから“今の自分のからだ”を外側と内側から知ることができる
- 自分を知ることにより想起されたニーズをもとに納得度の高い“ありたい自分”を発見する、描く
- ニーズにもとづき運動や食事メニューといったソリューションを提示
- 万博会場にて3Dボディデータと食事管理データをモバイルアプリ上で連携し表示

ユースケース提供フロー/ 万博展示イメージ



3Dボディスキャン後
あすけんデータを
アプリに連携

自分を知ることにより
想起されたニーズを選択

ニーズにもとづき
ソリューションを提案

万博以降の展開

- 万博出展を通して得たインサイトをもとに、今後のサービス展開を検討

サービス事業者 提供サービス

株式会社ワコール

- 3D計測サービス「SCANBE（スキャンビー）」
- 「SCANBE」は、一人ひとりの“ありたい自分”に寄り添います。セルフでできる3Dボディスキャンにより、自分のからだを360度見られる3D映像など自分のボディデータをくわしく知ることができます。データはワコール公式アプリ「WACOAL CARNET（ワコールカルネ）」に記録できます。

PHR事業者 提供サービス・提供データ

株式会社asken

- 食事管理アプリ「あすけん」
- 「あすけん」は食事内容に対するフィードバックや食生活のアドバイスを提供する食事管理アプリです。食事画像やバーコードを読み取るだけで、食べた食事のカロリーや栄養素がグラフで表示され、栄養士が監修した専用のアドバイスを受け取ることができます。
- 本ユースケースでは、体重、体脂肪率、摂取栄養素等のデータを提供します。

活動報告

ユースケース名	SCANBE 3Dボディスキャンから始まるヘルスケア体験
サービス事業者	株式会社ワコール
PHR事業者	株式会社asken

ユースケース内容：

3Dボディデータや食事管理データから自分のからだや生活を見つめることで“ありたい自分”が見つかる・アドバイスが受けられる

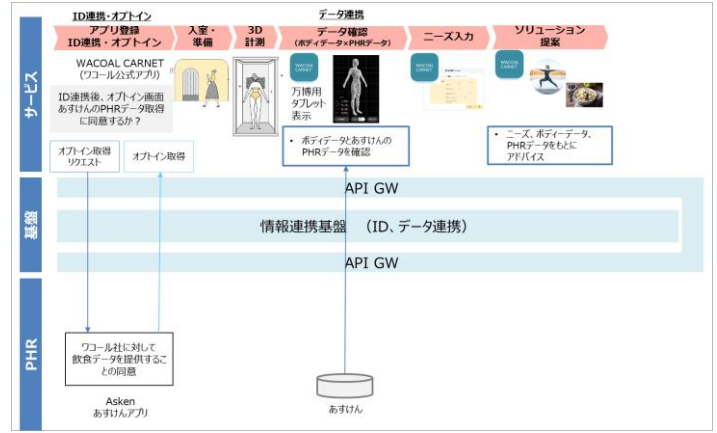
ユースケース創出（実証／万博）

- **ワコールの3D計測サービス「SCANBE」とaskenの食事管理アプリ「あすけん」の掛け合わせにより、からだの内と外、両方のデータを活用し一人ひとりに合ったソリューションを提供**
- 万博では、来場者は会場内の3Dボディスキャナーでからだをスキャンした後、ワコール公式アプリ「WACOAL CARNET（ワコールカルネ）」で3Dボディデータや食事管理データを確認。ボディデータを見ての気づきや、どうなりたいかをアプリに入力すると、“ありたい自分”に近づくための、あなたにあった食事や運動のアドバイスが受けられる。



PHR CYCLE接続（データ連携）

- 連携するデータは、あすけんの体重、体脂肪率、摂取栄養素等のデータ
- 接続テスト①②およびシナリオテストも完了しており、データ連携の一連のシーケンスに現状問題は無い



レガシーフェーズの検討（事業化への課題や政府に求める動き等）

- 製品化の想定、今後のプロセス
 - 情報連携基盤の展開状況を注視しながら、万博出展を通して得たインサイトをもとに、今後のサービス展開を検討
- 想定する販売方法／プロモーション
 - 製品化や展開の検討に併せ、具体的な方法を今後検討
- 政府に求める動き
 - PHRの利活用に向けて、国民の浸透度を向上させる必要がある。更なる理解浸透のための支援をお願いしたい。

※本スライドに掲載されている各事業者のサービス・製品、画面、名称、ロゴ等の知的財産権は、各事業者に帰属します。これら無断で複製、転用、販売、配布することを禁じます。

実証内容

ユースケース名	SCANBE 3Dボディスキャンから始まるヘルスクエア体験
サービス事業者	株式会社ワコール
PHR事業者	株式会社asken

ユースケース内容：

3Dボディデータや食事管理データから自分のからだや生活を見つめることで“ありたい自分”が見つかる・アドバイスが受けられる

実証を通して得たい成果・示唆

- あすけんアプリとワコールカルネアプリの登録～3Dボディスキャン～PHR CYCLEとの連携～ソリューション提供の一連の流れが問題なく実施できること
- ユーザーのユースケースに対する満足点や不満点を抽出し、今後の改善に役立てること
- 万博で想定するオペレーションの改善点把握
- 将来的なビジネス化に対する手ごたえ感・課題感の把握

実証内容

実施概要

- 実施日：2月12日～13日
- 実施場所：SCANBE 東急プラザ表参道「オモカド」店
- 実証環境：
ワコールカルネ：検証環境
あすけん：本番環境

PHRならではの体験価値

- 「SCANBE」の3Dボディデータや「あすけん」の食事管理データから自分のからだや生活を見つめることで“ありたい自分”が見つかる・アドバイスが受けられる

検証視点

- データの連携が問題なく行えているか
- データの蓄積が問題なく行えているか
- PHRを取得したサービスアプリ・機器などが問題なく動作しているか
- ユースケースに対するユーザーの満足度評価およびその理由
- PHR活用ならではのパーソナライズされた体験提供ができたか
- 万博時を想定したオペレーションができたか／オペレーション上の課題等
- 将来的な社会実装にむけた課題や気づき

実証手順

1)ワコールの準備

・テスト環境に接続できるiPhone3台を準備し、WACOAL CARNETテスト版アプリをダウンロード

2)参加パネルの準備

・情報連携基盤にアクセスし、アカウント作成を実施
・あすけんアプリをダウンロードし、最低5日間記録を実施（PHR蓄積）

3) 3Dボディスキャンを実施

・計測ルームに入室し、3Dボディスキャンを実施
・3Dボディデータをアプリに連携

4) PHRデータ連携を実施

・アプリからPHRデータを連携

5) アプリになりたい自分像を入力し、ソリューションの提案を受ける、体験後はアンケートに回答

ユースケース内容

ユースケース名	ウェルネス・サポーター ～あなた専用の行動変容サポート～
サービス事業者	株式会社WizWe
PHR事業者	株式会社Y4.com

ユースケース内容：いきいきした老後のための行動変容サポート

想定ペルソナ



健康意識のある
ミドル～シニア世代

50代以上の男女

- 仕事をリタイアした後、趣味や家事にいそんでいる。

潜在ニーズ

- 健康に気を付けないといけないと考えており、ウォーキングは行っているが、それで十分なのか分からない
- 刺激が少ない毎日なので認知症にならないか不安

共創ユースケース

ウェルネス・サポーター ～あなた専用の行動変容サポート～ いきいきした老後のための行動変容サポート

ユーザーへの 提供価値

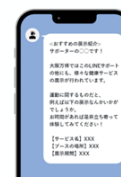
- 長く健康を維持するためには生活習慣を変えることが重要だと分かっているが、なかなか健康行動が続かないという声が多い。
- 本ユースケースでは、「習慣化の知見×PHRデータ」を活かし、ミドル～シニア世代向けに介護予防および認知症予防を目的とした健康行動の行動変容サポートを提供する。
- PHRアプリやウェアラブルデバイスから収集される健康データ（運動・睡眠など）を基に、ユーザーの継続状況を把握しフォローメッセージを配信。健康行動の継続を促し、習慣化を支援する。

ユースケース 提供フロー/ 万博展示イメージ

アプリインストール・ウェアラブルデバイス配布
(万博会場のFLEステージ等)

チャットによる健康サポート (万博会場の内外)

- 体験に必要なアプリをインストール
またウェアラブルデバイスを配布し、
データを取得



- 連携したデータをもとに、ユーザーの進捗に基づいたフォローメッセージを配信
- 健康行動や記録をリマインド
- サポーターへのお悩み相談
- 他ユースケースの紹介 など

※詳細検討中

万博以降の展開

- 高齢者をターゲットとしたサービスに関心がある事業者との連携可能性を探る
(例：自動車メーカー・石油メーカー（運転寿命延伸の観点で）、保険会社との連携)

サービス事業者 提供サービス

- 習慣化サポートSmartHabit
- 多くの方の日々の生活においてユーザー様のありたい姿を実現するための、健康増進活動の継続を「人」がサポート
- 習慣定着状態に応じて最適な会話サポートを実施

PHR事業者 提供サービス・提供データ

株式会社Y4.com

- 健康管理プラットフォーム「Genkimiru」、健康管理アプリ「VitalGain」
- マルチデバイス対応
- 歩いた分だけ、医療費抑制効果に対してポイントが貯まる
- VitalGainアプリを通して取得したバイタルデータを他サービスへ連携可能

活動報告

ユースケース名	ウェルネス・サポーター ～あなた専用の行動変容サポート～
サービス事業者	株式会社WizWe
PHR事業者	株式会社Y4.com

ユースケース内容：いきいきした老後のための行動変容サポート

ユースケース創出（実証／万博）

習慣化

ヘルスケア・IoT

×

- PHRを使ったミドル～シニア世代向けの行動変容サービスを提供します

LINE × バイタルゲイン (健康アプリ)

- 👉 「習慣化」のプロが提供する生活習慣の継続サポート
- 👉 あなた専用の「サポーター」が習慣化を応援
- 👉 データを使った個別サポートを提供

- 万博ではFLEステージで本ユースケースを来場者（事前予約者）に提供予定です

PHR CYCLE接続（データ連携）

- 連携するデータは、VitalGainより主に、歩数、睡眠に関するデータを取得
- テスト対応について、マッチングの遅れによって一時期遅延が発生しましたが、WizWe社における体制を強化するとともに、設計・開発に関するMTGを事務局及び事業者間で複数回実施することでリカバリーした
- 接続テスト①②およびシナリオテストも完了しており、データ連携の一連のシーケンスに現状問題ない

レガシーフェーズの検討（事業化への課題や政府に求める動き等）

- 万博後、本ユースケースは以下の領域を中心に事業を展開する予定
 - 健康増進型の保険
 - ドライバーの健康増進
 - 製薬企業様との取り組み
 - 薬局様・自治体様との連携
- 事業化に向けて、以下2点を重点的に取り組む
 - ビジネスパートナーとの具体的なサービスの検討
 - 健康改善のエビデンス蓄積
- 政府に求める動きとして、ユースケースの実証事業拡充をご検討いただきたい（実ユーザーへ本ユースケースを提供し、効果検証を行いたい）

※本スライドに掲載されている各事業者のサービス・製品、画面、名称、ロゴ等の知的財産権は、各事業者に帰属します。これら無断で複製、転用、販売、配布することを禁じます。

実証内容

ユースケース名	ウエルネス・サポーター ～あなた専用の行動変容サポート～
サービス事業者	株式会社WizWe
PHR事業者	株式会社Y4.com

ユースケース内容：いきいきした老後のための行動変容サポート

実証を通して得たい成果・示唆

(1) システム連携の動作確認

- 情報連携基盤へのアクセス～サービス利用終了まで意図した通りに流れるか、実ユーザーで検証

(2) 簡易的な効果検証

- 本ユースケースがユーザーの生活習慣の継続に寄与するか検証
(本来的には数カ月で検証する必要があるが、本実証では2週間程度の検証期間で行う)

(3) 万博・レガシーフェーズに向けた課題の整理

- 上記2点も踏まえ、万博展示や事業化に向けた課題と対応事項を整理する

実証内容

実施概要

- 実施日：2月18日
- 実施場所：QUINTBRIDGE
- 実証環境：本番環境

PHRならではの体験価値

- VitalGainの「睡眠時間・歩数」データと習慣化サポーターの伴走により、ユーザーは生活習慣の改善を継続できる

検証視点

1. データが問題なく疎通されるか、サービス利用終了まで意図した通りに画面遷移するかを主に確認します
 2. ユーザーアンケートの回答を基に検証します
 3. 上記2点の結果から、「システム」「企画設計」の2点から課題と対応事項を一覧化します
- ※ 上記は「実証を通して得たい成果・示唆」の番号と連動

実証手順

- ① 2週間前（2月前半）までに以下を行い、PHRデータを収集
 - LINEのインストール・登録
 - VitalGainのインストール・ログイン
 - Fitbitとの連携
- ② 実証までにID連携を完了いただき、データの疎通を確認
- ③ データ連携によってLINE画面にVitalGainのデータが反映され、またデータに応じたメッセージがLINEに届く
- ④ 体験後、アンケート記入をいただく

目次

1. はじめに	-----	p.3
2. 本事業の目的	-----	p.7
3. 推進にかかるコンセプト	-----	p.12
4. 本事業の実施計画	-----	p.16
5. PHR事業者・サービス事業者の公募	-----	p.27
6. ユースケース検討	-----	p.40
7. 情報連携基盤の構築	-----	p.62
8. 機運醸成イベントについて	-----	p.131
9. 実証イベントについて	-----	p.143
10.映像・展示企画について	-----	p.165
11.UCCTにおける議論事項	-----	p.191
12.各事業遂行上の課題について	-----	p.224
13.まとめ	-----	p.236

12. 各事業遂行上の課題について

- ① 事業全体管理・プロジェクトマネジメントの観点 --- p.227
- ② ユースケース創出に向けた実証事業実施の観点 --- p.228
- ③ ユースケース間の相互連携を図る情報連携基盤の観点 --- p.231

①事業全体管理・プロジェクトマネジメントの観点(凡例)

- 以降のスライドは、事業観点ごとに、対応が必要な論点を本事業の学びを含め掲載

仕様書上の事業に該当

(1) 事業全体管理・プロジェクトマネジメントの観点

#	観点	論点	示唆・事業の学び
1	各社との規約調整について	<ul style="list-style-type: none"> • 実証時と万博時で規約の調整が必要 	<ul style="list-style-type: none"> • 各事業者から収集した規約載している事業者には、万博時の規約として修正頂くよう対応予定
2	包括NDAの対応遅延	<ul style="list-style-type: none"> • 一部事業者で法務部との調整に時間を要し、包括NDAの締結時期に遅延が生じた 	<ul style="list-style-type: none"> • 事業者単位での進捗フォローや必要に応じてタッチポイントを設定し、ステータスを明確になるような管理体制を整備
3	事業終了後の広報戦略	<ul style="list-style-type: none"> • 万博開始までに事業者を巻き込んで国民にどのように周知・広報していくか 	<ul style="list-style-type: none"> • ユースケースや事業者単位での発信のご協力を要請し、PHR/サービスアプリのDLおよび万博に向けたユースケースアピールを実施していく必要
4	委託事業・精算条項に対する参画事業者の理解	<ul style="list-style-type: none"> • 委託事業での精算条項や提出書類の精度・内容には事業者やその再委託等の商習慣と乖離する部分あり • 事業者への理解浸透、確定検査に向けたサポートのために事務局で想定以上の工数が消費された 	<ul style="list-style-type: none"> • 委託事業の形で事業者の参画を求める場合、不慣れた事業者の存在を前提とした体制づくりやルールの明確化、またマニュアルの更新や様式の整備は必要

①事業全体管理・プロジェクトマネジメントの観点

- 事業全体管理・プロジェクトマネジメントに係る課題としては規約等の対応の難しさや、事業完了後の広報計画等の対応の難しさがあげられた

(1) 事業全体管理・プロジェクトマネジメントの観点

#	観点	論点	示唆・事業の学び
1	各社との規約調整について	<ul style="list-style-type: none"> 実証時と万博時で規約の調整が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 各事業者から収集した規約内容に提供目的を記載している事業者には、万博時の規約として修正頂くよう対応予定
2	包括NDAの対応遅延	<ul style="list-style-type: none"> 一部事業者で法務部との調整に時間を要し、包括NDAの締結時期に遅延が生じた 	<ul style="list-style-type: none"> 事業者単位での進捗フォローや必要に応じてタッチポイントを設定し、ステータスを明確になるような管理体制を整備
3	事業終了後の広報戦略	<ul style="list-style-type: none"> 万博開始までに事業者を巻き込んで国民にどのように周知・広報していくか 	<ul style="list-style-type: none"> ユースケースや事業者単位での発信のご協力を要請し、PHR/サービスアプリのDLおよび万博に向けたユースケースアピールを実施していく必要
4	委託事業・精算条項に対する参画事業者の理解	<ul style="list-style-type: none"> 委託事業での精算条項や提出書類の精度・内容には事業者やその再委託等の商習慣と乖離する部分あり 事業者への理解浸透、確定検査に向けたサポートのために事務局で想定以上の工数が消費された 	<ul style="list-style-type: none"> 委託事業の形で事業者の参画を求める場合、不慣れた事業者の存在を前提とした体制づくりやルールの明確化、またマニュアルの更新や様式の整備は必要

②ユースケース創出に向けた実証事業実施の観点（1/3）

- ユースケース創出に際しては伴走支援の濃淡の他、PHRデータの蓄積をどのように進めていくかの検討にあたり課題があった

②ユースケース創出に向けた実証事業実施の観点

#	観点	論点	示唆・事業の学び
1	ユースケース創出過程の対応・伴走支援	<ul style="list-style-type: none"> ユースケース毎の進捗状況に差があり、課題・論点も多岐にわたり想定よりも個別対応が多く発生 また複数ユースケースをまたがるPHR事業者に対してユースケース毎で共有内容に濃淡が生じた 	<ul style="list-style-type: none"> 各伴走担当者間でのコミュニケーションを逐次連携し、事業者が発信する内容・タイミングは統一して発信していく
2	情報連携基盤の思想に対する参画事業者の理解	<ul style="list-style-type: none"> 参画事業者が情報連携基盤に対して、データレイクの機能や、データ変換機能を期待するケースあり 相手先を指定したデータ交換のみに機能を限定する場合、事業者が基盤を利用する意義が理解されづらい状況あり 	<ul style="list-style-type: none"> 情報連携基盤の基本思想に関する啓蒙、もしくは情報連携基盤側をより事業者が求める形に変容する必要性について、レガシーフェーズでの検討が必要
3	ユーザーのPHR蓄積担保	<ul style="list-style-type: none"> 実証および展示でユースケースを体験するには当日から遡って一定期間のPHR蓄積が必要となる。 必要なデータが揃っていない場合について、実証時の対応と、展示に向けた対応方針が論点となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 実証では蓄積期間を踏まえたユーザーへの周知を事業者へ依頼。万博展示期間の周知については引き続き検討 データ未蓄積のユーザーに対しての体験提供について、各ユースケースで引き続き検討

② ユースケース創出に向けた実証事業実施の観点 (2/3)

- ユースケース創出に際しては伴走支援の濃淡の他、PHRデータの蓄積をどのように進めていくかの検討にあたり課題があった

② ユースケース創出に向けた実証事業実施の観点

#	観点	論点	示唆・事業の学び
4	実証イベントでのPHRデータを取得したサービス体験	<ul style="list-style-type: none"> 体験者からユースケース個別の改善点が挙げられており、万博期までの対応が求められる。 環境によりデバイスの動作が不安定になる可能性 日々のPHR（睡眠・活動量）を活用できていない UI/UX面での改善の余地あり テスト環境と本番環境の違いによる動作確認の課題 	<ul style="list-style-type: none"> 事業者の対応としては、万博期までにデバイスの動作安定性向上や本番環境を想定したテストの実施、およびUI/UXの改善等の対応策を検討をいただく さらにパネル等からのアンケート回答を踏まえて、万博本番までにユースケース体験の磨き込みを検討していく また事務局としては、万博会場の通信環境・混雑想定などの情報を事業者に共有するなど以降も引き続きフォロー継続していく
5	実証イベントでのデータ連携・蓄積	<ul style="list-style-type: none"> データ連携においてスムーズにいかないケースや連携できない場合の原因究明・改善に時間を要する場合があった またシステム側のエラーでデータ蓄積が出来ていないケースや、2社以上のPHR事業者が関わっているユースケースの場合のデータ蓄積負担が大きい場合あり 	<ul style="list-style-type: none"> 各社アプリのUI改善やデータ連携がうまくいかない場合の運用ルールを明確化、またエラーメッセージや案内表示の工夫が求められる またデータ蓄積の可視化・通知強化、およびユーザのデータ入力の負担軽減、データ蓄積の動機付け・アナウンス等も検討していく必要あり

② ユースケース創出に向けた実証事業実施の観点 (3/3)

- ユースケース創出に際しては伴走支援の濃淡の他、PHRデータの蓄積をどのように進めていくかの検討にあたり課題があった

② ユースケース創出に向けた実証事業実施の観点

#	観点	論点	示唆・事業の学び
6	パーソナライズされたユースケース体験	<ul style="list-style-type: none"> 各ユースケースで個人に合わせたPHRの利活用やアドバイス内容がなされているのか分かりづらい点があげられた <ul style="list-style-type: none"> PHRがどのように体験に反映されているのかパーソナライズの効果を可視化する工夫 アドバイスの伝え方（ネガティブ・ポジティブ）に工夫が必要 リコメンのバリエーションが少ないと飽きる可能性 	<ul style="list-style-type: none"> 各社サービス事業者アプリにおけるPHRの活用ポイントを明確化・可視化し、データ活用の最適化を検討 またアドバイスの伝え方を改善やリコメンのバリエーションを増やし、継続的な体験を促進
7	万博時を想定したオペレーション	<ul style="list-style-type: none"> 万博時は事前登録なしのユーザー対応が多くなると想定されるため、体験前の説明や問い合わせ対応・FAQの整備が必要 また、実証イベントでは検証できなかった予約システムを活用した運用や一部機能の動作確認を、万博までに実施する必要 	<ul style="list-style-type: none"> 動画の活用など、説明内容の改善とともに体験時間や予約枠を再検討 予約システム導入後の運用体制の整備 問い合わせ対応の準備（FAQの作成、問い合わせ先の明確化）

③ユースケース間の相互連携を図る情報連携基盤の観点（1/5）

- 情報連携基盤の課題としては、データ連携の仕様や、オプトインの取扱い、セキュリティ担保の難しさがあげられた

③ユースケース間の相互連携を図る情報連携基盤の観点

#	観点	論点	対応の方向性
1	PHRデータ流通に係る仕様	<ul style="list-style-type: none"> 本事業では、情報連携基盤と各事業者のサービスとの接続及び本基盤を介したPHRデータ流通に係る仕様を接続仕様として示した。この際、過去の経済産業省事業(※)で定められたデータ項目10項目（身長や血糖等）を対象に、HL7 FHIRを基底とするAPI個別仕様（FHIR構造体形式）を定めた。またそれ以外の項目を対象に、API個別仕様（任意構造体形式）を定めた。 この結果、PHR事業者全10事業者中、5事業者がAPI個別仕様（FHIR構造体形式）を採用した。このため、PHR項目の連携の仕様としてHL7 FHIRに基づく構造体を用いることは、事業者として十分に受容しうるものであったと推察される。 一方、事業者が連携を行ったPHRデータ項目全項目のうち、上記10項目に該当するのは約3.7%であり、より広範なPHRデータ項目の連携需要があることが確認された。 また連携されるPHRデータを整理する中で、一見同じPHRデータ項目であっても、事業者によって粒度が異なることが確認された。具体的には、事業者によって単位等が異なる例や、項目をより詳細に分割して区別する例（血糖値を食事前後で区別等）などが確認された。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、社会全体でPHRデータ流通および利活用を促進するためには、左記のようなPHRデータの連携需要に応える形で、データ構造体や項目の標準的な定義の整備が急がれるべき。 事業者がサービスを作る段階で、上記のような標準的な定義がされていれば、左記のような事業者ごとの粒度の差異は最小限となり、PHRデータがより流通しやすい社会を実現できると考えられる。

③ ユースケース間の相互連携を図る情報連携基盤の観点 (2/5)

- 情報連携基盤の課題としては、データ連携の仕様や、オプトインの取扱い、セキュリティ担保の難しさがあげられた

③ ユースケース間の相互連携を図る情報連携基盤の観点

#	観点	論点	対応の方向性
2	利用者からのデータ利用に関する同意	<ul style="list-style-type: none"> 情報連携基盤を介したPHRデータの連携を行うにあたっては、データ利用に対する利用者の同意に基づきデータ連携を制御する仕組みを採用した（オプトイン）。 本情報連携基盤では各事業者アプリ毎に個々に実施することとしていたが、ユースケース単位で実施することがより望ましいケースも確認された。具体的には、本事業では事業者が複数のユースケースに属しているケースがあり、このケースでは目的のユースケースに対してのみオプトインを行うことができず、その事業者が属する他の全てのユースケースに対しても同時にオプトインしなければならなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 本事業においては、サービス事業者とPHR事業者が1対1であることを想定して規約や要件を定義し、それに基づく仕組みを構築した。一方、本事業におけるユースケースはサービス事業者とPHR事業者が1対多のケースが多く、このような形態でのデータ連携の需要が示唆された。 今後、社会全体でPHRデータ流通および利活用を促進するためには、サービス事業者とPHR事業者が1対多、多対多であることを前提とした規約や要件の他、データ項目単位での同意の在り方等についても検討していく必要がある。

③ユースケース間の相互連携を図る情報連携基盤の観点（3/5）

- 情報連携基盤の課題としては、データ連携の仕様や、オプトインの取扱い、セキュリティ担保の難しさがあげられた

③ユースケース間の相互連携を図る情報連携基盤の観点

#	観点	論点	対応の方向性
3	ポータル運営	<ul style="list-style-type: none"> 本事業終了後もPHR CYCLEのサービスの提供を継続するために、情報連携基盤の運用・保守の体制をどのように構成・維持するかが大きな論点となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、社会全体でPHRデータ流通および利活用を促進するために、PHRデータ流通のサービスを継続・維持する際は、それを実現するシステムの運用・保守の体制面も含めた包括的な検討が必要。
4	情報セキュリティ水準の担保	<ul style="list-style-type: none"> 本事業に参画する事業者に対しては、PHRデータ（健診データ等を含む）を取り扱ううえで守るべき情報セキュリティ水準(*)を提示し、その遵守を求めた。 本事業には多様な事業者に参画いただいております、その中にはPHRデータの利用実績がない事業者も含まれていました。このため、セキュリティ水準について多くの確認が必要となる事業者が散見された。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、社会全体でPHRデータ流通および利活用が拡大していく中で、PHRデータの利用実績が無い事業者も多く参入していくことが予想される。PHRデータ流通のサービスを継続・維持する際は、事業者へのガイドの提示や、問い合わせ対応の体制確保が必要。

* 内閣サイバーセキュリティセンター（NISC）が発行する「情報システムに係る政府調達におけるセキュリティ要件策定マニュアル（SBDマニュアル）」、総務省・厚生労働省・経済産業省が発行する「PHR基本的指針の情報セキュリティ対策（案）」に基づき、本事業向けのセキュリティ対策項目を整理。

③ユースケース間の相互連携を図る情報連携基盤の観点（4/5）

- 情報連携基盤の課題としては、データ連携の仕様や、オプトインの取扱い、セキュリティ担保の難しさがあげられた

③ユースケース間の相互連携を図る情報連携基盤の観点

#	観点	論点	対応の方向性
5	PHRデータの取り扱い	<ul style="list-style-type: none"> 情報連携基盤は、PHR事業者が保有するPHRデータを中継するのみとし、PHRデータの保存は行わないことを前提として、構築を行った。 本事業において、サービス事業者が複数のPHR事業者からデータ連携を受けるユースケースが多く、このようなユースケースにおいては、サービス事業者が複数のPHR事業者との仕様確認・調整を行う必要があった。仮に情報連携基盤がPHRデータの保存・管理を行う仕組みであれば、サービス事業者の確認・調整先は情報連携基盤のみとなっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後のPHRの社会実装を加速させるにあたって、サービス事業者の参画障壁を下げるためには、情報連携基盤がPHRデータを保存・管理を行う仕組みについても検討の余地がある。
6	利用者の個人情報の取り扱い	<ul style="list-style-type: none"> 情報連携基盤は、なるべく利用者の個人情報（PHRデータを除く属性情報）を取り扱わないことを基本方針とし、ログイン/新規登録に用いるメールアドレス等の情報の登録のみで情報連携基盤を利用可能とした。 この結果、アカウントが利用できない等の不測の状況の際に、アカウントの特定が難しくなるケースが懸念された。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報保護の観点とアカウント特定等の際の本人性の観点の両面から、どの程度個人情報を取り扱うかについては検討の余地がある。

③ユースケース間の相互連携を図る情報連携基盤の観点（5/5）

- 情報連携基盤の課題としては、データ連携の仕様や、オプトインの取扱い、セキュリティ担保の難しさがあげられた

③ユースケース間の相互連携を図る情報連携基盤の観点

#	観点	論点	対応の方向性
7	事業者間の相互の仕様理解	<ul style="list-style-type: none"> 本事業のように事業者間でのデータ連携を行うユースケースを新たにつくる際は、要件定義や設計の段階において仕様の相互理解を行う必要がある。特に、連携されるデータの仕様として、データの処理方法や更新タイミング等について認識を合わせることが肝要である。 一方、本事業においては、接続テストの時点で上記のようなデータの仕様等に係る相互理解が浅いことが判明し、それによりテスト開始が遅延してしまうユースケースがいくつか発生した。 	<ul style="list-style-type: none"> 本事業の参画事業者の中には、データ連携に係る経験が浅い事業者も含まれており、事前にどのような確認をしておくべきかの理解が不足していたものと考えられる。 今後、社会全体でPHRデータ流通および利活用を促進するためには、本実証事業のような形でデータ連携によるユースケース創出の事例を発信していき、社会全体としてデータ連携に係るデジタルリテラシーの底上げを図っていくことが重要である。

目次

1. はじめに	-----	p.3
2. 本事業の目的	-----	p.7
3. 推進にかかるコンセプト	-----	p.12
4. 本事業の実施計画	-----	p.16
5. PHR事業者・サービス事業者の公募	-----	p.27
6. ユースケース検討	-----	p.40
7. 情報連携基盤の構築	-----	p.62
8. 機運醸成イベントについて	-----	p.131
9. 実証イベントについて	-----	p.143
10.映像・展示企画について	-----	p.165
11.UCCTにおける議論事項	-----	p.191
12.各事業遂行上の課題について	-----	p.224
13.まとめ	-----	p.236

13. まとめ

まとめ (1/3)

- 各章の情報のまとめについては以下のとおり

章	タイトル	まとめ
第1章	はじめに	本事業は事業者および国民が共に開かれた環境で多様なPHRとサービスが連携し、新たな商品やサービスが創出されることを目的とし、これにより国民が安心して利用できる豊かな生活体験を提供する、PHRによる「自然と健康になれる社会」の実現を目指した実証事業を行った。本事業終了後も、とりわけ万博展示期間においてPHR事業者およびサービス事業者の全19事業者によって創出された10件のユースケースが「PHR CYCLE」へ接続し、個人に最適化された多様なサービスを体験することを可能としていく。
第2章	本事業の目的	本事業は、情報連携基盤を通じ、PHRデータを様々な事業者がデータ連携しユースケースを組成、実証を行い、取り組みとして良いものは大阪・関西万博での展示を企図したものであり、情報連携基盤の構築と、実証参画事業者を公募し、その事業者による「ユースケース創出」及びその展示企画の支援までを行うものとなっている。
第3章	推進に係るコンセプト	PHR利活用を推進していくにあたっては、経済産業省のPHR関連施策として、事業者・産業側の現状やニーズ、国民・ユーザの現状とニーズ・期待、HL7FHIR標準化への環境整備、万博のテーマ・コンセプト踏まえて、本事業の基本コンセプトを「PHRで可能性がひろがる未来へ」を定義し、ここから、Open「安心・共有」、Connect「つながる」、Future「ひろがる未来」をキーワードとし、価値を打ち出した。
第4章	事業計画について	各種、事業全体実施計画、事業実施計画書、広報計画書、設計開発実施計画書、設計・開発実施要領をそれぞれ定め、的確なプロジェクトマネジメントをそれぞれのチームにおいて遂行し、遅滞なく業務を完遂することが可能となった。
第5章	事業者公募について	PHR、サービス事業者を公募し、公募要領作成から公募、提案テンプレートの作成、審査に至るまでを事務局として支援した。公募にあたってはサイト構築を行い事業者の目に留まりやすい形となるよう組成し、審査基準の作成と外部審査員による厳正な審査のもと、20事業者を選出するにいたった。
第6章	ユースケースの検討について	選定された事業者からユースケースを構築していくにあたって、キックオフイベントによる事前の希望スクリーニング、その結果を反映したマッチングイベントでの事業者同士の引き合わせ、個社間の密なデータ連携可能性の協議、UCCTの組成による伴走支援までを実施し、10のユースケースを創出した。

まとめ (2/3)

- 各章の情報のまとめについては以下のとおり

章	タイトル	まとめ
第7章	情報連携基盤について	ユースケース間におけるID/データ連携を実現するための「情報連携基盤」(PHR CYCLE)の構築について、開発実施要領、実施計画に基づき、各種テスト仕様及び各事業者への作業依頼とその実施状況にかかるフォローアップを踏まえ、2/18の実証イベントにおいて、ユーザ受入テスト・総合テストを完遂した。
第8章	機運醸成イベントについて	10/18には、本事業におけるPHRを利活用したユースケース組成と実証に向けた検討状況等を対外的に発信していく観点から、「機運醸成イベント」を企画し、メディア、事業者、有識者等141名が参画する催しを行った。様々なメディア媒体332件の露出効果がありPHRにかかるソーシャルメディア等において一定の波及効果が得られたことが確認できた。
第9章	実証イベントについて	事業実施の成果及び、情報連携基盤の連携とユーザ受入テストの実施を行うため、2/18(ユースケースにより別日程)に実証イベントを企画し、各事業者参画のもと実証を行った。ユーザ受入テストは全ユースケースにおいて完了し、パネルからもユースケースに関する満足度は体操が「満足した」以上の評価を得られた。
第10章	映像・展示企画について	当初より、PHRを活用したユースケースに関し、大阪・関西万博の展示を想定してきた。このため、展示にかかる計画を本事業にて取り纏め、PHRの利便性を認識いただくための映像企画・制作を行った。今後、当該企画に基づいたユースケースごとの詳細な展示準備や、展示の場における映像の放映等が想定される。

まとめ (3/3)

- 各章の情報のまとめについては以下のとおり

章	タイトル	まとめ
第11章	各事業遂行上の課題について	<p>上記の各章における業務上の課題について整理し、以下のような課題が挙げられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 各事業者に対する規約、NDA、契約等の取り交わし、再委託事業者への制約事項の多さに伴う困難さ ② 事業遂行にあたる体制、継続的運用方法の検討 ③ 事業や情報連携基盤の仕様に対する各事業者の理解 ④ ユースケース創出における伴走支援の運用方法、平準化 ⑤ ユーザにおけるPHRデータの蓄積・運用 ⑥ 実際のPHRデータ利活用の効果を得るためのUI/UXの検討 ⑦ 情報連携基盤におけるデータ項目の標準化 ⑧ データ利活用の同意運用の煩雑さ ⑨ PHR CYCLEのポータルサイト運営 ⑩ 個人情報の取扱い等を含むセキュリティ確保